次いで大正九年當地、盤城セメント會社の前身たる日之出セメント工場に當り招聲止み難く遂ひに來りその儘後の盤城セメント會社のセメント運搬等の請負をして當市に落着かれたのである。

斯界に於ける手腕と、その行政に關する理解と熱意は遂に擧げられて町内會長を十年の久しきに亙り就任、福利增進、公益の爲めに盡瘁したその功績は尠くない。次いで合資會社共立組代表社員、八戸海運株式會社監査役、三八土木建築業組合評議員、八戸水上小運送業海運組合監事等の要職に就任、業界の伸展隆運と、公益優先を念頭に一意專念してゐるのである。先般來身體を傷め病床中なるも倦土重來、氏の達腕に俟つべきもの多い。

趣味として乘馬を好み常に六七頭の駿馬を飼育して地方競馬に出場屢々優勝せり。家庭には妻女いそ夫人を初め一男二女家庭は常に和氣靄々として春風訪ふが如く、訪ふ者齊しく羨望せざる者無しと云はる。先年長男を亡失したるは誠に哀惜に堪えざるものがある。

高橋鐵工所主

高橋治作氏

八戸市鮫町
電話八戸七九五番

實業人の中には動もすれば利のみ追ふこと急にして、眞の業界人として商道德を忘るゝものなしとせず、之れ周圍に纏綿せる事情の然からしむるところなりとは云へ精神の修養商道德の錬磨不足に基因するものである。

然るに氏は、心事高潔にして私利の爲めに公私を忘れず、常に言行一致、至正の商道を邁進しつゝあるは異彩を放つ存在である。

大正十一年早稲田工手學校を卒業するや、當八戸築港工事に參與、昭和七年築港完成と同時に、多年の宿願たる鐵工所を設立、主として内燃機關（發動機）の製作に努力し、卓拔の手腕と倦まざる研究心は製品の上に鮮やかなる飛躍進歩を見、今日第一等品として注文近縣より殺倒する盛況である。時流を洞察してその斯界の進歩發展に盡力したるは枚擧にいとまない程である。現に、八戸市鐵工機械工業組合の專務理事、青森縣鐵鋼製工業組合聯合會理事等の重要なる位置に就任、活躍さるゝ外本年春、商工會議所設立さるゝに當り、遂に衆望を擔つて第一回商工會議所議員に推され增々今日氏の偉大なる手腕に期するところ大で、其の高潔なる人格と併せて將來の動向を期待されてゐるのである。

因に氏は薩摩琵琶に達し號を成溪と云ひ、夙に斯界にもその名を知られてゐる變り種である。家庭にはむら夫人の外三女ありて和氣靄々たる一家に近隣の羨望を集めてゐる。

土木建築近藤組

近藤元太郎氏

八戸市鍛冶町

近藤組は明治十二年に先代元太郎氏が創業し、當地方土建界の草分とも謂ふべく、青森縣廳を始め、農林省等諸官廳請負を主とし、傳統を誇る機構設備、資本、信用、何れの點に於ても他の追隨を許さず、勢威並びなき隆盛を見せてゐる。現主元太郎氏は先代の二男として明治二十五年四月生誕し、昭和十年、前名元二を改め元太郎を襲名し、家督を繼ぎて近藤組の統帥となつた。現在も先代同樣、青森縣廳の指定請負人として活躍し、最近は縣の道路、橋梁、海軍の大湊等の諸工事、又日本曹達株式會社津輕金山精錬所工事の如きは百萬圓の大工事であつたが、豫定の日より早く完成して、同社から感謝狀を受けた。日本砂鐵精錬鑛株式會社八戸工場も近藤組が施工中で完成に近い。同組は運輸部を設けトラック三臺を所有し、之れ亦時局下の輸送報國に目覺しい躍進を示してゐる。

近藤氏は曾て軍隊に在りて砲兵軍曹に昇進した。先代譲りの豪放不羈、仁俠に富む大器の巨材で、而も軍人精神に徹して公明正大、約束遵守、各方面の信望を一身に蒐めてゐる。先代も永年町内會長に推されてゐたが、氏は先代生前より町會議員を勤めた。市制になつてから市會議員、在郷軍人分會長、消防組長、三八土木建築組合長、八戸貨物自動車合同組合理事長、八戸商工會議所議員等枚擧に遑なき公職に推され、努力盡瘁する事甚大である。

家庭にはきみ子夫人との仲に五男二女があつて子福長者である。而も長男元一郎氏は仙臺高工在學の秀才、趣味は乘馬を能くし、曩には良馬育成に努力して博覽會に入賞した事もある。

島田造船所

島田清一氏

八戸市小中野町

各個人の健全なる生活は治國平天下の基であり、救世濟民の根底である。恭儉身を持し博愛衆に及ぼすを念願としその溫厚篤實なる資性と八面玲瓏なる人格とにより德望高き我が島田清一氏の如き存在は一家一門の榮譽は素より、惹いては國家隆昌の礎石たりと云へやう。

氏は八戸市小中野町に於て當地の名望家として近隣に譽れ高き島田幸三郎氏の男として、明治三十五年呱々の第一聲を上ぐ、幼にして聰明、しかも溫和なる性行は郷黨の等しく將來を屬望するところであつた。氏の父君幸三郎氏は遠洋漁船の船長で卓越せる技能は世人の驚異の的であつた。同氏は素より凡庸にあらずと雖も、父君の業を襲承して更に一段の光彩を添へ、斯界屈指と稱讃さるゝに至りしは正に不撓不屈の鐵石心を以て奮勵精勵に一貫したる賜である。宜なるかな氏は熾烈なる向上心を抱きて誠實務力の士である。氏は早くより造船業を見習ひ、取得後も各地造船業に就て北は北海道より南は九州に到る各所にて實施研究を重ね昭和五年獨立して當市湊町下條に於て造船所を作り昨年事業擴張のため現地に移轉せらる。氏は現在八戸木造船工業組合の理事として顯職にありて業界に斷然重きをなし、業界の共同福利に寄與する處甚大なるものがある。家庭には淑德の譽れ高きカツ夫人あり、その間に三男二女の子福を擧げてゐる。

東北鐵工所主

高橋勘治郎氏

八戸市小中野町
電話八戸八二二番

眞に人の畏敬を受け、名聲を博するものは、自ら求めて得るにあらず、自己の至情に發する仁愛の行動、衷心の至誠よりする公共奉仕の事業夫れ等は、名利を度外視して、始めて行はれるものである。

氏は眞に高潔なる人格純眞なる至情より發して、衆興の利福增進に獻替せんとする公共奉仕の人士である。

氏は盛岡鐵道徒弟學校を優秀なる成績にて卒業するや、埼玉縣大宮鐵道工場に勤務後、日立製作所に轉んじ孜々とし研鑽努力、次いで中野電信隊に入隊、模範兵として軍務に精勵、伍長に昇進して除隊するや、盛岡市の吉岡鐵工所にありて職長として練磨、大正十一年現地に獨立、東北鐵工所を創立す。營々として家運の興隆を計り公益を念頭に寧日無く精勵、今日では、松尾鑛山、宮川鑛山、告馬鑛山、及び當市の日東化學工業株式會社、日本砂鐵鋼業株式會社の專屬的事業を經營、從業員四十數名を數えて堂々たる地歩を占め、其の卓技なる識見と手腕は遂に八戸鐵工機械工業組合理事に推されて斯界の進歩發展に盡瘁すると共に、帝國在郷軍人會八戸支部小中野分會副會長として十八年の久しきに亙り就仕軍事援護事業に盡力されたる功績は實に大なるものあり齊しく敬愛を捧げられてゐる人格者である。家庭には賢夫人の譽高きたか夫

人初め長男保夫、長女美佐子、二男秀直の諸君を擧げられ圓滿なる家庭を營まれてゐる。因に氏は音樂を愛され自らもヴアイオリンの名手として聞えてゐる實業家には珍らしき情緒の豊かな人士である。

諸機械製作坂本鐵工所主

坂本末吉氏

八戸市芝田町
電話八戸四三六番

隆盛鮮やかな近年の八戸市に於いて當鐵工所は、その國策的見地よりして諸機械の製作に鋭意力を注ぎ、製品の確實、而してその研究的勞作の結果に依る優秀品の故を以つて、近縣に迄も有名である。

氏の先代安太郎氏は業界に先驅して、當時仙臺市に於いてさえ無き、手動式旋盤機を北海道方面より購入、祖父熊太郎氏の鍛冶職より轉んじて、一躍鐵工所を開設、粒々辛苦、幾多苦難を經て今日堂々たる鐵工所の基礎を築かれたのである。加之ならず氏は當時町會議員として町政の恢復確立に努力する他消防方面の要職を歴任重責を果たし、今日幾多の功績は世人の記憶に新たなるところである。

その後繼者たる氏は、先代の名をいやが上にも擧げ家業に精勵、又高潔なる人格者として、先代以上の名聲と信望を得てゐるのである。機械製作に關する氏の造詣は深遠にして能くその經驗を生かし眼を最新科學の分野に徹して率先斯界の發展向上に專念する姿は遂に推されて、八戸鐵工機械工業組合監事となり、卓越せる手腕と洞察力により今日の時代に於ける諸問題は必ずや才斷せられ斯界の伸展は充分に樂觀されると迄信頼を博して居る。

家庭には夫人の外三男一女に惠れ夫人は、氏の今日あるは多分に夫人の內助の功に因ると稱せらるゝ賢夫人にて、近隣の好評を得てゐる、長男安夫君は目下商業學校在學中であり英明の資性を知らる。

漁業家

秋山秀之助氏

八戸市湊町濱須賀
電話八戸五一〇番
五六三番

人生一行路、障害多くして志業容易に成り難しとは、必ずしも落伍者のみの歎ではない。

然し時流を洞察するの明あり、不斷の努力と、鐵石の意志を以つて終始せば、志を遂ぐることは、左程に至難ではたい、世に容れられざる者の多くは此の條件用意を缺くものである。

我が秋山氏は明敏なる頭腦の士であり、努力精勵遂に今日の大を築いたのであるが、蓋し時流の動向を窺ひ自己の趣くところを洞察した活眼の士といふべきである。

氏は先代能五郎氏の二男として生れ、責性氣宇壯大にして、大正十五年頃より機械船を率先して用ひ、今日の大漁業地を築き上げたる功勞者の一人にて、又製造を兼ね、製するところのものはメ粕、煮干、田作等の優秀なる製品は、博覽會、展覽會に於いて十數回に亙り入賞好評を博してゐる。船は成田丸十數隻に及び、其の設備と規模の優且つ大なるは堂々たるものであり、八戸市に於ける大漁業家である。而してその手腕は遂に擧げられて八戸市水產會評議員に就任次いで市會議員を二期に亙り選任さるゝに及び今日迄業界、並に市政の明朗なる自治確立に參畫して盡力したる功績は實に大なるものがあり、世人の等しく敬服する所以である。

家庭にはきぬ夫人との間に二男二女を擧げられ至極圓滿なる家庭を營まれてゐる。

市會議員、漁業家

久保卯三郎氏

八戸市港町汐越
電話八戸二九番

道は人生百般の事業の中で、最も重大なるものである。普遍的であつて如何なるものもの之を行はなくてはならない。然し何人も誤り易く之を完全に歩んだ人物が果して何人と數へ得られやうか。その人物こそ初めて國民の指導者となり得るのである。

氏は此の道を誤らず完全に歩み續けて來た人格者として推奬されてゐる。

先代萬藏氏の長男として生を享くるや、代々漁業なりし家業を繼承、鋭意家運の隆盛に努力、その人格と手腕は斷然他を壓して堂々たる漁業家として今日自他共に許す地歩を礎くに到つた。業とするところは、アグリ網、鰯漁業及び鳥賊漁を爲し毎年その夥しき收穫は同業者間に驚異の眼をみはらしめてゐるところであるが、之れこそ、倦まざる研究と、眞摯敢闘の來たらしむるところであり、斯界に一つの眞劍な話題を提供してゐる所以でもある。持船は寶漁丸五隻を保有してゐるが、目下鋭意新造船の計畫中にて就航の暁は一異彩を添へるわけである。尙ほ製造業も兼ね、メ粕、煮干、田作等優良品を製造し市場の好評を博してゐる。一方市會議員、港漁業協同組合常務理事、町內會相談役、八戸市水產會代議員等の重要地位にあり、當市の自治產業の開發、向上進展に寧日無き盡力をされてゐるが、氏の功績は千言を費さずとも齊しく世人の胸中に銘記せられてゐる。

家庭には、とは夫人との間に四男二女あり、長男保三氏は、父君の片腕として漁業方面の總支配格として業績を上げつゝある。

高松善藏氏

八戸市港町下條
電話八戸四二五番

個人ありて社會あり又個人は社會に依てのみ生活を完し得るものである。然らば自己一身のみの幸福繁榮を追求せずして社會全體の幸福繁榮のみ念願するところに眞の人生の意義あり、我が高松善藏氏は共存共榮を信念としてよく東西奔走して之に滿腔の努力を捧げてゐる勤勉の人である。水產漁業として我が國策の第一線に於て活躍しつゝある同氏は明治廿三年八戸市の素封家に呱々の聲をあげた。長ずるに從て英邁の資を謳れ大正六年實業界に雄飛するや、その所有せる鮪キンチヤク網德寿丸七隻を以て次第に頭角を現はせど事情ありて船舶全部賣却をなす。大正八年に到り鮮魚問屋開業當市場の仲買人として生來の明敏なる頭腦を發揮當市有力者として重きをなす。現在も東京始め全國市場に出荷されつゝあり今後益々氏の快腕に期待はかけられて居る。昭和二年より再び漁業を開始船舶も現在は海鳳丸四隻を有し內三隻は鮪船、海鳳丸一隻と外に永是丸、大日丸の三隻はトロール船を買入れ毎年克く好成績を持續、以て海國日本の發展の爲め、辛苦を惜まず努力されてゐる。就中、漁業鮮魚問屋、罐詰工場が多忙を極めて居る。氏は八戸市に罐詰工場を所有せる外に石卷市にも罐詰工場を持ち、目下製造中にて、益々多忙にて生產能力擴張の爲め翼賛奉公の道をたどりつゝある。

佐々木才吉氏

八戸市港町南側

人を損せずして己を增すとは相互努力に依つて生活する社會人の根本觀念でな

ければならぬ、各人が此の點に自覺し、社會人の一人として努力するところに、眞の共存共榮があると云はなければならない。我が佐々木才吉氏は累代漁を業とし、氏が之を承くるに至り愈々隆運を加へた當家はその發祥より既に五代を經たる名門素封家として四隣に聞えてゐる。

氏は明治十二年當地の舊家佐々木家に呱々の聲を上げた。秀れたる頭腦は幼にして大人を感嘆せしめる事しば〳〵あつた。明治二十五年頃より佐々木家はアグリ網を使用してゐた。併し漁業に熱誠眞摯なる努力を傾け着々基礎を固めその明敏透徹せる洞察力を以て大正十五年より機械船を購入し、本格的の漁業となし、全國的に有數な漁業都市發展の爲努力を厭はなかつた。鰯アグリ網を使用して取れたるものは自己にて製造主となりメ粕其他煮干を作製全國各地へ出荷した。その所有船は八幡丸外三隻を有し、從業員は五十數名を數へる許りにして益々隆盛をきはめてゐる。氏は又日銀漁業協同組合理事として、又日銀第一本町町内會長として三年前より奔走し、かたはら市水産會總代に推され貢獻してゐる。家庭には賢夫の譽高きマツ夫人との間に二男三女あり、長男福太郎氏は海軍一等水兵として海國日本の爲めに戰ひ、二男英氏は出征昨年九月十五日名譽の戰死を遂げた軍人家庭である。

森下駄工場

森　賴太郎氏

清水市辻江川町三〇
電話　二一一六番

國家發展の基調をなすものは一家の繁榮にあり、一家繁榮の基礎をなすものは個人の修養努力如何に關る實に個人の活動は國家の消長に影響する重大性を帶びてゐる。

よき私人としての生活がよき公人としての生活に伸展する。謹直なる資、剛毅なる質、以て衆人の信望を一身に衆むるの觀がある氏は推されて清水下駄製造工業組合評議員となり組合の發展に組合員の福利增進に盡瘁しつゝあり。氏は明治四十二年十一月八日呱々の第一聲を擧げ、幼にして不屈の精神の持主他日大をなすの士として囑望されて居た。昭和十三年六月清水市辻江川町三〇に下駄製造業を開業し、木地、加工、塗まで全てに機械力を應用して合理的經營に精進し、加へるに時流を洞察するの慧眼を以つて適切なる營業方針は數年にして、確固不拔の地盤を斯界に築きて森下駄製造問屋として、清水市のみならず、遠く東京、大阪方面まで聞えて居る。尙靜岡縣駿東郡御殿場町原里村河島田六八一ノ一に第二工場を設けて殺倒する注文の消化に努めつゝある。多忙なる業務の傍ら清水下駄製造工業組合評議員、清水市燃料商組合理事の要椅にある。

家庭には內助の譽れ高きまん夫人との間に長男一郎君（五歲）二男弘君（一歲）長女千廣嬢（四歲）があり、母堂りん刀自は尙健在である。

尊父源作氏は三年前四十八歲にて沒し、祖父要吉氏は七十三歲の高齡にて沒して居る。

洋家具商

小長井豐司氏

清水市入江町一丁目

業を創むる事素より易からずと雖も、よく父業を守りて家運を失墜せざるのみか、時代の進展に順應して益々業務の擴張を圖りて隆昌なる家運を招來するのも亦難事中の難事とするところである。我が小長井豐司氏は家業たる洋家具商を繼承して精進努力、しかも時代に卽したる其經營方針は毫も誤ることなく、年を加へる毎に益々業務の擴張を圖りて今日の大を招致せる逸材である。抑々當家は祖父小長井儀兵衛氏に依つて明治廿四年創業されたるものにして儀兵衛氏は當市同業者間の功勞者として多大の尊敬を享け、組合長に推されて業界の發展進歩に貢獻する處甚大なるものがあつた。又父君鐵藏氏も家業を享けて精勵し、よく家運を守つて愈々基礎を確立し、先代の意志を承けて同業者の共同福祉に寄與する處あり組合長その他の要位に就き名望篤かりしも昭和十年七月逝去せられたるは惜しみても猶餘りあり。斯くて氏は三代目を承けるや、父君の好き指導の許に人となりたるその豊富なる經驗と、優れたる手腕とを發揮して逐次家產を築き、今や當市同業者間の雄として錚々たる名聲を謳はれてゐる。現在清水建具工業組合理事長であり、統制委員であるが、氏は同組合の前身たる建具同業組合に於ては弱冠廿五歲にして既に組合長に就任、又和洋家具商工組合長でもあつた。今や戰時統制經濟機構に卽して、業界の發展、需給の圓滑化等に遠大なる抱負を以つて實現化に努力しつゝある。

清水藝妓屋組合事務所

清水市江尻
電話清水五〇六、五〇七番

當事務所は、清水銀座の中心地にありて、組合員相互の親和を圖り、舊來の弊風を矯正し組合員間の連絡、統制を保持して營業上の發展及改善を期し兼ねて見番を經營するもので當市の發展、藝妓の素質向上等時局下に於ける健全なる發達を圖るべく組合員一致團結之に當つて居る。

組合長（松廼家）、副組合長（春奴）を初め相談役二名、評議員八名、總組合員數四十四、藝妓員數は百廿六名を數え、新興都市清水市に於けるサービス係としての任務を果たし最高峰を躍進する現況にある。一般世人より兎角の說を冠せられる當業者等はよく時勢を理解し從來の如き腐敗せることのなき樣自戒を爲し藝妓にありても各自其の資性に應じて技を磨かしめ、家事を習得せしめ、銃後の婦人として恥かしからざる樣爲さしめる等、當組合の特徵を遺憾無く發揚し、爲めに清水藝妓は實に上品で、一方藝熱心であるの好評を博しつゝある。

風光明媚と、由來古蹟名所の多い當地に於いて近縣又遠路旅行者間に、愛される藝妓の多きは各自の心意氣と、その美しき容姿があればこそで、久保田組合長、鈴木事務所主任初め組合員の熱心の賜である。風景を賞でつゝ美妓を擁して一刻千金の慰安を得、以つて明日への浩然の氣を養ふのも良きかなと云へやう。

平井下駄製造工場主

平井源太郎氏

清水市外濱川一四六

能く時流を觀るの明あり、不斷の努力と鐵石の意志を以つて終始一貫せば、志業を貫徹すること必しも至難ではない。平井下駄製造工場を拮据經營して隆々たる業運にある平井源太郎氏は縣下庵原郡興河內村に呱々の第一聲を發し、父君を平井金藏氏と呼んだ。材木商を經營し、業運見るべきものありしが不幸業途失敗の悲運に遭遇せしも、嘗ては庵原郡安信郡材木商同業組合代議員に推され、名聲錚々たるものがあつた。氏は五十八歲にして雄鑄たる身を以つて源太郎氏を扶けつゝ餘生を送つてゐる。

我が源太郎氏はその長男にして夙に氣才煥發、疾くより父君の指導の下に家業に從事しつゝありしが機を見るに敏なる氏は、生地下駄製造の將來性に着目し、昭和十一年九月より現工場を創設して現業に轉じ、爾來營々として業務の發展に努力邁進、着々業運を擴張し遂に今日の大成を招致するに至つた。現に同工場の一ケ月の生產高は五萬足を數へ、販路も逐次擴大して靜岡、清水の近接地は勿論、近縣各地に及んでゐる。昭和十五年六月推されて清水下駄製造業組合長に就任、外に靜岡塗下駄工業組合、木地部役員等にも擧げられ

てゐる。

家庭には父君金藏氏を始めとし、母堂とく夫人共に健在にして、淑德の譽れ高きみさ子夫人との間に洋子孃、勝世孃の二女を擧げて幸福なる日常を送りつゝある。

白鳥下駄工場主

白鳥新一氏

清水市外澁川四〇一
電話 八六六番

その製品の優良なるを以て聲望隆々たる盛況を呈すること既に容易なる業に非ざるも、更らに同業者間に甚大なる貢獻をなし、嘗ては同業組合の長として尊敬信頼を恣にし、今又顧問に推されて其の樞機に參し、靈瘁しつゝあるは到底凡庸の能くなすところに非ず。

我が白鳥新一氏は明治廿八年一月七日を以つて呱々の第一聲を發し、夙に聰明の聞え高く、はやくより父君の業たる下駄商を扶け、父君の指導下に孜々として業務の習得に努めつゝありしが、時流を洞察するに敏なる氏は機械應用の有利なるを思考し、當所に工場を新築して移轉、昭和十二年より着々業運の擴張に努力し、遂に今日をあらしむるに至つた。

實に下駄工場を機械化したるは氏を以つて當市の草分けとも云ひ得べく、爾來陸續として同業者の機械化するもの多く、現在の殷賑を極むるに至つた恩人とも稱すべきであらう。

氏の工場に於ける一ケ月の生産高は實に六七萬足にも及び、販路は近接地は勿論、日本各地に擴がつてゐる。而して氏は自己一人の利益のみに汲々せず廣く同業者の福利にも關心を有し、同業組合設立に獻身的努力を拂つて遂にこれを完遂し昭和十三年六月その設立を見るや自ら組合長として甚大なる貢獻をなし昭和十五年一月之れを辭し、爾來顧問として今日に至つてゐる。

家庭にはてふ夫人ありて內助篤く、その間に二男二女を擧げてゐる。

繩卷問屋

藤下菊松氏

清水市入江鶴舞町
電話 三九五番

創業以來躍進又躍進、遂に今日の確固不動の基礎を占めて斯界に雄飛しつゝある我が藤下菊松氏は常に奮鬪努力を信條とし、又生命ともして堅忍不拔の精神を抱懷し、勇往邁進、以つて事業の發展を圖り、しかも天賦の才能を縱橫に揮つて着々として大を加へつゝある偉材である。

氏は當市の人、明治十九年一月十八日を以つて生を享け、夙に俊敏英明の譽れを鄕黨に馳せてゐたが、東都雄飛を志し、未だ十四歲の少年の身を以つて敢然上京、廿五歲迄孜々として人生修業に努め、豊富なる經驗を錦として歸國し、先づ事業の第一歩を漁撈用具の生産より出來る繩屑を利用して畚の製造に着目、自らこれの研究に當り、近隣にも內職的に奬勵し遂次發展を見るに至るや更に昭和六年より針金を利用して箒を製造し、その材料として現在使用しつゝあるパームを發見するに至つた。枝朶パームとは印度シダの纖維にして從來の株椢製品に代つて市場に君臨し、羽衣箒や羽衣東子が生産されてゐる。斯くて着々成功の彼岸に到達し現在に於ては縣下第一の繩畚問屋として他の追隨を許さない。而して信望の集る處、靜岡縣枝朶パーム製品製造組合長、中部日本枝朶パーム工業組合理事、山梨、靜岡枝朶パーム製品製造組合聯合會理事に推され、又區長としても昭和八年以來名望を謳はれてゐる。

家庭にはわか子夫人との間に五男一女に惠まれ多幸なる生活のうちに益々向上の一途を辿りつゝある。

下駄工場主

前島平太郎氏

清水市江尻竹下町八
電話 六七〇

業を創むること素より易々たる事に非らず、然し守成も亦容易ならざる難事たることは之れを世の實例に照合しても明白である。しかも守成の堅實より更らに勇躍一番、百尺竿頭一歩を進めて舊に倍する發展と擴張を業に致すは最も難事中の難事と云ふべきであらう。

當地下駄製造業界に於て斷然頭角を現しつゝある我が前島下駄工場主、前島平太郎氏は夙に父君の業を繼ぎて益々努力精進、昭和十四年、よく時流を洞察して下駄工場を設立し、更に躍進の一途を辿りつゝあるは寔に偉とすべきであらう。

氏は明治三十六年四月廿七日を以つて出生し、夙に才氣煥發、衆に冠たるものありしが父業を承けてより愈々天稟を表し、遂に今日の大成を招くに至つた。現在、東京、横濱、千葉、福島等に販路を擴張し、一ケ月約五萬足の製品を製造するのみならず、生地、加工、塗、一切をも取扱ひ隆々たる業運を斯界に誇り衆望を擔つて清水下駄製造工業組合、清水燃料組合、清水自動車商業組合等の理事に推されてゐる。

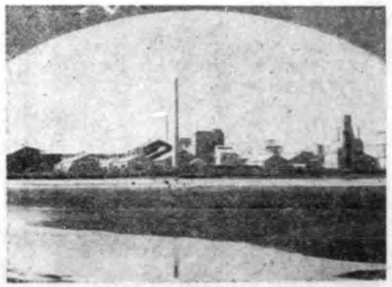
家庭には父君竹次郎氏今尙健在にして、店務一切を平太郎氏に讓り悠々自適の中に餘生を樂しむでゐる。尙ほ母堂てる子氏も國防婦人會支部長として銃後婦人の範となり、夫人よし子氏との間に長男陸司君、長女和枝孃、二女美代子孃、三女三千代孃、四女經子孃の一男四女に惠まれ、家庭內は常に和氣藹々として近隣の羨望を享けてゐる。

日東化學工業株式會社八戸工場

社長 藤山愛一郎氏
常務取締役 中上川勇五郎氏
同 永井清次氏
八戸工場長 秋葉武定氏
八戸市小中野町
電話代表八戸四〇四番

八戸市の近代都市としての發展は、その工業的發展によるといふも決して過言ではなく、總生産額の八割五分が工産物を以て占められてゐる事實が、如實に物語るところであるが、それは同市の水陸の便と共に益々發展の可能性を有し、殆んど大工場の建設を見つゝあるが、その中にあつて、最も特異なものとして世人の注目を集めてゐるものに、我が日東化學工業株式會社八戸工場がある。

同社は藤山愛一郎氏を社長に、中上川勇五郎、永井清次兩氏を常務取締役として、昭和十二年八月創立され、同十四年三月事業を開始したものであるが、八戸工場は秋葉武定氏を工場長として、その製品はアルミナ、硫安、化成肥料、各種化學工業藥品等を製造してゐる。が、こゝにその最も特異な存在といはれるものは、アルミナの製造であつて、これは單に同社の特異性を物語るばかりでなく、工業日本の飛躍的發展を物語るものとして、注目されるところのものである。



從來我國のアルミナ製造工業は世界列强に比して寔に微々たるものにして、然もその原料たる鑛石は全く海外よりの輸入に俟つの外はなかつたのであるが、數年前より大日本製糖株式會社では、その所有する北大東島産の酸礬土鑛を以て純國産アルミナの製造研究を企て、遂に世界獨自の製造方法を確立するに至つたのである。

日東化學工業株式會社は、實にこの新樣式

の製造方法を基幹として設立せられたるものにして、その優良なる純國産アルミナは直に國防工業の完成に重きを加へると共に、その副産物たる各種肥料は之を廉價に市場に提供され、以て東北農村振興の一助ともなるものであつて、正に一鳥二石、アルミナ製造工業こそ銃前と銃後を護る第一線の國策工業といふも過言ではないのである。

因に同社は大日本製糖會社とは姉妹關係の間柄にあり、原料は北大東島より運搬するも、石炭、コークスはこれを北海道より移入し、石炭も、コークスも、原料鑛石も〇〇〇トンを使用する東北地方有數の大工場である。

長期戰下日本勝利に導くためには、工業日本の飛躍的發展なくしては、如何ともすることは出來ないであらう。かゝる時に於て世に驚異の眼を瞠らすべきアルミナ製品の純日本的製造方法の成功は、國策工業としての日東化學工業八戸工場の存在を最も意義あらしめる事實に他ならないと共に、同工場を持つ八戸地方の大きな誇りともなるであらう。

日本砂鐵鋼業株式會社八戸工場

八戸市沼館
電話代表八戸八四六番

日本砂鐵鋼業株式會社は我國の海岸線に殆ど無盡藏に埋藏される砂鐵原鑛を採取して之を處理し高炭素鋼材、合金鋼材を製造する國策會社で創業日尚淺いが我が製鋼業界の特異なる存在としてその將來を注目され、特殊鋼協議會においては優秀鋼材生産會社として有力なるメンバーをなしてゐる。

同社の事業とその特色を詳しく記せば、同社では商工省大阪工業試驗所において研究完成されたる砂鐵處理の方法を基礎とし之に改良を加へたる方法に依つて砂鐵中に含有せる鐵、チタニユウム、ワナヂユウムを巧みて分離又は結合せしむることにより、高炭素鋼、合圓鋼、ワナヂユウム、酸化チタニユウム等を生産するが、我國における從來の砂鐵處理は單に之等の元素の一つを目的として工業化せんとするところに經營上の難關があつた。同社は最初よりこの點を深く考慮し高砂工場を試驗工場として充分なる檢討を行ひ成功の確信を得て規模を擴大して今日に至つたもので、その生産方法の概略を說明すると鑛區において砂鐵鑛を採取し之を水洗し選鑛機にかけて砂鐵のみに選別し、この選別した砂鐵は之を工場に送つて更に磁力選鑛機にて嚴選して精鑛と純鑛とに分ち、精鑛からワナヂユウムをその殘鑛を團鑛として還元爐を用ひて海綿鐵とし、一方純鑛からはチタニユウムを製造するもので、かくて電氣爐による鍛鍊工場、蒸氣鎚空氣鎚或は水壓機等に依る鍛鍊工場、ロール工機による壓延工場等があつて優秀なる高炭鋼材、合金鋼材を生産してゐる。

八戸工場は十二月に事業開始の豫定で敷地〇〇〇〇〇坪を有し、東北地方指折の大工場として八戸工場街に偉觀を呈してゐる。

同地方の砂鑛區は實に〇〇〇里の廣大なる權利を有し、その原料は無盡藏だといはれるのでその前途はまことに洋々たるものがある。

同社の社風は工業報國の堅い信念の下に創立されたゞけあつて、常に上下一丸となつて、技術報國生産報國に邁進し、研究家に門戸を開いて登用の途を計つてゐる。

因みに同社重役陣容を擧ぐると、次の通りである。即ち取締役社長石渡長八郎、取締役上野建二郎、同佐々木義彥、同嶋谷勇、同若林秀雄、常任監査役松尾讓、監査役嶋谷武次、相談役菊池武夫、同津田信吾、支配人尾崎甚四郎の諸氏である。

株式會社 青森商船

青森市新濱町三
電話三二九七、三四三九番

代表取締役社長　駒谷勝太郎氏
專務取締役　駒谷　光雄氏

株式會社青森商船は元東北商船株式會社、下北運輸株式會社、駒谷船舶部の三者を合併して、昭和十二年十二月創立されたもので、現在第三八千代丸、大德丸、八千代丸、川内丸の貨客船を有し、青森灣水上交通の樞軸たる青森—上磯間、青森—下北間の二航路を運行し青森灣水上運輸の中心として同地方人に多大の恩惠を與へてゐるが將來は北海道方面にも事業を擴張する豫定で時局下水上運輸事業に貢獻し非常な好成績を上げつゝある。

（專務取締役駒谷光雄氏）

最近一ケ年間の營業狀況を一見すると、戰時下における海運界は一般に非常なる活況を呈してゐるが、同會社の主要航路である青森—上磯、青森—下北間は特殊なる地方的事情に左右される關係上、統制經濟の影響を蒙り荷動きは緩慢であつたが、揮發油の配給を極端に制限せられし爲トラツクに依る輸送減退が、同社の貨物取扱量に好影響を與へ、一割餘の增加を來し、乘客又船舶の無事故は地方人の信用を博し乘客數に於ても前年度の三割增加を見、九・一八に依る運賃停止令、諸入費の增嵩にも拘はらず、時局下自肅自戒交通運輸の爲精進しただけあつて相當以上の好成績を擧げたことは役員陣の和と從業員の親切本位の賜であらう。

まして最近一ケ年に一つの事故もなく過したことは、役員、從業員一同の緊張力を物語るものであつて、その親切主義の營業方針と相俟つて地方人の感謝の的となつてゐる。

その役員陣を見ると社長駒谷勝太郎氏は青森地方に於ける業界の長老で、地方人の同氏に對する信頼は非常なものがあるが、何分にも老齡のため、現在は令息光雄氏が專務取締役として父を扶け同社の事業一切の指揮に當つてゐる。光雄氏また父の血を受けたゞけあつて資性溫厚、從業員に對しては慈父の如く、乘客、荷主に對しては親切を旨として、父君に劣らぬ信頼を集めてゐるが、これを扶けて取締役田沼敬造、田中敬三の兩氏、監査役藤林源右衛門、鈴木武の兩氏何れも業界の有力者で同社の前途の洋々さを思はしめるものがある。

この地方人の信頼と感謝に對して同社では益々海運報國の社是を高揚し、社運の向上に向つて懸命の努力を行ひつゝあるから、同社の躍進は期して待つべきものがあらう。

八戸市水産會

八戸市港町
電話五二四番

會長　吉田契造氏
副會長　石橋要吉氏
同　佐々木喜右衛門氏

八戸市水産會の發祥は相當に歷史を有してゐる。即ち今より約五十年前三戸郡港村の漁業者相寄りて水産業改良發達を計り、其の福利を增進するを以つて目的として漁業組合を組織したのに端を發してゐる。其後近村に於ける組合相次いで設立さるゝに至つたので玆に各漁業組合幹部は相計りて水産聯合體の必要性を唱導し、郡内組合員を綜合して三戸郡水産組合を設立した。

而して大正十年に至り、水産會法に基き當局の熱心なる勸誘と指導とに依り、三戸郡水産會と改組し、越えて同十五年郡制廢止に依つて事務所を元副會長神田氏宅に移轉したるも地方水産業の進展向上に伴ひ昭和三年事務所を港町に建設することゝなつた。

かくて同四年五月、八戸町並に隣接町村の合併市制施行に依り名稱を八戸市水産會と改稱、初代會長に吉田第吉氏が推され、次で長谷川藤次郎氏、中村榮吉氏を經て現在には吉田契造氏が其の重任に就き、副會長に石橋要吉、佐々木喜右衛門の兩氏があり、相協力して斯界の發展向上に鋭意努力精進を續けつゝある。

其の間、水産會は水産倉庫、共同販賣所の建設を見るに至りたる外、管内漁業組合の改組、水産物檢査縣移管柔魚加工品移出商業組合、竹輪蒲鉾製造工業組合の設立を見るに至つた。其他の事業としては海員の養成をはじめ、商工漁業組合の指導奬勵、水産關係書類整備斡旋、漁船の貸付、漁船の縣外への出漁

斡旋、水産物の宣傳斡旋、水産製品の改良指導、救護船の建造、漁業經營費低減補助申請等である。

殊に水産倉庫は歴代會長の努力により遂に昭和七年に設立許可となりたるもの、魚肥五〇〇〇〇俵、罐詰三〇〇〇〇個の保管に適し、現在魚肥、罐詰並に漁具、漁網、繩、莚其他會員の必要品を受託保管し且つ資金必要の寄託者に對しては金融機關へ斡旋融通の途を講じてをり利用者は逐年増加しつゝある。又は共同販賣所は、近年水産加工業の旺盛にして新製品年々増加を見るも製法區々にして販賣上の支障少なからざるに依り、共同販賣所を設置し製造業者の製品の供託を受け、製品の統一を計ると共に販路の開拓に資せんとする目的の下に昭和九年三月に設立されたもの、現在は水産製品の卽賣及び水産振興の資料たるべき參考品を陳列し當地方水産製品の改良並に産業開發に貢獻し、且つ一方水産物共同販賣の斡旋を致し物資の圓滑なる流通を計りつゝある。

而して現在の役員は上叙の如く會長として吉田契造氏が推され、熱誠よく會の向上發達に獻身しつゝあり、副會長には石橋要吉、佐々木喜右衛門の兩氏があり、よく會長輔佐の重責を果して遺憾なく、尙ほ評議員として坂本梅雄、相美興志、富岡新太郎、濱谷辰之助、越後右衛門佐、武尾憲三郎、上野千太郎、關橋耕作、秋山秀之助、月館幸太郎の諸氏が列し、相協力して職域奉公を盡してゐる。

八戸海運株式會社取締役
合資會社共立組社員

工藤元吉氏

八戸市小中野南横丁
電話八戸三九一、三九四番

青森縣の東部、南部平野の南隅に位し、東南は台地、西北は馬淵川、新井田川の低地を控へる八戸市は、中古牧場制の九戸四門の一に當る糠部の一中心で、工藤氏知行の後、八戸南部氏の治所となり、寛文四年南部直房築城、根城の民を上町に移し、新田の民を下町に移して城下町を經營したが、直房は兩河に附近の干潟を開いて大に新田を興し、表高二萬石に對し、實高は數萬石と稱せられ、明治維新に至るまで二百五十年間の城下で盛岡に對して小南部と稱せられたものであつた。それが昭和四年小中野、港、鮫を合併して京制を施き、近代都市としての形式を整備するに至つたものであるが、この八戸市の躍進的發展には、大八戸港の存在を絶對に見逃すことは出來ないであらう。

八戸港は昔の鮫港で、三陸有數の港として繁榮、大正八年以降漁港の修築工事、陸上設備完成し、昭和七年以降巨費を投じて商港的施設が進められてゐるのである。生産總額千參百參拾壹萬圓中、工産物千六拾壹萬圓、水産物貳百拾九萬圓で、その近代的發展振りを知ることが出來るが、その主なるものはセメント、魚肥、魚油、製材、木製品、罐詰等で同港の聖戰下に持つ役割の一般を知ることが出來るであらう。

この近代港灣都市八戸を背負つて立つ人に工藤元吉氏がある。氏は、八戸海運株式會社取締役、合資會社共立組社員、八戸水上小運送業海運組合監事の肩書を持ち乍ら、自ら船舶、木材、鑛山、水上小運送業を營み戰時下國家的事業に活躍してゐる。

氏は將に立志傳中の人で、大正九年軍隊生活を終へて歸るや、水上運送業に從事し、主として磐城セメント八戸工場の仕事を行つて來たが、昭和四年市制實施と共に獨立し水上運送業を開業し、前記磐城セメント會社のセメント積出し及び石炭運搬を行ひ、傍ら三菱、住友の石炭運搬（海上輕）に從事し今日に至つたものであるが、現在は二百五十餘名の從業員を擁して、八戸水上運送界に重きをなしてゐるが、同氏が社員である合資會社共立組でもセメント會社の運搬を業としてをり、氏の八戸海運界に占める地位は實に偉大なるものがある。

氏は船舶、水上運輸のみならず、昭和八年からは鑛山部を設け、青森、秋田兩縣下に於いて金、銀、石炭、硫化鑛等の鑛山を有し、これらの採取を通じて直接國策に協力しつゝあるが、更に本年三月よりは木材部を設けて、原木の取扱を始め、各方面に新たなる活動をなし、將來を大いに期待されてゐる。

氏は資性溫厚、人情に厚く、その二百五十餘の從業員より慈父と仰がれてゐるのは勿論、また町内に於ても信頼され、新體制下町内會の顧問として信望を集めてゐる。

家庭には夫人との間に六名の男子あり、この方面に於ても大いに國策に寄與するものとして、各方面から羨望されてゐる。

この人にして初めて仕事を趣味とする人といふことが出來るであらう。

惟ふに、今や聖戰も漸次變轉し、一方にては繼續的武力をもつて抗日蔣政權の徹底的膺懲に當り、他にては生誕せる新政府に對して協力を惜しまず、着々として東亞新秩序の建設に邁進しつゝあり、之れが全面的成果を齎すために國家總力を擧ぐるの秋、國民たるものは職の如何を問はず、滅至奉公の至誠を披瀝しなければならぬが、躬行の士として工藤氏のあるを欣びとする。

鮮魚問屋鮮魚仲買業

關橋耕作氏

八戸市小中野町新町
電話二六七番
出張所（魚市場）八六六番

獨立獨行、勇往邁進は處世の要諦である。此の信念無くして成功の彼岸に達することは不可能である。常に業者の間にあつて率先實踐され孜々として家業に精勵、粒々辛苦、今日堂々たる一家を成して同業者間に君臨する氏の得意なるや思ふべきである。

資性溫厚篤實、明朗濶達なる氣風にして同業者間の信頼は素より一般市民よりも敬愛を受けてゐる。曩きに八戸魚市場、專屬仲買組合長として生産擴充と市民の福利增進の爲めに盡瘁され現在八戸市水産會評議員、小中野漁業協同組合理事長に就任寧日無き奮闘を續けられてゐる同業者間の元老である。

氏は大正八年魚問屋創業、家運の隆盛はその並ならぬ手腕と努力に依つて一躍又一躍、今日では、遠く東京方面に多量の出荷をなし、漁業も昭和八年より鮪漁業を初め、從來の經漁業と併せて、活躍すべき分野は擴充され今後の氏に掛けられてゐる期待は實に大なるものありと言ふべきである。

本年氏の持船たる好榮丸は練成されたる技量と、整備の優秀とにより未曾有の大收穫を收め獨ものが蓬縷に於いて八戸魚市場應賞の第二等賞を獲得、實に平常の努力と整備は刻下生産力擴充の秋に當つて着々その成果を擧げ好個の模範たり、因に氏は明治十九年生れにして元氣潑剌壯者を凌ぐ意氣は寔に感服の外は無く其の手腕に俟つべきもの又多い。

田畑工業所主、八戸鐵
工機械工業組合監事

田畑一氏

八戸市小中野町
電話八九八番

獨立獨歩、勇往邁進の氣慨は成功の秘訣である。艱難辛苦は人を造ると云はる、蓋し至言なり、今日縣下の斯界に於ける覇者として其の名を謳はれる氏こそ實に好適例の士と云へるであらう。

人と爲り氣宇宏大、斃れて後止むの氣慨は幼にして現はれ夙に今日あるを豫期せられたのである。孜々として家業の興隆に意を用ひ遂ひに名實共に獲た氏の半生に世人の師表として今日仰がれてゐる。二十一歳にして見習を經て獨立創業鑄物と鐵工業を又本縣下北郡大畑町（電話大畑二十一番）に機械工場創設主とし内燃機關製作に從事嘖々たる名聲を得て、益々發展飛躍を成しその製品は最新の設備と優秀なる技術によつて第一等の折紙を附せられ市販品を斷然壓例して今日隆盛の一途を邁進してゐる加之て昭和十二年川崎市渡田

外町に田畑工業所車輛製作所を創設專ら車輛專門製作に從事續いて蒲田區羽田町に第二工場を設け夥しき注文品をさばいて堂々たる一大ブロックを形成しつゝある。

氏は若年乍ら腕一本より今日の大を爲し鐵工業關係に於る縣下第一の納稅者にして、此れ等と並近して鑄物技術も近來特に進歩し各方面に部分品等を納入爲しつゝあり、又製罐請負の如きも大口なるものを請負優秀なる製作に從事して居る現在從業員百餘名を數へ、工業界に於ける、氏の手腕と、倦まざる研究心とは明日の業界に於けるホープとして期待せられてゐる。近く之等大工場を統一一大會社の結成を企畫中にて實現の曉には國家に益するところ甚大なるものがあり早くも關係者の關心を高めつゝある。

土木建築請負業

近藤善太郎氏

八戸市鹽町
電話八戸五〇九

祖先の遺業を享けて更に一段の光彩を發揮せしめ家名を擧ぐるもの之れ孝の道である。我が近藤善太郎氏は昭和五年先代死亡之後これを襲名、業務も又一切を繼承して日夜家運の隆盛に意を用ひ精々辛苦、かくて今當市第一等の定評を獲得斯界をリードして名聲近隣に洽きは、蓋し當然と云ふべきではあるまいか。

責性明朗にして濶達、洋々たる宏量は誠實勤勉と相俟つて特異なりと云ふべきである。先きに幾他の事業を完成して銀杯、金杯賜與の榮を荷ふ。目下二組合副組合長を辭して顧問に就任深き至言を與へては斯界の發達に盡力されてをる外、在郷軍人會第三分會副分會長、鹽町々會長等の外先代より引續き鹽町納稅組合長等々の要職に仕へず自治確立、國家經濟充實等、終始一貫福利の爲めに盡瘁したるは實にその眞摯懸命なる信念の來たらしむるところである。而して衆望厚き氏の將來性に又今後幾多難問題を換へる斯界の前途に何らか大いなる期待のもたるところである。今日資材缺乏の聲高き時に於て平常の研究と偉大なる手腕とを充分に揮はるゝことは蓋し明かなることである。

因に氏は明治三十四年生れにして其熱烈燃ゆるが如き愛國の至情は銃後陣營にあつて大いに活躍、遺家族を自ら卒先して訪問慰安をなし、先般遂ひに平素の產業、國防に資するところ大なるを以つて陸軍、農林各大臣より感謝狀を授けられてゐる。かくの如く先代の遺業を繼いで大いに祖先の名を擧げつゝあるところ實に世の龜鑑たるべき人である。

五戸岩次郎氏

八戸市港町

社會道德の向上に依つて、民衆の公共奉仕の美風が益々旺盛となりつゝあるは、時代に覺醒したるよき傾向と云はねばならぬ。

我が五戸岩次郎氏は常に中正穩健の持論をもつて正義の大道を濶歩し、公共の爲に身を挺して毫も倦むところがない。即ち昭和十二年七月市會議員として市政に參與し市民の福利增進の爲に東西奔走、碎心粉骨の勞力を惜しまず、蓋し市民より敬慕されたる所以こそ玆に存してゐる。氏は又、白銀漁業協會、組合理事として五六年も勤續し、昨年までは片寄町內會長に推され貢獻してゐる。

漁業にアグリ漁を主として、鰯の多い漁獲物は加工されて全國各地に送られ收獲高は相當の域に達してゐる。

その所有船は實福丸外三隻を有し、從業員は約五十名高り、協力一致仕事に從事してゐる。

家庭には父君岩藏氏あり氏は八十五才なるも矍鑠として壯者を凌ぐの觀がある。又たナミ子夫人との間に三男五女を擧げ、長男清藏氏は父業を扶け、三男權之丞氏は名譽の應召にて出征、武功を樹てゝ上等兵として凱旋す。三男由太郎氏も亦應召し名譽の戰死を遂げ伍長に昇る。護國の兵の家と云ふべし。

菊池病院長

菊池洲二氏

函館市辨天町七五
電話函館一二九八番

「救世濟民醫は仁術なり」の刀圭界に於いて、仁醫中の仁醫として、一般より師父の如き敬愛をもたれてゐる當菊池病院長菊池氏は、資性溫厚篤實、人格高潔斯道に熟達せる手練を以て名聲嘖々として今日に及んだ。

氏は明治十三年生れ、夙に醫家を以つて一家を成さんと志し、仙臺醫專に學び、卒業後、漸次專門の研究に沒頭され、歸函後は市立函館病院の外科副醫長となり、次いで大正元年現地に獨立開業に及んで今日迄幾多の功績は衆人の等しく認むるところである。然し然ゆるが如き向學研究心は遂ひに十二年より十四年迄二年間、專門の外科研究の爲め獨逸に留學するに至つた。

醫を以つて業とする氏は、防疫、衞生思想の普及徹底に盡力されて患者と苦患を共にするその診斷治療は親切叮寧を極め、今日患家の感激と來診を乞ふ者門前市を爲す有樣である。衆望を荷つて遂ひに市會議員を四期、副議長一期、北海道醫師會理事、日本衞生會函館支部長、市醫師會理事等の要職に就任、寧日無き努力を爲されてゐる人格者である。

一方家庭には紀子夫人との間に二男一女を得られ、紀子夫人は愛婦分會長、國婦支部長等として第一線に立たれ然も家庭にあつては良き妻たり母たる賢夫人にて患家の等しく敬慕するところでもあり又氏の今日あるを礎いた內助の功ば實に大なるものがある。

市會議員

經塚彌三氏

函館市鍛冶町二四
電話四二番

刻下多事多難の國事の上に智才、人材の幾千を要するや、蓋し人材の大量生產は至難である。千の天才よりも一人の人材偉傑を要望する聲の巷間に滿つる時が來たのである。

漁業界に於いて、現に斯くの如き聲を聞くとするなれば氏こそ、實に斯界の希求する偉材である。

祖を富山の舊家に發し、先代友三氏その非凡なる才能を持して當道根室に渡り、大正三年函館市に來つて、漁業を創めた。熱心なるその努力はよく同業者に伍して遜色無く、當彌三氏に到つて嶄然頭角を現し、遂に千島鰯會社を創立し常務取締役となり、又親會社たる北千島水產會社の重役として、その卓越せる手腕を存分に發揮してゐる。一方市民の信望は高く推されて市會議員となり市政の確立公益優先の信念に寧日無く奮鬪されてゐる。

責性氣宇濶達にして人を容るゝの雅量があり接する者等しくその洋々たる宏量に敬慕信愛の念の湧出せざるものなしと云はるゝのは實に氏の面目の一端を具現してゐる。

而して趣味として競馬を好み常に駿馬十五六頭有して全國競馬界に出場せしめてゐる。先般中山競馬に於いてトクホーランの優勝したことは有名であり、トクの字の付く馬は氏の持馬であることは知る人ぞ知る斯界の專門家である。

家庭には賢婦人の譽れ高いたけ子夫人との間に一子德男君を得られ、目下中學に在學中である。

漁業家

佐野儀三郎氏

釜石市東前町
電話釜石一〇五番

當家は當市の舊家にして十二代目漁業を家業としてより十代の久しきにある。

氏は豪放磊落しかも膽勇あり、海洋日本の大自覺に立つて堂々たる信念と勤勉とにより

家業を勵み全國有數の漁業家としての今日を築くに到つた。而して、その産業開發と自治の爲めに盡瘁されたる功績は顯著なるものがあり、市民の尊敬信頼を一人であつめてをるの感がある。漁船に到つては大小十數隻餘に上り中にも茂登丸第一より第五迄・第一平運丸、觀應丸、第三觀應丸等々百噸級の大漁船を有して當市の漁業界に君臨してゐる。尙當地方に於ける鰯あぐり網の元祖として氏は餘りにも有名である。遠洋に奮鬪幾十日最新の設備と技術とによつてその莫大なる收獲物は見る〳〵消化され立派な加工品として、鰹節、鯣、或は〆粕等になつて、擴く全國的に販賣供給されてゐる。その品質は最上の評を享けてゐるのを見ても、優良なる設備と氏の人格的の閃めきを窺知するにがたくないものがあらう。

一方家庭には、長男信太郎君を初め二男三女に惠まれ、信太郎氏はすゑ夫人との間に二人の子女をもうけ、實に和氣靄々、訪ふ者等しく、その春風駘蕩の光に心樂しませらるゝのである。長女かつ、とも、ひろの三孃は既に他家に嫁し幸福なる家庭の主婦として各々家運の伸展に一致協力してをらるゝところで誠に目出度き一家と云ふべきであらう。

市會議長

登坂亘作氏

函館市末廣町九六
電話函館九二一番

圓熟老練なる手腕と、溫厚篤實なる人格者として衆望を荷ひ、その性來優れたる資質を發揮し縱橫なる行政手腕を謳はれてゐる登坂氏は、明治二十四年烈寒の氣を破つて孤々の聲を擧げ、次いで大正六年東京帝大英法科を卒業するや水産日本の世界雄圖に燃え、來道堤商會に入りたるも、後自らの針路を自覺し一轉して法曹界に入り辯護士となつて衆人の正しき擁護者として積極的な活躍を續けられ、大正十二年市制施行せらるゝや絶大の興望を得て市會議員となり五年に及び、其後議長となる。次いで道會議員に擧げられて行政確立に盡力するところ尠くなく、遂に代議士當選二回に及び其の謹直至廉なる人格と明快卓越せる頭腦と手腕に於いて國民の輿望を荷ひ國會の議堂に獅子吼する氏の姿こそは實に堂々たる國士であり、誠に信頼すべき偉大なる人物である。

多難なる國家運營の道に氏の達腕と該博深直なる學殖のもたらすところ實に大なるものあらん、斯くの如き偉大なる人物にこそ吾人は大いに國家經綸の道を委ね一城一國の土に繫縛するが如き愚を到すべきではなからう。

一方家庭には淑德の譽高きハル子夫人との間に幸作君を得られ家庭的に少しく寂しきところあれどその和氣靄々として常に世人の範たり、市民の深き敬仰の的たるはハル子夫人の秀れたる內助の功にして、斯くの如くして家運の發展伸張は實に夫妻の協力信愛に俟つところ大である。

市會議長三陸日々新聞社取締役

澤田權兵衛氏

釜石市
電話釜石一一四番

髮髴として壯者を凌ぐ氣慨を有し、常に私を滅して卒先公益を計り實踐に當りては熱誠を盡くして躬行する氏の如き人物は、他に例をとることは至難ではあまいか。

氏は明治四年生を享け、夙にして聰明、然も溫良なる性行は鄕黨の等しく將來を囑望するところであつた。果して氏は以來縱橫の手腕を見せ町會議員をスタートとして大正八年縣會議員を一期、更に名譽町長を二期、誠に至純高潔なる人格は克く衆の範たるのみならず、次いで唯一人の名譽町長に推され、市制施行さるゝや選ばれて議員となり、遂に市會議長、商工會議所顧問次いで太洋製氷株式會社々長、釜石活動寫眞株式會社々長を初め三陸日々新聞社取締役に就任、其の卓越せる識見と膽力は平常氏の讀書と劍道に因るところ甚だ大なるものあることを思ふべしである。然も堂々たる正論をかゝげて市政を叱咤し社會の先驅者として貢獻するところ、その功績は枚擧に遑なく、今後益々氏の手腕に俟つところ大いなるものがあるのである。

家庭には美貴夫人あり、養子右平衛門君は現に日本製鐵釜石製鐵所に勤務してをり、令閨アヤ女は東京家政女學校出身、養女智惠子孃は遠藤高女出身にて共に才媛を謳れてゐると聞く。

市會議員

佐々木太兵衛氏

釜石町錦町
電話三七、三六〇番

砲煙彈雨を冒して一死報國無念無想の大思想に徹した人間にして初めて國家の人材と云ふべく、私利を超越して公共優先、實踐躬行する快男子たり得るのである。

氏の如き實に明治二十七年海軍志願兵として勇躍、かの大戰役に參加しよく今日の大をなすべき膽と勇氣、而して信念を掴まれたのである。資性潤達にして卒先の意氣厚く近隣の名聲嘖々たる中に大正二年町會議員、昭和十二年市會議員に選任され、十五年商工會議所創立なるや推されて議員となり、產業開發、市政の確立にその偉大なる手腕を發揮し功績大なるものがある。尙ほまた氏は錦町に旅館を開設し、風光を賞でゝ來遊する世人の爲めに第一流の設備と待遇を盡くされ、一度此地に遊びし者等しく當館の親切叮寧、徹底せるサービスに感激せざるは無しと云はる。

氏は趣味として大弓を能くし、二段の腕前を有して當市に聞こえてゐる。又書畫、骨董に深い造詣を持たれ觀賞眼に一家を成すと云はれてゐる。

家庭には淑德の譽高きじゆん夫人ありてその割烹の技に到つては實に優れ、當館の特色たるサービスの徹底と相俟つて調味無類の定評あり遠路よりその美味に接せんと車を寄する者非常に多きは驚異すべきである。長女みさ子孃は仙臺第一高女を優等にて卒業後、なほ東京實踐に學び卒業後は家庭にあつて技藝生花等に沒頭し慶事近き日にして一家中和氣藹々たるものがある。

商工會議所議員

石川勘吉氏

釜石市大治町
電話四〇七、四五九番

社會道德の健全なる成長は一日も弛せにすることは出來ない。個人の道德は社會の道德に依つて批判せられる。然らば個人の健全なる成長に社會的訓練を施し得たらば如何。

刻下の變轉極まりなき世情に電信、電話の益するところ眞に大なるものがあると同樣、國民の社會一般、情緖教養の分野に於いて映畫の盡し來つた使命は實に大いなるものがあつたのである。

氏は今日錦館、港盛座、第二錦館等を經營釜石興業界に君臨し、此の映畫報國の熱意と使命の自覺に頻を熱して沒頭してゐる人である。又縣下南部、秋田縣南部、宮城縣北部に對して日活、松竹、新興、大都、各映畫會社の映畫配給權を握り市民の健全娛樂を念頭にやゝもすれば墮し易き斯界の惡風を刷新强力なるプロツクのもとに着々理想を實現されつゝあり。先年第一錦館の表二階は市民の一般

社交場として明朗なる喫茶部を設け、健全なる市民の衛生、榮養の方面にまで着眼して、營利を度外視したその方針には共鳴感激する向きも相當あり世人の輿望を荷つてゐる。

今後映畫の盡くすべき使命は實に大なるものがある氏の如き卓越せる手腕と使命の何んたるかを認識し卒先躬行する士を業界にもつことは有意義なることであり今後の發展は大いに期待されてゐる。

尙、氏は商工會議員・警防團分團長、區會長等の要席にありて盡瘁の勞力を惜しまざる偉材である。

東洋造船所主

石村物次郎氏

釜石市本濱町（海岸通）
電話四四七、五四九番

斯界に確固不動の基礎を占めて、業運隆々たるものがある東洋造船所の營業とする處は、一般造船業、材木商、土木請負業、諸機械製作であり、その製品、請負事業の確實、優秀なるは夙に定評あり世人のよく認むるところである。

氏は明治三十三年二月二十日石巻市に生を享け、資質溫良にして進取の氣風を有し、誠實なる風格は今日の大をなす所以のものであつた。東京築地工手學校造船科を優等の成績にて卒業するや石川島造船所に入り在ること六年、考ふることありて退き昭和五年當地に獨立して東洋造船所を設立するに到る。而してその卓拔せる才能と熱意は、累年商勢隆運を見、今日堂々當市の大繁華街に店を占め業界の麒麟兒と迄異名さる。今日を礎いたことは實に當市の誇りであり一偉傑である。次いで十三年材木商を始め自ら買出に從事する等卒先して範を業に垂れ製材工場を創立、又十四年より木材の輸出をなす、主に上海方面にであるが今日當市に於いて輸出する業者は唯氏一人であり、實にその時代に適應、洞察する慧眼には世人の等しく感服してゐるところである。

次いで土木請負を爲し諸機械製作所を鋭意設立中にて完成の曉きは實に素晴らしき業界の發展を來すものであり、氏の功績尠くない。遂に擧げられて岩手縣木造船工業組合專務理事の榮職に就かれて日夜斯界の爲めに奮鬪されてゐる。氏はよく世人に對して事業は又趣味であると語る。誠に事業人としての氏の面目躍如たるものがあると云ふべきである。

家庭には穗代夫人との間に目下國士館中學に在學中の長男寛藏君を初め四女あり何れも優秀なる成績を得てゐるときく。

市會議員

三浦勘之丞氏

釜石市東濱町
電話釜石三〇、三〇三番

市會議員三浦勘之丞氏は自ら處するに毅然、人に對するに靄然、而して清廉潔白、氣宇測達にして古武士の如き風格は、接する者齊しくその洋々たる大度量に敬服の念を感ずるのである。

氏は明治六年四月八日生を享け、先代の實業たる漁業並に鮮魚仲買に從事、刻苦精勵、不撓不屈の鄕土魂に燃えて、累年商務隆盛たるものがあり益々其の店礎を固め家業の伸長を圖り、今日の大を成した。蓋し偉功の士と云ふべきであらう。此ここに到りて長年の滅私衆を益するの信念は報ひられ擧げられて市會議員、次いで釜石漁業協同組合理事、釜石海產物商業組合理事、株式會社釜石魚市場取締役、大洋製氷株式會社取締役等々の重職に就かれて一意斯界の伸展向上、又市政の徹底的な明朗健全企畫に盡瘁されその功績尠からざるものがあり、當市の元老たる大存在は實以つて光彩燦然たるものである。而して今や販路は近縣は勿論遠く東京方面に及び、製造する鰹節、鯖節、〆粕等は好評嘖々たるものがあり、持船の觀喜丸三隻に滿々たる收獲はとりもなほさず氏の今日の盛大さを表示するものであらう。

妻女とくゑ夫人は國防婦人、愛國婦人支部會長等をなされ四男を擧げてゐられる　長男清治氏は警防團警護部長として活躍され、一方父君の事業を助けて事實上の營業一切に當り父君の名を傷けざる樣一意業務に專念してゐられる。夫人との間に三子を擧げられて和氣堂に滿つ。

菊池政太郎商店

菊地政太郎氏

釜石市仲濱町
電話一〇四番

世界文明の潮流は二大類列に可能である。人的にそれであり、物的にそれである。人的又は智慮の涵養向上伸展、物的には物質の新分野開拓、既成の擴充强化を主眼として社會の一歩は、より一歩前進され、發展してゆくのである。

氏こそ後者の物的文明にその半生を捧げてゐる篤行の士であり、敬服すべき人格者で、明治二十三年九月二十日生を享くるや幼にして英邁衆に優れ、長じて金物商を開業、孜々として家業に勵み、次いで諸機械製作所を設立、漁業機械の製作、內燃機關の修理、一般鑄物の製作、仕上等、實に優秀なる製品を製作され業界に於けるリーダーとして好評嘖々たるものがあり、今や從業員二十名の多きに上り、設備の一流、技術の優秀にして當製作所の特色たる重點主義は一般、特種、諸機械の複雜精巧に向ふ傾向上製作過程の單易化と納期の短縮と此の一大問題を排除して今日堂々たる世界一流水準に達せんとしてゐる。

氏は此外、釜石鐵工品工業組合理事・岩手縣內燃機關、工業組合理事等々の要職にあつて、本縣業界の先驅者、並にリーダとして今日押しても押されもせぬ信用を博し、一方高潔なる人格者として衆望を壇にしてゐる。

一方家庭には賢夫人の譽も高きはな子夫人との間に二男二女に惠れ、長女光子は花卷高女を昨年卒業、二女正子は目下釜石高女に在學中にて、長男良平さんは國民學校在學中、二男の秀夫君は兩親の許に一人寵愛をあつめてゐる。

石炭、石油販賣業

佐々木隆藏氏

八戸市小中野町
電話八戸五〇四番

常に强めて努らず、身を修め家を齊へて善々として地歩を業界に占めつゝある我が佐々木隆藏氏は、明治四十年を以つて出生したる新進の逸材であり、令名嘖々たるものがある。

現在、氏の經營する佐々木商店にては、石炭、石油の販賣、及び回漕業を以つて業となしつゝあるが、回漕業は氏の養父たる先代隆藏氏が大正四年創業したるものにして、當市同業者間の古顏であり、業績隆々たるものがある。大正十年更に石炭販賣業を興し、父君と共に努力奮鬪し着々その方面の基礎を固め、次で昭和十年石油販賣業をも加へて業運愈々大を加へて今日に及んでゐる。當市は工業地帶として最適なるものあり、順次大工場新設され、政府も工業都市としての施設を近時大々的に施行しつゝあり、工業都市八戸の一大躍進は活目して待つべきものがある。斯る狀勢下にある氏の事業は益々有望なるものにして、氏の堅實なる營業方針は卓越せる手腕と相俟つて愈々隆盛を極め、業界の信望も鶴く、八戸水上小運送業の海運組合が先年十二月創業されるや理事に擧げられ、尙青森縣石炭統制組合理事にも推され、業界の刷新向上、同業者の共同福利等に盡瘁、寄與する處甚大なるものがある。氏は亦八戸海運取締役等として活躍してゐる。因みに昭和八年父君の逝去後前名五平を改めて二代目隆藏を襲名した。

本門佛立講根本道場
法華宗　本山

宥清寺

京都市上京區北野下の森市電停留場前

當山は舊名本門寺と云ふ。延慶元年―德治三年（皇紀一九六八年日蓮上人滅後二十七年）四月八日、京洛二條、藤原青柳定家卿の舊邸に於て、蓮師中老越後阿闍梨日辨上人の開く處、依りて山號を青柳山と號す。草創後二百五十八年應仁の亂を避けて丹波龜山（現在の龜岡）に移る。在る事百九年、天正四年再び京洛近衛通新在家に戻り、此處に在る事十二年、後同天正十四年上京區妙顯寺前下る小川挽木町に移り。在る事百八年、元祿七年の頃、上京北野御前通下の森下る宥清寺、元天台宗の寺院を買得して青柳山宥清寺と號す。此地に在る事二百四十六年、昭和十四年大本堂等竣工現在の地に移轉す。

而して本年（昭和十六年）三月廿八日、日蓮教團下勝劣派に屬せる法華、本門法華、本妙法華の三宗合同成立して、新に法華宗の誕生せし劃期的機運に際會し、舊本門法華宗妙蓮寺末より分離して新に獨立の本山と成る。時に門末寺院二十五ケ寺隣所屬教會百四十五餘、其教線日本本土より朝鮮、臺灣、樺太、南洋、滿洲、中華民國、南米に及び信徒の數八十萬を數ふ。安政四年先きの長松清風後の日扇大僧正の開發にかゝる本門佛立講系の總本部總本山根本道場たり。

現貫第四十一世大僧正西村日淳、本山法務總長僧正御牧日宥、本山內局總長僧正野原日消、同總務長（講長）小森市太郎、同副長（副講長）長井明見の諸師あり。

本尊、法華經本門の寶塔、釋迦牟尼佛多寶如來、上行菩薩等の本化の四菩薩外諸尊及び蓮師自開眼一本三體の一靈像祕佛等を安置す。中央大寶塔の題目は蓮師の直筆にして、祕佛祖師像並に安置の諸尊何れも蓮師中老和泉阿闍梨日法上人の御作蓮師の御開眼たり。大本堂內に佛立講祖日扇大僧正の木座像境內に其立像あり。

當門末の特異とする處、唱題受持の一行を專修し敢へて讀誦を要とせず。法話說教亦つとめて簡易化を貴び、殊に和國陀羅尼たる和歌教歌を資題として、五分說法十分法話を以て譽りとす。僧俗一體、國家奉公、社會奉仕、菩薩行の實踐を所詮とす。云く、信心宗、無智宗、口唱宗、題目宗、現證宗、易修易行宗、事相宗、折伏宗、下種宗也と。

講祖日扇大僧正の遺せる教歌數千に及ぶ。中二三を左に紹介せば

一文明の御代に叶へる本門の佛立講は開化第一』

『本尊は我等の心常々に磨けば光り增す鏡なり』

『死にかはり生れかはりて此娑婆に修行するこそ菩薩なりけり』

『己が身を祈る事かと思ひしに人を助くる夫れが信心』

『兎に角に人を助けて置されば生れて來る甲斐はあらじな』

『歌よみに聞す歌ではこと狹しあほの耳にも入り易くよめ』

『歌よまば人の教になる事を聞き易くこそいはまほしけれ』

『歌にして教へておけばいつまでも御法門をば忘れざりけり』

日本畫家

小野竹喬氏

京都市上京區

一億一心、國を擧げて興亞の大業に邁進せんとするの秋、獨り藝術部門のみが所謂象牙の塔に立籠つて孤立の態度を持し、滔々たる時流の外に超然たることの許されざるは勿論であらう。否、かゝる時代に於てこそ藝術はその獨自の光芒を發揮して萬邦無比の日本精神を中外に輝かせ、八紘一宇の大理想に向つて進みに進む大行進の榮ある旗手たる使命を完ふすべきである。

あらゆる文化活動に日本精神への復古が要求され、古典の再吟味が叫ばれてゐる今日、その傳統の誇にかけて日本畫壇の責務も亦重しとせねばならない。この秋に當つて一本の彩管よく至難を極めた時流に棹さし、然も阿ねず、偏せず、畫筆報國を固く誓ふ京都畫壇の雄小野竹喬氏の如きは、正にわが藝術界の誇とも稱すべきであらう。

氏は明治二十二年岡山縣に生を享け、幼少の頃より畫筆に親んだが、その豊かな天稟の才は忽ち近隣に鳴り響き、天晴れ天才の名を謳はれたと言はれる。長ずるに及んで梅檀はその香りいよ／＼高く、第一流の畫人たらんとする烈々たる志望は遂に氏をして笈を負ふて京都なる竹內栖鳳畫伯の門をたゝき、入門を許されるに至らしめた。時に明治三十六年、年齒僅に十五歲であつた。爾來數年、持つて生れた勝れたる天分は、孜々として倦むことを知らざる研鑽努力と相俟つて見事に結實し、次いで京都繪畫專門學校を卒へる頃にはめき／＼とその頭角を現して一躍有望なる新進畫家としてその多幸なる前途と、華かな未來を囑望せらるゝに至つた。大正七年、土田麥僊氏と相結んで共に文展より獨立して國展を創立、この頃より氏の活動は益々目覺ましく、自らその主宰者として同志、後輩を相率ひ、時の畫壇に一脈清新の息吹を吹込んだ功績は普く世人の知るところでもある。この爲氏の聲名愈々高く、その藝術も亦一段と磨きをかけられたが、尙自ら足れりとせず、精進に次ぐ精進の必死の努力が續けられたことは、氏の畫業の跡が何よりも雄辯に之を物語つてゐる。

氏は現代日本畫壇の二つの主流、即ち印象流なるものと、その然らざるものとを合せて渾然一體の玄妙深遠なる境地にまで統一せんものと念願し、その困難な仕事の爲に全力が注がれたのであつた。又ともすれば日本畫が現代生活より遊離し、大衆の實社會からは極めて緣遠いものとなりつゝある現狀に慊らず、時流便乘の卑俗性は之を問題外として、よくその時代の特徵を生かし、その時代意識を失ふことなく、要するに時代に卽し、世紀に深く根をおろしたるものにして、尙藝術の永遠性をも兼備へたる畫境を切り拓くべき決意を固めたのである。人一倍傳統を重んずる日本畫壇にあつて、氏の如きは最も進步的な畫伯として推賞するに足る一人であらう。麥僊氏逝きて既に數年、この盟友を失つて爲に氏等の新運動も多少寂寥の感なきに非ざるも、然も尙年來の熱情を棄てず、不拔の信念をもつて自己の道に邁進しつゝあるはまことに偉とせねばならぬ。

氏は嘗て若かりし頃歐洲に遊學せしこともあり、又畫業に專心する傍らその趣味至つて廣く、就中俳句、觀劇は有名である。家庭にあつては賢夫人トラヨ夫人との間に長男壽男君（京都繪畫專門學校在學）悅子孃あり、共に鳳雛として喧傳されて居る。

八戸合同運送株式會社

八戸市八戸驛前

鐵道省が運輸事業の統制上、全國的に各運送店の併合を企畫した當時、八戸市にも斯業に從事するもの十三軒を數へてゐた。昭和二年三月、各運送店が傳統を棄て、店內事情の相違あるにも拘らず、大乘的見地に立つて創立したのが八戸合同運送株式會社である。本店は八戸驛前に設け、出張所を同市三日町に置き、日本一の漁業都市たると共に、近時工業部門の逞しい躍進を見せてゐる八戸市に集散する貨物の運輸に活躍して、隆々たる業勢を誇示してゐる。同社の重役陣容は、取締役社長接待座雄、取締役高橋吉太郎、同岩崎恒哉、同金澤慶藏、阿部眞之助、角谷信治、監査役三井武三郎、西村重三郎、小笠原幸一、支配人大矢定次郎の諸氏にして、何れも八戸市會議員、八戸商工會議所議員等の公職に在りて、當年產業界の第一線に奮鬪してゐる有爲の人材を網羅してゐる。殊に同社は海陸の運輸一切を取扱ふ爲に顧客の範圍が非常に廣く、八戸市の興隆發展に卽應して輸送報國に邁進しつゝある同社の前途は實に洋々たるものがある。殊に接待社長は明治十五年八月、青森縣接待源藏氏の長男として生れ、天賦の穎才を發揮して事業界に成功し、現在は八戸市會に於ける長老である。又八戸木炭（株）、

旭商會（株）の社長を兼ね、八戸倉庫（株）、八戸土地證券（株）の取締役等に就任し、當市實業界の重鎭として、其の才幹手腕を謳はれ　又一面、圓熟悟道の人格は、聲望を四隣に高め、同社の運營と共の發展躍進に寄與する處大なるものがある。

八戸醫師會

八戸市番町加藤醫院内

八戸醫師會は昭和四年八戸市が市制を施行すると同時に青森縣三戸郡醫師會より分離して獨立したもので、現在會員は四十八名を擁してゐる。本醫師會の事業としては三戸郡醫師會當時より引續き産婆、看護婦の養成所を經營してゐる。同養成所は一ヶ年制度なるを以て、毎年約五十名の産婆看護婦を新に世に送つてゐる。

同醫師會の役員は會長室岡榮三、副會長加藤勝雄、理事及川恒廣、同千葉乾、評議員村井善藏、同藤田愛次郎、同種市精一の諸氏で、當地方に於ける刀圭界の權威、斯界の蘊奥を究めし達識の士、隆々たる聲望家等を網羅してゐる。今や八戸市は漁業を中心に各種産業の興隆日を逐ふて旺盛を極め、市民厚生上の諸施設も研究實現せられ、人口激增に伴ふて衛生保健の道も講ぜられ、同醫師會の負荷する使命も愈々重きを加へつゝある。かかる情勢下にあつて、全會員協心戮力、渾然一體となつて、銃後の職域奉公に至誠を捧げて努力してゐる。

就中會長室岡榮三氏は明治六年四月岩手縣に生れ、明治三十四年慈惠醫學校を卒業、同三十五年以來八戸市に開業し、同市刀圭界の最長老にして、溫厚高德の人格者、後身醫師達が慈父の如く尊敬してゐる。副會長加藤勝雄氏亦篤學の君子人、室岡會長を輔佐して事實上醫師會の事業を總攬し、事務所も自家を提供して些の私心を持たず、只管同會の爲、公共の爲に盡瘁してゐる。

造船業

清水初五郎氏

八戸市湊町下條

清水家は先々代三郎氏が明治初年頃に造船業を創め、先代石松氏を經て現在に至り、恰も八戸市に於ける漁業の進展史を物語るかのやうに、清水造船所の發展も明治時代の手押式の小型船より大正二三年頃の機械船製造と進んで來た。現在は市内三ヶ所に造船所を所し、機械船となりし初期（大正二三年頃）より昭和十五年十一月迄に百九十八隻の機械船を造り、恐らく全國第一位の業績を示すものとして名聲を謳ぐ。何分日本一を誇る漁業の旺盛た八戸市のことであるから、今後の隆昌發展は驚異に値するものがある。

しかも清水造船所には從業員五十名の中、勤續者多く、昭和十二年頃八戸警察署が市内各工場の二十年以上の勤續者表彰をした時、光榮に浴せる全員七名を數へた内に、五名が清水造船所の從業員であつたのである。之は先代より一貫して溫情主義を以て從業員に對すると同時に技術の錬達に依り極めて優遇する爲である。斯くの如く多くの熟練工を擁するを以て同造船所製造の新船は五十噸級より六十噸級を普通とし、最大能力のものは百三十噸を超えるものも造船してゐる。發注先は青森函館札幌釧路方面の事業會社が多く、勿論地元の注文は枚擧に遑なき程である。氏は明治十八年先代石松氏の長男として生誕し、天稟の智略縱横と絶倫なる精力とを以て、努力奮闘し、又事業經營の手腕も非凡である。昭和十二年創立の八戸造船工業組合專務理事の樞椅に就き、斯業の躍進に身を挺して活躍してゐる。さん夫人との間に二男三女ありて一家清福にして和氣藹然としてゐる。

株式會社

八戸銀行

八戸市三日町

八戸銀行は階上銀行、泉山銀行、八戸商業銀行、五戸銀行が合併し、資本金貳百五拾萬圓を以て昭和三年四月創立せられたものである。本店を八戸市三日町に構へ、支店は市内に二ヶ所縣内に八ヶ所を設け、縣下金融界の一大推進力と成り、産業進展に貢獻するところ多大たものがある。

曾て經濟界の變動に依り、滯貨金多額に上り、經營難に陷つた事もあつたが、現重役始め支配人の努力に依り、遂に難關を突破して漸次銷却して順調に復し、昭和十五年上半期に於て利益金中より五萬六千五百圓の滯貨金を銷却し、更に後半期に於て全額を銷却、愈々十六年前期に於ては配當金も可能の業績を擧ぐるの成果を收めるに至つた。

同行の重役陣は取締役頭取苫米地義三、專務取締役星川健之助、取締役中村秀三、同廣澤朝平、同小原平右衛門、同三浦善藏、監査役石橋要吉、同檜崎良寛、支配人古川廣淳の諸氏で、青森縣下の斯界に於ける驍將闘將を網羅してゐる。苫米地頭取は昭和十四年浦山助太郎氏に代りて就任した全國的に令名嘖々たる巨材で、新に東北興業株式會社副總裁に推され、八戸商工會議所顧問をも兼ねてゐる。專務理事星川氏は市會議員中の穎才俊秀を以て鳴る才幹の人材で、精勵恪勤の俊髦たる古川支配人と共に粉骨碎身、克く同行の運命を打開し、希望の曙光を仰ぎ、今や八戸市各種産業の隆興に隨伴して業績昂揚、躍進の一途を辿るに至らしめし、殊勳者と謂ふも過褒ではない。

漁業

佐々木喜右衛門氏

八戸市白銀本町

佐々木氏も祖先以來、連綿として喜右衛門を襲名し、全實丸三隻を所有し、アグリ網一統の漁業に從事してゐる。而も鰯は自家漁獲のものをメ粕として製造し、祖先以來代々の當主が汗と脂の努力で築いた家業は磐石の礎を据え、殊に町内の爲に盡瘁せる積善の餘慶は同家を愈々繁榮せしめて、今や八戸市第一流の漁業家として聲望並びなき勢にある。

氏は明治十一年、先代喜右衛門氏の長男として生誕し、天賦の怜悧と人一倍の努力奮闘が、業績を昂揚させ、又生れながらの人徳は衆望を擔ふて白銀二十ケ町内會の聯合會長に推された。元來八戸市は十年以前から町内會が組織せられ、自治の模範と謳はれた處で、白銀町も二十ケ所の町内會が出來てゐた。昭和十五年一月より白銀二十ケ町内會を新に白銀區と改め、氏は聯合會長を共僅つゞけて白銀區長となり、町内の事業となれば何事を措いても相談に應じてゐる。又先代より引續いて前濱白銀漁業組合長にも就任して努力し、今は他に讓つて八戸市水産會副會長、白銀火防衛生聯合會長、東海鰮揚繰網漁業組合評議員、三島神社氏子總代等幾多の公職に推薦せられ骨身を惜しまず、東奔西走席の暖たまる閑なき活躍をつゞけてゐる。筦に氏の如きは八戸

市に於ける有能達識の巨材としての存在をり、老來益々矍鑠として壯者を凌ぐ意氣に燃え、地方自治の問題から事業界全般に渉りて、其の盡瘁貢獻する處は多大なるものがある。

高崎鐵工所

高崎甚太郎氏

八戸市小中野町南横町

高崎鐵工所は船舶發動機、化學工業機械製作修理、汽機關、砲金鑄物各種、製罐工事、各種工事設計請負、電氣及酸素熔接、其他一般を營業種目とし、製罐工場を同市小中野横町に設け機械工場は同市湊町に置く。經營者高崎甚太郎氏は福島縣平市九丁目の平市鐵工所の八戸出張所主任として多年敏腕を揮ひ、其の技術優秀と旺盛なる意氣とが、業界各方面の信頼を博し、昭和十一年機熟して獨立創業の運びと成つた。爾來氏は孜々營々、堅實なる歩みを續けて業勢を擴張し、盤城セメント會社、日本化學工業株式會社等の確實なる得意先を獲得し、受注山積するの盛況を呈するに到つた。今や高崎鐵工所の偉容は同市業界驚異の的となり、兩工場共稀有の發展を見るに到つた。高崎甚太郎氏は福島縣の出身で明治三十年生れ、天賦の豪快兒で斗酒尚な辭せずの方であるが、而し己が天職に對して非常に責任觀念の強い人である。從つて技も勝れ、信用も增し八戸鐵工機械工業組合監事、町内會幹事、群長等に推されてゐる。

市會議員・漁業業

上野千太郎氏

八戸市金濱

上野家は當地方に於ける漁業の草分とも云ふべき素封家で、既に六代前の上野孫之丞氏に依つて漁業が創められ、爾來代々此の孫之丞を襲名して先代に至る。漁業の先覺者たる祖先は、日本固有の漁船に依り、或は時化に遭ひ、激浪と闘ひ、千辛萬苦の幾星霜を經て、業勢の昂揚に努め、現主千太郎氏に及んで、朝日丸を所有し、アグリ網一統（一統は船三隻）を運營するの盛況を誇示してゐる。

氏は明治十六年先代孫之丞氏の長男に生れ、家督を襲ぎて鋭意漁業に專念し、時代に即應せる漁船の設備、漁獲の方法等に傳統を誇る秘技と新研究とを以て、斯界の尖端を切り、着々成果を收めて今日の大を成し、祖先の名を辱めない程の隆昌發展を遂げたのである。氏は元の鮫村時代より村會議員を數期勤め、引續き市會議員に當選し、之れ亦二期に及ぶ。

尤も先代孫之丞氏は福德圓滿の磐望家で村會議員を勤めた。即ち父子相傳へて地方自治に身を挺して盡瘁し、幾多の功勞を積み、氏は更に金濱漁業組合の理事を始め、八戸市水產會評議員八戸市農會評議員等には推され、玲瓏玉の如き人格と、その才幹識見政治的手腕とを信頼せられ、今や八戸市に於ける人材として聲名嘖々たるものがある。殊に漁業組合は先代が育ての親にして之れ亦父子相傳の理事で氏は二十餘年間も勤續し、斯業の向上發展に寄與する處多く、赫々たる偉功を樹てゝゐる。

田村鐵工所

三浦榮次郎氏

八戸市十一日町

三浦氏は明治二十六年四月の生れ、少年時代から八戸市宮本鐵工所に入り、農具煎餅型製造を修得し、更に田村鐵工所に轉じて、技を研き、刻苦精勵の上、大正初年に於て獨立して現鐵工所を創む。建築用鐵骨、和洋錨、船舶及土藏の鐵扉、鐵塔等八戸市の興隆に即應すべき諸製品製作に努力せる爲、忽ちにして江湖の絶讃を博し、業績隆々として、斯界を制壓し、機構設備も擴大强化して、鍛工製罐所の如きは市内隨一を謳はるゝに至つた。

氏は少年時代より世の辛酸を嘗め盡した人だけに、情誼の篤き親分肌を有し、又仕事に熱心な事は多年斯道に苦勞し而も不斷の研鑽を積んだ爲に並ぶ者がない。且つ三十年に及ぶ尊き體驗は優秀なる技術を誇るに至つた。大正十年總工費參百萬圓を以て施行された八戸港第一期工事を靑森の角弘、函館の小林兩氏と請負ひ、七八年の長期に渉つて完成竣工を見た時は、氏の技術優秀が燦然なる輝きを放つた。又省線鐵道十數ケ所の鐵橋の架替工事、其他市内各學校建築の鐵骨等、氏の偉業は何れも不滅を物語つてゐる。昭和十六年二月より八戸鐵工機械工業組合理事に推され、又翼には消防組頭、警防團消防部長等にも就任し、公共の爲にも努力してゐる。

家庭にはサキ夫人との仲に二男五女がある。長男賢策氏は將來有爲の人材、長女百合子さんは同鐵工所の至寶高砂善男氏に嫁し、令妹富美子さんと共に洋裁研究所を開設して好評を博してゐる。何れも八戸高女及び洋裁學校卒業の才媛である。

旅館料理業

石田多吉氏

八戸市鮫町

八戸市鮫町は築港も廣大なる埋立地も共に完成し、貨物船、漁船の出入殷賑を告げてゐる。殊に日本一を誇る八戸魚市場を始め、水產會社、皮革（魚皮）會社、製氷冷藏倉庫、等漁業關係の會社工場が軒を並べて活況を呈してゐる。此の繁榮の鮫町に旅館兼料理の石田家は八戸市中屈指のもので、鮫と謂へば石田家を想ふ程に有名である。數寄を凝らせる庭園と、粹を盡した客室とは、先づ來る人々をして落ち着かせ、到れり盡せり痒い處へ手の屆くやうな女中の懇切丁寧なサービス振りも滿點である。加ふるに料理は鮫浦より獲りたての新鮮な魚類と、傳統の譽れをかけた板前の腕の冴えは、美味掬すべきものがある。

茶前酒後、欄によりて銀波燦めく海上を見渡せば、天然記念物に指定せられてゐる「うみねこ」の棲息する蕪島が浮んでゐる。早春より初夏にかけて、此の蕪島には數萬のうみねこが、翼を伸ばして飛んでゐる。其の壯觀も亦石田家の誇りである。經營者石田多吉氏は鮫三業組合長、八戸商工會議所議員等に推されてゐる人材、總て顧客本位に營業し、石田家の名聲を永遠に殘さんと努力してゐる。

歷史を有する古い漁港が時代の潮に乘つて文化の息吹きに、限りない躍進を見せてゐる八戸市の狀勢を深く認識してゐる石田氏は、家業の旅館、料理をして、單に一私人の營業とは想はず、眞に市勢發展の上にも反映すべく懸命の努力を盡し、更に又業界の向上發達にも大童となつて活躍してゐる。

旅館料理

橋本館

八戸市鮫町

限り無い希望を抱いて遠き漁場を目指して錨を揚げる出船の勇ましい姿も、遠征の目的を達して凱歌を奏して歸る入船も八戸市鮫港を點綴する賴母しい風景である。勿論生氣潑剌たる魚市場の盛觀、漁獲物の仕末をする會社工場、全くの處鮫港は水產都市を象徵する海國日本の縮圖を觀るが如き殷賑振りを呈してゐる。此の地に旅館料理の橋本家は、石田家と共に八戸市の斯業に於ける双璧と謳はれてゐる。

一日の激務に疲れた旅の人が靜かに憩ふて、明日への飛躍に備ふ爲には、閑雅の客室が待つてゐる。山海の珍味が、氣のきいた女中によつて運ばれる。眼界は遠く怒濤逆卷く靑海原に海國男子が操る漁船の勇姿を望み、八甲田の峻嶺は諸山を率ひて嚴然と聳へてゐる。磯の香も懷かしく東海の白濱に文字かく詩人の情緒も想ひやられて、日本一を誇る鮫港の活氣充滿する現實と、遙かに高踏の一路を示す夢の世界とを見せるのが橋本館の客室である。愛嬌のある女中は深切に何彼と細かい處までも心を配り、泊り客をして我家にあるかのやうに覺えしめる。石田家同樣、總ての調度品も新鮮で淸々しく、流石は鮫の橋本館と讃えられる程に萬事行き屆いてゐる。此處の主人も三業組合の役員として聲望を高め、卓越せる手腕を發揮して斯業の爲に活躍してゐる。殊に橋本館も鮫港の現狀に呼應し、古きを護ると共に新時代にも對處して公益優先、職域奉公の誠意を示さんと主人始め全家を擧げて將來の飛躍に努めてゐる。

島脇造船所

島脇精造氏

八戸市鮫幸町

本邦屈指の漁業地、八戸市は鰹、鰯、鮪等の漁業盛にして、遠洋漁業を志す人々も年々激增の趨勢を示し、その爲漁船及貨物船等の木造船の工場は東北第一の殷賑繁榮を極め、驚異的躍進振を見せて居る。同市鮫町島脇精造氏の經營する島脇造船所は全市小中野町に工場を有し、時局以來の船腹不足と漁船新造傾向とに依り、目覺ましき業況を呈してゐる。

島脇家は父祖三代に亙る造船業者で現主島脇精造氏が大正十二年十二月、本格的に島脇造船所を創業して以來、設備の完璧を期すると共に技術の研究、船材の選擇等、微細の點に到る迄苦心努力して、遂に今日の大を成すに到つた。斯くて島脇造船所に於ては續々と優秀性能を具備する漁船、貨物船の新造を見せ各地漁業家の絶讃を博し、二十年間に受注竣工せる新造船は驚くべき多數に上つてゐる。斯くて島脇造船所の聲名は同市を中心として近縣に響き、好評嘖々たるものがある。

現經營主島脇精造氏は明治二十一年生の五十六歲、流石に祖父の時代より造船事業に着手して來た程あつて、其の優秀なる技術と造船に關する專門的研究に於ては頗る造詣深く如何なる新造船の發注に接しても、直に設計通りに之を完成し、其の期限の正確と、堅牢無比の船體と、而も快速自由にして、漁船貨物船の規格を嚴守せる處は他の追隨を許さざるものがある。是れ皆氏が眞摯誠實の人格卓越せる手腕の反映にして、斯業界に於ける信望は絶大なるものである。氏は現在八戸市木造船工業組合理事、鮫幸町々内會長、同納稅組合長の公職にありて公共の爲にも盡瘁し

てゐる。

長谷川藤次郎商店

長谷川勝之輔氏

八戸市湊町

長谷川家は伊勢の素封家で、現主勝之輔氏の祖父迄は代々庄屋を勤めた由緒ある家柄である。先代藤次郎氏は雄圖を抱いて上京し、三井物産の綿絲部に勤務し、明治二十七年頃青森縣の漁業に目をつけ、八戸地方に於て鰯のアグリ網を始めた。從來此のアグリ網は全部麻絲を使用してゐたが、三井物産に居た頃綿絲の取扱に貴重な經驗を有せる處から、氏は綿絲網を發明し、遂に漁業界を風靡して今日の如き精巧なる綿絲網を遺つた。爾來氏は漁業界に雄飛して一方の覇者となり、更に明治三十年頃より魚肥の仲買業を創始し、長谷川藤次郎商店の業礎を築き、之れ亦漁業と共に素晴らしい業勢を示した。氏は湊町々會等の公職にも就き、八戸漁業界は勿論地方自治の爲にも盡瘁する處大なるものがあつた。明治三十八年、氏は産業界に盡瘁せる功に依り綠綬褒章下賜の光榮に浴した。現主勝之輔氏は明治四十年先代の長男とし生れ、家業は母堂イチ子刀自と從兄にて支配人の長谷川貞三氏に託し、自身は東京に本社を有し、水戸に工場を置くタービン工業を創業し時局の波に乘つて盛運を續けてゐる。家業は昭和十四年から漁業を廢し、魚肥の仲買を專門とし、之れ亦增産に拍車をかけつゝあり農業の重要部門を成すもので、業績顯著にして多忙を極めてゐる。母堂イチ刀自は流石に先代を輔佐して家運を拓いた女丈夫だけあつて、現主を工業界に送ると共に留守一切を引受けて之を統率し、更に愛婦青森縣支部評議員、八戸聯合分會副町、湊分會長等に推され、銃後の公共事業に身を挺して奉公してゐる。

日魯漁業株式會社

取締役社長　平塚常次郎氏
專務取締役　三宅發士郎氏
常務取締役　小山　源吾氏
同　堤　清治郎氏
同　近江政太郎氏

函館市眞砂町
電話代表三四〇〇番

現下の如き國家非常時たる我が國に於いては、あらゆる産業機構が打つて一丸となり、眞の協力一致の下に、政府當局の指示する國策に順應して、之れに歩調を合せてこの未曾有の國難突破に邁往すべきであることは、敢えて玆に喋々するまでもない。

斯くして我が産業日本の一環に聯らなるものは、都鄙を問はず、其の新舊を論ぜず、又其の規模の大小に拘泥することなく、均しく國家國民の安定を確保せんがために高度國防國家の建設に最善の努力を致すの要がある。從つて諸産業に對して政府は統制を強化し、只管國力の培養に努めつゝあるのであり、この聖戰遂行には單に政府當局にのみに依存すべきではなく、民間産業陣に於いても之れに協力し、其の職分に應じて奉公の至誠を披瀝しなければならぬ。

玆に擧ぐる日魯漁業株式會社の如きも其の好き例の一つである。即ち社長以下擧社獻身、烈々たる水産報國の精神に燃えて滅私奉公の實を擧げつゝある。之れ社首腦部に相次いで有識有能の士を網羅し水産日本の確立を目標として至誠至勤を披瀝するにある。現在の重役陣容は取締役社長として平塚常次郎氏を擧げ、專務取締役に三宅發士郎氏があり、常務取締役には小山源吾、堤清治郎、近江政太郎の諸氏があり、孰れも時局認識に目覺めた逸材にして、よく業を以て高度國防國家建設の一翼たらんと希求して精進を累ねてゐる。かくて水産日本の凱歌は實に當社によつて高らかに擧げられるのである。

株式會社

青森造船鐵工所

專務取締役　田沼　敬造氏
取締役　吹田銓三郎氏
同　小館　貞一氏
同　鈴木　武氏
支配人　谷國悅氏

青森市蜆貝町
電話青森二七八二、二八五三

今や我が國は、對支聖戰か愈々最後的段階に移行すると共に、大東亞共榮圏の確立の巨歩を印しつゝあり、所謂一億一心、擧國一致の體制下に於いて國策に順應して生産能力の强化に努め、强靱なる國力を擁して鋭意之れが達成に邁往すべきである。かゝる見地よりして株式會社青森造船鐵工所の事業を點檢するに、極めて國策の示すところに順應して、戰時體制下にある我が國軍需工業の一部門として活躍し、國家に貢獻するところ甚だ尠なくないものがある。

即ち造船部にありては新船建造並に修繕、鐵工部にありては陸海軍御用、船舶鐵道鑛山用諸機械製作、更らに販賣部にありては船舶鐵道鑛山用機械、工具、塗料工業用酸素瓦斯及び熔接器具一式等を業として隆々たる業績を齎らしつゝあるは、其の主宰者が協力の下に産業報國の觀念に燃えて滅私奉公の赤誠を披瀝してゐることに因る。

抑々當社は大正七年第一次歐洲大戰末期にありて小倉十兵衛、小館保治郎、磯野進の諸氏の主唱に依りて設立されたものに端を發し大正七年十二月五日創立、同八年五月營業を開始するに至つた。而して初代社長には小館保治郎氏、二代社長には鈴木友吉氏、三代社長は石館喜久造氏が列し、相次いで努力精進、殊に歐洲大戰終熄後に於ける財界の變動には歴代社長はじめ重役、社員一同相當の苦闘を致し、着々として不動の地位を築き、今日の大を招來したものである。

昭和三年以來、造船部、鐵工部は主任者の請負制度を採用し來つたが、昭和四年度限り右を廢し同時に内工場の增改築をなし、機械設備も從來に倍加し、加へて優秀なる從業員を擁し陣容内外共に一新するに至り、翌十五年五月、縣下に於ける優良模範工場として縣知事より表彰狀を授けられてゐる。以つて當工場の内外の整備されてゐることを窺へる。

現在にては社長を缺員とし、專務取締役田沼敬造氏が氏を代表し、統率に卓拔なる手腕を發揮し、取締役には吹田銓三郎、小館貞一、鈴木武の諸氏が列してをり、監査役として竹中喜一郎、伊東善五郎の兩氏があり、更らに支配人の要席に谷國悅氏があるが、氏はよく田沼專務はじめ重役諸氏を扶けて内外の業一切を處理しつゝあり、其の高邁なる識見と高潔なる人格、更らに縱横無碍なる卓腕とは衆の均しく認むるところにして、同社の業運進展の上に大なる貢獻をなすものである。

尙ほ同社は青工産業報國會を設立し皇國産業人たるの使命を完ふせんことを期し、又青森造船防護團を設置して、燦たる社旗の下に團員一同、眞劍に一旦有事に際し即應萬遺憾なき樣に努めつゝある。

洵に戰時體制下にありて生産力擴充のために擧社獻身、眞摯熱誠を傾注しつゝあるは偉とするに足る。

株式會社

西村造船所

函館市西濱町一番地
電話函館九九七番

今や我が國は精神的にも、物質的にも凡べての國家總力を動員して、聖戰遂行の大目的に向つて努力してゐる。産業人たるものは先づ何よりも自己の職責社會的分野等に十二分の理解を有ち、それが國力の總和となることを能く認識することが何よりも先決問題であらう。

世の中には資本の巨額を誇る會社は多いに違ひない又組織の强固を誇るものも決して尠なくないであらう。然しながら叙上の如き眞に自己の天分、職責が國家總力の一環であることを理解認識して、會社經營に臨んでゐる事業家は、恐らく指を屈するに足らないと思はれる。

玆に擧げる株式會社西村船造所の如きは、社長はじめ重役諸氏に其の人を得たところの最も適正なる時局認識の上に立つものであると云ふを妨げない。

抑々當造船所は明治四十三年の交、早くも創業されてをり、其後業運の進展と共に組織を株式會社に改め、諸機構を整備して益々好調を堅持しつゝある。新造船並に修繕を營業としてゐるが、其の技術の卓拔なるは斯界に定評があり、名聲嘖々として喧傳されてゐる。

之れ、社首腦部に有識有能の士を網羅し産業立國、技術報國の精神を抱きて營業に技術に間然するところなきに因由してゐる。實に同社の如き戰時體制下にありて生産力擴充の一助たるべき眞摯の努力を捧げてゐるものと云へやう。

株式會社 眞砂造船所

函館市眞砂町五番地
電話五二三二番

現下の如き國家の非常時にありては、あらゆる産業機構が打つて一丸となり、眞の協力一致をなして政府當局の指示するところの國策に順應して之れに歩調を合せ、未曾有の國難を突破し克服しなければならぬ。斯くして我が銃後産業陣の一翼に列らなるものは、其の大小を論ずることなく、又た新舊を問はず、均しく高度國防國家の建設に孜々として邁進、出來得る限り最善の努力を捧げることが急務である。

玆に擧げる株式會社眞砂造船所の創立されたのは昭和十四年九月にして、未だ年處を閲みせずと雖も、社長以下の眞摯なる至誠至勤は能く銃後産業陣の一翼として素晴しい活躍をなし、業績又た隆々たるものがある。

其の營業とするところは各種船舶の新造並に修繕、上架工事一式でであるが、技術の優秀なることは疾くも斯界に謳はれ、鐵道省はじめ、漁業會社方面より絶大の支持を受けつゝあり、今や其の地位は嚴たるものがある。

現在の中樞的人材は社長として渡邊熊藏氏があり、内外の一切を統率して間然するところがなく、更らに氏を輔くるに營業部長小杉庄作氏がありて、卓腕を縱横に發揮しつゝある。兩者の渾然一丸となりての努力は益々社の前途を洋々ならしめてゐる。

木島松藏氏

函館市大町十六番地
電話一一一三番

爲せば何事も成ると云ふ言葉は幾度も訓へられた言葉であり、或ひは今日の社會に於いては爲すとも成らぬことないと限らぬ。然し要は今日の社會と雖も爲すことが第一の條件である。それも單なる「爲す」ではなく周到なる思慮と他に倍する努力と至誠を以てしなければならぬ。

商業は平和の戰ひであると云はれるが我等の生活は常に戰ひである。殊に今日の如き凡ゆる階層が飽和狀態に達してゐる時代に於ては、單なる「爲す」のみでは勝利者——即ち成功者たり得るは至難である。今日成功者たり得るのは異常なる努力を要し、又周到なる思慮を要するが、玆に其の好き例の人として木島松藏氏を擧げ得られる。

即ち氏は當函館市に於て手廣く漁網、漁具並に製網業を經營し業運隆々たるものがあり、斷然斯界に雄飛しつゝあるのみならず、商工會議所議員に推されること三期、更に市會議員に擧げられること三期、高邁なる識見と崇高なる人格を以て商工業の發展に或は市政の向上刷新に大なる努力を傾注してゐる偉材である。因みに氏は新潟縣の人、明治十年二月の出生。家庭にはハツ夫人ありて貞節高く、三男六女を儲けてゐる。

京都電燈株式會社

京都市

斬新的多角經營の下に斐然關西電氣事業界に覇を唱ふるもの、即ち我が京都電燈株式會社の存在たるや偉且つ大と云ふべく、其の多年に亙りて關係地方の交通、文化、産業上に貢獻せる功績も永代不滅なるは論を俟たない。

抑も當社の營業目的とする所は一、電燈、電力、電熱の供給事業及び電氣鐵道、架空索道、自動車に依る一般運輸事業並に其の附帶事業、二、電氣機械器具の製造、販賣、賃貸、電氣工事の設計、請負及び其の附帶事業、三、電氣化學工業品の製造販賣、四、當會社と同種事業に對する投資、其他前各號の事業經營上必要と認むる投資等の多岐多端に亙り、京都市に本社を置く外、大津市及び福井市に支社を設けて、京都府下の四市十六郡、兵庫縣下の七郡、福井縣下の二市十郡、滋賀縣下の一市六郡に夫々電燈電力、電熱を供給し、更に越前、嵐山及び叡山等の電鐵諸設備を有して、首腦部を始め全從業員一致協力、公益事業の重大使命を意に體して職分奉公の實を擧げるところ、業績益々昂揚の一途を辿りつゝある。而して第百六回（昭和十五年第二期）事業報告書に依れば、該期の總收入は壹千五百貳拾壹萬參百貳圓餘、總支出は壹千百九拾五萬六千六百八拾壹圓餘にして、差引純利益參百貳拾萬參千六百貳拾圓餘を擧げ、前期に比して四拾萬參千餘圓の增收を得ると共に、資本金八千萬圓に對する總資産は、實に一億四千參百四拾貳萬七千圓を突破し、愈々内容の堅實性を謳はれてゐる。因に重役陣には社長田中博氏、副社長田邊隆二氏、常務取締役山本和七氏、同石川芳太郎氏以下、取締役五名、監査役三名がある。

京都女子高等專門學校

京都市東山區今熊野北日吉町

翠巒を眉端に仰ぐ風光明媚の靜寂地、京都市東山區の一角に諸設備整然たる校舍を構え女子高等教育の殿堂として學燈煌々たる京都女子高等專門學校は、其の沿革を按ずるに、大正八年三月十八日、故光顔院殿の遺志を奉じて本派本願寺の設立せるもの、而して專門校令に依る文部大臣認可は翌九年三月に下附せられ、以來、時勢の變遷、教界の趨勢に伴ひて各般の施設機構を改善し、或は校舍の增改築を實現して着々内容の充實を圖り、以て今日の偉容を築くに至つたが、其間に於ける歷代校長を始め諸教諭の、至誠一貫、烈々たる教育報國の丹心を吐露しつゝ、孜々として教へ、淳々として訓し、德育、智育、體育の三方面に亙りて育英せる美果は、年と共に燦として光輝を加へつゝある。抑も當校は專門學校令に據り、本邦の女子に適切なる高等の學藝を授け、溫良貞淑なる婦人として高尚なる理想と、家庭及び國家社會に對する其の責務を果すべき精神とを養成するを目的に掲げ、之が修業年限は本科三年、豫科一年、研究科一年にして、本科を家事、技藝、國文、英文の各科に、又豫科を國文、英文の各科に分ち各科に研究科を置く。而して一般的訓育施設の外、宗教的施設として各種の例目及び年中行事、佛教青年館、寄宿舍行事、日曜學校、出版物等其他を有し、佛陀の教義に基き婦德の涵養に資せしめるにあたり、蓋し獨特の校風を窺知するに難くあるまい。因に職員は名譽校長大谷衍子女史、校長高木俊一郎氏、主幹堀川乘道師以下、教授十九名、講師七十名其他にして生徒定員は七百五十名である。

寶酒釀株式會社會計課長

井上勝之助氏

京都市伏見區東大文字町
電話伏見九八五番

本邦酒造界に一王國を形成する寶酒造株式會社には、素より人材尠からずして所謂多士濟々の觀ありと雖も、其間に伍して我が井上勝之助氏の如きは、資性溫恭にして敦厚、品性高雅にして教養高く、而も明斷縝密なる頭腦と縱横の才腕を有し、常に烈々たる職域奉公の赤誠を披瀝しつゝ、努力奮勵、克く社業の一翼を擔ひて職務完遂に挺身するところ、名實共に稀に見る實直勤勉の逸材として令名嘖々たるものがある。

氏は明治二十五年九月十六日、京都に於て産聲を發し、夙に京鄕第一商業學校を卒業するや當社に入り、爾來一貫して精勵恪勤、實に三十餘年の永きに亙りて社業に携り、其間毫も右顧左眄せず、只管同社と運命を共にし、遂に今日の立身を實現せる模範的勤續の士なり、蓋し其の清操は氷雪よりも厲しく其の信念の確乎たる、千載の下懦夫をして起たしめるに足ると云へやう。斯くて上下の信頼翕然として聚るところ、果進克く會計課長の重責を擔ふに及ぶや、至誠獻身、愈々以て精勵の實を擧げ、加ふるに財政手腕の卓越せること斷然他の追隨を許さず。今や名會計課長として内外に博する名聲一段と高きを加へてゐる。

家庭には八重夫人ありて内助の功多く、其間に長女初枝氏二男勝君を擧げ、養子春三氏は大谷光瑞師經營に係る圖書館光壽館に勤務し、少壯氣鋭、前途を囑望されること多大である。因に勝之助氏は書畫の鑑賞蒐集に趣味

を抱くと聞く。

高山耕山化學陶器株式會社

京都市下京區朱雀寶藏町二〇

本邦陶器工業界の一異彩として獨特優秀の製品を誇り、其の業績亦顯著なる高山耕山化學陶器株式會社は、大正七年四月二十六日、理化學工業用陶磁器の製造を目的として設立せらる。以來首腦者の敏腕達識は、全從業員の眞摯勵精と相俟ちて着々業運を高揚せしめ、殊に技術の向上、製品の改善に不斷の研究努力を注ぎし結果、製品の聲價頓に揚りて遂に今日の盛業を獲得するに至つたものである。而して創業以來二十餘年の歷史は益々光彩を加へ、玆に第四十五回（自昭和十五年五月一日至同年十月卅一日）營業成績を概觀するに、同社事業が統制經濟の範圍に入りてよりも、製造費用の增額止むを得ざるものあり、且つ賣價の之に伴ふ能はざりし爲め業績敢て優秀とは謂ひ難きも、總益金四拾四萬貳千五百餘圓、總損金參拾九萬參千參百餘圓、差引利益金四萬九千貳百四拾七圓餘を擧げ、之に前期繰越金壹萬七千六百九拾餘圓を加算せる總益金は六萬六千八百四十三圓となり、優先株配當一割、普通株配當七分を爲せるは見るべき成績と云へやう。尙ほ資本金は七拾六萬圓、總資產は九拾九萬四千參百餘圓にして堅實なる內容を謳はれてゐる。因に重役は會長工學博士吉川龜次郎氏、代表取締役高山雄次氏、同高山順太郎氏、取締役石川一郎氏、同高山泰造氏、同中村淸氏、監査役工學博士石藤豊太氏、常任監査役田村好策氏等にして、孰れも斯界屈指の人材たるは贅言を要せざる所である。

伊藤小坡女史

京都市上京區室町通中長者町南入

纖細雅麗の筆致を以て日本人物畫壇に特異の光彩を放ち、文展、帝展に入選すること既に十餘回、或は文展無鑑査組として閨秀畫家中に斷然重きをなす我が伊藤小坡女史は、本名を伊藤佐登と稱して、明治十年四月二十八日、三重縣に於て呱々の聲を擧ぐ。而して幼少より繪畫を好み、天賦の藝才閃々光芒を發するところ、夙に斯界に挺身すべく健氣なる決意を固む。爾來、谷口香嶠氏、竹內栖鳳氏等に師事して鑽骨彫身、只管畫道の奧義を極むるべく精進を累ぬること多年に及び、其の技能は着々洗練せられ、早くも將來を囑望されるに至つた。斯くて一作又一作、その出品は各展覽會に於て漸次好評を高め、遂に昭和七年には帝展推薦の名譽を擔ふに至りて令名愈々光輝を加へるに及んだ。

責性溫厚にして高雅、勤勉にして玲瓏、その悟道の域に達せる人格は大和撫子の美點を發揮して遺憾なく、代表作たる「伊賀の局」、「蟲賣り」、「製作の前」等の名聲と共に識者の絕讃措かざるところである。

尙ほ夫君伊藤又次氏は鷲城と號して邦畫界の一方に牢固不拔の地位を築き、畫風の堅實にして卓拔なる、又以て好評の的たるを失はず、而も小坡女史と共に老來益々彩管藝術の最高峰を目指して勵精するあたり、其の意氣や正に壯とすべきであらう。因に女史の令弟土公貞幹氏は京都府猿田產神社宮司なりと聞く。

高成土地株式會社相談役

中村萬次郎氏

京都市上京區室町通寺之內上ル三丁目

徒らに虛名を博せずと雖も、關西事業界に隱然たる實勢力を扶殖し、天稟の卓腕と高邁なる識見、兼ねて渾然玉成されたる人格を謳はれ、今や高成土地株式會社相談役其他の要椅を占めて、一意專心、事業報國に邁進する我が中村萬治郎氏こそ、實に戰時下に缺く可らざる實業界一方の長老と稱すべきであらう。

氏は通稱を益三氏と呼び、明治九年七月五日、京都府人萬兵衛氏の長男として呱々の聲を擧げ、幼にして穎悟、長ずるや銳鋒益々冴えて前途を囑望さるゝこと甚大であつた。斯くて家督襲承後は縱橫の活躍を擅にし、傳來の家名に一段たる光彩を添えると共に、果然京都實業界に頭角を現はし、夙に高成土地株式會社の經營に當りて同社を泰山の安きに置きしのみならず、發展又發展、遂に今日の盛業を招來せしめるに至つた稀有の奮鬪家、且つ神算鬼謀の敏腕家であり、又嘗ては高成信託及び大正信託の取締役として令名を謳はれたが、昭和四年以來現職に就きて悠々自適の餘生を樂しみつゝある。然りと雖も老驥櫪に伏するも志は千里にあり、常に國家的見地に立ちて國際親善の實を擧げ、去る昭和十三年五月、日伊親善使節團の來朝あるや、バウリツチ氏の來訪を受けて、伊國皇帝及びムツソリーニ首相より銀製像を贈らるゝの榮譽に浴したものである。蓋し偉名益々光輝を加ふるも寧ろ當然の歸趨と云へやう。因に令閨えい夫人は溫良貞淑、賢夫人の聞えが高い。

川德商事株式會社々長

川村德造氏

京都市上京區大宮通今出川上ル

人造絹糸枠業として明治四十三年以來、着々業運を進展せしめ、今や川德商事株式會社の名稱の下に內地は勿論、鮮滿北支方面まで鵬翼を張り、其の業績赫々として克く產業報國の實を擧げつゝあるものに我が川村德造氏の偉大なる存在を見る。

抑も氏は明治十七年三月十九日に呱々の聲を揚げ、父君を川村德兵衛氏と呼び其の三男であり、幼少既に俊敏穎智、前途を囑望さるゝこと厚いものがあつた。大正十二年、川德糸店を創業して糸物賣買に不拔の手腕を發揮し、或は大阪三品取引員として角逐場裡に勇姿颯爽活躍を續け、その聲望は夙に關西財界に洽きものがあり、儼然犯す可らざる優位を占めてゐる。されば氏の一擧手一投足、悉く業界注視の的たらざるはなく、令名燦として斯界を光被するの觀がある。資性溫厚篤實、玲瓏珠の如き人格を有し、且つ卓拔なる識見手腕は流露たる人情味と相俟つて全從業員の尊崇を聚め、恰も師父に對するが如き敬慕を受けてゐる。家庭には、溫良貞節、內助の功高きひさ夫人との間に四男二女を擧げ、和風駘蕩・團欒たること近隣羨望の的と聞く。因に川德商事は大阪、名古屋、福井等の內地營業所の他に天津、北京、青島、濟南等にも營業所を設け、五十餘名の社員は首腦部の統制下に一糸亂れず精勵恪勤し、昭々たる職域奉公の誠を致しつゝある。蓋し其の業容の雄大豪華なるは察知するに難事たらざるべく、前途の大發展を期待さるゝも寧ろ當然であらう。

名望家

大家數貞雄氏

京都市

時代の趨向に善處して堅き節操を持し、敢て利の爲に走らず、名の爲に動かず、終始一貫、社會公共の福祉增進を圖るを以て其の使命となし、現に七條第二聯合町會副會長に推されて功績顯著なる一方、七條第二國民學校後援者として甚大なる貢獻をなしつゝある土に、我が大數貞雄氏の燦たる存在がある。

抑も氏は愛知縣金田貞次郎氏の二男として明治三十年十月十日に生れ、幼にして聰明穎悟、長ずるや愈々出藍の譽れ高く、大正十三年、塾望されて大數秀次郎氏の養子となつたものである。爾來、孜々營々として家業に精勵し、傳統古き家名に一段たる光彩を添えしめ、今や當地有數の大地主、且つ素封家として聲望隆々たるのみならず、嘗ては京都青果仲買人組合常務理事の要椅に在りて敏腕を謳はれし事があり、而も常に滅私奉公の實を擧ぐるところ、衆庶の尊敬欽慕措く能はざるものがある。殊に前記國民學校に關與して多大の淨財を投じ、教育振興に獻替せる功績は永代不滅の光芒を放ち、關係各方面の感謝感激の的となり、稀に見る篤志家として德望愈々高きを加へてゐる。

資性溫厚にして篤實、加ふるに崇高なる人格を有し、其の達識卓腕は夙に世人の推稱するところ、而も烈々たる氣魄と不退轉の實行力を藏し、臣道實踐に率先躬行の範を示しつゝあれば、眞に銃後强化の一分野に不可缺の重要人物的資源の一と云へやう。

當今世狀益々人材を求むる事切なる秋に際會し、氏の如き偉材の存在を見るは、寔に欣快の至りなり。

京都市七條第三國民學校長

中川義憲氏

京都市上京區塔之段藪下町

長くも教育勅語の聖旨を奉戴し、小學校令の本旨に基き、兒童の個性を洞察して其の醇化向上を圖り、更らに體育を重んじ、且つ國體觀念を明徴にし、特に德育の基礎啓培に重點を置き、高潔なる人格の養成に努め、又た個人としては至誠勤勞、社會人としては協力一致、以つて皇國の發展に貢獻し得る忠良なる臣民の育成に精進するを教育の方針として熱誠を披瀝しつゝある人に、京都市七條第三國民學校長中川義憲氏がある。

氏は昭和十一年十二月七條第三小學校長の重席に擧げられるやよく其の責務を痛感し、恪勤、昭々なる實績を擧げてゐる。しかも名聞を希求せず、富貴を欲することなく、孜々として敎へ淳々として說き、啻に天職に汲々たるところは玲瓏たる人格と高邁なる學識と相俟つて輝やき、父兄感謝と生徒の敬慕を一身に聚めてゐる。

而して氏は明治三十年三月十日を以つて新潟縣佐渡郡赤泊村に於て呱々の聲を發し、夙に育英界を志して精勵、明治四十五年高田師範第一部に入學し、大正五年卒業するや直ちに河原田小學校訓導として第一歩を踏み、大正十二年京都市御池小學校に轉任、次で昭和十一年十二年より七條第三小學校長に擧げられ今日に及んでゐる。

日本皮革製品輸出組合

大阪市東區南久太郎町三ノ三五

本組合の設立は昭和十三年十一月にして其の事業及び目的とするところは皮革及皮革製品の輸出振興、輸出用皮革の內地流入阻止を圖るため共同の施設をなすを以て目的として、皮革及び皮革製品の第三國向け輸出統制並に內域向輸出調整を行ふと共に輸出用皮革製品の主材料並に副材料の配給を行ひつゝある。

而して又た組合は皮革及び皮革製品の輸出統制の完璧を圖るため、其の出資により日本皮革製品輸出株式會社を去る四月設立し、皮革貿易國策に翼贊の實を擧げるべく設立し、着々事業を進行中である。

尙ほ當組合は頭書の地に事務所を置き、更らに東京、橫濱、神戸の三市にも支部を設けて緊密なる連絡の下に成果を擧げるやう努めてゐる。現在理事長の任にあるは桑原良吉氏にして專務理事は脇坂俊作氏であり、以下各役員は協力して組合員のために盡瘁しつゝある。殊に桑原理事長は初代理事長、淸水礎治氏以來三代目の理事長にして前大阪商工會議所議員、現日本印度雜貨輸出組合理事長、其他多數の公職に擧げられてゐる日本貿易界有數の果斷迅識の士にして、昨年十一月就任以來、銳意戰時經濟下に於ける最重要物資の一たる皮革貿易國策の樹立に邁進しつゝある。蓋し、銃後產業人たるの本分を十分に發揮してゐるものと云へやう。

大阪內地莫大小製品工業組合

大阪市

東亞共榮圈の確立を目ざして擧國總動員の下に邁進しつゝある刻下の我が國に於て、各產業界の健全なる發達こそ希求するところである。玆に於て各產業部門にありてはそれぞれの組合組織をより强化し、以て產業報國の至誠を披瀝しつゝある。

昭和十二年十二月に設立認可されたる本組合は更らに數度に亙りて組織變更より强化を圖りて適切なる統制を實施し、益々斯業の改良發達に留意しつゝある。其の地區は大阪府一圓とし、事務所は頭書の地に置いてある。

而して本組合は其の目的を達するために次の如き事業を行つてゐる。卽ち、製品設備の檢査及び取締、統制、營業に必要なる物の供給、製品の委託販賣、營業に關する指導、研究及び調査、其他の施設であり、組合役員の協力一致の下に昭々たる實績を擧げてゐる。

現在にありては岩橋靜氏專務理事に擧げられて內外に亙つて統宰し、一糸紊れず、寔に間然するところがない。氏は資性溫厚にして識見高邁、よく時局に適應したる方針を樹て

つゝ善處しつゝある。

京都旅行用品商組合

京都市中京區三條通河原町東入ル

電話 本局 二二三二番

時局下に適應すべく、昭和十五年七月創立された本組合は日子淺きにも拘らず組合幹部の指導の下に組合員は協力、滅私奉公の實を擧げてゐる。尙役員には組合長に進藤慶三氏、副組合長に岡善造氏あり、幹部には足立幸太郎、山本安太郎、田中多三郎の諸氏があり、會計には服部淸五郎氏が任ぜられてゐる。次に進藤理事長の拘負を抄錄すると次の如し。

『現今の原料需給關係より觀察するに將來當局に於て配給機構の强化施行せらるゝは言を俟つず依て自分は府下一圓を統合したる商業組合を早急に結成し組合事業として生產部門の諸原料の配給統制をなし生產品に附ては共同購入及其實績配給を爲すべく目下具體案作成中なり。今般當局に於て更改せらるゝ七・七禁令に對し當組合は其適正なる改革を活目期待しつゝ有り就中自分は其際組合として殘品處分に付き當局と府と適當なる考慮及處置せらるゝことを申請すべく目下調査中なり』

而して組合長は京都の人、明治二十五年の生れ、夙に家業を繼承して守成に努め、よく老舗一名を傷けざる偉材である。尙ほ京都皮革工業組合監事等として名聲がある。

京都生糸機械撚糸工業組合

京都市今出川淨福寺生糸檢査所內

電話 西陣 一九二二番

本組合は、十數年以前より、申合せ組合である京都撚糸組合が存立せられてあつたが、

時局統制下に於て强固なる準則組合の必要を痛感したる中村、井林、小澤、山室の諸氏が發起人となつて、既存組合員に呼掛けて、組合設立の要を述き、昭和十一年十一月創立總會を開催する運びになり、翌十二年二月十七日認可設立となつたのである。本組合役員に理事長としては中村榮次郎氏、理事には、柴田格藏氏、宍戸二郎氏、內田三郎氏、春名豐次郎氏、荒木太郎氏、山室貫氏あり、書記長には淸水義一氏が任ぜられてゐる。尙、中村理事長の拘負を抄錄すれば次の如し。

『西陣織物は昔より分業組織にて發達したる歷史に鑑み、當組合は勿論、各分業の部門とも其關係を一層緊密になし綜合技術の粹を以て最終工業たる西陣織の發展に寄與せむとす』因に理事長は、明治六年名古屋市に生れ、名古屋市立商業學校卒業後、神戸外國商館に勤務、後日本撚糸株式會社に入り、各要職を歷任し、昭和十五年取締役に就任、現在に至つてゐる。

京都製麵卸商業組合

京都市中京區西の京職司町二番地

電話 壬生 二〇一〇番

本組合は、數十年以前より申合組合である京都製麵組合が存在してゐたが、時局統制下

に於て原料、用具等の共同購入及共同管理、製品に對する販賣價格並に得意先に對し營業權の維持等の適正を計るために組合員和田爲助氏創立發起人總代となり準則組合設立の必要を說き昭和十年四月十五日認可設立したのである。而して本組合の事業としては、商工省及京都府より倉庫建築補助金を下附せられて現に七十八坪餘の倉庫を保有してゐる。

尙役員として理事長に大橋開次郎氏、副理事長に平野忠一氏があり、よく役員組合員と協力して着々實績を擧げてゐる。次に大橋理事長の抱負を抄錄すれば次の如くである。

『代用食に就て（麵類の代用食王座に就ては別に贅言を要せず。）は飲食店を除外したる一般社會殊に市場に對し提供すべく聯合會と協議し、市內各學區單位に配給の適正なる方法を目下考究中なり。卽ち別に配給部門の組織

を計り其配給機構の完備充實の曉は、範圍を町内會にも及ぼし、尙組合員は生産部門に專念し生産と配給とに分類し、劃一的統制ある分業組織にて其眞價を發揮し代用食配給の圓滑を期せむとす。次に、原料配給に就て見るに現下の如き原料の配給機構に在ては到底其實現を期し難きにより、所轄官廳に於ても代用食の王座たる麵類の普及に重點を置き、原料配給機構の改善は勿論、將來は當組合に對し大口消費者として、直接製粉業者より供給を定める制度の確立を期待して止まない。』

因みに氏は京都の人、明治二十一年出生、長ずると共に家業を繼承、其の發展に努力奮闘する傍ら、自治方面に進出し、社會教育委員、衞生組合幹事、方面委員等を歷任しつゝある篤行家であり、名聲嘖々たるものがある。

西陣横錘絹撚糸工業組合

京都市上京區元晳願寺通
千本東入ル元四ノ四二八
電話西陣八二一一九番

本組合は舊來より西陣撚糸工業者は最終工業たる織物製造の一部門に甘んじ、織物業者より委託にて絹撚糸を業とする者が大多數を占め、數年前より組合設立の機運があつたが下職的氣分に甘んじて居る業者が多數あつたので其の機運が熟しなかつた。然るに時局に直面して其の必要を痛感した、堀、砂井、吉川、上田、山田の諸氏が創立發起人となり、原料配給等により漸く業者の贊助を得て、昭和十四年十二月認可を得て設立したものである。而して製造用具の共同購入及び之が分配を事業としてゐるものであり、理事長には、砂井愛之助氏、理事には堀吉次郎、吉川政之助、上田喜助、山田庄太郎の諸氏があり、書記長には高橋日出夫氏が任ぜられてゐる。次に理事長の抱負を抄錄すれば左の如し。

『撚工聯に於て全國を統一せんと協定賃金の基礎案を作成し商工省に申請すべき計畫なるも相當期間經過せる今日尙進捗せず、止むを得ず當組合に於て理事協同して其折衝に當り地區内加工賃金の協定を遂げ昨年十二月認可の運びに至れり、依て將來は製品の向上を計るべく組合に於て檢査制度を實施すべく目下府生糸檢査所と其機構に付き協議中なり。生糸配給機構に關し將來業者は獨自の立場を獲得し絹工聯よりチケット製による統制を劃一ならしむること即ち織物業者に對して從來交附したる生チケットを廢止し撚チケット制となし其配給機構を撚工聯に一任することを理想として着々其實現に邁進せむとす。尙、前項と併行して織物分業制度の確立を期せむとす』云々と。因に氏は京都の人、明治十八年の生れ、一時警察部に在職したるも、明治三十八年より斯界に入りて精進、其後獨立した力行の人、業界の指導的地位を占めて令名が高い。

京都仲物菓子工業組合

京都市下京區若宮通北小路上ル
電話下一九五三番

時局統制下に於て仲物菓子業者が結合した組合結成の必要を府商工課より說かれ、向井、井上、三浦の諸氏が創立委員となり、汎く業者の協力のもとに昭和十六年二月一日設立認可となつたものである。而して、目的達成のために事業として主要原料の共同購入及び配給等をなしつゝある。

尙、現在役員としては理事長に白井豐吉氏、副理事長に井上重三氏があり、以下理事組合員と協力一致、着々として成果を擧げてゐる。次に理事長の抱負を抄錄すれば左の如くである。

『原料不足の爲に一部の業者は企業合同を計畫せらるゝも自分は餘剩勞力の利用方法に付て目下考究中なり。即ち配給を受けたる原料にて生産を終りたる、餘暇に於ける勞力を有効に利用すること當組合の業態は總て家庭工業として發達したるものなれば此の特有の性質を抹殺せざる範圍内に於ける製菓附隨業務に餘剩勞力を內職的に用ひ其收入を以て不足分を補ひ不充分ながら此に甘んじて非常時難局に處すべきものと思考す。轉業者あるときは組合理事會に於て轉失業者の實績を調査し其査定額を轉業資金として交付すべく「一ピクル」に付き金三十錢を組合員より醵金せしめ之が實現を期しつゝあり。尙、主要原料の配給機構は昭和十三年度に基準せるものなるが故に現時に於ては人的資源又は副材料の缺乏等の爲め止むを得ず生産を縮小せらる業者もありて配給量の適正を缺く傾向あり依て此際組合より調査委員を選出し實情調査を遂げ現實に卽したる適正なる配給を算出すべく目下準備中なり。』云々。白井理事長は滋賀縣の人、明治二十一年出生。夙に斯界に入りて業を修得、其後獨立した力行の士であり、現在京都府菓子業組合聯合會長、京都近江菓友會京菓同盟會顧問として活躍す。

京都府運動用品商業組合

京都市中京區河原町通三條下ル
電話本局四〇三六番

本組合は數年前より市內一圓の地區にて小組合組織せられ居たのに發し、時局統制下に於て、需要關係の圓滑を計るため、府下一圓を統合した商業組合を設立すべく、山本・圓司、吉田の諸氏が創立發起人となり、昭和十五年十一月二十二日設立認可となつたものである。而して現在の役員には、理事長に圓司榮三郎氏があり、常務理事に吉田祥堂氏・理事に森彌市氏、吉岡一氏、橋本正行氏の諸氏があり、よく組合員と協力して成果を擧げてゐる。尙理事長の抱負を抄錄すれば左の如し。

『當組合の運動用品は多種目に岐れ居る關係上時局統制實施に當りては金屬、纖維、皮革等各專門の部門に配給機構成立したる結果運動用品は體位向上に重要なる資材なるに不拘度外視を受けたる種目頗る多く需給關係全く行詰りの狀態にあり。自分は將來運動用具を數種目に統一し之れを專門部門となしたる配給機構の確立を期し目下全日本運動用品統制協會と提携して之が實現に就き着々と交渉中なり。次に現今に於て運動用品は過去實績の三十分の一に過ぎざる供給を受けつゝある有樣にて此狀態を二三年も繼續する場合は商品缺乏して到底營業を持續する能はず當局は體位向上の重要性に鑑み將來は過去の實績の四分の一程度の供給の確保を得べき機構を樹立せしむることを切望す。』云々。因に氏は滋賀縣の人、明治二十年の出生。夙に業界に入りて精進、大正十年獨立今日の大をなした逸材。現に京都府運動用品價格査定委員長、體育協會委員等に擧げられて重きをなす。

京都時計小賣商業組合

京都市中京區東堀川通丸太町上ル

本組合の沿革は時局統制下に於て、商品の需要關係の樹立就中時計配給機構の整備の爲め組合設立の必要を痛感した後藤、永田、三宅、岡野の諸氏創立發起人となり京都時計貴金屬組合の支部長會議に於て業者の協贊を得、昭和十六年二月二日創立總會を開き設立認可申請中である。而して事業としては主要材料並に時計ケース及其他附屬品の共同購入並に配給等であり、當組合役員は、理事長には、岡野彌三郎氏、副理事長には後藤彌太郎氏、三宅宗三氏、書記長としては藤井米德氏が任ぜられてゐる。尙、理事長の抱負を抄錄すれば次の如くである。

『時計配給機構に就て現時の時計配給機構は實績を主眼とする機構なるが故に商品の偏在となる傾向を生じ組合員中には最近需要增加に對する品不足の爲め營業に支障を生ずる者續出する狀態なれば自分は需給關係の圓滑を期すべく共同購入並に配給機能の改革を計り完全なる運用により適正なる配給機構を樹立

すべく目下研究中なり。――企業合同に就て――最近時計材料の減少は實に甚敷之が緩和を計ること緊急事なり自分は資源愛護の上に於て先づ第一着手として廢品時計類に就ては組合協力一致して之が蒐集に務め其の使用に耐ゆる部分品を活用して之を組合管理のもとに企業化し組合員中より希望者を募りて從事せしめ一石二鳥の利得を目論見近き將來に之れが實現を期しつゝあり』云々。因みに理事長は京都の人、明治三十三年の出生。京都府第一商業學校卒業した逸材。今事變應召せられ航空兵伍長に進み召集解除せらる。昭和三年岡野家に入り先代の業を繼承し營業の發展に努力し寺町會理事に選ばる。業界に於ては當組合に盡す處多く現理事長に就任し有力者として今日に至る。

京都昆布加工工業組合

京都市中京區東堀川通丸太町下ル
電話 西陣 七〇二六番

本組合は數年前より業者親睦の目的にて京都昆布加工業組合が組織されてゐたが時局統制下に鑑み、山本、辻、村瀬、齋藤の諸氏が發起人となり京都昆布商業組合、鞍馬木ノ芽煮組合其の他水産品製造業者を統合して組合を設立し、昭和十六年一月十三日設立認可になつたものである。而して組合の事業としては、主要原材の共同購入及其配給、製品及原料の檢査、營業に關する統制、組合員貯金の受附等であり、組合役員には、理事長には山本克己氏、專務理事に時森實一氏、常務理事には稲葉勇太郎氏、齋藤熊吉氏が就任してゐる。尚、理事長の抱負を抄錄すれば左の如し。『(1)時局配給統制に對しては實績主義によれば原料供給の不圓滑、人的資源の缺除等の適正を缺くべきにつき當組合は重點主義により實狀に基く配給を行ひつゝあり組合員も亦此點充分諒解し何等異議なく目下圓滑に運行中なり自分は猶其の完全を期するため主要原料たる昆布に付ては産地直接取引を開始し公定價格設定による利潤の低下を原料の低價供給にて補足する一面需要關係の不圓滑をも防止することに努力中なり。(2)公定價格設定に伴ひ品質の低下することは總ての業態に於て見受けらるゝ處なり依つて自分は當組合が食料品生産の部門なるに鑑み營業費の減殺、味覺の低落耐久力の減少等を極力防止すべく先づ規格を統一し檢査制度を確立し國策に副ふべく具體案を確立其實現に邁進中なり。(3)主要原料の昆布に就ては從來卸賣業者に於て加工業者の需要を重視せず他府縣へ流出する傾向に鑑み自分は組合を代表して産地より供給を受くるに當りては之れを二元的となし卸賣業者及加工業者は各直接供給を受けることを制定すること。』尚理事長は明治三十六年京都府に於て出生、縣立岡山中學校卒業後逓信省に奉職したるも昭和十一年現住地に於て先代の業たる昆布加工業を繼承し逐年其の發展に努力する傍ら、業界にも進出し懇親の目的にて昆布加工業組合を組織し其組合の長として永年就任し、今事變發生と共に京都府一圓を統合したる工業組合を創立し、その委員長となり、類似組合を結合して設立認可となるや其理事長となり指導的地位を占め重鎮として今日に至る。

京都絹紬糸工業組合

京都市上京區大宮通鞍馬
電話 西陣 七六八番

本組合は、時局統制下に於て原料需給關係の圓滑を期すために組合結成の必要を痛感した。富部、藤林、新國の諸氏創立發起人となり、業者に呼びかけて、昭和十五年十二月十四日設立認可となつたものである。而して事業としては、必要資材の配給、共同施設、製品の檢査、生産の調節、資金の貸付等である。又役員としては、理事長に富部作中司氏、專務理事に加藤宗平氏があり、相協力してよく時代に適應する方針の下に活動しつゝある。尚ほ次に富部理事長の意見を抄錄する。『屑生糸の配給に就き、本年五月一日商工省に於て屑生糸の全國を一括したる統制配給機構樹立に當り當組合に對し配給に關する陳情及割當申請を爲すべき通牒に接したるにより自分は各地業者と連絡し五月二日より五日間上京し一府十三縣を統合したる日本絹紬糸工業組合聯合會を結成、自分は創立委員長に選任せられ目下商工省に附し設立認可申請中なり。而して屑生糸の配給に就ては不充分ながらも聯合會設立趣旨に添ふべき配給統制機構を委すべき言質を得たり。依て此際自分は絹工聯と聯絡し絹紬糸番號規格を制定し之等の公定價格の認可を得ること最も緊喫事なりと思考したるにより既に絹工聯と談合し其諒解を得たり。尚又、絹紬糸の用途に就て、代用品として近來登場したる絹洋服地に最も適當なり且つ大衆的織物として紬織類は趣味と堅牢なる地質を構成し之に戰時下國民生活の必要品たることは言を俟たずされば將來産業界に於て重要なる一部門を爲すことの信念のもとに自分は聯合會設立と共に之が實現に邁進せむとす。』因に氏は岡山の人、明治二十五年の生れ、東京工手學校の卒業後芝浦、石川島等に勤務、大正十二年入洛し絹紬糸の製造を營む傍ら紬糸機械の製作研究に從事、日本蠶毛工業株式會社の創立に參し　現取締役に列して重責をなす、又全國聯合會創立委員長として活躍中なり。

京都伸銅製品卸商業組合

京都市下京區烏丸通五條下ル大阪町三七二番地
電話 下五四二〇番

本組合は、時局統制下に於て需給關係の圓滑並びに適正を期すべく府下一圓を統合した組合設立の必要を痛感したる角井、西川、平手の諸氏が創立發起人となつて業者の協贊を得て、昭和十三年十一月八日設立認可となつたものである。

而して現在役員としては、理事長に角井清治郎氏、副理事長に平手鐵一氏・理事に、大岡理三、三谷與一郎、坂田由之助の諸氏があり、角井理事長の抱負を左に抄錄すれば、『統制配給機構の運用範圍に就て――現行の機構範圍は伸銅工業の領域にて施行せられ居るも自分は現下の商品需給關係の適正なる確立を期すべく右の統制配給機構の運用範圍を制定營業の領域まで擴大せられむことを求む。而して吾等業者は其範圍内に於て國策に順應して組合員の福利增進を計るべく目下具體案の研究なきや――。全國商聯の結成に就て――前記具體案に立脚したる利潤の合理化を計るべく第一條として全國商工會聯合會結成の機運あるを好機とし之が促進を計るべく目下設立運動に一層努力中なり』云々。因に氏は明治二十九年京都府に出生、夙に岡田伸銅所に入りて業を修得、昭和二年より獨立し今日の大を成した人である。

京都梱包材料卸商業組合

京都市中京區烏丸通姉小路西入ル
電話 本局 二四〇二番

本組合は、時局統制下に於て需給關係調節の爲め增田、紀伊馬、嵯峨根の諸氏が創立發起人となつて卸業者に組合設立の要するを說き昭和十四年二月九日設立認可となつたものである。

而して本組合役員には、理事長として遠藤榮藏氏、理事には紀伊馬鐵之助、增田修治、川本治三、大島驥の諸氏がある。尚ほ理事長遠藤榮藏氏の抱負を抄錄すると『梱包材料は藁工品、包裝紙、テープ等數種目の取扱品種なる關係上組合機能發揮する點に於て種々障害あり。之が運用の完きを期するには先づ政治的手腕を有する統率者の必要を感じつゝあり。自分は非才其任にあらざるも今回理事長

に選任せられたる以上、粉骨細身之が圓滿なる統合を計るべく、第一着手とし論議の中心をなす共同購入の實現を促進すべく目下着々準備中なり。梱包材料に就ては大部分の品種に就き、公定、協定價額實施されたるも製造業者に於ては材料入手難と、右價格實施により漸次生産減となり最近需給關係頗る不圓滑の現狀となり、自分は組合を代表して此間の事情に就き、需要家の認識を得る爲めに概要を述べむと欲す。イ、公定價格の實施嚴守により製造業者より受くる單價に於ては卸業者の利潤更に無く、且つ品不足の現狀に於て當組合は國策に順應すべく、奉仕的營業をなしつゝあることを需要家各位の認識を乞ふこと。ロ、軍需品に對する梱包材料に就ては、其の特殊性を當局に於て認め配給確保を目的とする機構設立を計るべく目下具體的案を作成中なり。』云々。因に氏は明治二十八年の出生、京都美術學校を卒業、更に嘯雲畫塾に入りて邦畫の研究をなし、又ナフトール友禪染を發明し、須原染工會社顧問となり、其後現業を興して今日の大を築いた人である。

京都駒撚絹糸工業組合

京都市下京區新町通四條下ル
電話 下 五四四九番

本組合は、十數年前より申合せ組合である糸物同業組合が存立されたものを時局統制下に於て原糸配給の關係上駒撚絹糸業者を統合した準則組合設立の必要を痛感した藤井、中村、村瀨の諸氏が創立發起人となり組合設定の要を說き、業者の贊助協力の許に昭和十三年九月六日創立總會を開き、同年拾月貳拾壹日設立認可を得たものである。而して目的達成のために行ふ事業は、製品の檢査、一般統制、營業必需品の共同購入及び共の配給等であり、役員以下組合員協力一致、滅私奉公に邁進し着々として實績を擧げてゐる。

而して現役員は理事長には藤井太郎氏あり、理事としては中村勝治、村瀨信太郎、長上新人、林元三郎、大日嘉平、前田敏次、岡田信次郎の諸氏が擧げられ、又書記長には新清吾氏が任ぜられて實務を擔當してゐる。尙理事長藤井氏の抱負を抄錄せば、「原棉輸入困難の折柄綿糸の代用として絹糸を國內全般の需給各部門に行亙らすべく盡力すると同時に外貨獲得の立場に於て生糸とせず、加工糸たる撚絹糸として海外販路を開拓すべく目下計畫中なり。」であるが、氏は明治二十六年の出生にして名古屋市立商業學校卒業の後、帝國撚糸株式會社へ入り、大正十年入洛獨立し撚糸卸問屋を指揮經營しつゝあり。現に日本撚糸工業組合聯合會理事、滿洲絹糸工業、日本人造テグス工業の取締役として重きをなす。

京都絞工業組合

京都市下京區松原通寶町西入ル
電話 下 六三五三番

本組合は、時局統制下に鑑み絞各部門を統合した工業組合結成を痛感した松尾、上田、林、今西の諸氏が創立發起人となり府內業者に呼び掛け、其の協力のもとに昭和十三年十二月十六日創立總會を開き翌昭和十四年三月十五日設立認可下となつたものである。而して事業としては、製品の檢査、生産の指導向上、特殊染料の共同購入及其配給をなすものである。本組合の役員には理事長、松尾喜七氏、副理事長として上田善一郎氏、書記長には山口武雄氏が其任に當つてゐる。次に理事長の抱負を抄錄すれば左記の如し。

『一、現下の情勢に卽應し括糸、綿糸の配給に就ては其割當量の實踐と操業狀態とを充分に考慮して適正なる機構の確定を期せむとす。二、特殊染料たる青花に就ては農會を通し生産者と提携して一定の契約の許に組合に於て共同購入を爲し組合員に對する配給の確立を期せむとす。三、絞を結成する勞力に就ては時局柄農家の餘剩勞力を主として用ゐる

關係上農繁期には其處で著しく之が調節を計る爲め朝鮮に移植し目下指導を爲しつゝあるも將來は染色部門にも擴張すべく目下組合に於て之が開拓促進を計りつゝあり。四、洋裝殊に婦人服用生地に絞應用の範圍少く染色の缺陷に就ても共に組合に於て之が研究及指導しつゝあるも尙一層徹底を期すること。』因に同理事長は、明治二十九年京都市に生れ、大正十五年より先代の業たる絞商を繼承し其の發展に努力したる結果遂年營業の基礎堅固となり、業界に於ては重鎭と謳はれる。

京都莫大小工業組合

理事長 片山文太氏
京都市東山區山科鐘紡工場內

近來、統制經濟の强化せらるゝに伴ひ、各種工業組合の續出すること枚擧に遑なき程であるが、此間に在りて比較的創業古く、京都府內屈指の優良工業組合として名聲嘖々たるものに我が京都莫大小工業組合がある。

抑も當組合は昭和十年六月十四日、日本輸出莫大小工業組合聯合會京都檢査所を母體として明石國助、高井得一兩氏の發起盡瘁に依りて設立せられ、以來、京都府一圓の地區に於ける帽子を除く莫大小製造業者を以て組合を組織し、竪メリヤス、毛メリヤス、軍手靴下、シール等の四部門に分ちて內地向メリヤス統制會社の買受製品の共同販賣を爲すを業務となし、幹部の獻身的指導下に全組合員、戮力協心、常に步調を合せて斯業の發展進步を圖り、其の功業の顯著なるは實に讚嘆に値するものがある。而して現在所屬組合員は八十名、首腦部には理事長片山文太氏を始め、理事明石國助氏、同岩井盛次氏、同平野義藏氏、同林藤吉氏、同長島吉之助、書記長田村靜男氏等の業界錚々たる人材を網羅し、國策街道に一路邁進を續けるところ、將來の一段なる發展伸張は期して待つべきであらう。

因に理事長片山文太氏は和歌山縣の出身、明治二十四年十月二日の生誕にして慶大理財科を卒業後、大阪成器商業に敎鞭を執りしが、大正八年、實業界に雄志を馳せて鐘紡兵庫支店に入り、爾來同社の各工場に歷勤、昭和十四年、遂に山梨工場長に昇進して今日に及び、現に日本輸出人造絹織物工業組合聯合會協議員、京都輸出人絹織物工業組合理事、其他の要職に在りて貢獻寄與すること多く、其の聲望隆々として業界に斷然重きをなしてゐる。

京都製帽工業組合理事長

八橋半兵衛氏

組合事務所 京都市室町五條上ル
電話下一六五二番

從來京阪神地方に於ける製帽業者は統一的組織を有せず、爲に戰時經濟下に原材料配給の統制せられるや、轉廢業者續出の樣相を呈するに至つた。此點深く顧る所あり、且つ同業者の共存共榮を顧ふの念切々たりし八橋半兵衛氏は、卒先奔走、現組合の設立に努力を致せる結果、落合、中路、關口の諸氏と共に發起人となり、昭和十四年六月、第一回設立總會を開き、爾後協議を重ねること數回の後、翌十五年一月認可を受けて當組合の誕生を見るに及んだ。而して京都府一圓の地區內に於て、學生帽を主體となし軍帽製造の引受を爲す業者を以て組合を組織し、現在組合員數十餘名、其の規模敢て大ならずと雖も、設立以來、着々機構を整備し業績を高揚し、殊に理事長八橋氏を始め、副理事長大塚四郎氏、理事柴田慶藏氏他五氏を首腦部とし一糸亂れざる統制指導下に全組合員擧固なる結束を保ち、燃ゆるが如き產業報國の赤心を披瀝しつゝ一路邁進を續ける有樣は、寔に他組合の範とするに足るものがある。因に理事長八橋氏は、明治十三年大阪市に生れ、小學校卒業後父業たる帽子小賣商に從事し、日露戰役勃發するや、勇躍從軍、勳八等に叙せられ、其後現所に帽子製造販賣業を開始し、以來拮据經營克く今日の大を致せる斯界有數の偉材であ

り、現に京都帽子小賣商業組合理事長、京都服裝雜貨小賣商組合部長、百貨サービス社長等の要職を兼ねて、挺身貢獻、其の功勞は多大なるものがある。

京都手藝裁縫具洋裝材料卸商業組合

京都市中京區中町通竹屋町上ル
電話 上三一六二一番

當組合は戰時體制下の國策に順應し、手藝裁縫殺材用品の需給を適正ならしむべく、現理事たる林、中井、多田の諸氏が創立發起人となりて、昭和十五年八月、手藝裁縫用具、洋裝材料の各業者の贊同を得て設立せられ、同年十二月四日を以て認可を受けたるもの、其の業務とする處は組合員を營業種目に依り一部手藝材料、二部裁縫用具、三部洋裝材料の三部門に分ち、各部門より理事各一名を選任して、各部に於ける營業品並に原料の共同購入、及び其の分配、或は手持商品の交換等を行ふにあり、創立以來日尚ほ淺しと雖も着々成果を擧げ、而も益々充實發展の一路を辿りつゝあるは偉とすべきであらう。

而して組合員數は現在五十餘名、その資格は京都一圓の地區内に於て手藝裁縫具及び洋裝材料の卸賣を爲すものにして、出資金額は一口百圓とされてゐる。尚ほ役員は理事長林英三氏、理事一部多田清三郎氏、同二部中井清太郎氏、同三部林外三氏、其他六名及び書記長奥村進氏等の斯界錚々たる人材を以て堅められ、其の卓越せる統制指導下に全組合員一致協力、克く職分奉公を實踐すると同時に共同の利福增進に邁進して間然する處がない。

因に理事長林英三氏は明治二十三年二月十七日の出生、夙に京都一中を卒業するや、家業たる毛絲卸商を繼承し、奮鬪努力、益々業運を盛大ならしめ、更に國産カタン絲の海外販路を開拓して成功を收めたる功勞者であり、一方綿縫絲、手藝諸材料の卸商を營む業界の重鎭である。

京都寫眞製版工業組合

事務所 京都市中京區河原町二條上ル清水町
電話上六五五七番

昭和十四年九月六日に設立以來、京都府一圓を地區として有力なる寫眞製版、自家用印刷並にコロタイプ業者を打つて一丸とせる堅固なる組織の下に、經濟新體制に即應しつゝ主要原料の共同購入及び其の配給を主要業務として着々實績を擧げ、組合員の福利增進を圖ると共に斯業の健全なる發展に盡しつゝある京都寫眞製版工業組合は、理事長山下豊美氏を始め、專務理事橋野才一郎氏、理事鈴木直枝氏、同滝田儀一氏、同中島泰之助氏、同小森長文氏、同黑山嘉一氏、書記長福井德介氏等、業界屈指の人材を役員に擁して充實せる人的要素を謳はれてゐる。而して其の間然する處なき指導統制下に全組合員、戮力協心、克く國策の指示する所に從ひ、欣然として各自の業務に勵精を累ね、新時代印刷文化の一部門を擔當して職域奉公に邁進を續く。現在組合員數二十六名、出資金は貳萬五千圓、但し一口金五拾圓五百口とし、拂込は壹萬壹千貳百五拾圓、一口に付貳拾貳圓五拾錢の割にして、

山下豊美

尚ほ配當金を以て未拂込金に充當する事を規定さる。因に理事長山下豊美氏は京都印刷工業組合總代を兼ねる斯界の重鎭にして、識見手腕の超凡なるは論を俟たない。氏は明治十三年七月四日、東京市本郷湯島三等郵便局長たりし父君の許に生れ、學業を卒へるや局長代理たること暫時、同四十四年入洛獨立して寫眞製版業を營み、以來拮据經營、遂に今日の盛業を獲得せる立志奮鬪傳の偉材、銅駝學區會議長、教育贊助會幹事等を歷任して名望隆々たるものがある。蓋し氏の如きこそ新體制下に不可缺なる逸材とも云ふべし。

青森通運株式會社

社長 小田桐政信氏
副社長 田中敬三氏
專務取締役 鈴木武氏
常務取締役 松尾福次郎氏
青森市驛前

人事百般年を逐ふて多岐多端に赴くは自然の理にして、從つて貨物の移動頻繁となり、之れが運輸機關の整備を欲求するは之れまた必然的の歸結である。かゝる情勢に適應すべく昭和十五年十二月鐵道省に於ては驛貨物取扱運送業者の統合を行ひ、一驛一店主義の下に正確且つ迅速に運輸能力を發揮することゝなつた。東北の要衝たる青森驛に於ける青森通運株式會社は同驛の業者が運輸報國を念じて滅私大同團結して設立されたもの、現在の資本金は六拾萬圓全額拂込濟にして、其の營業とするところは鐵道運送を主として活潑なる業務を示してゐる。

而して現重役陣容を擧ぐると取締役社長として小田桐政信氏がありて一切を統率し、副社長に田中敬三氏がありて之れを扶け、專務取締役に鈴木武氏、常務取締役に松尾福次郎氏の兩氏がありて内外の業務を擔當して卓腕を振ひ、取締役としては中村正氏、伊東善五郎、中村志加一、板橋常松、沼田磯吉、田沼敬造、淡谷平藏の諸氏、監査役に廣瀨久治、林寅次郎、田村善治、朝井盛一の諸氏が列してゐる。

各重役何れも當市の有識有能の逸材のみを網羅してをり、其の内容の堅固なることは論ずるまでもなく、時局下にありて銳意運輸報國を標榜して業績目覺しきものがある。殊に小田桐社長は、當市々會議長の樞席にある偉材、又た田中副社長は商工會議所副會頭の要位にある人、以て當社の陣容の堂々たることを雄辯に物語つてゐる。

翻つて現下の我が國情を顧みるならば、對支聖戰完遂のために國家總動員制は布かれ、今や國を擧げて之れに力を合せつゝあるが、右に破邪の大義の劍を揮つて執拗なる抗日蔣政權の覆滅を期すると共に、左に建設の鍬を執りて東亞共榮圏の確立を圖るべく精進してゐる。而してこの二大聖業を達成せしむるには、銃後に於いては凡ゆる業界の部門に亙りて動員し、資源開發、生産力擴充に邁往することを必要とするが、この意味に於て運輸業界又た多事なりと云ふべく、東北の關門たる青森市に存在を謳はれる青森通運株式會社に期待するところ大なるものがある。

土木建築請負業

苅田幸三氏

八戸市鍛冶町

苅田氏は近年隆々たる業績を擧げてゐる苅田組の統帥として、青森縣の指定請負人となり、飛ぶ鳥を落すの勢威を示しつゝある土建界の覇者である。最近縣道の鋪裝工事を完成して好評を博し、新に八戸市に設立の日本化學工業株式會社の工事、日本砂鐵鋼業株式會社八戸工場の建設にも關係し何れも苅田組の優秀施工力を發揮してゐる。一昨年完成した八戸築港の基礎工事は殆ど七分通りは苅田組が受持つたのである。現在は八戸市役所の仕事にも染手し、業網愈々擴大して、逞ましき建設の歩みを進めてゐる。氏は明治二十一年一月生れ、今年五十四歳の男盛りである。青年時代から八戸市の草分けとも謂ふべき近藤組の先代近藤元太郎氏に就いて斯業に從事し、近藤組が請負ふてゐた當時の縣廳の仕事、海軍關係の諸工事に從事し、刻苦精勵、人一倍の

努力奮鬪を續けて成人した。殊に大湊要港部の諸工事には尊い經驗を積み、漸次天賦の俊敏果敢さを發揮して偉功を樹て、希望に輝く自信と將來を約する堅い決心を以て、大正五年に堂々と獨立の旗幟を翳して華々しく土建界に進出した。斯くて前述の如く着々と業礎を確立して、大工事を請負ひ、各方面に絶大なる信用を獲得して、今日の大を成すに至つた。氏は曩に三八土木建築請負業組合長に推され、斯業の爲に盡瘁してゐたが、昭和十五年十二月青森縣土木建築業組合の成立と共に辭し、新に縣の組合監事の要職に就いた。腕と度胸と頭腦の明敏さを併せ持つ氏が今後の一大飛躍こそ刮目に値するものがある。

漁業

角榮次郎氏

八戸市小中野町北横町

角家は加賀百萬石の領内に在りて代々漁業を營み、海國男子の意氣を見せた家柄で、氏は明治九年生れ、八戸市の旺盛なる漁業の活躍に期待を持ち、昭和四年一家を擧げて此地に移住す。現在は榮福丸三艘を所有し、其の中一艘はトロール船にして、他の二隻は鮪延縄漁業に從事し、日の出の勢で隆々たる好成績を揭げてゐる。尤も昭和十五年には船舶一艘を荒浪に呑まれ、多大の損益を蒙つたが、太つ腹の氏は不撓不屈の燃ゆるが如き闘志を以て、奇略縱横、トロール漁業に一段と力を入れて忽ちの中に損害を取り戻してしまつた。

氏のトロール漁業は一ケ年の約半歳を神奈川縣三崎町を基地として、遠く南洋方面に迄も出漁するもので、氏も亦馬を陣頭に進め、三崎町に出張して指揮采配を振つてゐる。氏は典型的の漁業家にして、豪放不屈、細事に拘泥せざるも、頭腦は頗る明晰、裁決流るゝが如き快傑で、八戸市漁業家中の偉材である。昭和六年より八戸遠洋漁業船々長協會副會長、同九年より十三年迄同會長に就任し、斯界の聲望を一身に蒐めて、努力奮闘、斯道の向上發展に貢獻する處甚大なるものがある。

殊に氏は旺なる意氣に燃えながらも信義の篤い仁俠に富む好人物で、後進の漁業家を指導誘掖する事、慈父が愛兒に臨むが如き態度である。家庭には夫人やすさんとの仲に長男末吉氏があり、之れ亦嚴父に似て、新鋭の驍將で、父業に從事して發剌たる活躍をつゞけてゐる。

愛國紙器工業株式會社々長
堀内製紙株式會社常務取締役

福田晋治氏

小石川區水川下町

戰爭は物資と人間とを無限に要求する。現在我が國は一方には飽くまで抗日蔣政權の覆滅を期すべく長期戰を繼續しつゝ、他方東亞大共榮圏の大聖業を遂行せねばならず、また世界的の新秩序建設に協力し邁往しつゝあり、軍備の充實は素より資源の開發、生産力の擴充に努めねばならぬ。從つて物資不足は忍ばねばならぬと共に、代用品工業の勃興、廢品再生産等に俟つところが大である。玆に物資不足に惱やむ現下に於て代用品工業、新興工業界に雄飛しつゝある福田晋治氏を見ることは大きな欣びである。

氏は夙に紙業界に入りて精進するところがあつたが、今日より約十年前に於て幼稚なる我が紙器工業界に着目し、大いに研究を累ね、特に紙チューブの製作に碎身粉骨、以て輸入品たる錫を主原料とするチューブの代用品たるべく防水防濕の二點に留意して苦心を傾け、遂に特殊化學塗料の發明を完成し、昭和十四年春には專賣特許を得るに至つた。

現在完成した特殊塗料は人畜には無害、紙容器類に使用して絶大の效果あり、しかも攝氏二〇〇度迄に耐え得られる優秀品である。各方面よりは稀有の代用品として絶讃を博してをり、屢々代用品展覽會、新興工業展覽會等に出品して好評を受けてゐる。

而して當初にありては愛國紙器商會と稱して昭和十三年五月二十七日海軍記念日を卜して研究的に小規模なる個人經營に一業を興したるが其後完成品の製造可能と共に業を擴張し、翌十四年九月末株式會社に改組し、名稱を愛國紙器工業株式會社と變更、自から社長の要職にありて一切を總攬し、益々優秀なる「愛國チューブ」の製造に從ひ、今や代用品工業界に斷然雄飛しつゝある。

斯くして錚々の名聲を謳はれてゐる氏は更らにキレー紙本舗たる堀内製紙株式會社にありては常務取締役に任じて縱横の才腕を發揮してゐる逸材、尙ほ東部機械製紙工業組合理事として重きをなすのみならず、脱脂綿代用品を紙加工にて完成すべく鋭意腐心中であると云ふ。

因みに氏は高知縣清水町の人、明治三十四年六月に呱々の聲を擧げ、慶應商工學校に學びたる後、專修大學經濟科を卒業、次で堀内製紙に入りて精勵、大正八年には支配人に重用され、大正十年より常務取締役の要椅に擧げられてゐる。

資性溫厚篤實にして思慮深遠、其の高邁なる識見と人格は社内外の敬慕を一身に聚めつゝある。又た趣味と　て弓道をよくし、以つて身體錬成、精神修養の資としてゐる。家庭には由紀子夫人との間に欽一君外三女を儲けて和氣堂に滿つるの感がある。戰響愈々地に木靈し、戰火天に沖するの觀ある現今非常時局の中に在りて氏の如き人材の活躍こそ待望するや切なるものがある。

合資會社東京弗酸製造所代表者

彦坂一理氏

東京市城東區北砂町六ノ五一
電話本所五九七番

古來、發明發見が人類社會の福祉增進に貢獻せる功績の偉大なるは贅言を要せざるべく、殊に世界新秩序の建設に邁進する現時局下、物的資源の開發增産に寄與する各種發明の奬勵せらるゝは當然の要求にして、我が彦坂理一氏の如きは、夙に之が研究を主眼として敢て實業家たらず、其の苦心完成の結晶を逐次世に出し、其の功勞尠からざる偉材の士である。

氏は明治二十年九月二日、愛知縣を搖籃の地として產聲を擧げ、父君を平右衛門氏と稱して其の五男、夙に聰明穎智を以て出籠の譽れ高く、前途を囑望さるゝこと厚きものがあつた。卽ち學序を經て京都帝大理科に入り、切磋琢磨、優秀なる成績を贏ち得て、大正五年に卒業せる秀才であり、卒業後は東京鋼材株式會社技師として勤務する二ケ年、克く敏腕を發揮して令名嘖々たりしが、在學中恩師高藤大吉博士の講義に於て、日本に無靈藏に賦存する砂鐵と、その精錬法を研究すれば、完成の曉には充分採算もとれ、且つ良質の鐵を得らるゝとの敎へを享けたるに鑑み、一念發起、同社を辭して專ら該精錬法の研究に沒頭するに至つた。爾來二十有餘年、孜々として撓まず鋭意目的貫徹に邁進せる結果、その附隨的成果として弗酸製造の研究を完成し、玆に昭和十四年、世界に誇るべき砂鐵の精錬法を發見、以て特許を得ると共に商工省の多大なる後援の下に、近く之が事業化に乘り出すべく着々準備を進めてゐるが、其の發表こそ本邦工業界の一分野に一大センセーションを卷き起すべく、各方面より期待さるゝこと絶大なるものがある。尙ほ氏は該研究の副產物として火山灰よりアルミニュームを製造する方法をも發見し、之又特許申請中にして其の事業化を見れば、アルミニュームの價格も十分の一位に低下すると聞く。斯の如く戰時下に於ける重要必需品の新製法に鑛骨研鑽の努力を注ぎ、着々效果を具現しつゝある氏の功勞こそ、蓋し偉且つ大なりと云ふべきであらう。

而して其の經營に係る合資會社東京弗酸製造所は、設立以來逐日業績を擧げて堂固不撓

の基礎を築きしは勿論、殊に經營の主要目的とする所が前記の如く研究達成に重點を置くところ、其の存在は燦として異彩を發してゐる。

因に氏は資性重厚にして剛毅、堂々たる體軀に藏する意氣と熱は凝つて不撓の研究心となり、百折屈せず、千挫撓ゆまず、營々として科學報國に邁進を續けるところ、その圓熟せる思慮と高邁なる識見加ふるに崇高なる人格と相俟つて斯界の信望を得ること厚く、偉業の達成と共に令名愈々高きものがある。家庭には内助の功多き智子夫人（福島女子師範卒）との間に、長男京一君、二男龍本君、三男肖理君、長女信子孃等を擁して一家團欒、春風駘蕩たる觀を呈してゐる。尙ほ氏は天體研究、讀書を趣味とす。

長谷川工場主

長谷川昌藏氏

東京市京橋區月島西河岸通六ノ八

確乎不動の信念と超凡の手腕、加ふるに努力奮鬪を以て見事初志を貫徹し、今や帝都工業界の一分野に赫々たる功績を謳はるゝのみならず、一片報効の丹心、燃ゆるが如きところ、夙に社會公共に奉仕して獻替怠らず、其の功績燦として永代不滅なる我が長谷川昌藏氏の如きこそ、蓋し新體制下に必須不可缺なる重要人的資源の一と稱すべきであらう。

氏は風光明媚を誇る信州小諸の出身、明治九年九月四日を以て呱々の聲を擧げ、其の生家は小諸藩の士族にして同地方屈指の舊家なりしも、幼にして聰明穎悟、頗る前途を囑望されし氏は、長ずるや慧眼よく工業界の將來を洞察し、決然業界に身を投じて鑄造技術の研磨に精進すること數星霜、生來の卓才は早くも其の技能を自家藥籠中のものとし、玆に明治三十九年、桑逢の志已まんとして已む能はず、敢然上京して長谷川工場を開設するに至つた。爾來、不退轉の勇を鼓して凡ゆる困難を突破しつゝ、拮据經營、着々業運を進展せしめ、遂に今日の赫々たる業績を謳はるゝに及んだが、其間に於ける技術の向上、製品の改善に對する苦心研究は寔に涙ぐましきものがあり、今や第一工場鑄造部を月島通八丁目に、第二工場機械部を同西仲通九丁目に、又第三工場鑄造部を蒲田區羽田町に設けて完璧の生産設備を備え、技術性の優秀卓越せると相俟つて、其の製品は規格嚴密、性能優秀なること斷然他所製品を凌駕し、各方面需要界の絶讃好評を博してゐる。されば信望隆々として高く、苟くも斯界に一隻眼を有するものにして、當工場を知らざるはなしと稱するも敢て過言に非ざる程である。斯くて帝都鐵工界に驥足を伸ばせる氏は、又鄕里に於ては小諸鐵工株式會社々長となり、鋭意工業報國に邁進する一方、其の人物手腕の超凡なるところ、夙に京橋區商工信用組合理事長、京橋區學務委員、月島警防團長、京橋區月島方面委員長、京橋區九之部聯合町會長、京橋區月島二號地町會長、東京市土地評價委員、其他多數の公職に推されて、至誠一貫、能く自治の發達、公共の福利增進に獻替して功勞甚大を極め、同區民の恩人として尊敬欽慕の的とされてゐる。蓋し氏の如きは以和爲貴の精神を根幹とし、常に博愛衆に及ぼすの崇高なる理想を實現、以て八紘一宇の大精神發揚に無言の實行を展開する稀有の篤行家と稱すべく、その人格、粹然として鹿表に拔んで、德望四隣に洽きは、敢て贅言を要せざるところであらう。因に令閨も亦熾烈なる公共心を有して、夙に國防、愛國兩婦人會に關與し、その幹部として貢獻する外、各種の婦人團體の役員として活躍を續け、令名嘖々たるものがある。而して其間に三男一女を擧げ、二男昌雄氏は機械工場長に、三男昌吉氏は鑄造部支配人に夫々就任し、克く父君を輔佐して敏腕の譽れ高く、尙ほ長男昌信氏は今次事變に應召せられて上海戰鬪に參加し、勇躍奮戰、名譽の戰死を遂げたる護國の勇士であり、其功に依り陸軍伍長に任官し、功七級金鵄勳章、勳八等を賜りたる武勳赫々の士である。

中央佛教會常務理事常圓寺住職

柴田一能師

東京市淀橋區柏木一ノ一〇九
電話淀橋一四一二番

佛教の慈愛眞境を說きて社會教化の實を擧げるは、素より佛教界に身を置く者の本分とするところ、殊に世界の新秩序を目指して擧國一致の邁進を續ける超非常時局に於て、之が使命の愈々重大化せるは、玆に贅言を要せざる處にして、看經捻珠をのみ事とするが如き僧門の徒は排斥せらるべきであらう。

我が柴田一能師は帝都城西の一法城、淀橋區柏木の常圓寺に住職として臨み、その崇高なる人格と深遠なる造詣、加ふる佛理に透徹せる明智と相俟つて、多數檀家の尊崇信賴を聚めるのみならず、更に財團法人中央佛教會常務理事、並に佛教と時局同志會專務理事の要職に在りて、眞摯敢鬪、克く斯界の新體制確立に貢獻し、其の功績燦として光芒を發する慈眼鐵腸の名僧知識である。

抑も師は明治六年十一月十日、丹後宮津に呱々の聲を擧げ、夙に佛門に歸依すること厚く、長ずるや日蓮宗の傑僧、及川眞能師に就きて修養を重ね、遂に悟道の奥義に達するに至つた。而して其間、和歌山中學校を經て東京明治學院に入るや、卓然同輩を拔きて優秀なる成績を贏ち得、その前途を大いに囑望されたものである。されば同三十四年、日本最初の日蓮宗海外留學生たるの榮譽を擔ひて米國ユール大學に學び、切磋琢磨、只管世界崇教界の新知識を吸收し、マスター・オブ・アーツの學位を得て歸朝す。是實に師が稀有の俊才たるを立證するものにして、越えて同三十七年四月一日には、立正大學の前身たる日蓮宗大學林を創設し、以來その教職に在りて孜々として教へ、淳々として說き、多數學生の尊敬欽慕を一身に聚むるかの觀があつた。即ち同大學林の教頭として青年佛徒の育成に獻身的努力を捧ぐること多年、更に慶應大學教授を兼ねて學德隆々宗門を風靡するが如く、其の偉名は光芒陸離として教界に輝くに及んだ。

而も一方、日清日露の兩役に際しては勇躍出征、砲煙彈雨の下に赫々たる武勳を樹て、勳七等を賜りたる盡忠報國の勇士であり、又夙に柔道に精勵しては五段の免許を獲得せる猛者であるところ、名實共に文武兼備の斯界稀に見る快僧として、その一擧手一投足は斯界注目の的たらざるなく、從つて佛教界に一隻眼を有するものにして、師の高名を知らざるものは殆ど皆無と稱するも敢て過言ではない。

殊に前佛教青年會聯盟理事長として青年間に博する聲望は斷然他の追隨を許さず、加ふるに前記の如く中央佛教會常務理事、或は佛教と時局同志會常務理事に就任し、烈々たる報國の赤誠を披瀝しつゝ、實踐躬行、克く非常時佛教界の指導的役割を演ずるあたり、恰も日蓮上人の再來を偲ばしめるものがある。尙ほ師は支那大陸に巡錫せること數回、その高邁なる識見と滅私奉公の精神は、玲瓏たる人格と共に愈々光輝を增し、戰時下佛教界に缺く可らざる存在を謳はれてゐる。

淺草製靴工業組合理事長
ニシキ製靴株式會社々長

澤村虎治郎氏

東京市淺草區猿若町一ノ三四
電話淺草四四六三番

努力成功傳中の奮鬪家を東都製靴業界に求め、その磐槿錯節を切り拓きたる踏履を叙せんとすれば、必ずしも類例の乏しきを嘆ぜずと雖も、拮据經營、克く自家の業運を隆昌盛大ならしめたるのみならず、出でては業界全般の向上發展を圖り、更に社會公共に奉仕して功勞甚大なる滅私奉公の實踐者、即ち我が澤村虎治郎氏の如き偉材に至りては、恰も曉天の星の如く寥々として容易に求め難きところであらう。

氏が廣島縣を搖籃の地として呱々の聲を擧げたるは明治九年の事に屬し、その天性頗る聰明穎悟、而も勃然たる覇氣を藏して實業界

進出の機會を窺ふこと幾春秋、斯くて奮然上京せる後、第一次歐洲大戰の酣なる大正十五年の頃に、服裝文化の洋風化と共に製靴業の將來有望なるに着眼するや、玆に一念發起、男子畢生の事業として同業を選び、その第一段階として製靴技術並に生産手段の研究に着手するに至つた。是れ實に氏が今日の大成を招來するの濫觴にして、以來刻苦研鑽、營々たる努力を傾けて毫も撓まざる結果、遂に本格的營業の確信を得るに及び、大正九年、始めて製靴問屋の看板を掲げたものである。

而して其後に於ける奮闘は實に目覺しく、常に優秀品の製造と販路の開拓、且つ信用の扶殖に挺身して、千挫屈せず勇往邁進し、着々業容を擴大しつゝ、遂に全國有數の製靴問屋に發展せしめたが、昭和十五年の春季、新體制に卽應して益々雄飛發展を顯現すべく組織を改めてニシキ製靴株式會社を設立し、爾來、同社の社長として偉名赫々たる一方、その高邁なる識見、卓越せる手腕、加ふるに崇高なる人格の然らしむるところ、淺草製靴工業組合理事長の樞椅に推され、儼然重きをなしてゐる。華し業界に於ける氏の存在こそ、一點燦として光芒を發する巨星にも例ふべく、業運の盛大あるは贅言の必要がない。

斯くの如く不退轉の信念を以て卓腕を充分に發揮し克く斯界の優位を確保するに至つた氏は、また烈々たる公共奉仕の赤誠に燃え、夙に各種公職に就任して獻身奔走を怠らず、昭々たる成果を謳はれつゝある篤行の人材、稀に見る人望家でもある。卽ち昭和五年以來二期に亙りて淺草區會議員たりしを始め、所得調査委員たること三期及び前猿若町會長、現同町會顧問として、至誠一貫、自治の進展、銃後の固めに貢獻し、業界の長老たると共に區内屈指の德望家として令聞廣譽愈々洽きものがある。

責性溫厚にして篤實、而も卓絶俊異、獨立不羈の人物であり、その渾然玉成されたる人格は皓々乎として尙ふべからず、正に衆庶の指導者として間然する所がない。因に令閨あさ子夫人は溫良貞節、內助の加極めて多く、長男悌三氏は現にニシキ製靴會社專務取締役の要席に在り、少壯有爲、稀有の高足として前途の大成を期待されてゐる。

澁田特許計理事務所
辯理士計理士
澁田清一氏
事務所　東京市芝區琴平町三七喜多ビル
電話　芝三一〇一番
自宅　同市芝區明舟町十

文化の發展、産業の興隆と相俟つて各種特許事務及び會計事務の繁雜輻輳に赴くは當然の歸趨にして、殊に國家總力戰の下に高度國防國家建設に邁進しつゝある現時局下、工業界の驚異的躍進と共に斯界の繁忙も亦、破天荒の盛況を具現しつゝあるは、敢て敞々の言を要せざる所であらう。而して文化の淵叢、産業の中心地たる帝都には、素より幾多の特許計理事務所あり、各々特長を發揮し、容易にその薫奮を辨じ難しと雖も、多年の經驗に基きて敏速正確、然も事務取扱の親切なること斷然他所を凌駕し、嘖々たる好評を博する澁田特許計理事務所の如きは、蓋し斯界の模範的存在として推稱するに足る。

我が澁田清一氏は實に同所の主宰者にして達識敏腕の譽れ高く、且つ稀に見る人格者として斯界は固より、各方面關係先に信望絶大なる偉材の士である。

氏は熊本縣米水町に於て明治三十二年十一月二日に誕生し、その生家は新羅三郎義光の後裔、大宰博經を祖先とする同地方有數の名門舊家にして、代々有爲の人材を輩出す。氏も亦その例に洩れず、幼にして怜悧發明、頗る頭腦の明晰を謳はれ、夙に前途の大成を期待されたものである。斯くて優秀なる成績を以て鄕黌を卒へるや、青雲の志已み難く、大正十年、決然笈を負ひて上京し、日本大學經濟科に入りて螢雪の功を積み、同十四年卒業せる後、昭和二年、會計士として會計事務に從事し、玆に今日の名聲を贏ち得る第一歩を踏み出すに至つた。爾來、孜々として精勵、營々として研究を重ね、會計事務百般に通曉すると共に着々信用を衆め、越えて昭和六年には辯理士試驗に見事合格、其間昭和二年計理士法施行せらるゝや、計理士として引續き會計事務に當りしを以て、特許、計理の兩部門に亙りて事務取扱を爲すに及び、依賴件數は果然增加し、發展又發展、遂に現在の如き盛況を謳はるゝに至つた。而して其の事務取扱要項に揭ぐるところは、

一、特許、實用新案、意匠登錄、商標登錄の出願、審判、出訴、並に商號登記の代理及び調査鑑定、其他特許商標及び商號に關する事務一般。

一、會計の品査、調査、鑑定、證明、整理、顧問。

一、會社法人並に組合の設立、組織變更、合併、買收、解散、清算、並に破産、和解、整理等の手續、其他民商事に關する經理事務一般。

一、會計、帳簿組織の立案、改良、記帳整理及び指導。

一、稅務の相談、調査、稅務署提出書類、決算報告書類の作製及指導、並に代理交渉の事務。

一、企業の整理更新、不正經理の防止及經營指導等の多岐多端に亙り、其の依賴に應ずる練達堪能の手腕を以て、如何なる難問題と雖も處理流るゝが如く、明快にして、眞に斯界屈指の偉材たる面目を發揮してゐる。されば崇高なる人格と相俟つて工業所有權出願種別取扱委員、特許法規改正委員會委員等に推され、或は滿洲國特許法及び商標法の制定に辯理士法會側委員として參畫する等、其の功績は沒す可からざるものがあり、又、「特許小話」「會社の話」等の著作がある

大日本婦人聯合會常務理事
中野萬龜女史
東京市豐島區目白二ノ一五六八

嘗ては女性の生命は家庭内にのみ限られてゐたかの感が深い。主婦としての道德も美德もその點にのみ認められてゐた。卽ち結婚を條件として一家の主婦となる。それが女性の唯一の存在的條件であり、また使命であつた。而して夫々貞淑であり、子女を儲けて賢母となる。このことが女性の唯一の而して最高の美德と稱されてゐた。

勿論、今日に於ても賢母として、良妻としてあることに女性の美德を認められてゐることに變りはなく、多年美德とされてゐる此の社會的觀念、婦人に對する社會的觀念は、多年の女性から律せられたものであり、容易に變るものではないが、今日に於てはこの婦人の美德以外に社會的に多大の關與を有するに至つた。洵に多岐多端に亙る現段階に於ては婦人も亦に良妻賢母であると云ふのみではなく、社會人としても大いに活躍すべきであらう。

其の代表的存在として我が中野萬龜女史を見るは大なる欣びである。女史は滅私奉公を以て念願とする烈々なる至誠愛國の熱情を抱き、三條西信子女史を主盟とする大日本婦人聯合會にありて常務理事の要席に擧げられ、日本婦人なるものゝ銃後の務めを完うすべく全國多數會員の指導に誠心誠意を披瀝しつゝある。而して銃後婦人團體統合の機至るや推されて委員の樞位にある、今後の活躍を俟つや大である。

長井商會主
長井繁一
東京市麻布區材木町十四
電話　赤坂四四九七番

營業の眞價は不合理なる利潤を貪ることなく、相當せる價格を以つて之れを汎く販賣するにある。斯の如くしてこそ信用自づから現はれ、業務自づから繁榮す。勿論、努力と勤勉は必要なるも、其の努力を合理的に活用し得て以つて他を利し、自己も亦益するが故に始めて營業の眞價を發揮したるものと云ふべく、此の點に於て成功したるは長井商會を統率する長井繁一氏である。

氏は明治二十六年八月二十六日を以つて愛

媛縣西條町に呱々の聲を擧ぐ。夙に進取の氣象に富み、帝都工業界雄飛勃々たるものがあり、上京以來刻苦精勵、よく斯業の眞諦を究めるに至つた。かくて遞信省電氣試驗所及び東京電燈株式會社、日本鉛管製造所主任技師等を歷任し、至誠至勤、只管自己の責務を遂行して名聲を謳はれしが、大正三年より獨立自營を念じて現所に長井商會を興し、電氣工事電氣諸機械販賣に從事し、孜々として精進努力年を累ねるごとに業運の伸展を圖り、今日にありては支店出張所を水戸市、横須賀市、新居濱市に設けて不動の地位を占め令名嘖々たるものがある。

而して陸海軍關係はじめ諸官廳の御用を主とし、又近衞家、西園寺家、住友家等の電氣工事關係の囑託たるの光榮を擔つてゐる。尙氏は電氣事業主任技術者の認可を受けてゐることに依つても有數の技術者たることが窺へる。

新大郷組
大郷房次郎氏

東京市瀧野川區西ケ原一三三五
電話王子二一〇二番

隣保親善、共同福祉を增進するため、一致協力以つて公的生活を圖るため、自から繁忙なる町會長をはじめ警防團役員、在鄕軍人會分會幹部等多くの公私の要職にあつて東奔西走、獻身的の盡瘁をなして信望隆々、令名を謳はれてゐる人に大郷房次郎氏がある。

氏は明治二十六年の出生、夙に京北中學に學び、更らに工手學校を卒業するや土木建築業界に身を投じ、帝都の雄大郷組に於て活躍し、次で昭和六年二月八日初午の日をトして獨立、玆に新大郷組を創業し、今日の大を築いた逸材、之れより先、國家の干城として日獨戰に參加、武勳赫々たるものがあつた。

今や修身齊家、悠々たる境にありて金魚飼育、畜犬等に親しみつゝあり、庭内に闘鑄飼育池を設け、其の飼育するものは業者の驚嘆する、優秀なものである。殊に久邇宮殿下に「闘鑄に就いて」御說明申上ぐるの光榮を擔ひ金魚に關する放送を屢々行ひ、また「我輩は金魚である」の著がある。尙、蓍犬はエヤーデルテリヤ種を專らとし、現飼育のものは日本最初のチャンピオンNCHの稱號を獲得した逸材である。

又俳句、川柳をよくする等氏の情操豊かなる半面を知るべく、しかも俠骨よく弱者のために力を致すことを惜しまざる處蹇に當代の偉丈夫と云ふべし。蓋し氏の如きこそ偉材中の偉材と稱すべきなり。

自働車修繕業
山本磯治氏

東京市下谷區坂本町一丁目六

偉大なる事業、偉大なる人物には常に大なる熱誠努力が伴つてゐることは明白なるところ、實に熱誠と努力なくして何事も成功の彼岸に到達することは不可能と云へやう。古來より「努めて倦まざるものに幸福は至る」とは正に至言にして、不退轉の努力熱誠に加ふるに時流の嚮ふところを推察するの明知こそは成功の要務であると云へやう。

其の好き例を我が山本磯治氏に見られる。氏は夙に自働車工業の將來性あるを認識して斯界に身を投じ、刻苦精勵すること幾星霜、其の間不撓不屈の精進をもつて業を修得し、獨立の機を把握するや現所に於て創業した。爾來努力をもつて着々として業礎をかため、今日にありては業運隆々たるものがある。

しかも身を修め家を齊へるや更らに力を公私に致すことを忘れず、同業組合にありては常務理事の重椅に推されて業者福祉增進に縱横の活躍をなしつゝあり、又町會其の他公私の顯職にありて奔走する偉材である。資性、篤實にして寛宏、人格高潔にして頭腦明敏、よく時代の趨勢を洞察する一家言を有してゐる。今や大東亞共榮圏確立をはかるべく國家總力を發揮するに際し、氏の如き中堅的分子に期待するや切なるものがある。

東洋麻絲紡績株式會社

本社　東京市麴町區丸之內三ノ四（有樂館）

營業所　東京・三原・京城

工場　廣島縣三原市・滋賀縣彦根市・滋賀縣能登川驛西

日本鋼材聯合會

‖丸之內鐵鋼會內館‖

日本鐵鋼製品工業組合聯合會

專務理事　太田垣富三郎

東京市麴區內幸町二ノ三・幸ビル

電話銀座(57)五七九五番(四)

日本内燃機株式會社

東京市蒲田區古市町一七七一番地
電話大森代表八七七一番——(五)

東京人造絹糸株式會社

取締役會長　町田德之助氏
取締役社長　下郷豐彦氏
常務取締役　渡邊定二氏

東京市日本橋區大傳馬町二ノ一
電話浪花一二九一—一二九四・五五三番

穴居して木の實を食ひ、且つ木の葉を纏つてゐた「衣食住」の原始的形態は、時代と環境と人間生活の進化に相應して、夫々の發展を示したが、「衣」に於ては棉或は麻を以つて織物とする方法が發明されたのである。續いて、蠶を媒體として桑から絹を取る方法が案出され、更らに植物纖維に代つて動物纖維の利用が發見されるに至つて、衣服資料としての天然纖維は一應其の使命を完了したかの感があつた。

然るにこの天然纖維の泰平の夢を破つたものは、十九世紀の半ばに於て發明された人造纖維の出現である。即ち木材パルプを原料とする人絹は、製造開始以來僅かに五十年にして異常な躍進を遂げ、我が國に於ても既に生糸を壓倒し、綿糸羊毛等の領域に進出したが、更らに新時代の寵兒たるステープル、フアイバーの出現は近代化學が齎らした驚異的產物で、之れら人造纖維の發達は愈々天然纖維を侵蝕しつゝある。

今や我が國の人絹は世界の最高峰として全世界を席捲し、其の質量共に先進各國を凌駕し、世界の覇者たる今日の地位に達し、次でステープル、フアイバーも亦經濟國防の精鋭として世界的發達を示してゐるのは慥かに化學日本の眞價を誇るに足る。

而して衣料國策の重大使命を遂行しつゝある斯業界に堅實なる業礎を以つて知られるものに、東京人造絹糸株式會社がある。

同社は日本橋區大傳馬町二丁目に本社を設置し、出張所を大阪市東區備後町二丁目野村ビル内に設けてある。製造工場を靜岡縣富士郡吉原町と、沼津市並に靜岡縣駿東郡原町の三ケ所に置いてあり、資本金一千九百五十萬圓を擁して、創立は大正十五年四月である。既に期を累ねること二十有八回に及んで不動の地位を占めてゐる。

現在の重役陣は、取締役會長として町田德之助氏が推され、取締役社長には下郷豐彦氏が擧げられ、常務取締役として渡邊定二氏があり、取締役に前川道平、大川鐵雄、小西喜兵衞、田中龜一、穴水喜三郎、町田德治氏の諸氏が列し、常任監査役に兼房重太郎氏、監査役に町田三郎、鈴木修三、北河豐次郎の三氏があり、更らに又た相談役として市橋保治郎、下郷傳平、穴水熊雄、關野喜太郎の諸氏顧問として今村奇男氏がある。而して社長はじめ重役各氏は何れも錚々たる人材にして、識見高邁產業報國の大精神の下に精進し、從業員一同も之れを體して業務に精勵するため、常に良好なる業績を擧げてゐる。

尙ほ第二十八回の營業報告に依ると、八百五十二萬五千五圓六十五錢の總收入金があり、總支出金は七百五萬一千七百十五圓四錢にして、差引百四十七萬三千二百九十圓六十一錢の總益金があり、六十萬圓の償却金を除くと、八十七萬三千二百九十圓六十一錢の當期純益金を計上してゐる。

因みに下郷社長は靜岡縣の人、明治二十八年十月の出生にして、大正六年熊本藥學專門學校を卒業した偉材の士、夙に實業界に活躍し當社の他に京都殖產、日本パルプ取締役、下郷同族監査役、仁壽生命保險評議員等として重きをなしてゐる。

永田精機株式會社

取締役社長　永田信一氏
專務取締役　永田英夫氏

東京市豐島區西巢鴨三ノ九〇八
電話大塚七二・八六八・三五九・七三四

第二次歐洲大戰の勃發進展に伴ひ、世界情勢は愈々複雜多岐を極め、我が國の國際關係にも微妙なる影響は勿論のこと、國策として唱導されつゝある支那事變處理、生產力擴充及び國內諸對策にも至大なる關聯を生じ、益々時局の重大なるを痛感されてゐる。

就中、軍備の改善、充足の一日も忽諸に附せざるは國民の齊しく要望する處にして、軍需材兵器製作を主業とするものゝ責務たるや重且つ大なるものがある。

玆に擧ぐる永田精機株式會社は夙に此の意を體し、滅私奉公の至誠を披瀝して銳意航空機部分品其他の製作に從ひ、高度の技能を發揮し、其の製品の卓越性を謳はれて、斯界に鈍々の名聲を博する輝ける存在である。

現在の製品種目は、航空機部分品、兵器並に自動車部分品をはじめ、メリヤス機械、紡織機械及び部分品、機械用銑鐵鑄物及非鐵金屬鑄物の製造、メリヤス用品の製造等多種多樣に亘り、現地に規模大なる工場を有し、益々生產力の擴充に努めてゐる。

而して現在の重役陣容を示すと、取締役社長として永田信一氏があり專務取締役に永田英夫氏があり、取締役に永田清氏、大塚肇氏、小林忠則氏が列し、監査役としては岩井豐治氏、小野連三氏、堀曉氏がありて社長を中心として一致結束を鞏固にして益々社業の進展に精進しつゝあり、其の擁する資本金は壹百五十萬圓（內未拂込七十八萬七千五百圓）であり、既に創立以來三十七年の歷史を有し、大正七年株式會社設立以來期を累ねること三十九回に及んで、確固不動の業礎を斯界に矜るものである。

抑々當社の濫觴は明治三十七年の交、本邦メリヤス業の不振を嘆きたる永田信一氏が、優秀精巧なる製造機械を生產すべく創業したものにして、其の後歐米諸國の斯業を視察したる氏は、益々業の改善を圖りて能率を高めると共に、大正七年十一月從來の個人經營を改めて株式組織となし、永田メリヤス機械株式會社と名稱を改め、自から專務取締役として活躍するところあり、營業の全面的積極化を圖つた。

然るに大正十三年財界パニックのため、當社の大株主たる髙田商會の沒落の餘波を蒙り、一時不振の狀態に沈淪したが、氏をはじめ從業員の不撓不屈の努力は着々として成果を齎らし、昭和六年以來は時代の進展に並行して其の製品種目を擴張し、航空機部分品製作に進出して新生面を開拓、爾來堅實なる營業方針の下に社業の向上を示してゐたが、昭和十三年當初より更に航空機部分品製作の擴大化を圖るべく、增資を斷行玆に一躍資本金百五十萬圓を擁するに至り、工場設備の充實と共に優秀品を生產して斯界の絕讃を博しつゝある。

尙ほ社長永田信一氏は明治十七年一月の生れ、夙に英邁にして明敏なる頭腦の持主、しかも不動の信念を抱藏するところ事業家として申分なき素質があり、又た氏を扶ける專務取締役永田英夫氏は明治三十二年十月の生れ、早大理工科に學びたる俊材、よく內外の業務を綜覽して卓腕を揮つてゐる。

株式會社　朝比奈鐵工所

取締役會長　櫻井兵五郎氏
取締役社長　朝比奈幸太郎氏
常務取締役　荒木貞亮氏

本社並三田製作所　芝區三田四國町二
電話三田三二六・三二四一・三二四六
保谷製作所　府下北多摩郡保谷村上保谷
電話（吉祥寺六一一番）（田無四九番）

國を擧げての總力戰時代とも云ふべき長期戰下にありて、最も大切なることは軍需材供給に當る直接間接の生產機構を擴充することは云ふまでもない。

玆に於て之れを中心とする幾多の新設擴張を具體化し、生產擴大を圖り、國策の要望に邁往しつゝあるが、創立以來四十有餘年の歷史を有する朝比奈鐵工所に於ても昭和十四年四月より從來の經營方針を一擲し、新たに資本金三百萬圓を擁す株式會社に改組し、益々諸施設を整備して時局に適應することゝなつたのである。

其の製品種目は、航空機々體用各部分品並に發動機部分品にして、本社に接續して三田四國町に三田製作所を設置し、又た府下北多摩郡保谷村上保谷に保谷製作所を設け、相呼應して優秀品の製作に當り、高度の能率を發揮して斷然斯界に雄飛してゐる。

而して現在の重役陣は取締役會々長に櫻井兵五郎氏を推し、取締役社長として朝比奈幸太郎氏が擧げられ、常務取締役には荒木貞亮氏があり又取締役澁谷常吉氏は保谷製作所長、取締役髙島效氏は副所長の任を帶びてをり、社長常務以下各取締役とも能く時代の重要性を認識して烈々たる產業報國の精神を發揮し、滅私奉公の至誠を以つて終始一貫、益々業運の飛躍を期しつゝある。

抑々當鐵工所の發祥は我が工業界の黎明期と云ふべき明治三十年十一月に現社長の先代たる朝比奈幸太郎氏の個人經營にて創立されたもの、一般機械並に工作用機械の製作に從事して着々地步を占め、明治三十四年には東京海軍造兵廠の指名工場となり、彈丸兵器類の加工製作に當り更らに大正二年には橫須賀海軍工廠の指名工場に採用せられ、以來專ら兵器の受註製作に全力を注いで好評を博したのであつた。

次で大正六年に中島飛行機株式會社の創立されてよりは、各種航空機々體部分品の製作加工に從事し、同社の東京製作所の設立と共に、航空機發動機部分品の製作加工に從事し、翌七年には鯉鶴海軍工廠の指名工場に、更らに同十五年には海軍經理局より航空機々體部分品及び一般兵器用具生產製造者として其の購買名簿に登錄せられ斯界に愈々聲名を馳せるに至つた。

尙ほ同年以來、石川島飛行機製作所、次で昭和三年以來、廣島海軍工廠川西航空機株式會社、川崎造船所飛行機工場、日本航空輸送株式會社等より航空機部分品の受註に接し、益々卓越した技術を發揮したが、更に昭和四年以來、中島飛行機株式會社東京製作所の壽二型及び氣化器燃料管制機を製作し、又た航空機用氣化器燃料管制機、注射喞筒嘴子其他航空機部分品製作に全力を傾注し、愈々不動の業礎を築くに至つた。

而して同十三年には保谷製作所を新設して生產擴充を圖り、次で陸軍航空本廠よりの受註に接し、又た中島飛行機武藏野製作所より氣化器受註に接し、隆々たる業勢を示すに至り、玆に株式會社に改組し愈々機構を大にして今日に及んでゐる。

日本鐵屑統制株式會社

取締役社長　保倉熊三郎氏
取締役副社長　阪口定吉氏
常務取締役　佐藤脩氏
同　秋山靜太郎氏
同　内田淺之助氏
同　岡憲市氏

東京市京橋區京橋二ノ八
電話京橋五九八一番

今次支那事變の發生を轉機に、戰爭遂行に伴ふ尨大なる物資的戰鬪力の補給を至上とする戰時體制下に入るや、軍需生産部門の擴充に並行して重要物資に對する統制が强化されるに至つたのは蓋し當然の歸趨と云へやう。而して國策に順應すべく、理想的統制機關たる幾多の統制會社の出現を見たが、之れ戰時體制下に於ける各業界の堅實なる發展を意味するものである。

玆に擧ぐる日本鐵屑統制株式會社の如きも其の一つ、創立は昭和十三年十月にして、本社を東京市京橋二丁目八に置く他、大阪營業所、小倉營業所、名古屋營業所を設けて全國的に横斷してゐるが、抱擁する指定商は現在にては次の通りである。

即ち、本社所轄區域内にありては鋼屑指定商七九、銑鐵指定商八五、特殊鋼屑指定蒐集業者二〇、大阪營業所々轄區域内にては鋼屑指定商一〇九、鐵屑指定商七一、特殊鋼屑指定蒐集業者一九、小倉營業所々轄區域内にては鋼屑指定商二〇、鐵屑指定商二二、特殊鋼屑指定蒐集業者一二、名古屋營業所々轄區域内にては鋼屑指定商五、鐵屑指定商一六、特殊鋼屑指定蒐集業者九を算へてゐる。

而して當社は、飽くまで國策的統制會社たる建前を持して堅實なる營業方針の下にあるが、試みに第三回の昭和十四年下半期（自昭和十四年十月至昭和十五年三月）に於ける損益計算書に依ると、營業收益六十五萬八百四十九圓九錢、其他を合しての利益七十萬六千五百三圓五十二錢を擧げ、損失としては營業費二十七萬二千三百三十一圓三十六錢、其他を合して四十二萬六千三百三十一圓三十六錢が計上され、差引當期利益金二十八萬百七十二圓十六錢である。

而して利益金處分を見ると、當期純益金二十八萬百七十二圓十六錢に前期繰越金三萬九千六百五十七圓十五錢を加へて、三十一萬九千八百二十九圓三十一錢となり、之れの内譯は法定積立金二萬圓、別途積立金十五萬圓、社員退職給與基金一萬二千圓、株主配當七萬圓、年七分役員賞與金二萬七千五百圓、後期繰越金四萬三百二十九圓餘となつてゐる。

而して鋼屑の集荷量は季節的影響のため、出廻り減少の地方もあり、其他種々の事情に依り前期に比し幾分の減少を示し、鐵屑及び特殊鋼屑は本期に入り、統制漸次其の緒につき集荷量逐次增加すると共に、配給狀況も亦相當進展を見るに至つてゐるが、上叙の如く營業收益は六十五萬圓餘にして前期より五十萬餘圓を減してゐる。

尙ほ當社の重役陣を擧ぐると、取締役社長として保倉熊三郎氏があり取締役副社長に阪口定吉氏、常務取締役としては佐藤脩、秋山靜太郎、内田淺之助、岡憲市の諸氏、取締役には岡田菊治郎、山口英一、岸本金三郎、宮内竹次郎、河野參次、吉田由松、津田勝五郎、草野惣市の諸氏常任監査役に鈴木德五郎氏、監査役に大辻政市、塚崎茂平氏等があるが何れも錚々の逸材、よく社業に精勵しつゝある。

第二鋼材販賣株式會社

取締役社長　古井保太郎氏
取締役　阿部雅雄氏
同　稲山嘉寛氏
同　川崎芳熊氏
同　高橋達之助氏
同　田中德松氏
同　中山半氏
同　兒玉俊二郎氏
同　茶谷順次氏

東京市麴町區丸ノ内二ノ二〇
鐵鋼會館内
電話丸ノ内四〇一三番

今次の事變は、我が日本の生産機構に對して、未曾有の變革を與へたことは何人も聞知し、或は經驗しつゝあるところである。之れは近代國家總力戰の一面を如實に立證せるものと云はねばならぬ。

所謂、物資の統制、配給の統制、消費の節約等各種の國家的政策が、整然と一糸亂れず實行せられて所期の目的を達成してゐるのは、一に我が國民の熾烈なる愛國的精神の發露に負ふところ大であるのは、敢えて玆に喋々するまでもない。

支那事變の勃發以來、旣に鐵鋼綿皮革等の統制が行なはれ、それ等の消費節約が全國的に實踐せられたのは事變の性質上、蓋し當然の國策と云へやう。就中、鐵鋼の統制は戰時下工業に密接なる關係を有する丈けに、其の影響するところは甚だ切實であり廣汎に亘つてゐるのは止むを得ないところである。

斯の如く、國策の線に沿ふ重要物資たる鐵鋼材の供給を圓滑ならしむるために設立されたものに第二鋼材販賣株式會社がある。同社は昭和十四年十一月十日を以つて設立認可あり、同年十二月一日より營業を開始したのであるが、其の主要營業とするところは、特殊鋼板、鋼板中鋼板、帶鋼等の販賣にして、戰時體制下にある業界に於いて堅實なる營業方針の下に統制配給の實踐化に努めつゝある。

而して其の重役陣容は取締役社長として古井保太郎氏を擧げ、取締役には阿部雅雄氏、稲山嘉寛氏、川崎芳熊氏、高橋達之助氏、田中德松氏中山半氏、兒玉俊二郎氏、茶谷順次氏があり、監査役として中山悅治氏反田一太氏が列してをり、又た支配人として伊勢田亨氏、部長に藤井直衛氏、庶務課長に風早儀平氏、調査課長に村上辰男氏等があるが、社長をはじめ各重役以下社員の悉くが重大なる時局を認識して、烈々たる報國の精神に燃え、鋭意社業の進展に獻身的の努力を傾注しつゝある。

翻つて現下の我が日本に於ける國際的地位を見るに、支那事變は所謂長期戰に移行して重慶政權の覆滅を期すと共に、旣に占據地域に新政府の樹立を見るに至り、玆に大東亞共榮圏確立の曙光をのぞむに及んで、國内の整備を圖るべく、新體制の成立されんとしつゝあるの秋、先づ國内の生産機關の擴大强化こそ肝要であり、それには物的にも人的にもこの未曾有の覇業を達成するに足る力强い要素を必要とするのは餘りにも明白である。

この意味からしても、斯界に堅實なる步調を示し工業界の母胎とも云ふべき鋼材販賣に從ふ當社の如きが健全なる發展を希ふこと切なるものがある。

株式會社 内田洋行

東京支店 日本橋區室町二ノ八
電話日本橋㊟・四四二三・四四二三番
東京仕入部 日本橋區室町一ノ二
電話日本橋四〇〇六番
大阪本店 大阪市東區備後町三丁目
滿・支樞要地に支店十數ヶ所

我が日本は、滿洲國を念頭より離脱して考へることは不可能である。今次の支那事變の展開を見るに及んで、所謂大陸政策と云ひ、東亞新秩序の建設と云ふも、之れが目的達成のためには、滿洲の天地をその圏内に抱擁しなければならぬ。

故に滿洲をよく理解し、否な寧ろ滿洲に進出して大陸の空氣に觸れ、彼地に於て活躍することが產業人としての重且つ大なる使命であると云へやう。其の好き例を玆に擧ぐる株式會社内田洋行に求め得られるのを欣びとする。

株式會社内田洋行は現社長たる内田憲民氏の先考小太郎氏が、領臺當時臺灣測量隊に屬して後、南滿洲鐵道株式會社に奉職したる際、將來の發展を明察するところあり、明治四十三年三月獨立して内田洋行を興し滿鐵御用商として文房具、測量製圖用器具等を營業したるに端を發してゐる。

爾來、拮据經營に努めて好調の一途を辿りて躍進し、大正四年八月大連營業部を大連市浪速町に移轉擴張し、次で大正七年五月大阪市に設けたる仕入部を本店に改め、全國的に文房具、測量機械、製圖器械其他の卸販賣を開始、大正十年十二月に至りて本據を大阪市南區堺筋に移し、

同十三年一月より東京支店を日本橋區瀨戸物町に設けて新生面を拓き、愈々業勢昂揚を來しつゝあつたが、大正十五年惜しくも小太郎氏の逝去を見たるに至つた。

玆に於て、其の遺志に基づき資本金三十萬圓の株式會社に組織を變更すると共に、社長として嗣子憲民氏が擧げられて經營の一切を統率し、專務取締役に久田忠守氏、常務取締役に實田隼一氏ありて社長を補佐し努力奮闘を累ねて益々業務の進展を齎らした。

而して昭和四年十二月大連支店を同市榮町に新築移轉、昭和七年一月奉天市春日町に支店を置き、翌八年六月新京市に支店、次で同九年九月ハルビンに支店を夫々設置したが、更らに昭和十三年に至るや三月に天津に、四月には北京に、五月には濟南に各支店を設けて、愈々大陸進出の基礎を鞏固になし、且つ又た資本金を百萬圓に增資すると共に、創業以來三十有餘年の歷史を以つて滿支樞要地に營業店舗並に工場を設け、全社員三百八十餘名は打つて一丸となり、協助共榮の實を擧げ、益々業運の振興を圖りつゝある。

而して現在にては上叙の如く、本據を大阪市東區備後町に置き、東京支店を日本橋區室町に設け、又た大陸に於ける支店としては大連、奉天鞍山、新京、ハルビン、錦州、阜新、天津、北京、濟南、張家口、上海等に置き、工場を品川、横濱、大連、奉天に設置し、仕入部を大阪市並に東京市に設けて相呼應して躍進を累ねてゐるのは偉とするに足るものがある。

其の營業課目の主なるものは測量器械、製圖器械、製圖用品、燒付器械、氣象器械、金庫保管庫類、事務用器、タイプライター、謄寫器械、計算器械、理化學器械、光學諸器械、度量衡器械其他文房具等の多種多樣に亘つてゐる。

高安合資會社

業務執行社員 高安德治郎氏

本社 東京市神田區美土代町一一
電話神田㊟・三三一九・四四六四番
營業所 大阪市東區南本町一ノ四
電話船場三二一五・四〇三五・四五三三番

今や我が國は、對支聖戰が愈々最後段階に移行すると共に、大東亞共榮圏確立の巨歩を印しつゝあり、所謂一億一心、擧國一致の體制下に國策に順應して生產能力の强化に努め、强靱なる國力を擁して鋭意之れが達成に邁進すべきであると思ふのである。

かゝる見地に立脚して、當高安合資會社の事業を點檢するに、極めて國策の示すところに準應して、戰時體制下にある我が國軍需工業の一部門として活躍し、國家に貢献寄與するところ甚だ尠なくないものがあるのは偉とするに足る。

即ち、當社の營業種目を擧げると各種織物、纖維製品、被服、附屬品軍需加工品、船舶裝飾品及び工具、バイト等であり、主として海軍各需部、海軍各工廠、海軍各航空廠及び陸軍各航空廠等をはじめ、三菱重工業其他を重なる納入先として多大の好評を博し、信頼益々高く不動の業礎を築いてゐる。

抑々同社は高安德治郎氏が大阪に於て釦甲馳業を個人經營にて創業したるに端を發し、次で明治の末葉に到り、刻苦研鑽を累ねたる軍用藥嚢地製織に成功し、之れを軍に納入して讃評を博し、更らに藥嚢紐の製造に腐心するところあり、遂に之れも成功して藥嚢地、シャルーン地と共に海軍購買名簿に登載され、爾來各種織物の陸海軍指定商となり、着々信用を築きて業績向上し、益々營業の擴大を見るに至り、大正三年合資會社を創立し、業務の刷新と工場設備の擴充を圖り、以つて時代に適應せる經營形態を備へて精進、現在ある發展を招來したものである。

其間、錢屋商會を合併して、其の業務一切を繼承し、新たに織物纖維加工場を新設し、益々陸海軍々需品の製造をなし、其の品質の優良、納期の正確等に依り絶大なる軍部の支持を受けつゝある。又た今次事變の勃發するや全社を擧げて產業報國の主念に燃え、滅私奉公の赤誠を具現し、國威の宣揚に貢献するところ大であると云はれてゐる。

曩頃までは大阪に本社を設けて一切を綜覽したるも、現在にありては昭和五年に設置されたる東京出張所を本社として機構を擴大化し、大阪を營業所として大阪市東區南本町一丁目に置き、出張所を名古屋市中區榮町三丁目明治屋ビル内（電話中三七四六番）及び小倉市馬借町（電話小倉二九一番）に設け、更らに豐橋市にも進出して當々たる陣容を示し工場は岐阜縣安八縣墨俣町（電話墨俣四〇番）に岐阜工場を東京市板橋區板橋町十丁目一五二（電話板橋九一九番）に東京工場を設け、專屬工場を靜岡愛知兩縣下に置いてある。

而して創業の偉功者高安德治郎氏を代表者とするも實際上にありては令嗣良雄氏並に英雄氏が社長の令弟九藏氏と共に内外一切の業務を擔當して卓腕を揮ひ只管優秀品の生產に努めて時局下產業報國に邁進しつゝある。

尙ほ、同社は近く百萬圓の株式會社と改組して、愈々時代と共に躍進すべく當局に許可申請中であり、恐らく本書上梓の頃に其の實現を見るとも思はれるが、同社の前途たるや期して俟つべきであらう。

株式會社　東京輕合金製作所

取締役社長　竹村弟二氏
專務取締役　三宅誠意氏

東京市大森區山王一ノ二四四六
電話大森八七七一—四番

株式會社東京輕合金製作所は既に期を累ねること二十一回の久しきに及び、其の牢固たる業礎は優秀なる製品と共に斯界に名聲を謳はれてゐる存在である。

試みに第二十一回（自昭和十四年十二月一日、至昭和十五年五月三十一日）に於ける損益計算書に依ると、製造差益金百十五萬三千九十六圓六十二錢、其他を合しての收入百十八萬二千四百九十五圓九錢を計上し支出として工場掛其他にて九十七萬五千二百六十五圓二十一錢を計上してをり、差引當期利益金として二十萬七千二百二十九圓八十八錢を算し前期繰越金と合して二十二萬八千二百九十四圓六十錢の利益があり、其の内五萬圓を資産減價償却金に充て、二萬圓を法定積立金、七萬圓を別途積立金、株式配當は五萬圓で、年壹割、壹萬三千萬圓を役員賞與金、更らに二萬五千二百九十四圓六十七錢を後期繰越金としてゐる。

而して其の使途と按配振りを具さに檢討してみるに、如何にも有效適切な方法を講じて時局柄極めて堅實第一主義をモットウとする處理方法と云はざるを得ない。之れ同社首腦部諸氏が生産能力の不足を感じつゝも極力作業を激勵し、鋭意能率の增加に努力精勵したる結果にして、工場擴張の目算立ちたる將來の發展こそ期して俟つべきものがあらう。

現在の工場は相當大規模なるも殺到する受註に對しては狹隘を告げるに至り、愈々其の擴張工事の着手も目前に迫つてゐる。夫れが竣工の曉きこそ業界に斷然覇を唱ふべきは勿論、時局下にありて軍需方面へ充分なる提供も可能となり、國防國家建設に寄與するところ大なるものがあると信じてゐる。

同社の重役陣は取締役社長として竹村弟二氏が擧げられ、專務取締役として三宅誠意氏があり、兩者の名コンビは渾然一體となりて益々事業の發展に拍車をかけてゐる。尙ほ取締役に橋本晉市郎氏、堀豐太郎氏、中原武之輔氏が列し、監査役として松本新太郎氏、岩井豐治氏の二氏が推されてゐる。而して社長はじめ、諸重役諸氏とも協心戮力して、全く異體同心、其の業務の發展に全能力を傾注しつゝある。

更らに其の製作技術に對する不斷の科學的研究は着々成果を齎らし、逐次優秀品を生産して各方面を滿足せしめてゐるのは、吾人の意を强くするところである。

現在社長の重任を双肩に擔ふは竹村弟二氏であるが、氏は明治十一年七月三十日の生れ、兵庫縣出石町の人慶二氏の次男である。夙に工業界に雄飛すべく意を決し、學序を經て東京市帝國大學機械部に學び、其間孜々として勉勵、能く斯學の蘊奥を極めて明治三十八年卒業、爾來實業界に推された逸材、曩に米國を視察して見聞を廣め、能く時代を認識する洞察力と卓拔なる經營手腕を有してゐる。しかも人物寛仁、抱擁力に大きく、且つ情に生きるの人であり、社内外から德望の父として仰がれてゐる。之れ氏を中心とする社内の協力一致が渾然化して活潑なる躍進を呼びかけてゐる所以である。

株式會社　松田ロール

取締役社長　松田春吉氏
專務取締役　伊藤祐胤氏

東京市城東區南砂町二ノ八六八
電話本所八九一・八二二・八二三番

現代の我が日本は、工業立國の國是を以つて、對支聖戰の完遂と所謂東亞共榮圏の確立とに邁進しつゝあるので、之れが貫徹を期せんには、國内に於ける生産機關の協力一致と奮起とに俟たねばならない。

かゝる意味に於て、當松田ロールの如き基礎確實なる有力なる生産機關に期待するところ甚だ大なるものがある。

抑々當社は昭和五年の交、松田鑄造所なる名稱にて業を創めたるに端を發し、次で昭和十一年一月に至り、合資會社松田ロールを創立し、更らに大々的に製鐵用機械及びロール並に諸工作用機械の製造に從事したるところ、ロール及び製鐵用機械製造並に諸工作機械製造に益々繁忙を極め、從來の設備にては狹隘を告げるに至りたるため、工場の擴張を圖るべく、昭和十三年六月株式會社松田ロールを新設するに至つた。

而して舊合資會社松田ロールを合併して、其の生命たるロール及び製鐵用機械の製造並に諸工作機械の製造に邁進し、殊に支那事變の影響を受けて繁榮を招來して日夜多忙を極め愈々鞏固なる業礎を築いてゐる。

昭和十四年七月には陸軍造兵廠技術部員石光眞俊閣下の工場視察の光榮に浴し、兩軍部より軍需品の受註下命を受けると共に、益々工場設備の狹隘を感ずるに至り、翌十五年三月資本金增加を申請して其の許可を得、諸般の設備の擴張を圖りて生産力の擴充を期しつゝある。

現在の資本金八拾萬圓にして、工場敷地五千坪、建物總坪數二千坪、施設完備せる優秀工場を擁し、製品の卓越せる點は斷然斯界の最高峰である。尙ほ主なる生産品を擧ぐると、チルドロール、セミスチール、特殊セミロール、各種製鐵用機械及切斷機、鑛山用機械、工作機械、エヤーハンマー、スチームハンマー、各プレース機械、各種旋盤、高速度鋼等に及んでゐる。

而して重役陣容は取締役社長として松田春吉氏がありて内外の一切を綜覽し、專務取締役伊藤祐胤氏は能く社長を扶けて卓腕を發揮しつゝあり、更に技術擔當者として松田春吉社長をはじめ、二瓶宗悅、池田誠衛の二氏があり、豐富なる經驗と熾烈なる研究心とを以て益々優秀品の生産に努力を致してゐる。斯樣に、松田社長伊藤專務は事業經營者として卓越せる手腕の持主であるのみではなく、技術的方面に對する研究も鋭く、所謂經營と技術の兩道を歩んで、巧みにこれを消化してゐる。更に時勢の見透しに對しても、的確に把握し當に誤らざる經營陣を敷いてゐる。かくて製品の優秀性と堅實なる營業方針とによりて、社業隆々たるものがあり、向後の發展を期待されてゐる。

又た特記に値ひすることは、産業報國の精神が經營者にも從業員にも徹底してをり、單に私利私慾のためのみでなく、戰時體制下に在る國家の消長に大なる關聯あることをよく認識してゐることであらう。

終りに主なる納入先を擧ぐると、陸軍造兵廠、東京工廠其他海陸關係をはじめ日本高周波工業、昭和特殊製鋼、理研特殊製鋼理研鋼材、理研重工業、理研壓延工業、日本電解製鐵、日本特殊鋼管、日本製鐵釜石製作所、日本鋼管、日本火工、吾嬬製鋼、特殊製鋼、東京螺子製作所、東北金屬、東京製鐵、尼崎製鋼等の民間一流會社工場である。

大平加工製紙株式會社

取締役社長　久保田壽朗氏
常務取締役　野澤作太郎氏
同　大高留雄氏
本社及工場　東京市王子區浮間町二九九
電話（大森六九一九番　赤羽三八八・三八八・三三番
神田營業所　神田區鍛冶町二ノ一〇
電話神田一八二九・三四一〇番

大平皮革紙、大平紙クロース、中等教科書用表紙、大平カバーペーパー、高級模樣紙、色ケント等を營業種目として業運隆々たる大平加工製紙株式會社は、本社及工場を王子區浮間町に神田營業所を神田區鍛冶町に、小間紙卸部を下谷區御徒町一丁目十番地に置き、名古屋支店を名古屋市西區茶屋町二丁目十六に設け、關西代理店を大阪市西區阿波座上通り三丁目二十一番地大阪大平洋紙店に設けてある。

抑々當社の發祥は、大正十二年二月神田區鍛冶町に株式會社大平洋紙店を創立し、十一月に加工場を向島區吾嬬町東四丁目に設け、教科書表紙及び其他各洋紙加工と販賣に併進し益々販路を擴張すると共に、更に昭和十一年赤羽驛北方浮間ケ原に約一萬坪を買收して、工場建築に着手し、翌十二年加工々場の移轉並に製紙工場の新設成るや大平加工製紙株式會社と改稱したものであり、資本金五十萬圓（全額拂込濟）を擁してゐる。

而して取締役社長に久保田壽朗氏があり、常務取締役として野澤作太郎氏、同じく大高留雄氏があり、野澤常務は總務部長を兼ね、大高常務は營業部長を兼ねてをり、何れも久保田社長と協力して社業の隆興に精進しつゝある。

當社の方針とするところを擧げると、大家族主義を社是として之に則り、敬仰崇祖、勤勞報國の誠心を涵養し、同時に凡ゆる困難に堪ゆる强固なる意思と協調禮和を計る溫情を養成すると共に、勤儉貯蓄を奬勵し己に一家を成す從業員に對しては、其の福祉の增進を計り、青年從業員に對しては、將來各自をして一家を建設せしむるを以て方針としてをり勞資渾然として和樂し、社業の向上發展に全力を傾注してゐる。

其の販路は我が國全國はもとより遠く臺灣、朝鮮、滿洲及び北支に進出し、教科書表紙の製造は本邦隨一と稱せられ、新製品たる大平皮革紙は皮革、クロースレザーの代用品として注文殺到し、戰時體制下にあり て時局に副ふ產業として好評を博しつゝある。

殊に大平皮革紙は布地より尙ほ皮革よりも强靱にして、特徵を擧ぐると、普通の布地また皮革、擬革に比較して問題にならぬ强靱であり、揉んで傷けず、摩擦に堪え、汚點は拭いとることが出來る等であり、この出現は代用品の寵兒にして、世界的優良品の絶讃を受けてゐる。

而して當社は殆んど社長の事業であるが、大家族主義を標榜し、從業員に對する施設待遇は完備してをり、大平朗寮と稱する寄宿舍があり、食堂、浴室、娛樂機關を具へてゐるが、之れは集團的生活を圓滿ならしめる。相互援助の精神を涵養するために遠足、團體競技を行ふ外に、野球、グランド、庭球コート、弓道場、籠球、卓球、ラヂオ其他を設備し、にある。又た青年學校を設けるのみならず、親和會、士友會を置き、更らに大平產業報國會を結成し、產業報國の實をあげてゐる。

而て勞資大調和を提唱する社長の下にありて、よく氏を扶けて精勵する野澤常務は、社長の姻戚にして、元銀行界に活躍し昭和十二年入社した逸材である。

鋼材商事株式會社

取締役社長　淺野義夫氏
取締役支配人　伊東源吾氏
東京市日本橋區通二丁目二
電話日本橋（二八〇・五三四六・五三四七）

現下の我が日本の緊張した戰時產業體制下にあつては、產業の種類如何を問はず、國家總力の消長に及ぼす影響は極めて多いのであるが、就中、各種鋼材の有する重要性に對しては敢えて喋々するまでもないが、鋼材の豐富であると否とでは、國防產業の上に於て著しい差違を生ずることは明らかである。

故に戰時體制下にありて斯業に從ふものは公益優先の建前を以つて滅私奉公の至誠を披瀝するの要があらう。

玆に記す鋼材商事株式會社は、高度の時局認識を以つて非常時日本の生命とも云ふべき各鋼材の販賣に當り、不動の業礎を持してゐる。

同社の創立は昭和十一年八月一日にして、資本金は五十萬圓（全額拂込濟）を擁し、日本鋼材販賣株式會社の指定問屋として厚鈑、薄鈑、棒鋼、縞鋼板、仕上鋼板、其他一般鋼材を販賣し、創業以來未だ年處を閱みせずと雖も順調なる業績を擧げ、斯界に其の存在を謳はれてゐる。

而して現在の主なる取引先は日立製作所、明電舍、三菱鑛業株式會社古河合名會社、三井鑛山株式會社、日本鑛業株式會社、日本曹達株式會社、三菱重工業株式會社、東洋パブコック株式會社、新潟鐵工所、函館ドック株式會社、東京石川島造船所、汽車製造株式會社、竹內鐵工所、櫻田機械製造所、東京自動車工業株式會社、王子製紙株式會社、日本ドラム鑵製作所、東洋ドラム鑵工業株式會社、中村ドラム鑵工業株式會社理化學興業株式會社、理研壓延株式會社、理研鋼材株式會社、東洋鋼材株式會社、朝日鋼材株式會社、東北振興化學株式會社、其他一流會社工場であり、以つて同社の堅實なる業礎を窺知することが出來やう。而して年商高鐵鈑二萬五千瓲、棒鋼其他五千瓲の多きに亘つてゐる。

現在の重役陣容は取締役社長として淺野財閥の雄たる淺野義夫氏を擧げ、取締役支配人として明識卓腕の士たる伊東源吾氏があり、以下取締役には市原伊三郎氏、大村正篤氏、白木武男氏、大野邦光氏、織戸健三氏が列し、常任監査役に齋藤四郎氏、監査役に大野宗太郎氏があり、何れも錚々たる人材を網羅してゐるところ、斯界に絶對的の信頼を博してゐる。

斯く整備されたる陣容を以つて斯界に雄飛しつゝある同社は、本社を上叙の如く日本橋區通り二丁目きん藤ビル內に設け、大阪出張所を大阪市大正區大正通り一丁目二十五泉尙ビル內に昭和十四年六月より置き、次で小樽出張所を小樽市色內町八丁目三十六色內ビル內に昭和十四年七月より置き、本社を中心として關西と北海道方面に進出し、極めて圓滑と迅速なる營業機能を發揮し、益々顯著なる成果を齎らしつゝある。

因みに同社の第七回（昭和十四年下期）の損益計算書をみると、當期總益金は二百十萬一千八百十七圓八十八錢にして、百五萬六千四百八十七圓四十八錢の總損金との差引四萬五千三百三十圓四十錢の利益金があり、前期繰越金を合して五萬九千四百二十圓十五錢の純利益を計上してゐる。惟ふに事業の成否は要するに經營者の協力親和に俟つ處大であり同社の社長以下重役の協和的精神に依り、益々發展を示してゐるのは欣びにたえない。

株式會社 武州鐵工所

取締役社長 松永東氏
專務取締役 山口繁氏
本社工場 川口市並木町二七八八 電話川口二三七五番
東京出張所 京橋區寶町一ノ一 東京ビル内 電話京橋七九〇八番

其の營業種目とするところは、航空機並に自動車部分品製作、化學工業用諸機械類製作、鑛山用諸機械類製作、汽罐、鐵管、タンク及び送風機、排風機、起重機並に各種コンベヤー其他諸機械設備製作並に製罐工事にして、しかも能く時代に適應したる堅實なる營業方針の下に一貫して昭々たる業績を齎らしつゝある株式會社武州鐵工所は我工業界の中堅的存在として雄飛してゐる。

同社は昭和十二年五月五日を以つて創立せられ、資本金三十萬圓（全額拂込濟）を擁し、本社並に工場を川口市並木町二七八八に設置し、東京出張所を京橋區寶町一ノ一東京ビル内に設けて、内外共に活躍目覺しきものがある。社を代表して取締役社長に松永東氏を擧げ、專務取締役として山口繁氏がありて一切を統宰してゐるが、其の工場敷地は一千二百八十坪にして、玆に設備完全なる機械工場、仕上工場、製罐板金工場等を設けて數十名の工員を擁して、鋭意優秀製品の生産に努力しつゝある。最近に於ける主なる納入先は日本製鐵株式會社、東京自動車工業株式會社、新潟鐵工所、中島飛行機株式會社、大同製鋼株式會社、岩井商店、イリス商會、東亞輸送機械工業所等の一流諸會社工場であり、以つて當鐵工所の製品の優秀なる性能あることを察知し得られるところであらう。

當所が創立以來未だ年處を閲みせずして斯界に確固たる地歩を占め、名聲を謳はれてゐる所以は實に其の製品の卓越せるに依存し、之れ首腦部諸氏の努力奮鬪はもとより能く産業報國の赤誠を吐露して獻身、從業員の指導督令に當り、私益を棄てゝ公益を重んずるところに歸因してゐるものと云へやう。

之れを要するに和戰の兩面を問はず現代は航空機自動車の時代であり、かゝる時代に於て時代に先從する航空機自動車を製作せんとせば、先づ部分品の製作技術に於ける精巧にして科學的であることが最も必要とせられる處であるが、我が武州鐵工所の製品の如きは優秀にして他に多く比肩するものなき技術の卓越性を有するのみならず、納期を正確に嚴守するところ、刻下の我が國情に照し合せて寄與する處大である。

幸ひに當所の將來の發展を祈つて已まぬ次第である。

尙ほ取締役社長の重椅にある松永東氏は、埼玉縣選出の衆議院議員にして、國政壇上に公明正大なる識見を吐露してゐる逸材、又東京市會議員たること久しく、曩きには東京市會議長の任を帶びて市政の圓滿遂行に精勵し、現に辯護士としても法曹界に重きをなしてゐる。人格高潔にして明識あり、更らに氏を扶けて直接業務を擔當する專務取締役山口繁氏は、鐵の如き信念を有する力の人であり、熱の人であり、また能く部下を愛する情の人である。從つて多くの從業員よりは心服せられ、敬仰せられて工場内は常に和氣藹々たるものがあり、自づから業勢發溯として伸展の一途を辿つてゐる。

今や時局下益々生産擴充の必要なる秋、氏の如き活動力旺盛なる新鋭の士に期待する處大である。

株式會社 阿部商店

取締役社長 阿部春吉氏
專務取締役 阿部信三氏
東京市芝區新堀川岸卅四號地
電話三田四〇六・三二九二・二二四・四二六八 三二六五・四六六八・二二四四・四二六九倉庫用

支那事變といふ大きな時代の潮流は、政治に經濟に、社會に、凡ゆる各層に亙つて組織と機構を一新し、純粹の戰時體制を整備するに至つたその結果は生産經濟の悉くを擧げて軍需化し、之れを中心とする生産力擴充は愈々高度化しつゝある。

此の秋に際し、ファイバー（板、管、棒各種、加工全般）ベークライト、日昭ライト、ハーフエライト（板、管、棒各種、型成品、粉末）、布入齒車全般、加工）エボナイト（板、管棒各種、型物加工）マイカ（各種天然マイカ、マイカペーパー、マイカプレート、マイカテープ、加工全般）ブレヌボート、レッドロープ（國産及輸入品各種）エンパイヤ（エンパイヤクロース、エンパイヤペーパー、リノテープ、エンパイヤシルク、エンパイヤチューブ）アスベストランパー、フインユペーパー、エボニー、アスベスト、ランサイト等をはじめ電氣電力用電鐵、信號用、航空機用、紡績機用、ラヂオ用、電氣工事用、土木工事用、建築化粧用の各種電氣絶縁材料全般の製造販賣並に加工を以つて業とする株式會社阿部商店の存在は輝やいてゐる。常に優秀國産はもとより高級輸入品を豐富に在庫し、各方面よりの受注に應じて業運隆々たるものがある。

抑々同店は大正十四年八月、現社長阿部春吉氏が若冠二十三歳の頃に創業したものに端を發してをり、爾來年を閲みすること十有餘星霜、其間に於ける氏の努力奮鬪は寔に目覺しきものがあり、着々として業礎を築き遂に今日あるの大を招來したのである。

而して昭和十二年二月二十一日を以つて從來の個人經營より、株式會社に改組し、益々生産擴充に努めて、時局に即應しつゝある。其の重役陣容を見ると、取締役社長としては阿部春吉氏が自から其の要椅に座し内外の業務を統率して間然するところなく、專務取締役には令弟阿部信三氏が列して卓腕を發揮し、能く社長を扶けて奮鬪努力を惜しまず、兄弟相携へての精進は益々業務の進展を來す所以である。

又た同商店の生産機關としては別に日本電機工業株式會社を昭和十四年に創立し、目黒區上目黒三丁目に工場を有し、鋭意優良品の製造に當り國産の精華を發揮してゐる。

而して社長阿部春吉氏は今日に於ても常に第一線を指揮し、營業生産兩方面の完璧と充實に努めて餘念なく、其の事業に對する熱心さは、不撓不屈の精進努力を續けて身を惜しまず、漸く圓熟の境に達した錚々たる手腕は、今後に大なる發展期待をもたれる實業人である。

資性、溫厚にして篤實、しかも謙讓の德を有してをり、また圓滿なる常識を備へたる玲瓏玉の如き人格は自づから衆の敬仰を集めてゐる。閑暇を得れば讀書に親んで自己の教養の資とするところ時代の變遷に處して些かも動ずる色なく、堅固なる信念の下に堅實なる方針を持し、斯界に名聲を謳はれ信望極めて篤き所以であらう。

尙ほ專務取締役阿部信三氏も令兄に劣らざる非凡なる手腕と周到なる頭腦の持主として知られ、熱誠、業に從つてよく時局産業人たるの責務を遂行しつゝある逸材である。

株式會社　井筒屋本店

取締役社長　金原巳三郎氏
取締役　金原善一氏
同　山梨政平氏

東京市日本橋區人形町三ノ一
電話茅場町六六・六六〇・六六〇一番

我が國の特産たる椿實油中の純粋良質のものゝみを撰擇して之れを原料とする「井筒香油」の名聲嘖々たるは玆に喋々するまでもない。

其の特効性能は日本人の誇りとする天與の黒髪を基調とし、養毛と美髪化につき多年研究精製したるものにして、其の大要を擧げれば、毛髪に榮養を與へ發育を助け、黒く艶やかに頭髪の美を增し、フケ、脱毛、赤毛、切毛、ウェーブによる毛髪の受難等を防ぎ、又頭臭を消して其の優雅なる芳香は櫛の入る毎に益々匂ひ、日數を經過しても馥郁として何時までも殘り、自他共に清爽快感を與へて、實に衛生と美髪とを完備せる理想的優良なる美髪料である。

抑々「井筒香油」の發祥はかの金原明善翁か明治五年四月、日本橋田萬町に於て業を創めたものにして、次で明治十四年に至りて燈油を創製して好評を博し、漸次業礎を築くに至つた。越えて明治三十九年に現主金原巳三郎氏が之れを繼承し、爾來よく時代の趨勢を明察して逐次品種の改善と生活樣式に順應して優秀品を製造し、遂に今日ある著名製品を完成するに至つたものである。

現在にありては代表的製品たる「井筒香油」はもとより純粋椿油を精製して優雅なローズの薫りある「香油八千代」えも云はれぬ紫菫花の香り「香油井筒壽美禮」萬能香水として頭髪に洗面に沐浴に清爽快感を與へる「ターキートニック」結髪に調髪に魅力ある佳香「純植物性井筒ポマード」品も匂ひも舶來品を凌駕する優良「イヅツコスメチツク」すき油びん付「井筒薫美禮」現時燈油としての缺陥を補ひ得たる無類の優良品「井筒の薫」癖縮れを矯正し、意のまゝに結ひあげられる。青ねり黒ねり「井筒くせ直し」フケ、抜毛、若禿等を防ぐ頭髪榮養「イヅツ養毛トニック」等の多種多樣の製品を市販してゐるが、何れも實質的價値ある逸品であり、往々徒らに宣傳にのみ重きを置く他品を遙かに凌駕して壓倒的成果を擧げてゐる。

又各種博覽會其他に出陳して名譽の受賞の光榮を有すること枚擧に遑なく、近來は內地一般に止らず、遠く海外輸出に意を注ぎ、大なる聲價を謳はれてゐるのは各種製品の優良さを能く物語つてゐると云へやう。

而して同店は光輝ある、皇紀二千六百年を迎へて、創業七十年に達してゐるが、昭和十四年十二月十日を以つて、從來の個人組織を株式に改め取締役として金原己三郎氏、金原善一氏、山梨政平氏が擧げられ、監査役として金原金二氏、稻本新滿氏があり、更らに時代に卽應したる適切なる營業方針の下に、益々老舗たる矜持をもつて斯業の發展に邁進しつゝある。

尙ほ實際上の營業一切を擔當して卓腕を發揮してゐる取締役山梨政平氏は、同店に入りてより三十年、曩には支配人の地位にありしが、改組と共に取締役に列した人、資性敦厚にして熱誠、献身能く業の進展に努力を致しつゝあり同店に不可缺の逸材として重きをなしてゐる。

又金原己三郎氏は現に金原銀行頭取として金融界に雄飛してその名聲を謳はれてゐる。

東京鐵製ナット工業組合

理事長　後藤作太郎氏
常務理事　井原勇氏
理事　廣瀧重明氏

東京市城東區大島町一ノ八
電話本所四四九七番　八三三番

現段階に於ける我が日本の國際的地位は極めて重大である。卽ち當面の支那事變の處理に對しては徹底的に、しかも出來得る限り敏速に之れが完遂を期し、所謂大東亞共榮圏の確立に對して、鋭意邁進しつゝあるが、之れが達成には國家總力を擧ぐるの要があり、殊に生產機關の强化統制の必要なることは當然の歸趨と云へやう。

玆に記す東京製鐵ナット工業組合も鐵製ナット及び丸角座金工業の改良發達を圖るを目的として、業者の組織結成したもの、其の地區は東京府一圓としてゐる。

而して本組合は其の目的を達成するために次の事業を行つてゐる。

一、製品、設備ノ檢査竝取締
二、統　制
三、製品ノ加工及共同設備
四、製品ノ販賣
五、營業ニ必要ナル物ノ供給
六、資金ノ貸付及貯金ノ受入
七、營業ニ關スル指導研究及調査
八、其ノ他ノ施設

卽ち組合員は其の製造したる鐵製ナット及び丸角座金に付本組合の檢査を受け、合格印章を押捺したものに非らざれば、之を販賣することが出來ず。又組合は市場の狀況に依り生產調節の決定、共同販賣の强制、原材料の割當斡旋を爲し、組合員の製品の生產調節をなすと共に、其の製品並に屑鐵に付ては組合に於て註文を受け之を購買し販賣してゐる。更に原材料の配給斡旋をなすと同時に原料の指定、原料の共同購入の强制をなし、組型用ハガネ、油類、石炭コークス、グラインダー、ヤスリ、工具一般、手袋、麻袋等を供給してゐる。

又組合員の營業に關する研究の目的を以つて、學識經驗ある者を招聘して、講習又は實地指導を行ひ、參考品を蒐集し、尙ほ組合員の製品と先進地に於ける優良品との比較研究、原料の試驗、製品の製造及び加工に使用する新規なる考案物の試驗等を行ふ他か、市況、販路等の調査をなして組合員の營業の向上を期する等を以て其の目的としてをり、一路これが達成に努力してゐる。

現在に於ける本組合の役員は理事長として後藤作太郎氏が擧げられ、常務理事には井原勇氏があり、理事に廣瀧重明氏があり、監事に館江政義、村上吉平の兩氏が列してゐる。何れも業界錚々の逸材にして明識あり、能く時代の進展に處して適切なる手段を講じて誤ることなく、益々組合員の結束を鞏固にして、國家產業の發展に寄與すべく精進努力を累ねつゝある。

尙ほ書記長の任を帶ぶるは小關堅吉氏であり、氏は幹部諸氏を扶けて練達の手腕を發揮し、只管組合の大を念願して努力を傾注してゐる逸材であり、資性敦厚にして誠實、しかも世情に通じて掬すべき溫情の持主として知られ適材適所の感がある。

東京建築板金工業組合

專務理事　貝原賢次郎氏
常務理事　川口祐治郎氏
理事　酒井順三氏
同　庄司市治郎氏
同　石原邦太郎氏
同　松原太郎氏
同　竹田泰治郎氏
同　大橋鐵太郎氏
同　田中島義平氏
同　進藤筧氏
同　清水次郎氏
同　田中久松氏
同　齋藤留五郎氏

東京市芝區西芝浦一ノ一二
電話三田㊐〇〇・㊐〇一・㊐四〇番

國家が産業の統制とその發達とに力を致し、進んで法令を以て之れを實施强化せるは何人も知悉する處である。殊に現下の如き未曾有の對支聖戰に際し、國家總力の强化が全國的に叫ばれてゐる今日に在りては、尙ほ更らその必要が强調せられるのは云ふまでもない。

斯くて各業界に於ては益々組合の組織擴固を圖り、其の改良發達に萬全を期しつゝある。これ國家産業に寄與するところ大にして國家總力戰に參じてゐると云へやう。其の一つとして玆に東京建築板金工業組合を擧げることが出來る。

同組合は地域を東京府一圓として、地區内に於て建築板金工業を業とする者を以て組織され、斯業の改良發達を圖るべく共同の施設を爲してゐるが、其の目的達成のために次の事業を行つて昭々たる實績を擧げて現在の組合員一千數百餘名を算へてゐる。

(一)製品、原料、材料及設備ノ檢査並取締　(二)統制　(三)製品ノ加工及共同設備　(四)製品ノ販賣　(五)營業ニ必要ナル物ノ供給並ニ斡旋　(六)資金ノ貸付及貯金ノ受入　(七)營業ニ關スル指導、研究、調査　(八)其ノ他ノ施設

創立以來、極めて活潑なる發展を遂げて有意義なる責務を完ふしつゝある所以は、專務理事貝原賢次郎氏を初め、常務理事川口祐治郎氏以下理事たる酒井順三氏、庄司市治郎氏、石原邦太郎氏、松原太郎氏、竹田泰治郎氏、大橋鐵太郎氏、田中島義平氏、進藤筧氏、清水次郎氏、田中久松氏、齋藤留五郎氏の諸氏が協力一致、私益を棄てゝ公益に献身的努力を致す賜である。

殊に貝原專務理事は德望厚く、統制力に富み、しかも時代の動きを洞察するに明識あり、名實共に兼備したる稀れに見る人材として謳はれ又川口常務理事も敏腕家として知られ、その犀利なる手並みは他に多く追從を容さぬものがあり、名コンビの名に背むかない。

又た、當組合直屬經營になる芝浦工場があり、從業員六十餘名を擁して組合員の共同作業を行つて成果を齎らしてゐると聞く。

今や我が國は東亞共榮圈の確立を目標として、一路邁進皇威を全世界に光被せしめてゐるが、之れが達成には國家總力を擧げるは當然であり本組合の如きも之れに參じて滅私奉公の實を發揮しつゝある。

東神金屬株式會社

取締役社長　伊澤三男

東京市神田區東福田町一番地
電話浪花四一九番

躍進日本と謂ふ言葉は現代通代語の一となり、今日の我國の世界的飛躍は寔に目覺しいものがある。しかし、躍進日本と呼稱するも、夫れは飛躍途上にある日本である。今日を以つて素より滿足すべきものではなく我が皇國日本の天使命達成―即ち大東亞共榮圈の確立に國家の總力を擧げて勇往邁進せねばならぬのは明白、斯くしてこそ躍進の眞の實績を顯現するものと云へやう。

かゝる意味に於て、現在躍進日本の第一線にある各種産業陣にありても、一層の緊張の度を加へて經營に萬全を期し、國家總動員の一翼として貢献することが肝要である。

此の點に於て我が伊澤三男氏を取締役社長とする東神金屬株式會社の如き、卓拔なる經營方針の下に其の堅實なる歩調を以つて、銃後産業陣の一部門たるの責務を完遂しつゝある。

同社は昭和十三年十月、現社長伊澤三男氏の個人經營として、東神金屬商會の名稱にて創業されたものに端を發し、其の營業科目としてはステンレス鋼、ニツケルクローム鋼、其他一般特殊鋼、ステンレス熔接線材、ニクロム電熱抵抗線、ステンレス並管鑄造品を擧げて壹ち斯界に進出し、特殊鋼協議會指定特約店として堅實なる業礎を謳はれてゐた。而して時流に卽應する巧みなる營業方針は着々として大を招き、遂に昭和十四年六月には株式會社に改組し、東神金屬株式會社と更めて今日に及んでゐる力强き存在である。

而して取締役社長の要椅にありて内外一切の業務を綜覽し、卓腕を縱横に發揮しつゝある伊澤三男氏は明治三十二年十二月を以て現地に呱々の聲を擧ぐ、夙に聰明の責性を謳はれてゐたが學序を經て慶應義塾大學に進み、經濟科にありて斯界の研鑽を積み、大正十三年卒業するや安田銀行に聘せられた。しかし、工業界に雄飛の念を抱く氏は昭和八年東洋鋼管株式會社の創立に參して盡瘁し、設立の後は常任監査役として活躍するところあり、次で昭和十二年同社の日本ステンレス株式會社に合併するに及んで、同社營業部長の重椅に擧げられ、大いに敏腕を發揮して重きをなし令名を博しつゝあつた。

けれど業界飛躍の念勃々たる氏は昭和十三年十月より敢然として獨立玆に東神金屬商會を興して宿志の第一階梯を踏み、今日ある東神金屬株式會社の素地を築いたのである。爾來順調なる業績を以つて發展を累ねつゝあるのは、偏令時局に便乘したとは云へ、もとより氏の統率手腕を看過することは出來ない。同社の地位を不動ならしめた氏は、更らに新計畫の下に或種の國策的工業會社を設立すべく、目下鋭意精進中であると聞くが、恐らく本書の上梓を見る頃には、更らに我が工業界に大きくクローズアップされる氏の雄姿を見ることが出來やう。

而して氏は非凡の才識と不羈の精神を有し、しかも塾の先師たる福澤諭吉先生の云ふ「心身の獨立を完うし、自から其の身を尊重し、人たるの品位を辱づかしめざるもの之れ獨立自尊と云ふ」を遵守し、益々家名を高揚せしめる一方、社會公共に力を注ぐ勞を惜しまず、警防團長其他に擧げられ献身的の貢献をなしつゝあるは愈々以つて偉とするに足る。

家庭には氏の良き半身たる多美子令夫人あり、二男二女を儲く。

幡ヶ谷硝子株式會社常務取締役
（社）東京市澁谷區幡ヶ谷原町八二五
電話四谷一〇八九・六八〇四番
（宅）東京市澁谷區幡ヶ谷本町三ノ七九

國家の總動力―即ち精神的にも物質的にも總べてを擧げて動員して、聖戰遂行の大目的の完成に向つて努力精進しつゝある今日、産業人は先づ何よりも自己の職責、社會的分野等に十二分の理解を有し、それが國力の總和となることを能く認識することが、何よりの先決問題ではあるまいか。

現に産業界に於ても、徒らに資本の巨額を誇る會社、或は組織の强力を誇るもの、或は規模の宏大を誇るもの等決して尠なくない。然しながら、叙上の如く眞に自己の職責が國家總力の一環であることを理解して産業報國の大精神の下に、會社經營に臨む企業家は恐らく指を屈するに足らぬものである。

玆に擧ぐる石井喬氏の如きは寥々たる存在の一人として推稱するに足る。氏は幡ヶ谷硝子株式會社常務取締役の要椅にあり、主力を之れに傾注して其の堅實なる發展に献身しつゝあるが、更らに餘力をもつて株式會社北蒲製作所取締役、幡ヶ谷土地合資會社出資社員等として活躍し、綽々たる餘裕を示してゐる逸材、しかも事業に對する信念は常に國家愛に燃え、夙に公益優先の建前の下に、些かも私心私利を念ずることなきところに、氏の偉大さを見出される。産業報國の至念に徹したるは、氏に比肩するものなしと云ふも敢えて過言ではなからう。

氏は明治三十一年十二月十二日を以て佐賀縣の人甘木貞明氏の三男として呱々の聲を擧ぐ、少年時代に親戚石井家の養嗣子となり同姓を冒したもの、鄕里の中學校を卒へて上京し東京高等工業學校に入り、窯業科にありて學理と實際に就きて研鑽を積み、同校を卒業するや直ちに東京電氣株式會社に聘せられ宿志たる工業界に第一歩を印した。

而して精勵恪勤に一貫すること十數ヶ年の久しきに及び、其間川崎本社より大井工場に移りガラス課長として卓腕を揮ひ、充分に力量を示し令名を謳はれてゐた。が、獨立不羈の念烈々たる氏は昭和十一年に至り不調に喘ぐ幡ヶ谷ガラス製造所を買收し、新たに幡ヶ谷硝子株式會社を創立して其の常務取締役の重椅に就き、内外一切の業務を綜覽し、愈々縱横に才能を發揮しつゝある。

今や同社は石井常務指導の下に電球用ガラス、無線テレビションの特殊ガラス、高級ガラス製品の生産に當り、着々として優秀品を製産して斯界に不動の地歩を占めてゐる。之れ石井氏が過去十數年の研究實踐を基礎として、更らに百歩を進めた結果、從來の生産設備を刷新し、斬新なる高級機械を設備して能率の增强を計りたるに因る。工場施設の機械化されてゐる點は斯界に定評がある。

斯樣に氏はエンヂニアにして事業經營の手腕を兼ねてをり、しかも時流の動きを洞察する明識を有し、常に之れに準據したる方針を樹立して間然するところがない。

資性、潤達明朗にして高潔なる人格の持主、しかも責任感頗る堅固にして一些事たりとも等閑に附することなく、熱心誠實を吐露してゐる。又多數の從業員に對しては規律を重んじるも温情を垂れ、彼等從業員も氏に仕へること篤く、勞資一體、和氣藹々の裡に職責を果しつゝあり、自づから社業の進展を見られる。

荏原羊毛株式會社
專務取締役
東京市荏川區日暮里九ノ一〇四番
電話 駒込三二一一番

我が對支聖戰は、今や最後段階に到達し、斷末魔に喘ぐ蔣政權は只管英米其他依存して、僅かにその餘命を保つに過ぎない狀態に沈湎しつゝのであるある。

斯の如く、聖戰勃發以來、疾くも支那全土の約三分の一に亘る廣大なる地域を占據した我が皇國日本の武威は、之れ全く我が將兵の萬邦無比の忠勇義烈なる軍人精神と、作戰用兵の宜しきに依ることは言を俟たないところである。然しまた銃後にありて、國力の增强に孜々として精進努力を續けつゝある、我が産業人の功勞も看過してはならぬ。

而して戰時體制の時局下にありて國策の線に沿ふべく、再毛を使用して其の精製に獨自の技術を發揮し、斯界に特殊的存在たる荏原羊毛株式會社專務取締役たる我が門馬直治氏の如きは、蓋し物資統制の强化せられてゐる銃後産業界に輝やいてゐる。

氏は明治十五年二月十日を以つて秋田縣に於て出生し、父君は善吉氏と呼び土地の名望家として聞へてゐた。氏は其の二男である。明治三十五年小樽中學校を卒業すると雄志を抱いて上京、直ちに法政大學の前身たる和佛法律學校に入り、切瑳琢磨の功を積み、學成りて明治四十年卒業するや北海道炭礦汽船株式會社に入社して實社會に第一歩を印した。

而してよく社務を擔當して間然するところなく、至誠至勤を謳はれたが、在る事五年にして同社を辭し、日本原毛株式會社に轉じ、愈々卓腕を發揮して社業の隆興に寄與するところ大、漸次重用せられたが獨立不羈の念烈々たる氏は大正十年同社を圓滿裡に辭して荏原羊毛製造所を興すに至つた。

かくて工場を蒲田區南六鄕一丁目に設けて天賦の才能を發揮し豐富なる經驗を綜として努力奮鬪、着々として業運の昂騰を見るや、昭和四年一月を期して組織を改めて株式となし、社名を荏原羊毛株式會社と稱して自から專務取締役の重椅にありて一切を綜覽し、益々時局に卽應して飛躍を圖りつゝある。爾來氏の熱誠なる精進は堅實なる步調を以つて大を築き、遂に今日ある不動の地歩を占むるに至つた。

而して同社は前述の如く、再毛を使用して其の精製に特殊の技術を用ゐてをり、戰時體制下に於て寔に國家的重要産業と云ふべく、其の存在に力强いものがある。かくて其の發展も約束されたかの感があるが、堅實主義を鐵則とする氏は、徒らに膨脹を計らず、只管内容の充實に力を注ぎ、技術陣の完備に努めて高度の能率を發揮しつゝある。向後の發展を大いに期待してやまない。

しかも氏は人と爲り、温厚にして篤實なるも其の半面に一脉の氣骨を藏し、事業と共に生き事業と共に斃れるをモットウとしてゐる。又飽くまで國家に報ゐるの念に篤く、職分奉公に燃ゆる事業的熱意こそ其の全生命であると云へやう。

家庭には久子夫人ありて良妻賢母の譽れを謳はれてゐるが、夫人は同鄕の人、星山敬助氏の女にして大曲高女出身の才媛である。氏との間に一男二女を擧げてゐる。

株式會社 **日本毛皮**

取締役社長 上原政兵衛氏
取締役 井垣虎治氏
同 松島瀧三氏
同 上原利男氏
同 鈴木雄二氏
同 糸谷清次郎氏

東京市足立區小臺町七五二ノ一
電話 淺草六七番

現在、我が國は對支聖戰も愈々最後的の段階に入り國家總力を擧げて之れが完遂のために邁往すると共に、一方に於ては占據地域を中心に新政權の樹立を見るに至りしも、第二次歐洲大戰の勃發となるや次第に戰渦は擴大し、東亞新秩序の建設には、前途猶幾多の困難あるを思はしめ聖戰の目的達成のために一段の覺悟を以つて、今後の長期持久戰に處する必要があることを痛感される。

この重大時局に鑑み、擧社獻身、產業報國の赤誠に燃えて軍需資材の納入に全力を盡しつゝある株式會社日本毛皮の存在は輝やいてゐる。産に同社の如き軍需工場たるの使命の重且つ大なるを能く認識し、特に作業能率の增進のために諸設備を擴充し、生產に支障を來さゞる樣萬全の策を講じ、益々高度の能力を發揮しつゝあるは、其の代表的のものとして推稱するに足る。

當社は昭和六年五月に創立されたものにして、資本金五百萬圓を擁し本社接屬地たる一千坪餘の地に規模整然と完備されたる工場を設けて、堅實なる營業方針の下に、着々として業績の昂揚を圖つてゐたが、今次事變の勃發と共に俄然軍需方面の受註激增を來したゝめ、增產計畫を進めて急ピッチの躍進を續けてゐる。

而して現在の首腦部は取締役社長として上原政兵衛氏があげられ、取締役には井垣虎治氏を筆頭に松島瀧三氏、上原利男氏、鈴木雄二氏、糸谷清次郎氏が列し、監査役に上原安三氏、松井太郎氏がある。しかも上原社長をはじめ井垣取締役以下各重役は何れも熱あり、力ある精勵の士で、殊に事業家として好適なるは、その當に大處の見を誤らざる上に細心周到の注意を怠らぬことであり、しかも滅私奉公の至誠に於ては斷然他の追隨を許さず、全く事業家として間然するところがない逸材である從つて業礎の確固不動も去ることながら各方面より受くる信用は絶大なるものがある。

殊に井垣取締役は兵庫縣の人、源三郎氏の長男として明治十四年十二月を以つて呱々の聲を擧げ、學序を經て滋賀縣立商業學校に螢雪の功を積み、明治三十六年同校を卒業した才幹の人、其後日露の役に際しては勇躍從軍、砲煙彈雨の下に馳驅して武勳赫々たるものがあり、正八位に叙され勳六等を賜はる榮譽を擔つた。爾來實業界に入りて刻苦精勵、着々として其の地歩を築くに至つたものである。

今日、當社にありて筆頭取締役として內外一切の業務を綜覽し、卓腕を縱橫に發揮しつゝある。而して氏は的確なる時局認識の上に立ち、其の事業を以つて國家に奉公の誠をつくすべく鋭意努力精進をなしつゝある。其の產業報國の信念は、時局人としての良心的經營に腐心し、嚴肅にして科學的合理化を實踐してゐるところは偉とすべきである。

斯くてこそ當社の强味が凡ゆる方面に光被し、益々伸展する素質を十分に有してゐる。

合名會社美和商會代表者

栢木泰美

營業所 東京市日本橋區吳服橋三ノ七
東京建物ビル內
電話日本橋一四八六・二七六六・五三九番

自邸 東京市大森區雪ケ谷町一九
電話荏原五三二四番

國家總力戰と云はれる今次の支那事變は、常に征地にありて日夜奮鬪する將兵にのみ依存することなく、銃後を護る我が國民全體が總べて前線戰士の心意氣を抱藏して、各々その職能に應じて、其の責務を忠實熱心に遂行しなければならぬのは當然であるが、就中、國家的重大使命を帶びるものは、產業界に活躍する少壯の士であらう。

我が栢木成美氏の如きは若冠にしてよく美和商會を主宰するも、私利私慾を棄てゝ飽くまで產業報國、職分奉公の至誠を吐露しつゝある逸材若くして其の大處の見を誤まることなく營々たる努力精進してゐるのは所謂人的資材の必要が叫けばれてゐる今日、最も期待されてゐる一人と云はざるを得ない。

而して美和商會の營業とするところは主としてゴム製品一般の販賣にあり、機械工具類を從として營々たる商陣を張り、其の營業所を上敍の如く帝都の中樞地たる日本橋區吳服橋東京建物ビル內に設けてゐる。取扱製品の優秀なることは納入先が王子製紙株式會社をはじめ同系統會社工場であるに依つても明白であるが、之れ氏が誠實本位に一貫するところを雄辨に物語つてゐる。

氏は島根縣の人、栢木泰氏の長男として明治三十四年八月を以つて呱々の第一聲を發した。疾くも幼少の頃より其の才氣喚發、頭腦明晰の資質をもつて鄕黨より期待されてゐたが、學序を經て中央大學に進みて切磋琢磨の切を累ね、大正十二年同大學を成績優秀にて卒業、直ちに實社會の人として德原商會に入り、至誠至勤、同商會の發展に寄與するところがあり、大いに其の卓腕を重用せられるに至つた。

然し、獨立不羈の念幾烈なる氏は小成に甘んずることなく、其の機を窺ひつゝあつたが昭和六年に及んで敢然として業を興し、玆に美和商會の名稱の下に宿志の第一階梯を踏んだのである。爾來、誠實を旨とし孜々として奮鬪するところ業績昂揚の一途を辿り、加ふるに非凡の商才は隨所に於て發揮され、よく機會を捉えて大を累ね、遂に今日ある盛業を齎らし、斯界に錚々たる名聲を謳はれてゐる。しかも、尙ほ前途奉秋に富む氏の將來こそ其の實力を如何に具現し、業態を奈邊にまでも隆興せしむるか正に刮目に値ひするものがある。

尙ほ美和商會は從來氏の個人組織にて經營し來れるも、時代の進展に卽應して昭和十四年三月より合名會社組織となし、氏は代表社員として一切を綜覽しつゝある。

資性、敦厚にして誠實、其の周密なる明識は天禀の才能と豐富なる學識と相俟つて益々事業の發展に努力を傾注しつゝある。しかも玲瓏玉の如き人格者として聞えてをり、また光風齊月の襟度を有する處自づから將たるの器局を備へてゐると云ふべきであらう。

趣味として讀書を好み、日常の敎養を怠ることなく、又たスポーツの明朗性を愛し、殊に撞球は相當の腕前があると聞く。

家庶には淑德高き英子夫人ありて氏の良き半身として仕へ、其間に長男伸一君、長女波留美孃を儲け、一家和氣靄々の裡にある。

大東鑛業株式會社庶務課長

今井太八

東京市京橋區三ノ二片倉ビル
電話京橋五五〇一・三七二〇番
（邸）東京市牛込區市谷甲良町四〇
電話牛込七二八八番

世に事業的人材は幾らも數へ得られるけれども、人格の士は何れだけ數へ得るであらうか。或ひは事業家には人格の如き第二義的のものであると云ふかも知れぬ。それは常に人格そのものが當面の問題としてさまで必要としないからである。

けれども事業家としての眞の光りは、その才幹よりも其の人格にある才幹は必ずしも之を悉く敬服せしめるものではない。然し、人格は萬人を長敬せしめる。當面の必要と必要でないとに拘らず、人格は如何なる方面に活躍する人々にしても其の活躍の基礎となる。

殊に多くの人々を統率し、指導する人々にとつては、人格は無形の資本となる。人格者に對しては誰れしもが不滿を持たず、心から長敬するそれは常に最も正しい行動に終始するが故である。我が今井太八氏の如きは、その師表的存在として輝やいてゐる。

氏は今日、大東鑛業株式會社にありて庶務課長の重席に擧げられて、能く實績を齎らしてゐるのは、氏の才幹のいたすところでもあらうが、それよりも氏の高潔なる人格が常に光被してゐるからである。氏は庶務課長の重席に就きながらも、些かも自から傲ぶるところがない。虚心坦懐、接する人々をして人格の光りに依つてなつかしめてゐる。そこに氏の無限の力があると云へやう。斯樣に上位にある人々が悉く氏の如き態度を以つてすれば、自他一如の下に和氣藹々として業績の向上を圖ることが出來やう。

氏は大正二年八月十八日の出生にして、祖父は我が實業界の巨星と謳はれる今井五介翁であり、父君は翁の長男であつた故眞平氏で氏は其の二男である。この名門に生を享けた氏は幼少の頃より英明の資性を以つて知られてゐた。長じて自己の將來を工業界に求めるや横濱高等工業學校に進みて斯學の研鑽を累ねた逸材である。

而して祖父五介翁の社長として經營する大東鑛業株式會社に入りて至誠至勤、よく若冠の身を以つて同社庶務課長の重責を堪當して間然するところがない。しかも日常の態度の如きも些かも圭角を現はさず、當に言はずして人に訓ふる。溫情を以つて峻烈に勝さる成果を擧げてゐるのは偉とするに足る。

之れ氏の日頃の教養の致すところであらうが、また天賦の資性の致すところであらう。寔に氏の如きは新進氣鋭にして、既に人として完成されてゐる。全く「將門將を出す」と云ふ言の通りである。尙ほ將來人の上長として十分活躍する人として期待される所以である。

因みに祖父五介翁は貴族院議員にして正六位勳四等の榮譽を擔ひ、松本商工會議所會頭たる外、大日本蠶糸會理事、長野縣生糸同業組合聯合會中央會議員其他多くの公職に就きて産業界の發展に盡瘁するところ大にして昭々たる功績があり、更らに片倉製糸紡績、片倉生命、信濃鐵道大東鑛業、中央電氣中央電氣工業其他多數會社の社長重役として錚々の名を謳はれてゐる我が産業界の巨星であることはよく人の知るところであらう。

株式會社浦田計器製作所

取締役社長

浦田至

東京市板橋區志村前野町九八三
電話板橋七三番

今次の支那事變は凡ゆる角度から檢討しても、我が日本の産業文化を促進し、高度化したことは何人たりとも一點疑ひを容るゝ餘地はないと思はれる。就中、産業界にありて特に工業部門に於ける高度の精密化と云ふ一事である。精密工業が所謂平和産業部門にありても必要缺くべからざるものであるのは今更ら云ふまでもないが、益々科學化しつゝある近代の戰術上に於て、何よりも兵器並に軍需品の精密化高度化に重點を置かねばならぬ。

斯の如き最近の情勢と照合して考ふべきことは、戰時體制下にある我が工業界の現狀である。素より巨大なる資力を擁するものもあれば、其の設備機構の完整を衿るものもあり、各々其の特色を有してはゐるけれども、要は資本力の强大でもなく規程の宏大でもない。實に製作技術の高度に俟つところ甚大なるものがある。

我が浦田至氏が主宰する浦田計器製作所はダイヤルゲージー、血壓計等各種計器及び測定器類、航空機部分品の製作販賣を營業科目として設立され、昭和十三年三月より操業を開始したものである。而して組織を株式會社となし、取締役社長の要椅には浦田至氏が座し、取締役として浦田昇氏、塚本義彦氏があり、監査役には東洋時計株式會社の生みの親とも云ふべき、浦田竹次郎氏が擧げられてをり、所謂浦田一門を網羅し整然たる機構を以つて時局に卽應したる堅實本位の營業方針の下に、鋭意業運の昂騰に精進しつゝある。

而して其の製品の聲價に就いては既に斯界に定評があるが、これは常に材料の精撰に努め優秀なる技術を加へ、しかも嚴密なる檢査を行つて信用ある製品を供給すべく、首腦部をはじめ全從業員が力を協せて不斷の努力研究を續けて倦むところなきに因由してゐる。從つて納入方面も軍部關係をはじめ中島飛行機、富士航空計器、國産電機等の著名會社工場である。

社長浦田氏は斯樣に事業經營者として卓越せる手腕の持主であるのみならず、技術的方面に對する研究心も篤く、所謂經營と技術の兩道を歩みつゝある逸材、又時局の動きの見透しも鋭く、常に誤ることなき經營方針を立てゝゐる才能と識見に惠ぐまれてゐる。人物は溫容にして寛仁抱擁力頗る大にして且つ情に生きる人であり、社内外の信望高く氏を中心とする協力一致は見事な統制の下に益々飛躍に拍車をかけてる。

かくて、同社が新東亞建設の聖なる目的完遂のために國家に貢獻せんとするその努力、その研鑽、その奉仕こそ卽ち氏の生命であり、事業に對する眞摯なる態度、これに依つて生れる製品の他に比肩するものなき優秀さは愈々業績を進展せしめてゐる。産業報國、滅私奉公を念願として國力充實のために飽くまでも驀進しつゝある氏の姿こそ、寔に仰げば高き富嶽の秀峰にも譬ふべく、その前途は洋々たるものがある。

氏は大正三年十月の出生、竹次郎氏の長男であり、父君は斯界の權威として令名を謳はれる偉材にして、氏は其の資性を享け府立第一商業卒業の後、東洋時計小石川工場、上尾工場、日野工場を歷勤して業を修めて後、現社を興すに至つた。向後の活躍を期して俟つ。

家庭はまき子夫人との間に一女があり、和氣藹々としてゐる。

東洋編物工業株式會社

專務取締役　金窪安三氏
常務取締役　依田耕一氏
同　谷富賀志氏

本社　東京市京橋區銀座西五ノ三
電話銀座五四七〇・五四八〇番
出張所　大阪市北區中ノ島二ノ五〇
電話北濱二六八三番
工場　東京市向島區吾嬬町西八ノ六二
電話墨田五四二七番

文化の進展と共にメリヤス製品、編物加工品等が吾人の日常生活に密接なる關係をもつことは、敢えて說明を俟つまでもなく世人周知のところであるが、近來その需要をとみに增加し、製品の種類も多岐多樣に亘つて新趣向が創案されてゐるのは、これまた何人もよく認むるところと云はねばならない。

斯くの如き情勢下に於て斯業界に特殊の存在を示す東洋編物工業株式會社は社首腦部の協力一致の下に業運隆々たるものがあり、不搖の業績を矜つて名聲を謳はれてゐる。

抑々當社は昭和十年に創立されたもの、資本金三十萬圓(全額拂込濟)を擁して本社を上叙の如く京橋區銀座西五丁目に置き、出張所を大阪市北區中ノ島に設けて關東、關西相呼應して堂々たる商陣を張つてゐる。而して工場を向島區吾嬬町西八丁目に設置してメリヤス製品一般、織物加工品、纖維加工品の製造に從ひ、其の製品は主として各デパートに納入してゐるが、更らに滿洲、南洋方面に販路を開拓しつゝあり、向後の飛躍は目覺しきものがあらう。

而して社首腦部としては專務取締役の要椅に金窪安三氏がありて社務一切を綜覽し、氏を扶くるに常務取締役谷富賀志氏依田耕一氏があり夫々卓腕を揮ひ、取締役として堀尾末吉氏、堀越勇次郎氏、中西進氏が列し、監査役に小林雅一氏、金窪寅次郎氏の兩氏があり、一糸亂れぬ統制の下に協心戮力、益々社業の隆興に精進を累ねつゝある。

而して專務取締役たる金窪安三氏は明治二十七年八月の出生、父君を正常氏と呼んで其の二男である。夙に聰明の資性を謳はれてゐたが、學を修めた後、先づ鴨田商店に勤務して實社會の第一歩を踏み、次で大正七年編物製造業を創め、令兄金窪寅次郎氏と協力して隅田編物株式會社を設立、常務取締役に擧げられて大いに活躍し、社運の隆興に寄與するところがあつた。

次で昭和十年に至るや新たに東洋編物工業株式會社を創立し、自から專務取締役として內外の業務を綜覽し、益々眞摯熱誠なる努力を傾けるところ創業日ならずして社業好調の一途を辿り、遂に今日ある地歩を築いた逸材である。

資性、明朗にして溫厚篤實、しかも高潔なる人格の持主であり、また身を持すること極めて謹直、只管其の德性を傷けぬやうに努めてゐるのみならず、常に國家的見地に立ちて自己の名利を棄てゝ行動するところ寔に得難き存在として歸やいてゐる。

而かも氣韻高雅にして情操豐かなる氏は文學美術を趣味とし、又餘暇を得ればゴルフに依りて體位向上を圖つてゐる近代的實業人である。

家庭には淑德の譽れ高き克子夫人がありて氏によく仕へてゐるが、夫人は普樂學校卒業の才媛、其間二女を擧げてゐる。長女は玲子孃、二女は釋子孃と呼び一家淸福につゝまれてゐるの感がある。因みに自邸は品川區五反田六丁目一九一(電話大崎二〇〇一番)に構へてゐる。

津田武夫氏

株式會社大野製作所取締役工場長

(社)　東京市芝區三田四國町二
電話三田[illegible]・[illegible]番
(邸)　東京市板橋區中新井町一ノ[illegible]
電話練馬四七五番

對支聖戰の完遂、東亞新秩序の建設と云ふ振古未曾有の大業に直面して、玆に戰時統制經濟が强行されるに至り、軍需資材を中心とする生產機構が高度化されたる結果、之れに轉換するものも尠なからずあるが、從來、大野式シヤツターの製造を以て斯界に定評があつた大野製作所も時局の脚光を浴びて力强く、軍需工業部門に登場するに至つた。

斯くて株式會社大野製作所は其の抱擁する優秀なる技術陣を動員して鋭意專心、軍需材の生產に努力精進しつゝあり、しかも製作品の卓越なる點を以つて嘖々たゞ好評を博してゐる。之れ社首腦部が產業報國の至誠に燃え、滅私公に奉ずるの臣道を實踐しつゝあるに歸因してゐる。

而して我が津田武夫氏は同社取締役の要椅にあり工場長を兼ねてゐるが、時局下に於いて生產擴充の使命の重且つ大なることを認識し、自から第一線に在りて指導督勵を怠ることなく、技術方面の完整と充實に努力して餘念がない。斯樣に氏の眞摯熱誠なる精進振りは全從業員に反映し、擧社獻身の實を發揮して能率を高度化し、しかも製作に對する研究的意慾に拍車をかけ、撓ゆみなき技術奉公への努力を續けてゐる。今や同社は時局を背景に目覺しい驀進を遂げつゝある。

氏は明治三十七年十一月二十日を以つて福岡縣遠賀郡に於て第一聲を發してゐる。夙に工業界雄飛の志望を抱藏して學序を踏み、東京帝國大學工學部に入り、螢雪の功空しからず、斯學の蘊奧を極めて昭和三年卒業、直ちに當時合資會社たりし大野製作所に迎へられた。かくて斯界に第一歩を印した氏は爾來精勵恪勤に終始し、業運の進展に寄與するところ大なるものがあり、同社が昭和十二年六月を以つて時代に卽應すべく株式會社組織となるや擧げられて取締役となり、更らに工場長の重責を擔ふに至つた逸材である。

而して同社が今次事變の後、軍需工業に轉ずるも氏の含蓄せる學理と經驗とは愈々卓越せる特殊技能を發揮し、疾くも其の製品は業界に異彩を放ち、其の名聲を恣にしてゐる。

資性溫容にして寬宏、しかも豐富なる學才を傲ぶることなく、常に謙讓の德を發揮して業務に熱誠、其の責任感の强固なるところは事蹟に示現されてゐる。また多數の工場從業員に對しては遇するに頗る篤く、彼等從業員も氏を敬しよく仕へて勞資一體、和氣藹々としてゐる。尙青少年子弟の養成には衷心から至情を披瀝し、工場內に青年學校を設けて、學術、技能の兩方面の指導に努力し、明日の日本の工業力の培養に備へてゐると聞く。

家庭には母堂しず刀自健勝であり、氏は久子夫人と共に孝養の限りをつくし、夫人は三重縣立高等女學校の出身で淑德の譽れが高く、氏との間に長男武君、次男久男君、三男健君及び長女和子孃を儲けて一家和氣に滿ちてゐると云ふ。

今や我が國は支那事變處理を中心として、世界新體制の動向に對して萬全の策を樹立し、國威の宣揚に東亞共榮圈の確立に邁進しつゝあり、之れが完遂には全國民の一致協力が必要である秋、滅私奉公の人津田武夫氏の如きあるは大なる欣びを感ずる。

東洋機械工業株式會社

取締役社長　淺羽騏氏
專務取締役　薗田廣志氏
取締役　漆間一太郎氏
同　竹内昇氏
同　筒井清松氏

東京市蒲田區仲六郷二ノ一四
電話蒲田三九三二・三七四一
五五五三・五五五四番

我が國の工作機械工業は從來、其の發展の甚だ遲々たる憾みがあつたが近年に於ける重工業の飛躍的發展膨脹と今次事變の勃發に依つて、その重要性が忽ち朝野を擧げて認識されるに至り、遂に政府は工作機械製造專業法其他の法令を公布し、其の發展に努力を致すと共に、民間に於ては幾多の會社工場が創設擴張されれつゝある。かくてその量的、質的發展が今日ほど強く要望されてゐる時代は未だ嘗てないのである。

而して東洋機械工業株式會社は工作機械並びに齒車類の設計製作を目的として今より約二十年前、即ち大正十一年一月を以つて創立されたものにして、昭和六年四月工場を新築したが、爾來着々として年を累ねる毎に發展を招き、次で陸海軍兵器類飛行機部品等の製價をも併せ行ふに至つた。かくて益々工場設備の狹隘を感ずるに至りたるため昭和十年現在の地に工場を增築したが、越えて昭和十二年九月、時勢の變革と斯界の飛躍的發展とに並行して、其の技術及び設備の刷新擴張を圖り、以つて生産力擴充國策の一線を邁進すべく、株式組織に改組すると共に其の名稱を東洋機械工業株式會社と改めたのである。

而して資本金三十萬圓（全額拂込濟）を擁し、最新式の機械を增設して能率の增進と改良とを計り、日に新なる優良品の製作に努力しつゝあつたが、更らに昭和十四年七月に至り主務大臣の認可を得て資本金を五十萬圓に增資して益々規模の擴充をなし、遂に今日ある不動の業礎を占め、斯界の一方に雄飛しつゝある。

かくて各種ミーリングマシンの製作に專念し、技術陣を動員して研鑽を重ねたる結果、優秀品の生産に成功して聲價頗る高く軍部をはじめ各方面よりの受註に接してをるのみならず、更らに兵器部品の下命をも賜り、社首腦部以下從業員一同は深く時局を認識して協力一體、鋭意工業報國の念に燃えつゝ一層の緊張をもつて努力精進を重ねてゐる。

目下の主なる納入先を擧げると海軍艦政本部、海軍航空廠、横須賀海軍工廠、海軍技術研究所、佐世保海軍工廠等をはじめ中島飛行機、日本光學工業、重工業、東洋精機、日立製作所、日本自動車、日産自動車、滿洲飛行機、理研鋼材、理研ピストンリング、高砂鐵工、昭和精鋼、國産電機、塚本商事等の著名會社工場であり、孰れも嘖々たる好評を受けてゐる。

而して當社の首腦部は取締役社長として淺羽騏氏があり、專務取締役として薗田廣志氏がありて內外一切の業務を綜覽し、取締役として漆間一太郎、竹內昇、筒井清松の諸氏、監査役に大島禎光、薗田平治の二氏が擧げられてゐる。

殊に專務取締役たる薗田氏は、事業經營者として卓越せる手腕の持主であるのみならず、技術方面に對する研究も銳く、所謂經營と技術の兩道を歩んで能くこれを消化してゐる逸材、又時運の趨勢を洞察することも的確であり、しかも事業に對する熱意と實行力に於ては人に屈するものでなく、全く全精神を打ち込んでゐる處、稀有の産業人と云へやう。

藤田鐵工所々主

藤田勝弘

東京市芝區横新町一三
電話三田三五六〇番

今や第二次歐洲大戰の勃發進展に伴ひ、世界情勢は愈々複雜多岐を極め、我が國の國際關係にも微妙なる影響は勿論のこと、又國策として唱導されつゝある東亞新秩序建設、生産力擴充及び國內諸對策にも至大なる關聯を生じ、益々時局の重大なるを痛感されてゐる。

就中、軍備の改善、充足の一日も忽諸に附せざるは國民の齊しく要望するところにして、軍需材兵器製作を主業とするものゝ責務たるや重且つ大なるものがある。

玆に擧ぐる藤田鐵工所は藤田勝弘氏の統率するものであるが、氏は夙に此の意を體し、滅私奉公の至誠を披瀝し、自から第一線に立ちて全從業員を督勵指導し、高度の技能を發揮しつゝあり、其の製作品は納入先より優秀卓越性を謳はれ、斯界に錚々たる名聲を確保してゐる。

而して藤田氏は明治二十七年を以つて島根縣邑智郡市木村に於て呱々の聲を擧げ、父君は愛次氏と呼んで其の二男である。幼少八歲の折に父君を失ひたるため、世路風霜の苦難に抗しつゝ明治四十年廣島へ赴き、海軍工廠に技術員として入廠し在ること六星霜、次で廣島某鐵工場にありて專心斯業の修得に努力した。

かくて技術の進境著るしく、意を決して上京するや林鐵工所に入りて大いに卓腕を揮ひ、所主の信認篤く重用せられるに至つたが、獨立不羈の念烈々たる氏は昭和八年、現所に於て獨立し宿志の第一階梯を踏む。爾來不撓不屈の精神を以つて努力を傾注し、着々として業運の伸展を圖り、斯界に不動の業礎を築いた。昭和十四年五月不幸祝融の厄に遭ひ、工場其他を一切を烏有に歸したが氏は不退轉の勇猛心を振起し、鋭意復興に努めた結果、新たに工場敷地を擴張して設備完全なる新工場を新築し、益々能率の增强を期待して時局下に於ける産業人たるの責務を遂行しつゝある。

而して氏は今日あるの大を成すと雖も、飽くまで實力主義を遵奉し、自から第一線に立ちて實踐躬行、些細なる業務にも全精神を傾倒するといふ直行熱意の士、從つて仕事は氏にとつて唯一の慰安であり、精神肉體共に生くる最大の道場でもある。又豐富なる經驗の持主である故に、其の注意力は常に萬全を期し、仕事第一主義の見事な統制合理化が行はれてゐる。

更らに苦勞人たる氏は、よく人情の機微に觸れて抱擁力に富み、從業員を子弟の如く愛し、彼等よりも亦慈父の如く敬仰されてゐるのは大なる仕事を遂行する上に於て、この上なき强味である。而かも氏は仕事と私生活を確然と區別し業務の上に於ける從業員に對する態度は嚴格そのもので、極めて公平妥當に裁斷し、苟くも私情關係を混ぜることがない然し、一旦業務を離れては親子肉身の如き溫愛で接するので、益々德望を謳はれてゐる。

斯樣に着實に地味に一歩々々を築いた氏は益々産業報國の至誠を吐露し、事業に對して終始一貫せる熱意と覇氣を傾けてゐるが、其の一面よく社會公共に留意し、多年に亘りて靈犀を致し貢獻するところ大なるものがあり、現に居町會々長警防團役員等に擧げられて活躍してゐるのは洵に師表的存在として推稱するに足る。

大日本都市大觀

吉野商店商事部吉野商店代表者

吉野商店

東京市京橋區入舟町一ノ一七
電話 京橋 三九〇八番

現下の如き國家非常時たる我が國に於いては、あらゆる產業機構が打つて一丸となり、眞の協力一致をなして、政府當局の指示するところの國策に順應して、之れに步調を合せてこの未曾有の國難を突破し克服しなければならぬことは敢えて玆に喋々するまでゝもない。

斯くして我が產業陣の一環に聯らなるものは、其の大小を論せず、又新舊を問ふことなく、均しく高度國防國家の建設に邁進すべく最善の努力を捧げねばならぬ。

而して之れが爲には古き自由主義、個人主義的の思想を排し、何事にも公益優先の建前を採り、一個人の利益幸福の如きは夫れが國家社會のためならば假令滅殺されても亦止むを得ないのである。かくして一億一心、協同偕和、以つて職分報國の實を擧げるのが銃後國民たるものゝ本分とするところではあるまいか。

玆に擧ぐる吉野浩氏の如きは國家的重要資材たる鋼鐵、磨鋼材一般を業としてゐるが、能く時局を認識して公益優先、滅私奉公の精神を以つて營々たる精進を續けつゝあるは偉とするに足る。殊に斯業に從ふものは往々にして自家の利益にのみ專念し、所謂闇を行ふに汲々としてゐると聞くが我が吉野氏は然からず、常に大局に着眼して私利を斥けて行動するところ寔に時代と共に生きる產業人と云へやう。

氏は愛知縣の人、大正二年五月を以つて呱々の聲を發し、年齡未だ而立に達せざる前途洋々たる新進氣鋭の士、夙に東都雄飛の大志を抱いて上京するや先づ某鐵商に入りて精勤勉勵、斯業の眞髓を究めるに餘念がなかつた。かくて昭和十三年獨立の機運熟すと共に敢然として京橋區八丁堀に於て吉野商店を創業したのである。

爾來、天賦の才能をもつて堅實なる營業方針を樹立し、巧みに時代の動きを洞察して之れに善處し、着々として業礎を築くや更らに現在の地に移轉擴張したのである。時、昭和十四年十一月で氏が二十七歲の若冠であつた。

而して氏は鋼材商としての地位を確保すると共に、更らに吉野商店商事部を興して工具（エンドミル、サイド、カツター）の販賣を主として新たに業界に進出すべく鋭意奮鬪中であると聞く。

氏は常に奮鬪主義を以つて信條とし、堅忍不拔の精神を以つて邁進し只管業務の擴張を圖りつゝあるが、又た身を持すること頗る謹嚴他に接して些かも城府を設けず溫容にして親しむべきものがある。

惟ふに現下の國際情勢は一刻として停止するところを知らず、東亞の新秩序建設に對する重責を擔ふ我が國は、一方變轉極りなき歐洲の天地に對してもその趨勢の歸するところに依り、重大なる役割を持つことは何人たりとも否定し得ざるところであるが、之れが重責の遂行には國力の擴充强化が何よりも先決問題たるは上叙の通りである。

故に當店の如く堅實なる基礎を有し、その取扱ふところの物資は國家的重要資材であり、而かも經營當主が烈々たる產業報國の念に燃ゆる新進氣鋭の士である點に鑑み、吾人の囑望惜かざる處である。

鑛山業

福田熊太郎氏

東京市澁谷區原宿二ノ二〇九
電話 青山四七一一番

世人は多くの成功者を知り、また聞いて誰れしもがそれを學ばんとする。しかし、世人の多くは其の學ばんとする先覺者の勞苦、その過程を忘れて其の成功したる結果のみを羨望してゐる。

成功者の過去は、これを羨望する者が想像するほど容易なものではない。そこには長き受難の時代もあり、隱忍の時代もある。勿論そこには苦艱克服の喜びもあるであらうし、輝やける希望もあらう。けれどその過程たるや第三者が想像するが如き簡易なものではなく荊の道である。寧ろ、世人が成功者に學ばんとするところは、苦艱克服の點であることが必要ではあるまいか。

「艱難汝を珠にす」と敎へられながらも、其の艱難克服を學ばんとするところなく、直ちに珠たらんとする。かくては成功などは到底望み得るものではない。勿論世人の多くが、否誰れしもが成功を希求して世に立ちながら成功する人の少ないが爲めに、成功者の存在が貴く輝やいてゐるのであるが、之れは多く成功者を學ばんとするところを誤るからである。

我が福田熊太郎氏の如きは正にそれを學んで、それを成し遂げた人材である。氏の今日に至るまでの過去は數多の苦難時代を經てゐるが、氏は克くそれに耐え、着々として初期の成果を納め、鑛山業としての大を築くに至つたものである。

現在、氏の所有鑛區は朝鮮咸興北道に於ける金礦區、北海道釧路に於ける金礦區、北海道釧路に於ける金礦區並に石炭鑛區、樺太に於ける石炭鑛區等を主としてゐるが、殊に金含有率は十萬分の八と云ふ高度のものである。日本產金、住友等へ賣却、又炭礦區は東邦電力、日本窒素等へ賣却してゐる。

氏は明治二十五年十一月二十日を以つて岡山縣阿哲郡新見町に於て出生、父君を房吉氏と呼んで其の長男である。夙に林產業鑛山業界に雄飛すべく、疾くより斯界に身を投じて奮鬪努力したもの、北海道樺太方面にありては氏の足跡の入らぬところなしと云ふ位である。而して當初は北海道樺太方面に於て造林業に從事すること十數星霜、其後鑛山業界に進出して今日をなした逸材である。氏が人として完成されてゐるのも過去の苦艱時代をよく自己のものとしたことに因由してゐる。玆にまた氏の尊き光りがあり、業態愈々向上の一路にあるは大ひに欣びとするところである。

惟ふに、現在我が國は對支聖戰も愈々最後段階に達し、國家總力を擧げて急速に之れが完遂のために努力しつゝある一方、占據地域に樹立したる新政權に對して滿腔の援助を惜しまず、東洋の天地に新秩序の黎明が到らんとしてゐる。この際我が產業界が益々多事を極めるのは自明の理である。

要するに時局下に於いて一切の資材は直ち以つて聖戰の目的遂行の上に密接な關係を有してゐることは論を俟たないが、殊に資源開發の意味からしても、鑛山業界にありて氏の如き逸材が大々的に精進せられることは意を强ふるところである。國力增强の急務切なる秋に際し、氏に期待する處甚大である。

南鋼業所主
朝日特殊鋼製造所代表

芳野豊雄

東京市芝區芝公園五號地
電話芝八八三・四三四番

近代の戰爭は科學の戰ひであると共に經濟の戰ひでもあることは、今や總べての國民が確認するところとなつた。

而して今次の對支聖戰は愈々最後の段階に到達するに至り、一方果敢に軍事行動を繼續すると共に、他方にありては所謂新東亞建設のために國家總力を强化し、武力の充實と共に銃後經濟力の確保を第一とする、卽ち生産力の擴充、物資の節約、技術の練磨、人的物的共に百パーセントの增强を圖らねばならぬのは明白な事實である。

かく戰時體制下に於ける生産力の擴充は、先づ鐵鋼業の確立を第一歩とするのは、生産機關を有する百般の工業が、凡べて鐵鋼業を母胎として行はれるからである。從つて刻下の軍需的の最大の要求は鐵鋼業の確立と充實にあつて、業者の責任を一段と痛感されるものがある。

玆に擧ぐる芳野豊雄氏は南鋼業所を主宰經營するのみならず、朝日特殊鋼製造所の代表として業界に君臨し、其の縱横無碍なる活躍振りは巨人野を往くに等しきものがあり、斯界の驚嘆久しうするところである。

氏は明治四十四年十月を以つて東京麴町に於て呱々の聲を發し、父君を一郎氏と呼んで其の三男である。夙に英明俊敏の資性を謳はれたが、目白中學校に學を修めるや直ちに河合ハガネ商店に入りて精勵努力、其の表裏なきところは忽ち認められて重用視されるに至つたが、獨立不羈の念熾烈なる氏は昭和三年主家を辭して南鋼業所の名稱の下に芝區田村町五丁目に獨立、玆に華々しい第一歩を斯界に印したのである。

斯くて創業以來は眞摯熱誠を吐露したる精進と天禀の才能は相俟つて益々業態を隆興ならしめ、從來の店舗にては狹隘を告げるに至りしため昭和十三年十二月を期し芝區芝公園五號地に移轉し、諸機構を整備して益々時局産業に便乘して堅實なる地歩を占むるに至つた。

而して又特殊鋼の需要の愈々多きを加へるに鑑み、新たに朝日特殊鋼製造所を新興工業地川崎市に創立して其の代表者として卓腕を發揮しつゝあり、令名を斯界に謳はれてゐる。

其の營業とするところは特殊鋼一般、起高實合金バイト、高速度鋼カッター等であるが、既に特殊鋼協議會特約指定商に擧げられて業礎の堅實を誇つてをり、主として三井系諸會社、東京電氣、芝浦製作をはじめ北辰電機、東洋精機、富士電機、富士通信機等に納入して、納期の正確迅速、優秀なる品質を以つて好評を博してゐる。

又餘力を以つて芝區三田四國町の前田製作所を傘下に收め、生産方面へも活潑なる動きを見せるのみならず、近き將來に於ては大陸進出を試みるべく鋭意企畫中であると聞く。南鋼業所、並に朝日特殊鋼製造所は共に營業所を芝區芝公園五號地に置き（電話芝八八三、四三四番）芳野豊雄氏自から第一線に立ちて內外の業務一切を統率して遺憾なく手腕を發揮しつゝあり、向後の飛躍を各方面から大に期待をもたれてゐる。

しかも芳野氏は人格高潔にして明朗闊達な青年紳士、其の豊富なる經驗を巧に生かして縱横に其の手腕を揮つてゐるのは偉とするに足る存在と云へやう。

而して氏は自邸を赤坂青山北町の閑靜なる山の手に構へ、令室つる子夫人を迎へてゐるが、夫人は頌榮高女出身の才媛である。

北越石油株式會社取締役

吉田薫氏

東京市麴町區平河町二ノ九
電話九段三七六九番

近代戰爭に石油が缺くべからざるものであることは、今更ら玆に論ずるまでもない。かの第一次歐洲大戰の當時よりして「一滴の油は一滴の血と同じく尊い」とさへ云はれてをり、實に石油資源こそ近代戰爭遂行上に於て不可缺の原動力である。又平時産業界に於ても凡ゆる方面で重要なる役割を演じてゐるのは能く知られてゐる處である。

而して突如として勃發したる今次支那事變は更らに長期戰に移行すると共に國家總力戰の體制をとり、今や大東亞共榮圏確立を目指して堂々歩武を進めつゝある。かくて重要資源の統制は益々强化され、其の業に從ふものは滅私奉公の至誠至情を披瀝し、産業報國の旗の下に銃後産業人たるの責務を果たすことが喫緊の要事である。

この秋に際し、戰時體制下に於ける石油資源の重要性を夙に認識して國防産業の確立へ協力を惜しまず、孜々として精進しつゝある新進氣鋭の士、吉田薫氏のあるは大ひに欣ぶべきである。

氏は北越石油株式會社取締役の要椅にありて、兎もすれば時局の的確なる認識を失ひ、所謂時局當込み事業家の多い中にありて、一貫して毅然たる態度を示し、飽くまで國家産業の確立と完成へ向つて、一切の犧牲を超越して、眞に力强き協力を惜しまず、燃料國策の確立にその眞摯努力を致すところ正しく銃後産業界の戰士として擧げ得られる餘やける存在である。

而して氏は大正二年五月二日を以つて呱々の聲を發し、夙に其の英邁なる資性を知られてゐたが、學序を經て慶應義塾大學に進み斯學の蘊奥を極はめるべく、切磋琢磨の功を累ね、優秀なる成績にして同大學を卒業した逸材である。其後志を産業界に抱き北越石油株式會社取締役に擧げられるや其の豊富なる學殖と天賦の才識を以つて社の樞機に參し、同社の業績昂揚に力を致し新進氣鋭の士として令名を謳はれてゐる。

而して事業人としての才幹を具備したる人は多いが、事業家にして完き人格の士は容易に見出されない。恒産を有し、物質的に社會的に寄與したとしても必ずしも其の人の人格が完きものであると云はれぬ。平素の言行が人としての完璧を示さなければならないが、これは言ふべくして却々望めるものではない。然し、玆に擧ぐる吉田氏の如きは正にその一人である。其の言行には常に間然するところが些かもなく、而かもその上に事業家としての才幹をも有してゐる。北越石油會社に氏のあることは大なる欣びである。

尙ほ氏の岳父は軍醫總監として功勞があり、偉名を謳はれた人、其の儼たる家憲はよく氏の如き逸材を生ずるに至つたもの、夙に其の軍人精神によりて訓陶せられた氏は烈々たる愛國の至情に燃えてをり、事業を通じて國家への奉公を念じてゐる。寔に稀有の士として推稱すべきであらう。

今や國家總力戰と云はれる聖戰は、常に征地に奮鬪する勇士にのみ依存することなく、銃後を守る國民全體が總べて前線戰士の心を心として各々職能に應じて其の責務を忠實に遂行せねばならぬ。就中、國家的大使命を帶びるものは産業界に活躍する少壯の士でなければならぬ。氏に期待する處大である。

株式會社 有賀商店

取締役社長 有賀玉吉氏
專務取締役 有賀孝一郎氏
東京市日本橋區横山町七
電話浪花四五二・四五三番

商業の道德は不合理なる利潤を貪らず、相當せる價格を以つて、汎くこれを販賣するにある。斯くしてこそ信用自づから篤く、業勢また向上の一路を辿る。もとより、勤勉努力は必要とするも、其の努力を合理的に活用し得て、以つて他を利し、自己も益するが故に始めて商業の妙諦を發揮したるものと云ふべきである。

この點に於て株式會社有賀商店を總宰する有賀玉吉氏が精勵惜しむことなく、而かも常に誠實奉仕不動の信條として終始一貫、着々として業績を收めつゝあるは、慥かに斯道の眞髓を知るの士として推稱すべきであつて、名聲を謳はれ信望を一身に聚めつゝあるは、蓋し當然の歸結であらう。

氏は有賀商店を大正元年より創業して、洋品洋傘の雜貨卸問屋を業とし、爾來不撓不屈の努力精進と共に天賦の才能を發揮し、よく業運の飛躍と伸展を圖り、年を加へる毎に堅實なる地位を占め、遂に今日あるの大を築くに至つた。是れより先昭和九年に從來の個人組織を業運の進展に伴ひて株式會社に改組し、資本金一百萬圓を擁して取締役社長としては玉吉氏自から其の要椅に座し、專務取締役には令嗣孝一郎氏が列し、愈々時代に併行して精進しつゝある。

現在の主なる納入先は三越、高島屋、松屋、松坂屋、白木屋、東横百貨店、横濱松屋、同く野澤屋等の各デパートを專門として絶對的の信用を博してゐる。

而して社長玉吉氏は山梨縣の人、直兵衛氏の長男として明治二年十月二十五日を以つて呱々の聲を擧し、夙に才氣喚發、若冠にして出京して實社會に身を投じ、刻苦精勵、機を得て獨立自營、洋品雜貨商を開業して奮鬪するところあり、大正元年より洋傘問屋を創めて益々精進、よく今日あるの基礎を築くに至り、其後、株式に改組して營業を擴張して今日の地歩を占めた逸材である。

しかして名利を求めず私心なく、たゞ至誠努力を以つて處世の要諦となし、敬天愛人の思想を持つ高潔なる人格者、又た犧牲的精神に富み圓滿なる常識を具えてゐるところ寔に典型的の業界人と云ふべきであらう。

家庭には淑德高きてる夫人あり（山梨縣手澤文七氏の三女、明治十二年生）て良妻賢母の譽れを謳はれてゐる。

長男孝一郎氏は明治三十五年の生れ、夙に大倉商業學校を卒業し、父君のよき協力者として奮鬪、現在にては專務取締役の要椅にあり、實際的に内外を統率して間然するところなく、尙ほ東京洋傘卸小賣業組合理事東京毛布卸小賣業組合理事等に擧げられて錚々の名を馳せつゝある新進氣鋭の實業人、既に令閨として文子夫人を迎へてゐるが、夫人は寺尾氏の二女にして府立第一高女卒業の才媛、嘗て陸上競技選手の華と謳はれて母校の榮譽を擔つたことはよく人の知るところである。

尙ほ二男恭造君（明治三十六年生）、三男勝男君（明治三十八年生）、四男武之助君（明治三十九年生）、五男定五郎君（大正五年生商大在學）、六男要之助君（大正八年生）がある他、二女桃代孃（明治四十一年生、日向氏に嫁す）、三女靜江孃（明治四十二年生）、五女文野孃（大正二年生）、六女あさの孃（大正九年生）があり、頗る子福に惠ぐまれてゐる。

株式會社 釜芳商店

取締役社長 伊藤善一郎氏
常務取締役 伊藤武二氏
同 安藤道臣氏
東京市下谷區上車坂町五三
電話根岸二一四一——一四 七番

身を修め、家を恃へることは、即ち社會國家を整へる所以であり、國民が各々其の業に精勵して家運の繁榮を招來することは、之れ國家を興隆せしめるの道である。故に營々として其の業に忠實なる國民こそ、國家に翼贊するものとして推稱するに足る。

我が伊藤善一郎氏が株式會社釜芳商店を統率して努力奮鬪、しかも公益優先の建前を以つて毫も不當の利潤を求めず、至誠を披瀝して滅私奉公の實を擧げつゝあるは偉とすべく、斯くしてこそ自づから業運の進展を齎らすものと云へやう。

株式會社釜芳商店は昭和二年二月二十一日の創立にして、昭和七年五月に本店を東京に設置し、益々業務の擴張を圖りつゝあり、資本金は八十萬圓（全額拂込濟）を擁して斷然斯界に雄飛しつゝある。其の營業とするところは石炭、木炭、亞炭、豆炭、コークス、ストーブ、砂糖、製粉、醬油、製飴等であり、支店出張所を擧ぐると芝浦出張所（西芝浦）栃木支店（栃木市倭町）宇都宮支店（宇都宮市一條町）福島支店（福島市早稻町）山形支店（山形市香澄町）長野支店（長野市南千歳町）前橋支店（前橋市天河原町）鹽釜出張所（宮城縣鹽釜港）大阪出張所（大阪市港區舞天町）若松出張所（若松市海岸通り）小樽出張所（小樽市色内町）平出張所（福島縣平市）富山出張所（富山市新富町）の他、更らに小山市、釧路市にも新設して殆んど横斷的の商陣を張り堂々たる業態を示しつゝある。

而して主なる最近の納入先を擧げると陸軍造兵廠、同糧秣本廠、被服本廠、第二師團等の軍關係をはじめ各專賣局、東京都市遞信局其他、東京市電氣局等より日本發送電、日本紡績、東京電燈、日本曹達、東京人絹、理化學興業、東京製鐵、大同電力、日本海電氣、昭和産業、丸富製鋼、日本特殊鋼材、川口化學工業、産原製作、日本鑄鋼、日本火藥、郡是製糸、日本食料工業、東京パン等の著名民間會社工場であり、昭和十三年度の石炭販賣額は四十八萬四千三百瓲に達し、總賣上金は一千七百八十六萬餘圓を計上してゐる。

其の重役陣を見るに代表取締役として内外一切の業務を綜覽しつゝあるは伊藤善一郎氏にして、常務取締役には伊藤武二氏、安藤道臣氏があり、前者は砂糖、製粉關係を擔當し、後者は燃料關係を擔任して夫々卓腕を發揮し、錚々たる實績を擧げつゝあり、而して統率の地位にある伊藤善一郎氏は栃木縣の人明治三十五年十一月の出生にして父君は常三郎氏と呼んで其の長男、夙に英邁の資性を謳はれて鄕黨より將來の大を期待されるところがあつた。學序を經て明治大學法學部に入りて螢雪の功を積みたる偉材、其後、父業を繼承して精進するところあり、累年業運の飛躍を遂げるや株式會社として組織を新たにし、更らに機構を全面的に擴充して積極的の活動をなしつゝある。

今や業界多事の際、氏の如き眞摯熱誠の士の奮鬪に期待するところ大なるものがある。

都市土木株式會社

專務取締役　大島司郎氏

本社　京橋區京橋一丁目二番地
電話京橋三二六八・四九四〇番
大阪出張所　大阪市西區西長堀北通四丁目
電話新町四四八八・四四八九番
新京出張所　新京特別市八島通二二ノ一
電話(3)六三一一―三番
奉天出張所　奉天市大和區信濃町三一
電話(2)二五〇〇番

都市土木株式會社は大正十二年の創立にして、其の營業とする工事科目を擧げると、鋪裝工事一般（道路、飛行場、橋梁、公園、廣場、波止場、歩道、校庭、運動場、軌道等）鋪床工事一般（ホテル、ビルディング、百貨店、學校、病院、プラットフォーム、テニスコート、停車場陸屋根、馬房、飛行機格納庫、倉庫、市場、各工場等）防水工事（高架地下鐵道、貯水池、配水地、沈澱池、濾池、水給、橋梁、隧道、屋根、地下室、プール、堰堤等）特殊工事（人造絹糸工場、人造肥料工場、火工場、紡績工場、鍍金工場、化學室、電氣亞鉛工場、釀造工場、釀造タンク、製鹽タンク、製紙工場等の鹽化學藥品電氣絶緣等の鋪床又は塗布工事）及び製造販賣品としては小倉アスファルト、瀝青乳劑ウオーターフアルト等土木工事並に道路鋪裝工事用機械器具及び諸材料等の多樣に亘つてをり、頗る將來性を有し、其の業績は累年向上の一路を示しつゝある。

就中、道路部は同社の創立と同時に誕生し、當時世界の惡道路として諸外人の嘲笑の的たりし我が國道路鋪裝專業界の先覺として、先づ先進國道路の事情視察並に鋪裝技術研究の必要を感じ米國へ社員を派遣し、年餘にして最新の技術と高級鋪裝用の優秀アスファルト鋪裝機械を輸入し時恰も關東大震災直後に當面せるを以つて東京府、東京市、復興局其他諸官廳の下命を受けて多數路線の建設鋪裝に全力を傾注し、帝都復興のために大いに奇與するところがあつた。斯くてアスファルト鋪裝道路優秀性は一般の認識する處となり、六大都市を初め各府縣に於てアスファルト鋪裝の氣運大いに高まるや益々各府縣の下命に應じ、又た陸海軍の飛行場鋪裝に獨自の技術を示し、其の熱誠にして優良なる施工振りを賞揚されて今日に及んでゐる。

而かも同社はこの現狀に甘んぜず、より良く、より低廉なる鋪裝道路の獲得のために再び昭和九年技師を米國に派遣し、世界最長のアスファルト鋪裝道路たる北中南米を結ぶ國際自動車道路建設の現場を視察せしめ、最新の技術と機械設備を學び、滯米一ヶ年之れが全收獲を傾注して我が道路界の一大飛躍に貢献するところ多大、更らに昭和十四年一月よりは滿洲國に進出し、一路鋪裝報國の大目的のために擧社献身の努力を致しつゝある。

今や、最も堅實なる鋪裝道路の建設者として、既に多年の經歷を重ね信用を博し、其の將來の活躍を期待されてゐる。

本社を上敍の如く東京市京橋區一丁目に設け、大阪出張所を大阪市西區西長堀北通四丁目に置き、更らに滿洲國進出のために出張所を新京市奉天市の二ヶ所に設置してをり、其の業績は都市の發展に並行して膨脹してゐると云ふ。

尚、專務取締役の重椅にありて内外の業務一切を綜覽しつゝあるは大島司郎氏にして、氏は秋田縣の人、明治三十二年十二月の生れ、夙に英才俊敏の資性を謳はれ、慶應義塾經濟學部に學びて大正十四年卒業、其後昭和三年現社に入りて、昭和七年現在の職に擧げられた逸材である。

株式會社　鈴木工業所

取締役社長　鈴木防人氏
取締役副社長　鈴木慶人氏
常務取締役　渡邊鐵次郎氏

本社工場　向島區寺島四ノ二〇〇
電話墨田三四六二・四三二三番
五六九九・七〇二九番
小臺工場　足立區南宮城町五四六
電話王子三五八八番
板橋出張所　板橋區志村町一〇〇
電話板橋一一九〇番

今や皇國日本は凡ゆる國力を總動員して、新東亞建設と云ふ未曾有の大業を貫徹すべく官民一致、所謂一億一心となりて勇往邁進しつゝあるこの輝やかしい事實は日本の現在の地位を確保するのみならず、將來の位置を決定し、東亞に於ける盟主たる地位を益々向上せしめることは云ふまでもなく明白なところである。

從つてこの國家的覇業の完遂のために、國民各自が其の職業を守り、其の職能に依りて一路邁進、報國の赤誠を吐露しなければならぬ。

玆に擧ぐる株式會社鈴木工業所の如きは軍需材料に馬具其他の製作に從ひて營々たる精進を累ね、擧社献身、滅私奉公の至誠を衷心より披瀝して高度國防國家建設の生産陣營の一翼として力强い存在を示してゐるのは偉とするに足る。

現在、同社は資本金百五十萬圓を擁して本社並に工場を上叙の如く向島區寺島四丁目二〇〇番地に設け、小臺工場を足立區南宮城町に置き、更らに出張所を板橋區志村町に設置し、取締役社長として鈴木防人氏を擧げ、取締役副社長には鈴木慶人氏があり、又た常務取締役として渡邊鐵次郎氏が列し、相協力して能く社業統宰の實を擧げ隆々たる業運を齎らし不動の地歩を斯界に築きつゝある。

而して實際的に業務を擔當して卓腕を發揮してゐる副社長鈴木慶人氏は、社長防人氏の二男として大正五年一月三十一日を以つて呱々の聲を擧ぐ、學序を踏んで日本大學に進み、商科にありて研鑽を積み、昭和十二年に卒業、其後實社會への第一歩として大倉洋紙店に勤務したるも、次で父君の經營になる鈴木工業所に移りて一介の社員に伍し、倉庫、購買、販賣、檢査等の各係りを歴任、大いに手腕を揮つて業績の向上に寄與するところあり、昭和十三年より取締役に任じ、副社長として社業を統宰し、父君たる社長のよき協力者の名を馳せてゐる。又た傍系會社三鷹精機製造株式會社の監査役として重きをなす。

而かも業に當るや勤勉堅實主義を鐵則として熱心誠實に一貫し、着々業運の飛躍に努めてゐる。斯して軍部方面の信頼頗る篤きものがあり、今次事變に際して大なる用命を擔つてゐるが、氏は自から第一線に立ちて督勵奮鬪、産業報國の赤誠を捧げてゐるところ蓋に時代に生きる産業人として推稱するに足る逸材である。

資性溫厚にして篤實、常に謙讓の德を失はず、毫も切を誇ることなく又た責は自から負ふと云ふ犧牲的精神の持主、而して名利を求めず私心なく、富貴を欲せず、たゞ至誠努力を以て處世の要諦となし、敬天愛人に生きる高潔なる心境は敬仰の念を湧かしむ。

趣味また氣質高雅にして謡曲をたしなみ、書道、繪畫を好むと聞く。

家庭には淑德の譽れ高き淑子夫人ありて長男仁一郎君を今春儲けてをり、夫人は宇都宮高女卒業の才媛である。住宅を江戸川區小岩町七丁目六三三に構へてゐる。

株式會社 大塚伸銅所

取締役社長 大塚作太氏
常務取締役 古川義郎氏

本社 東京市神田區松永町一八
電話下谷 五五八八・五五八九・九〇三三番
上尾工場 埼玉縣北足立郡上尾町柏座
電話上尾 四七番
浦和伸銅所 浦和市大字針ケ谷中山西
電話浦和 二八四四番

支那事變勃發以來、皇軍の勇猛果敢なる作戰行動に依り、既に抗日蔣政權は沒落に瀕し、我が占據地域には防共日支親善を目標とする新國家の生誕あり、斯くて所謂大東亞共榮圏の確立に邁進しつゝある。

この緊張した戰時體制下にあつては益々軍備の充實と生産力の擴大とに全力を注ぐの要がある。而して武力の强化充實には我々國民は皇軍に對して全幅の信賴をすることが出來るが、生産力の擴大に就いては、銃後産業人の双肩にかゝつてゐる。即ち産業の種類如何を問はず、國家總力の强弱に及ぼす影響は極めて多いのであるが、就中、伸銅業の有する重要性は諸産業の母胎とも云ふべく、頗る大なるものがある。

我が大塚伸銅所は銅、黄銅、燐青銅、洋白、アルミニウム、線、板、棒、各種異型品、陸海軍規格品、特殊合金、地金の製造販賣を營業として、本社を神田區松永町に置き、工場として埼玉縣北足立郡上尾町に上尾工場を有する他か、更らに昭和十三年八月より浦和市針ケ谷に浦和伸銅所を新設して益々事業の擴張を圖り、時局産業界に特異の存在を示してゐる。首腦部には取締役社長として大塚作太氏がありて内外一切を綜覽しつゝあり、又た氏を扶けて常務取締役古川義郎氏があり、取締役には水野米吉氏、西田種治氏の二氏、監査役としては小野田靜氏、鈴木秀三郎氏が、顧問として山田章三、鈴木德藏氏が列してゐるが、相協力して精勵、能く時局を認識して生産力の强化に努力しつゝあるのは偉とするに足る。

抑々當所は現社長たる大塚作太氏が大正十年の交、個人經營として創業したものに端を發し、爾來年を累ねる毎に順調なる發展を遂げ、着々として基礎を築くに至つたが、昭和十年六月に及んで更らに業務の擴張をなすべく、玆に組織を改めて株式會社となし、資本金五萬五千圓を拠し、次で八萬圓に增資し、更らに十萬圓に躍進し、遂に昭和十三年八月に至り、現在の如く金十五萬圓(全額拂込濟)に增資したものである。

其の製産品の主なる納入先は東京電氣株式會社、三菱電機株式會社、株式會社日立製作所、沖電氣株式會社等をはじめ著名會社工場であり、以つて其の品質の優良なることが察知されやう。

尙ほ、取締役社長の要椅にある大塚作太氏は名古屋市にて呱々の聲を發し、夙に雄志勃々たるものがあり、其の大成を囑されてゐた逸材、同市商業學校に學びて卒業するや敢然上京して業界の人となりて刻苦精進而して若冠二十六歳にして自から業を創め、益々奮鬪を以つて一貫し、遂に今日の大成を招來したのである。

特許紡織株式會社

取締役社長 吉田勇三氏
專務取締役 久住呂九一氏
常務取締役 大橋藤造氏
本社及工場 葛飾區新宿町二ノ五六〇
電話新宿 二四〇番
東京營業所 麴町區丸ノ内二丁目岸本ビル
電話丸ノ内五七四七番

纖維工業は實に我が國輸出入貿易の大宗にして、之れに國内需要を加われば其の産額に於て從業員數に於て我が國最大の産業たると同時に、工業界の最高峰たる地位を占めてゐる。而して世界の商戰場裡に於て斷然優位を占めてゐるのは、最新の科學的研究と優秀なる設備と合理經營の賜と云はねばならぬ。

現今、非常時局に際し貿易の統制と各國の重壓とにその發展に影響を免れずと雖も、戰時經濟確立の根本たる在外正貨獲得の手段としては紡織業は依然王座を占め、益々不撓不屈の奮鬪に期待しなければならぬ。即ち今次支那事變の渦中たる現在は決して雌伏の時代ではなく、更に躍進を企圖すべく、科學的再檢討を加へて活動力を旺盛ならしむべき時機である。

方今、原料の不足は單に我が紡織界のみでなく各方面とも代用品資源の探求に專命しつゝある、やがて代用品は正用品となるべき時代が來るのは當然であらう。纖維工業界に於いても常にステープルフアイバーや人造絹糸に限らず、樣々の纖維の發見やその改良は益々拍車をかけられてゐるが、玆に擧げる特許紡織株式會社の如きは植物纖維—即ち「ゼンマイ」に依る新境地を開拓し、之れを事業化して斯界に寄與しつゝある。

當特許紡績株式會社の創立は昭和六年にして、專務取締役たる久住呂九一氏の不撓不屈の研究の成果を企業化したもの、本社及び工場を葛飾區新宿町二丁目に置き、營業所を麴町區丸ノ内岸本ビル内に設け、爾來孜々營々たる努力精進を累て着々業態の向上を示し、今日にありては斯界に特異の存在を以つて鳴り、隆々たる業績を擧げてゐる。

試みに第十期(自昭和十四年六月至十一月)に於ける損益計算書を見るに、製品賣上高九四圓五十錢、織布賣上高六萬三千二百二圓八十三錢紡糸賣上高四十四萬一千三百五十四圓十六錢、紡績工賃一萬三千九百六十六圓九十七錢、織布工賃三千三百四十七圓五十四錢であり、其他を合して五十二萬三千六百九十六圓五十四錢の收入を擧げ、而して營業費、工場費、原料費其他を差引と當期利益金として二萬四千九百五十七圓餘が計上され、株主配當として年一割を行つてゐる。斯の如き新興代用品の生産事業は往々にして收支相伴なはず企業化されざる憾みあるが、當社は創立數星霜にして既に以上の如き實績を示してゐるのは、社首腦部の並々ならぬ精進を如實に物語つてゐると云へやう。

現在の首腦部としては取締役社長に吉田勇三氏を擧げ、專務取締役に久住呂九一氏自から當りて社業を統宰し、常務取締役に大橋藤造氏がありて氏を扶け、取締役には河合良成、山崎清、久富大藏、古賀豐次の諸氏が列してをり、監査役に宮崎賢一氏、久富二六氏、奥村佐久三氏、牧文雄氏がある。

而して久住呂專務は事業經營に卓腕を示すのみでなく、技術方面に對する研究も益々怠ることなく、所謂經營と技術との兩道を邁進して巧みに之れを消化してゐる逸材、加ふるに明識卓見あり、よく時局を認識して鋭意産業報國の念に富むところ洵に得がたき人物と云へやう。

株式會社

堤水壓機製作所

取締役社長　堤　武雄氏

東京市深川區平井町三ノ二
電話深川二二三二――三番

我が對支聖戰も愈々最後的段階に入り、今や國家總力を擧げて急速に之れが完遂のために奮鬪しつゝある一方、所謂大東亞共榮圏の建設に邁進し、東亞新秩序の黎明が將に到らんとしつゝある。かくて國内に於ては益々國力增强のために各種重要産業の生産力擴充に努力を致すのが國民たるものゝ責務である。

玆に擧ぐる堤水壓機製作所は創業以來十星霜、不撓不屈の社長堤武雄氏が水壓機械の專門的研究製作に献身的の努力を傾注し、本邦斯界の代表的存在として重きをなすと共に、之れが應用分野の擴大化と相俟つて生産力の擴充强化の上に大なる關與性を有するものとして重視されてゐる存在である。

其の製品の主なるものは堤式超高壓ポンプ、堤式無蓄力高壓ポンプ、手動超高壓ポンプ、各種プランヂャー・ピストン・ポンプ、堤式高壓切替弁、各種水(油)壓プレス、油壓グラインダー等であるが、いづれも特許又は實用新案を獲得してをり、實に水又は油壓機專門製作工場としては斯界の最高峰にありと云ふも蓋し過言ではない。

而して昭和十一年四月、上野に開催されたる躍進日本工業博覽會に出陳、實演して好評を博し、更らに翌十二年四月には名古屋に於ける汎太平洋平和博覽會に出品して絶讃を獲得するに至り、愈々名聲は嘖々たるものがある。

抑々堤氏が獨立斯界第一歩を印したのは昭和六年にして、京橋區月島通り三丁目に工場を設けて奮鬪着々業礎を築くや昭和十三年四月現在の地に大規模なる工場を新設して移轉と共に株式に改組し、設備の擴充整備に依つて其の生産力は遙かに高度化すに至つたのである。而して四月三日神武天皇祭の佳日をトして創業滿七周年、株式改組、新工場落成記念並に社長の鄕里の權現神社新工場構内遷座祭を盛大に擧行し、併せて事變戰歿將士の英靈に對する慶弔並に出征將兵の武運長久祈願を行ひ、長期建設下に於ける銃後産業戰士としての烈々たる意氣を示したのであつた。

而して堤氏は社長として内外一切を綜覽しつゝあるが、氏の鄕里は靜岡縣加茂郡仁科村にして出生は明治三十三年十月十日であり、夙に英明の資性を以つて鄕黨に鳴り其の將來を囑望されるところ頗る大なるものがあつた。志を工業界に立てゝ敢然東都に上り、斯界に身を投じて孜々として奮鬪を累ねること十有二星霜に及ぶと云ふ。其の間、只管研究を怠らず、遂に獨自の境を拓いて完全なる水壓機の製作に成功し、玆に業を創め今日の大を築くに至つたものである。

惟ふに時局といふ時代の潮流は、幾多の會社工場と無數の人物を世に送り出して、國家總動員を遺憾なく發揮してゐる。生産擴充は時の聲である。然し乍ら時局は之を利用するものに非ずして飽くまで正しき認識の下に時局に添はなければならぬ。この認識なくして徒らに時局に阿ねることは、決して良心ある業界人のなすべきではない。今日の場合、眞の業界人は滅私奉公、公益優先飽くまで銃後産業戰士たる本分を盡すにある。

この好き例として我が堤氏を擧げ得るは我らの大なる欣びとする。

株式會社

城南機械工業製作所

取締役社長　高倉之助

營業所　蒲田區西六鄕三ノ二九
第一工場　電話蒲田四〇八七・五二六六番
第二工場　蒲田區羽田本町二四三―五
電話羽田八三〇番
第三工場　蒲田區西六鄕三ノ一番
電話蒲田二六九五番

今や我が國は精神的にも物質的にも凡べての國家總力を動員して、聖戰遂行の大目的に向つて精進してゐる。此の秋に際し、銃後産業人たるものは先づ何よりも自己の職責、社會的分野等に十分の理解を有し、それが國家の總和となることで能く認識するのが先決問題であらう。

徒らに資本の尨大を誇り、又た規模の完全を衒るもの尠なからずある産業界に於て、叙上の如く眞の自己の分野、職責を確認し、それが國家總力の一環に列なることを悟り、滅私奉公の至誠を披瀝しつゝある業界人は果して幾人を數へ得られるか。

玆に擧ぐる城南機械工業製作所をはじめ多くの會社工場を主宰する高月春之助氏の如きは寔に時局を認識したる産業人として推すに足る。即ち氏は城南機械工業製作所社長たる他、株式會社新興機械工業製作所社長、三和鐵工株式會社々長、東京重輕機株式會社取締役として活躍するのみならず、日本鑄物工業組合聯合會理事、東京城南鑄造工業組合理事長、東京府鐵工製品組合聯合會統制委員等に擧げられて奔走し益旋しつゝある逸材である。

氏は明治三十二年五月四日の出生、夙に英邁俊敏の資性を以つて鄕黨に囑されること大なるものがあつたが、志を工業界に抱くや學序を經て横濱高等工業學校機械專科に學びて大正十年卒業、直ちに株式會社淺野造船所製鈑工場修繕部に勤務して斯界に第一歩を印す。次で日本鑄造株式會社工務課へ轉勤し、越えて大正十五年鶴見ヤマサ合金製作所に支配人として迎へられ、卓腕を縱横に發揮して令名を謳はれた。

而して獨立の念熾烈なる氏は此の小成に安んぜず、昭和八年日本鑄物工業株式會社を創立し、常務取締役に就任したるも、翌九年同社の日本エタニットパイプ株式會社に合併されるや同工場長の重責を擔ふ。更らに昭和十年、新たに城南鑄物工業株式會社を創立し、常務取締役に列して活躍する處あり、次で昭和十三年城南機械工業製作所を獨力にて創立し、之れを統率して奮鬪、業運の發展と共に翌年株式會社に改組し、社長の要椅にありて精勵しつゝある。

城南機械工業製作所は營業所第一工場を蒲田區西六鄕三丁目に置き、之れを鑄物、機械工場とし、同じく第二工場を羽田本町に設け、更らに第三工場は製鐵工場として西六鄕三丁目に設けてあり、其の營業種目を擧げると、鑄造部―鑄鐵、鑄鋼、銅合金、特殊合金にして、機械部―製鐵、製鋼、鑛山及び船舶補助機械、製紙バルブ及化學機械、起重機及コンベヤー、車輛部分品であり、製鑵及鐵工部―一般製鑵工場、タンク及ガーター、其他鐵工事一般である。

其の納入先は鶴見製鐵造船、新潟鐵工、東京芝浦電氣、東洋パブコック、東京製鐵、尼ケ崎製鐵、日本エタパイ等の著名會社工場であり、以て同所の製品の卓越性が知れやう。

鈴木金屬商工株式會社

常務取締役 富村義人

營業所及王子工場 王子區神谷町一ノ六三六 電話赤羽三三〇八番
城東工場 城東區龜戸町一丁目八〇 電話墨田一九六九番
本社 下谷區入谷町二六〇 電話根岸七七・八三一・八八番

戰時體制下にありて、軍需材の生產擴充は何をさて置いても遂行することが肝要である。其の結果は凡ゆる工業が軍需を目指して新設に、擴張に努力を累ね來たつたが之等は當面の軍需材を滿たすに過ぎず、眞に國力に添ふ軍需資材の生產機關として擧げ得るものはまことに僅少に過ぎない。

其の中にありて、近代科學の兵器たる航空機、自動車等の部分品用或は發電機、電動機等の電氣機械器具用、輸出寫眞機用、精密諸機械用として國防上重要なる役割を演ずるピアノ線の製造に當り鈴木金屬商工株式會社の存在は看過することが出來ない。其の規模は徒らに大ならずとも、卓越せる製作技術と優秀無比なる製品とは、軍部はじめ各方面より多大の期待と關心を寄せられてをり、斯界の最精鋭として其の地位は不動のものである。

この重大なる使命を有するピアノ線は從來は諸外國よりの輸入に俟つ處大であつたが、當社首腦部以下全技術員の獻身的精進に依り、優秀なる國產ピアノ線の完成を見たのは正に科學日本に上る凱歌である。

當社の創立は昭和十三年五月にして營業所並に製作工場を王子區神谷町一丁目に城東工場を城東區龜戸町一丁目に有し、國策線に添つてアルミニウム、洋白、銅線、燐青銅其他の各種合金線の製造を業としたもの而して首腦部には取締役社長として鈴木金三郎氏が擧げられ、常務取締役には岡村泰一氏がある他、村山祐太郎、松田幸太郎氏等が列して協力一致外國品驅逐の心構へを以つて、眞摯熱誠に一貫し、其の不撓不屈の努力は遂に結實するに至つた。

所謂スマキのピアノ線は抗張荷重、屈曲回數、捻回々數、壓縮、破斷等あらゆる點に於て先進諸外國よりの輸入品を遙かに凌駕する優秀なるものにして、益々其の前途に期待をかけられてゐる。

而して常務取締役として能く社長を扶けて業の一切を綜覽しつゝある岡村泰一氏は明治四十五年二月二日を以つて東京田端に生れ、父君は岩次郎氏と云ひて其の長男である。夙に氣才の縱橫、英邁な資性を謳はれたが年少疾くも鈴木地銅店に入りて實社會の第一歩を踏む、爾來表裏の別なく精勤恪勵して斯業の眞諦を究め、着々として重きをなし大いに信望を博するに至つた。

かくて新たに鈴木金屬商工株式會社の創立されるや擧げられて常務取締役の要椅に就き、爾來滅私奉公の精神を披瀝して業に精勵、隆々たる社運を招來した偉功の人である。

尙ほ氏は新たに東京合金精機工作所を興して主宰しつゝあり、工場を鈴木金屬商工の隣接地に設け昭和十四年五月より操業を開始し、製品はまた軍關係に主として納入、好評を博してゐる。

資性、溫健にして誠實、一度業に從ふや熱心努力、不撓の意志を有し且つ識見の高邁なる處、其の人格を窺ふに足る。

濱野機革工業株式會社

取締役社長 濱野歸一氏

本社並本所工場 東京市本所區横綱町二一 電話墨田一五三七・六三三・九九九番
足立工場 東京市足立區梅田町 電話足立三六三七番

高級パツキングの研究製作に專念し、既に數種の特許實用新案を獲得し、陸軍海軍關係はもとより鐵道、航空、造船、造機、計器其他重工業方面に於いて好評嘖々たる濱野式革パツキングの製作をなす濱野機革工業株式會社の存在は輝やいてゐる。

同社の營業品目を詳述すると革パツキング（空氣及瓦斯用、水壓機用油壓機用）濱野式革パツキング（耐油、耐ガソリン、耐熱用革パツキング）、濱野式革パツキングシート（空氣バルブ用、空氣袋用）海軍用（耐熱革衞帶、テレモーター用）陸軍用（機關銃用、戰車、軍用自動車用）鐵道用（空氣制動機用、ドアーエンジン用、パンタグラフ用）航空機用（自動操縱裝置用、自動操縱用空氣弁、引金作動機用、スターター用）精密機械用（革パツキング）工業用皮革製品（ベルト、ローハイドビニオン、紡毛機用）等の特許革パツキング並に陸軍用（皮革製品及代用品其他）海軍用（皮革製兵器其他）光學用機（眼鏡裏其他の皮革製品）電機用（携帶電話機、無線電信電話附屬革）測機用（革製品）等であるが、何れも十數年來の研究の結晶にして、斷然他に比肩するものなき逸品として各方面より好評嘖々たるものがある。殊に最近に於て研究の完成を見たる耐油、耐輕油性パツキングは外國品に比してより以上の良成績を擧げつゝあるもので、寔に國產の精華と云へる。

抑々當社は大正十一年の交、濱野商會の名稱に依りて創立され、合資組織の下にありて代表者以下孜々營々たる努力奮鬪を累ね、年を加へる毎に大をなし、不動の業礎を築くや更らに生產擴充の實を擧げるべく昭和十四年四月を以つて組織を改めて株式となし、玆に濱野機革工業株式會社の創立を見たのである。

而して本社並に本所工場を本所區横綱三ノ一に置き、更らに足立工場を足立區梅田町に有してゐる。同工場は尨大なる敷地に設備完整されたる機構を有し、益々優秀なるパツキングを製造し、斷然として斯界の最高峰を往くものである。

現在、社長の要椅にあるは濱野歸一氏にして明治二十八年三月二十一日に呱々の聲を擧ぐ。產出の地は靜岡縣駿東郡にして父君は米山源次郎氏と呼んで其の二男である。夙に英邁の資性を謳はれ其の將來の大成を囑された人。其後、濱野彥四郎氏に迎へられて同家を繼ぎ、濱野姓を冒したものである。しかして淑德高き夫人との間に三男四女を儲けて和氣藹々たる家庭を築いてゐる。

尙ほ長男は敏君と呼び大正十一年の出生、現在は府立第三中學にあり長女美代子孃は大正十四年の生れ精華高女學校に在り、二女澄子孃は大正十五年の生れ、二男昭君は昭和三年の生れ、三女幸子孃は昭和六年の生れ、三男實君は昭和七年の生れにして四女愛子孃は昭和九年の生れであり、何れも父君たる氏に似て英邁秀才の譽れがある。

富士伸銅所

所長 平岩巖

東京市板橋區成增町二五三
電話白子三六番

我が國に於ける伸銅事業の歴史は、相當に古いことは周知の處である。從つて其の技術の優れてゐることもその必然的成果であつて、他の工業界に於ける技術に比較して格段の相違があるけれども、然し、眞に科學的に合理化され、製造能率の昂上を見たのは彼の歐洲大戦當時の諸事業の勃興時代に在ると云ふ。

而して現在に於ける我が國の伸銅事業界を大觀するに、或は大資本を擁して大規模に經營をなすものもあり、又た小規模ながら堅實に經營してゐるものもあり、種々雜多ではあるが、玆に擧げる富士伸銅所は、其の經營狀態に於ても將又た技術の點に於ても、更らに主宰者の明識なる點に於ても、孰れの角度からしても斯界に斷然重きをなすに足る實力と技能とを有してゐるのは特記に値いするものがある。

當伸銅所は輓近新興工業地帶として駢頭したる板橋區成增町に相當大なる規模を有する工場があり、伸銅部並に工作部に分れて總べてが合理化される經營方法と、能率的なことは主宰者の明識にして卓腕の持主なることを窺知されやう。而して伸銅部は昭和八年より操業を開始し、既に數星霜を越ゆる歴史があるが工作部は昭和十四年より新たに興したものであるが、兩部とも時流に準じて著るしい業績を擧げてゐる。

經營主宰者たる平岩巖氏は、其の人と爲りに刻苦精勵、眞に荊の道を開拓して來た人であり、それ丈けに性格的には非常に彈力性に富んで意思の强固なところがある。仕事に對しては極めて熱注主義で、事物に對する究明心に强く、苟くも事業に對しては、いゝ加減に濟ますとか、或は御座なり主義の通り一偏には過されない人である。飽くまで眞摯的にして、熱誠、而して克明に當る果敢な闘士であり、熱血兒である。しかも、一旦計畫するところあらば緻密にして細心、研究精査の行屆いてゐることは驚くべきものであると云はれてゐるが、そこに氏が事業家としての發展性を約束されてゐるのである。

而して又た、一面人間としては一點の曇りもなく、所謂明朗溌達の資性を有し、よく世情に通じて人情の機微に觸れる苦勞人であり、社員從業員に對する思ひやりに篤く、氏を中心としての懇親融和は美しいものがある。之れ事業の發展に大なる强味と云はなければならぬ。

今や、對支四年の戦時狀態を繼續しつゝある我が日本は、氣息奄々たる抗日蔣政權の殘骸に潰滅的武力を加ふると同時に、疾くも占據地域に於いて生れたる新政權のためには建設的援助を惜しむことなく、更らに大東亞共榮圏の確立に邁進し全世界の紀元を更新すべき絶大の偉業に參劃しつゝある。

而して國内に於ける生産力擴充こそは産業ならびに軍備の實力を決するに至つてゐる。實に國防と産業とは密接不可分の關係にあり、産業力の强化は戦時下日本が直面する緊急の問題で、官民あげてその增産に必死となつてゐる。この秋に當り、當富士伸銅所の如き現下の要望に應へて伸銅部工作部を整備して工場能率の增加を期し、國策の一線を驀進するのは寔に偉とするに足る。

日暮里ゼンマイ株式會社

取締役社長 小池信則氏

東京市葛飾區本田實木綿町五一
電話本田一二六番

今や對支聖戦は愈々長期戦に移行し、斷末魔に喘ぐ蔣政權は只管英米の援助に依存して、僅かにその餘命を保つに過ぎない狀態に沈淪してゐるのである。

斯の如く、支那全土の約三分の一の廣範圍に亘る地域を攻略した我が日本の武威は、之れ全く萬邦無比の忠勇なる軍人精神と作戦用兵のよろしきに依るのは言を俟たないが、尙ほその背後に在つて國力の增强に日夜精勵しつゝある我が産業戦士の功勞も斷じて見逃してはならぬと信ずるものである。

かゝる意味に於て、我が工業界に特異的の存在たる日暮里ゼンマイ株式會社の事業に就いて見るに、其の統宰者たる社長小池信則氏の愛國的精神と事業熱心の成果に他かならぬことは、一點疑ふ餘地がないる。

即ち當社は資本金十五萬圓の金額拂込濟であつて、工場敬地は八百二十餘坪、工場建坪三百餘坪にして、其の設備の完全なることは他に類を見ず、更らに昭和十四年七月に分工場として群馬縣館林町に新設された工場は近代的機構を整然たるものがあり、しかも之れに技術優秀なる工員を擁して只管産業報國の旗の下に努力しつゝある。

抑々當社の發祥は大正十四年の交、日暮里町七丁目に於て現在社長たる小池信則氏が現理研壓延工業株式會社長海野氏、福村氏等と協力して日暮里ゼンマイ工場の稱號を以つて創立したものに端を發してゐる。其の後、時代の進展に順應して日本鋼材工業株式會社と變更し、更らに理研壓延工業株式會社と合併することゝなり、日暮里ゼンマイ工場は解消するに至り、小池氏も亦同社重役に列したのであつた。

然るに、舊稱の日暮里ゼンマイ工場の名は業界に於て喧傳されてをり營業上極めて有效適功なるに鑑み、理研壓延工業株式會社諸重役は協議の結果、昭和十三年より小池氏の手に依りて日暮里ゼンマイ工場を復興することゝなり、次で同十四年八月に及んで組織を改めて株式會社となし、玆に日暮里ゼンマイ株式會社の創立はなつた。而して代表取締役社長として小池氏が列し、取締役には野中理作、木賀貫一、布田保太郎の諸氏、監査役に佐野丑藏氏内海卓氏が擧げられてゐる。

斯して新組織の下に再興したる當社は諸般の設備を整へて、戦時體制下にありて生産陣の一翼たる面目を發揮しつゝあり、其の營業種目も次の通りである。即ちゼンマイ各種（飛行機及び電話機用、蓄音器及び計器用）發條（電氣及化學機械用、紡織機用、印刷機用、農具、玩具用其他）度器（卷尺、折尺、直尺、計算器用）刄物（鋸、剃刀等）特殊スプリング、變形バネ類、鋼帶（磨鋼帶、燒入色付鋼帶）並に加工（鋼帶燒入及び各種卷板裁斷）等であり、今や業運隆昌を極めつゝある。

尙ほ小池社長は明治二十三年一月を以つて栃木縣足利市に呱々の聲を擧げ、學修の後郷里にて雜貨商を拮据經營となるも、東都工業界雄飛の念押へるに由なく、大正十一年敢然として上京し海軍造兵廠に勤務、次で斯界の王者たる欄木工場に入社し、其の剃刀工場主任兼支配人として卓腕を揮ひ、大いに寄與する處あつた逸材。其後現在の地に獨立し、爾來奪闘努力よく今日の大を築くに至つた。之れ慥かに氏が豐富なる經驗を基礎とし鋭意公益優先の建前を持して精進を累ねた賜と云へやう。

切に加餐自愛を祈る。

田中水力機械製作所

代表者 田中茂

東京市澁谷區幡ヶ谷笹塚町一〇二番
電話四谷五四五六・六四五六番

近代工業の原動力―それは云ふまでもなく電力と石炭であり、この二大原動力の脈打つところに近代工業の素晴らしい躍進譜が奏でられるのである。殊に我が國は地勢的に惠ぐまれて水力電氣の發達は、他の諸工業に比較して著るしいものがあるのは能く人の知るところである。この水力發電工業の發達に伴いて之れに關聯する諸工業の勃興も亦見るべきにあることは蓋し當然の歸趨と云ふべきである。玆に擧げる田中水力機械製作所は、水力發電用水車の專門製造業として斯界に錚々の名を謳はれてゐる存在である。

其の製品の卓越せる性能を有し優秀なることは、豐富なる經驗を有する主宰者田中茂氏が自から第一線に立ちて指導し、全從業員の一致結束して業に當る努力の成果に他かならない。而して各方面に納入して絶對的の讃辭を受けつゝあるが、最近の主なる納入先を擧げると宮城縣電氣局、山口縣電氣局、金澤市電氣局等の諸官廳をはじめ日本發送電力株式會社、東京電燈株式會社、東邦電力株式會社、東信電氣株式會社、中國合同電氣株式會社、四國合同電氣株式會社、山形電氣株式會社、京濱電力株式會社、信州電氣株式會社等全國電氣會社に及んでゐる。

而して田中氏は明治二十年十二月四日、德島縣名西郡下分上山村大字左右内村に第一聲を擧ぐ、夙に工業界の將來性に着目して雄志を抱いて上京、株式會社電業社に入りて斯業への第一歩を印したのである。爾來刻苦精勵、只管業の研修に努めて些かも倦むところなく、其の獨自の技術は他に比肩するものなしと云はれるに至つた。かくて同社に勤續格勵すること十餘年、信賴頗る篤きものがあり、名聲を馳せつゝあつたが、獨立不羈の念熾烈なる氏は、此の小康に安んずることなく、昭和七年七月敢然として現在の地に獨立し、田中水力機械製作所を興したのであるが其の修得したる經驗を基礎とし、加ふるに天賦の才能を以て獨自の製作工程による水力發電用水車は其の性能に絶對的の信頼を懸けられ、斷然斯界に頭角を現はし業運昭々として昇り、遂に今日あるの大を齎らし特異の存在を謳はれてゐる。

しかも氏は信念の人である。其の信念たるや單に濟家治産の自己滿足ではなく、事業を通じて廣く國家社會に報恩せんとする白熱的氣力に燃え上つて全智全魂の限りを打ち込んでゐる。氏の事業が今日の國家非常時に際し、如何に有意義的なる原動力となつてゐることか。時局の波に際會して電力資源の開發に寄與するところ甚大なるものがある。

斯樣にして氏は素より英智衆に優れて發明的天分豐かなるものあるにせよ、若冠にして斯界に入り努力精勵、今日斯業の一角を完成して水力發電用水車製造の權威と稱されてゐる立志傳中の人である。常に滅私奉公に專心して躍進工業日本の建設に健闘し、撓ゆなき精進を續けつゝある。又た氏が世の事業家と大いに異る處は學究的肌合を多分に有し、研究心に篤く、其の製品に獨自の境地を開拓してゐるのは偉とすべし。

惟ふに近代戰は科學戰と云はれ、又經濟戰とも稱されてゐる。戰爭の究極の目的を完全に遂行するには單に武力のみにては決定するものではなく、多分に生産能力の擴充强化を其の背後に必要とする今日、氏並に當所の發展を更らに期待するものである。

株式會社鈴木電機製作所

專務取締役 鈴木武雄

東京市豐島區高松町一ノ二一
電話落合長崎三一二六番

文化の發展に伴いて通信機關の異常なる發達を實現することは、敢えて玆に喋々するまでもない。苟くも世界の文明國を以つて任ずる國は、何れも通信機に對する獨自の製作技術を所有してゐるのであつて、我が國も亦この常道に從つて、近來、著しい發展向上を見つゝあるは寧ろ當然の歸結と云ふべきであらう。即ち、當株式會社鈴木電機製作所は戰時體制下にありて我が日本の文化的技術的の名譽をして、益々生彩ならしめる有力なる一環であると云ふも過言ではないのである。

現在、當製作所の營業種目の主なるものは電信機械、照明器材其他であるが、其の製品は性能の絶對的優越性と技術の卓越性とを併有し、主として某官廳方面へ納入して國産の精華を謳はれてゐる。

抑々當所は昭和二年五月に現專務取締役たる鈴木武雄氏が獨力を以つて豐島區長崎町に於て業を興した端を發し、爾來氏の不撓不屈の奮鬪努力に着々として成果を齎すに至り、同工場にては狹隘を感ずるに至りしため、昭和十二年現在の地に移轉すると共に規模を擴張して生産能率を高め、益々發展を加へて基礎を固め其の販路を擴大し、不動の地位を業界に占むるに至つた。

越えて昭和十五年即ち光輝ある二千六百年を迎へるや、玆に從來の合資會社を改組して株式會社に變更し、勞資協調の精神の下に從業員に株を頒ちて共存共榮の實踐化を圖り、自から專務取締役の要椅にありて内外の業務を綜覽し、時局の益々深刻化したる重大性に鑑み、製作内容を更らに擴大すると共に、全從業員打つて一丸となり渾然融和協調の下に産業報國、技術奉公の至誠を披瀝し、今日の如き隆々たる業務を實現しつゝある。

殊に鈴木氏は横須賀海軍工廠に在勤した經歴があり、加ふるに田中智學師を盟主としたる國柱會に參して報國の丹心は烈々たるものがあり、時局に對する認識は、その深さに於て遠く餘人の及ぶところではない。的確なる時局認識の上に立つたことは、歸するところ氏の動向をして國防産業の確立へ協力を惜しまぬ所以である。故に氏はその主宰事業を以つて國家に結びつけ、事業を通じて國家のため社會のために意義づけるべく、献身的の精進をなしつゝある。之れ、氏が單なる營利的事業家の領域を全く離脱し、獨自の立場にありて、時局人としての良心的經營に腐心してゐることが明らかであらう。

氏は明治三十二年五月を以つて軍港都市として知られたる横須賀市に於て呱々の第一聲を發し、夙に聰明の資性を鄕黨に謳はれてゐたが、長ずるや横須賀海軍工廠に勤務し、次で海軍關係の會社に於て活躍したる後、獨立業を創始した人、其の信念の鞏固なるは流石に宗教に深く歸依したることを示し、殊に田中智學師の提唱するところに敬服して門下に列し現在にては國柱會參事、豐島板橋方面の理事として奔走、其の普遍化に寧日なき有樣である。

家庭には淑德高き靜枝夫人ありて内助の功篤く、其間長女身代子孃、長男俊治君、二女妙子孃、三女麗子孃を擧げて和氣靄々の裡にある。

今や益々重大なる時局に際して氏の活躍に俟つところである。

株式會社 墨田川造船所

代表取締役　古谷野喜三郎氏

東京市向島區寺島三ノ一〇

電話墨田六八三番

第二次歐州大戰の勃發するや世界各國は未曾有の非常時に際會するに至つたが、我が國に於いては東亞新秩序の建設を期しての聖戰第四年を迎へ、國家總力の動員態勢は益々强化され、銃後經濟充實の方針に向ては擧げて生產擴充に資源開發に營々として只管戰時經濟の强化に邁進しつゝある實に生產擴充は時の聲であり、之れにより戰時體制下の總力動員を遺憾なく發揮してゐるものと云へやう。

然るに往々一部の產業人は正しき時局認識に缺くるところあり、時局に便乘することに依つて自益の增加を圖ると聞くが、今日の場合斯の如き徒輩は斷じて擯斥すべきである。眞に產業人として執るべき行爲は、一切の邪念を去り、滅私奉公の至誠を披瀝して飽くまで國家の忠僕たり得ることである。この最も好き例として、素晴らしい敎訓的存在が時局の一隅に孜々として活動してゐる。卽ち墨田川造船所を統宰する古谷野喜三郎氏がそれである。

而して株式會社墨田川造船所は徒らに尨大なる資本を擁せざるも其の規模整然として、常に國策に順應してゐるところは偉とすべく、其の將來には多分の發展性がある。

其の營業科目を擧げると、海軍省各種內火艇、各廳會社用曳船ランチ各種高速度自動艇（巡航艇、快走艇、滑走艇、船外機艇）特殊艇（消火艇、救助艇等）競漕艇、端艇各種、船舶模型其他一木工一切をはじめ自動車々體製作、各種內燃機關製作、自動艇修理一切、自動艇附屬品部分品等の製作を主とするが、創立以來二十有餘年に亘る古き歷史と近代科學應用の優秀なる技術とを有して斯界に輝やける存在である。

抑々當所は大正二年四月の創業にかゝはるものであるが、次で同五年始めて光輝ある我が海軍より海軍用高速內火艇建造の用命に接し、同七年には海軍監督官派遣工場に指定せらるゝ光榮に浴し、爾來今日に至るまでその建造せる艇數は多數に上つてゐる。而して多年の豐富なる經驗と不斷の努力は時代の要求に應じたる超スピード時速五十二哩日本新記錄保持艇の建造等をなし、海軍將又たモーターボート界の飛躍に偉大なる足跡を殘してゐる。

而して代表取締役として當所を統宰しつゝある古谷野喜三郎氏は茨城縣眞壁郡の人、明治廿八年二月十日を以て呱々の第一聲を發し、夙に英邁の資縱橫の氣才を鄕黨に謳はれて將來の大成を囑望されてゐた。學を修めるや海國日本の精華たる造船業界を志して切磋琢磨の功を積み、其の涙ぐましき精進は遂に優秀なる技術を修得するに至つた。かくて大正二年業を興し、獨立の第一步を斯界に印し、爾來業勢に一進一退ありしが着々として業礎を固め、偶々支那事變の勃發を見るに至り、玆に多年の宿望であつた發展を遂げ今や隆々たる業態にある。

惟ふに我が國は今や聖戰の完遂と共に眞に新東亞建設を期して國家の總力を擧げつゝある。此の際に當り、氏が主宰する墨田川造船所は產業報國の大旆の下に一致結束、營々として邁進しつゝある。

三和鐵工株式會社

取締役社長　高月春之助氏

常務取締役　田口金次郎氏

東京市蒲田區西六鄕三ノ一一

電話蒲田二六九五番

從來、我が國に機械工業界に於て各種化學機械鑛山機械は主として輸入に俟つか、或はその材料を輸入して加工したものであつた。斯くて國產にては優秀機を製作し得られず、常に外國品に壓倒されてゐるかたちであつた。

然るに、事變以來、我が國に於ける化學機械業界は化學機械並に材料の輸入杜絕に逢着するに至つた。が、一方に於て資源開發、生產力擴充に一路邁進する折柄、これ等の諸機械は不可缺の重要品であるに鑑み、各業者の蹶起となり、研鑽努力の賜は着々として發展を示し、今やその製品は外國品に劣らぬ優秀品にして我が國化學機械業界にエポックを劃したのである。

玆に擧ぐる三和鐵工株式會社の如きも其の一つ、同社は昭和十四年十二月を以つて創立されたものにして、蒲田區西六鄕三丁目に事務所並に規模整然たる工場を有し、主として化學機械鑛山機械輸送機械等の製造に從事しつゝあるが、創立以來日子尙淺きにも拘らず社長常務をはじめ以下全從業員が眞摯努力一意工業報國の念に燃えて、よりよき製品の製造に日夜撓まざる精進を續けてをり、資源開發、生產擴充の國策線に沿ふて飛躍的發展を示してゐる。

同社首腦部は社長として高月春之助氏が擧げられ、常務取締役として內外を統宰しつゝあるは田口金次郎氏である。

而して社長高月春之助氏は城南機械工業所社長其他多くの工場に關與して錚々たる令名を謳はれつゝあり、又た城南鑄物工業組合理事長、日本鑄物工業組合聯合會理事等の重席に推されて、業界の發展に獻身的の盡瘁をなしつゝある逸材である。

又た常務取締役を擔當する田口金次郎氏は茨城縣の人、明治三十七年二月の出生にして未だ不惑に到らざる新進氣鋭の士である。而して今日に至るまで理論的に實踐的に、絕えず研究の上に自己を築いて來た努力の人であり熱の人である。自から第一線を督勵して技術方面の完璧と充實に努めて餘念なく、事業に對する熱心さは、不撓の精進を續けて身を惜しまず、實に技術者にして經營の才を兼ねるところ偉とすべき存在である。

尙ほ人と爲り、謹嚴方正、只管其の德性を傷けぬやうに努めてゐるのみならず、常に國家的見地に立ちて自己の名利を棄てゝ行動するところ滅私奉公の赤誠に燃ゆるの士と稱すべく、しかも氏は從業員に對する理解も深く、彼らを遇するに自己の子弟の如き愛護を以つてするは、寔に人の長たるの素質あることを雖葬に物語つてゐる。從業員も亦氏を畏敬し信賴して和氣靄然たる裡に各自の責務を果しつゝあり、斯くして生產能率自づから高められてゐる。

今や我が國に於ては支那事變第四年を迎へ、愈々抗日蔣政權の覆滅を期すと共に、生誕を見たる新政府に對して建設的援助をなし、一方三國同盟の締結をなして世界新秩序建設に邁進するの決意を新たにしたるに際し、國家總力の動員態勢は益々强化され、生產擴充、資源開發に營々として戰時經濟の確立に努力しつゝある秋、新進の當社に期待するところ大である。

株式會社三信商會
代表取締役
元武宏之
本社　東京市芝區西久保櫻川町二〇
電話芝四三六・四三〇三番
工場　城東區北砂町八丁目一一七
電話本所三八四〇番

近代の戰爭に資材戰とも謂はれるが如く、實に莫大なる物資を必要とする。故に戰爭の遂行には銃後の經濟力、就中國防產業の生產力を維持强化することが最大の肝要事であるは敢えてこゝに喋々と論ずるまでもない。即ち近代戰に於いては、物資の補給と云ふ點は、銃後の國民にも前線將兵と全く同一の重大なる責任を課せられてゐる。

現下の如き國家非常時の我が國に於ては凡ゆる產業機構が打つて一丸となり、政府の國策に指示するところに順應して之れと協力步調を一にし、戰時經濟を支障なく遂行せねばならぬ。

玆に擧ぐる株式會社三信商會の如きは、叙上の如き產業上の國家的大使命をよく確認し體得し、其の國策の線に沿ふて邁進しつゝある代表的のものである。

抑々當商會は昭和七年の交、元武宏之氏の創立したもので、爾來氏を中心として全員協力一致、營々たる努力精進を傾注して業態愈々向上の一路を辿り、遂に昭和十四年に及んで更らに機構を擴充すべく、組織を改めて株式會社となし、氏は其の代表取締役の要椅に就き、依然社の業務の一切を統宰して悠然するところなく、業運昭々として斯界に不動の地位を築いてゐる。

現在にては社の機構を化學機械部、電氣化學部、及び特殊鋼部の三部に分ち、其の營業とする處は化學機械部にては搾油、食料油、石鹼製造グリセリン蒸餾、硬化油、油脂分解、眞空乾燥各裝置、オートクレーブ耐酸各種ポンプ類を業とし、電氣化學部にては食鹽電解、苛性曹達、オスモーズ各裝置、其他電氣化學用機械を業とし、又た特殊鋼部にありては永久磁石鋼、高速度鋼、工具鋼を業としてをり、營業の本據を上叙の如く芝區西久保櫻川町に置き、內容諸設備の完備したる工場を城東區北砂町八丁目に設けてあるが、社長たる氏の統宰頗るよく、鮮やかしい將來の發展を益々期待されてゐる。

而して代表取締役たる元武氏は兵庫縣加古川町の人、明治三十年六月十五日を以つて呱々の第一聲を發し、夙に聰明の資性を鄕黨に謳はれてゐたが、自己の進むべき道を工業界に求め、學序を經て大阪高等工業學校機械科に入りて斯學の研鑽を積み、大正四年卒業した逸材である。現在當商會代表取締役として卓腕を縱橫に揮ふのみならず、更らに力を他方面に伸べ株式會社齋藤鐵工所取締役、東洋興產株式會社取締役、信州興業株式會社監查役等に擧げられて、重きをなしつゝある。

資性、溫厚篤實にして人格の高潔なるところ稀れに觀るの士として社內外の信望頗る篤きものがあり、しかも識見高邁にして能く時流の動きを洞察し、之れに順應せる堅實なる經營方針を樹立して着々社礎を鞏固ならしめてゐるのは、蓋し異數の手腕家として推稱するに足る。

今や、新東亞の建設を目標とする我が對支聖戰も愈々最後的段階に到達したとは云へ、復雜變轉極りなき國際情勢よりして、更らに大なる試練に直面するやも測り難たく、我ら國民たるものは產業報國の旗の下に銳意生產擴充に邁往するの要がある。此の時に當り三信商會を統宰して國防產業の發展に精進する元武氏に大いなる期待を致すものである。

日本紡毛株式會社
東亞纖維株式會社
取締役
蔣政權
東京市淺草區雷門一ノ三
電話淺草二二六〇〇番
八七八〇〇番
九一〇三番

蔣政權の打倒、大東亞共榮圈の確立、經濟封鎖の打破—何れも等しく生產擴充によつてのみ其の目的が達成されるのである。

物資の生產なくして戰爭も建設も不可能であること明白。我が日本の經濟力を破壞すべく凡ゆる手段をもつて經濟戰を進め來る國々に對抗し反撥するには一に物資の生產を擴充することにある。

即ち長期建設に際して、物資の自給自足は益々痛感せられてゐるが、資源開發、廢品の回收及び再生、代用品の奬勵等は今や緊要なる國策として提唱されつゝある。

而して之れに順應して創立された日本紡毛株式會社並に東亞纖維株式會社は時艱克服の大目的の下に、人絹、スフ、絹、撚糸等の屑糸布類の還元—即ち反毛事業を營業としてゐる新興會社である。

日本紡毛株式會社は昭和十四年二月、更生糸原料の製造を主目的として創立されたもの、而して姉妹會社たる東亞纖維株式會社の製造する「蒲廉」及び屑纖維類を反毛し、之れを主として內外綿業株式會社へ納入しつゝあるが「蒲廉」反毛品は現下各種纖維品の强力なる統制下にありて、唯一の制限外原材料として各方面より好評を博してゐる。

かくて業運の進展と共に生產能力の擴充を期し、板橋區志村清水町に於ける工場の諸施設を擴大、更らに工場增築を計畫して益々時局に卽應して社業の飛躍に努めてゐる。

又た、東亞纖維株式會社は昭和十四年十月の創立にして、其の營業とするところは蒲草、眞菰、藁類より麻代用纖維、紡毛糸用混紡纖維の製造であるが、之れ同社が獨自とする特許製法に依るものである。而して企業化を計畫したるは昭和十四年三月であり、爾來專ら合理的製造法、品質の改善及び原料地の踏查に依り原料の獲得及乾草の保存及び播種移種に關する方法並に製品の販路等を具さに研究實踐の結果、絕對的堅實なることを確認したるに依り、之れが工業化を企畫して現在最も拂底を見る麻代用纖及び紡毛糸用纖維の生產をなすべく、玆に資金調整法に依る會社設立認可を主務官廳に申請したる處、該事業が國策に副ひ且つ東亞新秩序建設下の今日、緊急を要する生產業なりとして設立許可を得たるものである。

現在、資本金百萬圓を擁し、本社及び製品工場を足立區南鹿濱町七〇番地（電話王子四〇〇五番）に置き、千葉工場を茨城縣稻敷郡十餘島村に設け、營業所を淺草區雷門一丁目に置いて銳意業績の向上に努力し生產の擴充を計りつゝある。

尙ほ當社は其の製品たる「蒲廉」等を東京、大阪、名古屋其他の各市の躍進代用品展覽會へ出品して好評を博してゐるが、また國策代用品展覽會發明展覽會等に於ても大なる賞讃を博してゐる。

而して露木氏は神奈川縣人、勝兵衞氏の二男、明治三十三年十一月の出生、漸く不惑を越えたる少壯實業家であり、現在、右兩社を統宰して卓腕を揮つてゐる。

株式會社 林機械製作所

社長 林 幾久氏

東京市足立區島根町七一二
電話足立三八六五番
（宅）足立區梅田町一九七八
電話足立二一〇三番

無限の消費力を伴ふ近代戰爭を遂行する上に於て、重工業が凡ゆる軍需材料中の首位を占めて、其の擴充と發展を確約されることは云ふまでもなく、當に大規模な戰爭は重工業を基礎として繰り展げられるのである。玆にその衝に當る者にとつて重大なる決意を促し、崇高なる精神と眞摯なる行動を要求されるのである。この意味に於て林機械製作所を統率する林幾久氏の如きは近代戰時工業部門にありて最も優れた模範的工業人の一人と云ふべきである。

氏が「林のターレツトレース」として本邦斯界の最高水準を築いた林機械製作所を今日にする迄には技術的にも經濟的にも文字通り水火の試練を經て、其の結晶として燦たる光彩を放つ斯界の精鋭メーカーが生誕したのであり、之れが林氏の最も誇りとする力なのである。と同時に氏はこの力を養成するためにして、過去二十年に亘りて只管技術の向上を期して研鑽苦鬪を續け來たつた。この技術の勝利こそ經營の上に於ても亦勝利の榮冠を獲得するに至つたのである。

抑々氏が深川石島町に於て業を興したのは大正八年、當時は業界の搖籃時代と云ふべきであつたが、疾くも玆に着目した處に非凡なる閃めきがあると云へる。爾來努力奮鬪を以つて着々業運の進展を圖り、次で本所區德右衞門町に移るに及んで漸次堅實なる地位を築き令名を謳はれつゝあつた。而して昭和八年に至り、氏は長友安齊氏と協力して東京ターレツト機械製作所を創立し、專ら製作技術方面を擔當して鋭意精進を累ねること二星霜。同製作所の地位の確固となるや氏は安齊氏と圓滿裡に分離し、獨力の下に現在の地に林機械製作所を興し、豐富なる經驗に基づいて優秀ターレツトレースを製作して斯界に堂々たる巨歩を印したのである。

斯くして積極的の進出を試みる裡に、偶々今次事變の勃發となり、我が工業界の急激なる膨脹を見、生産力擴充に並行して當所製品は時代の寵兒たる感があつた。各方面より白熱的受註に接したるため、愈々生産能率の擴大强化を圖るため組織を株式會社と改め、機構を整備して益々受註の消化に努める一方、氏は自から第一線に立ちて製作技術の指導に當り、最古の歴史と優秀技能を誇る「林式ターレツトレース」の名聲は彌が上にも高揚されたのである。而して技術報國に專念しつゝある氏は今日と雖も尙ほ製品の完璧を期して研究を累ねてゐるところ、眞の産業人とも云ふべく寔に推稱するに足る。

尙ほ氏は千葉縣香取郡の人、明治三十一年五月の出生であり、漸く不惑を越ゆること三歲、愈々圓熟の境に達したる才能を經營に技術に十二分に發揮するのは向後にあり、大いに期待する處である。

又た令嗣朝一氏は新進氣鋭の逸材、能く父君を扶けて活動しつゝあり氏にして寔によき後繼者を得たりと云ふべきである。

とまれ、時局は益々深刻化して産業界の躍進が欲求される今日、當所の如く歴史あり、實力あり、信用ある優秀工場に俟つところ大である。更らに一層の精進を切望する。

三和伸鐵株式會社

取締役社長 淨圓寺啓之

（信一）

深川區住吉町一ノ二六
電話本所（六六）五二〇〇番

今や我が國は聖戰遂行、東亞共榮圏の確立を目指して國家の總力を動員して一路邁進しつゝある。而して産業人たるものは先づ何よりも自己の職責、社會的分野等に十分の認識を有し、國力の總和を圖ることが何より先決問題であらう。

現在、從らに資本の巨額を誇る會社は決して尠なくない。又た組織の强固を矜るものも多くある。然しながら上叙の如く眞に自己の天分、職責が國家總力の一環であることを理解認識して事業經營に臨んでゐる産業人は、恐らく指を屈するに足らないと思はれる。

玆に記述する三和伸鐵株式會社の如きは、社長はじめ重役諸氏に其の人を得、最も適正なる時局認識の上に立脚して生産力の擴充、强化に精進しつゝあるもので、其の規模の一流に達せざると雖も、戰時體制下にある我が工業界に重大なる意義を有する存在である。

當社は頭書の地に施設完備の工場を有し、優秀なる從業員を擁し、特殊鋼板壓延工業を業とし昭和十三年十月資本金十萬圓を以つて創立されたものである。しかし、其の發祥は昭和十二年三和伸鐵工場の名稱にて現在社長たる淨圓寺啓之氏が創業したものに端を發してゐる。爾來氏をはじめ從業員の協力一致は着々として業運の昂騰を招くに至り、加ふるに時局産業界の勃興に並行して業態の擴充に迫られ、組織を變更し設備を新たにして愈々發展途上にある。

尙ほ首腦部には淨圓寺氏を中心として專務取締役河田勤氏、取締役中谷保氏、山田金四郎氏があり、監査役に佐藤亮吉氏、松本實則氏が列してをり、孰れも錚々の人材であるが殊に中谷氏は我が自動車工業界に雄飛してゐる人、其の製品は安全自動車、大日本機械等へ納入して好評がある。

而して淨圓寺氏は明治三十年一月を以つて北海道札幌市に生誕、夙に實業界に志を抱きて切磋琢磨の切を積む。東京起業貯蓄銀行旭川支店長として大いに卓腕を揮ひ、地方金融界の堅實なる發達に寄與する處ありしが、不幸銀行の破碎を來すや醒然東都工業界に新生面を求めて上京し昭和九年には宇津木鐵工所を興して活躍し、次で株式會社に改組し、常務取締役の要椅にあり力を致し、更らに昭和十二年三和伸鐵を創始し、鋭意精進、大を累ねて今日の地歩を築いた逸材である。

尙ほ、氏は時代の趨勢を洞察する明識があり、能く現下産業人の重且つ大なる使命を確認して、各重役と協力しつゝあるが、人となり敦厚にして濶達、しかも才幹の縱横なる處は事に處して果斷敢行し、事業家としての器を多分に有してゐる。又た高潔なる人格の持主にして、些かも名利を求めず至誠を吐露するところ益々敬仰を豪めてゐる。

家庭には貞淑なる澄子夫人ありてよく氏に仕へて伴侶となり、その間に四男三女を擧げて其の教育に力をつくしてゐるところ良妻賢母と云ふべきである。而して中野區宮園町に居を構へてゐる。

株式會社 三田鐵工所

專務取締役 三田末吉氏

東京市江戸川區東小松川五ノ九八八
電話 江戸川四五四・五三四番

近代戰爭は科學戰であるとは、よく文明批評家の口にするところである。と同時、經濟戰であり、産業戰であると云はれてゐる。

今次の日支事變に際會して、我が日本はこの言葉を如實に體驗したのである。而して現段階に於て、國家の總力戰として前線銃後が渾然一致この聖戰の究極の大目的を達成すべく、國民必死の努力を拂つてゐるのである。之れに最も力强さを覺えしむるのに、即ち當社の如き中堅的生産機關の儼然たる存在である。

抑々當株式會社三田鐵工所は現專務取締役たる三田末吉氏が、大正五年の交に於て、芝區内に創業したるを以つて其の濫觴とし、次で業勢の進展に伴いて工場の狹隘を告げるに至りたるため昭和六年、本所區龜澤町に移轉し、玆に於て中堅的生産機構たる設備を整へると共に、主宰する三田氏の精進は益々業績を向上するに至り、組織を改めて合資會社として斯界に發足した。

かくて研磨機專門製作業として斯界に斷然頭角を現はし、各方面の受註殺到、其の消化には愈々工場施設の增大を圖る必要を感じ、昭和十二年より現在の地に新工場を建築して竣工と共に移轉したもの、而して偶々勃發したる支那事變に直面し、國内生産力の擴充强化を期するや之れに並行して躍進目覺しきものがあり、昭和十四年五月には株式會社に組織を變更し、氏は專務取締役の要椅に擧げられて益々業務の内外を綜覽して精進しつゝある。

現在の工場敷地六百坪にして工場施設の内容は時局柄、祥記することを憚かるが設備整然たるものがあり、加ふる技術優秀なる從業員八十餘名を擁して益々製作能率の昂揚を圖り、愈々堅實なる地歩を業界に占めて堂々たる威容を示してゐる。而して最近納入方面の主なるところを列記すると、軍部方面はもとより三菱重工業株式會社、大隈鐵工所日立製作所、大阪機械、羽田精機製作所等の著名會社工場にして、以つて當所製品の性能の高度なることが明らかにされやう。之れ「三田の研磨機」として斯界に喧傳されつゝある所以である。

尙ほ專務取締役の要椅にありて卓腕を揮いつゝある三田氏は明治十四年の出生、夙に工業界雄飛の念を抱いて若冠にして斯界の人となり、刻苦精進、並々ならぬ努力を致して其の眞骨頂を究めた立志成功傳を飾る逸材である。

即ち當初は室蘭製鋼所にありて孜々として奮勵し、更らに池貝鐵工所に於て斯業の修得に努めたと聞く。而して業を興してよりは全く寢食を忘れて涙ぐましき努力に一貫し、年を累ねる毎に歩一歩と堅實主義に其の業の膨脹を圖り、遂に今次事變に際して諸工業の躍進に伴いて又た著るしき業績を向上し、今日あるの確固不動の地位を築き、令名錚々として謳はれてゐる。

東京太田電機株式會社
東京太田航機株式會社

取締役社長 太田四郎氏

本社 東京市品川區東品川四ノ一〇〇
電話高輪三七四五・四五一二番
第一工場 東京市品川區東品川四ノ一〇一
第二工場 東京市品川區東品川四ノ一〇四
板金工場 東京市豐島區池袋六ノ一九〇二

支那事變といふ大きな時代の潮流は、政治に經濟に社會にすべての方面に亘つて組織と機構を一新し、高度の戰時體制を整備するに至つた。其の結果は生産産業の悉くを擧げて軍需化し、之れを中心とする生産力擴充は愈々高度化しつゝある。

特に物資の開發と重工業の膨脹は劃期的躍進を辿り今や時局の推進力として國家的役割を演するに至つたが之れが充實と確立は戰力を左右して重大なるポイントとなるのであり斯業界の責務は益々重からざるを得ないのである。

玆に擧ぐる我が東京太田電機株式會社は、その規模に於て未だ一流會社には及ばぬまでも、卓越せる技術的獨立性と製品のもつ優秀性とに於て前途更らに一段の飛躍と膨脹を期待される優秀メーカーである。時局以來、受註の旺盛化に伴れて、設備

能力を全般的に擴大してゐるが、現在品川區東品川四丁目に本社、隣接地に第一工場を、續いて第二工場を有し、板金工場を豐島區池袋に設けて、益々增大する受註の消化に努力しつゝあるが、これ當社の技術陣營が全く確立し、優秀にして精巧なる製作に成功してゐるからであらう。

其の主要製作品を擧げると電氣部にありては配電盤、及び配電器具、キャビネット、分線盤、電氣熔接機、自動盤、抵抗器、トーゴーフレキンブルフューズ、電熱器、電氣鋸、電氣鐵道用電氣機器、計器類、電動機、發電機、變壓機の製作修理販賣であり、機械部に於ては航空機部品兵器部品等であり、又た工業部にては發電所、變電所、電燈電力、電氣鐵道送電線、其他一般電氣工事であり、銳意國策線に添ふて躍進目覺しきものがある

而して當東京太田電機の創立は昭和六年五月にして現在資本金二十五萬圓（全額拂込濟）妹姉關係の東京太田航機株式會社は資本金十五萬圓を擁し、取締役社長として太田四郎氏が自からあたり、内外一切の業務を綜覽し、爾來孜々として倦まず營々たる精進を累ねて能く今日あるの地位を築くに至つた。

氏は事業經營者として卓越せる手腕を發揮するのみではなく、技術的方面に對する研究も鋭く、自から第一線を指導し督勵して只管優秀品の生産に努めつゝあり、所謂經營と技術の兩道を歩んで巧みに之れを消化してゐる逸材、其の事業に對する熱意は決して人に屈するものでなく、絶えず全精神を傾注してゐるのは推稱するに足る。尨大ならずと雖も熾烈なる技術奉公の至誠は其の製品に依つて具顯され、納入先の如きも陸軍航空本部、陸軍工廠をはじめ、三菱電機株式會社、三菱地所株式會社、三菱商事株式會社、三機工業株式會社、三菱鑛業株式會社、三菱重工業株式會社、東京電燈株式會社等である。

合資會社增田製作所

代表社員

增田善

東京市蒲田區古市町四六
電話蒲田三三六一・四八八番

何事業に於ても、粗より精に、疎より密に推移するのは進化過程の順道であるが、一般工業界の進路も亦このコースを辿り、文化高度の國ほど精密なる技術を誇るのは世人周知の事實である。殊に近代戰爭は科學戰とまで云はるゝ丈けに、その當面の目的たる武器、軍需品の製作技術をより以上科學的ならしめ、その性能を高度に發揚せしめるのは勿論であるが、それと同時に一般の平和産業をも亦科學的に、性能的に精密化することは之れまた明白なところである。

かゝる發展過程の法則に從ひ、今次の支那事變は我が國の産業界、殊に工業界をして飛躍的一大發展を促がしたのである。單に此の意味よりしても支那事變は我が國に新紀元を劃したものと云はざるを得ない。

玆に記述する合資會社增田製作所は、其の事業開始はもとより事變發辭以前に遡るが、事業の性質上また時局産業陣の第一線に躍進したものと云へやう。其の創立は昭和七年にして、現代表社員たる增田善氏が蒲田區出雲町に第一聲を擧げ、爾來不撓不屈の努力奮鬪を以つて凡ゆる障害を斥け着々として業運を向上せしめた。而して昭和十一年三月に現在の地に移轉擴張し、諸機構を益々完備すると共に優秀なる技術員を擁し氏自から第一線に立ちて指導を怠らず、斯界に不動の業礎を矜り、かくて偶々今次事變の勃發するや軍需資材生産擴充の波に乘り、愈々業態を大ならしめ、確固たる地位を占むるに至つた。

其の製作種目の主なるものは精密工具、ゲーヂ專門にして、孰れも品質優良、性能卓拔にして斯界に定評があり、各方面から好評嘖々として迎へられてゐるが、最近の主なる納入先は軍關係をはじめ東京自動車工業會社、日立製作所、芝浦製作所、中島飛行機製作所等の著名會社工場であり、以つて如何に其の製品の秀れたるかを窺ふことが出來やう。

而して代表社員として一切を統率しつゝある增田善氏は、千葉縣野田町に於て明治三十七年呱々の聲を擧げ、父君は吉藏氏と呼び其の次男である。夙に東都工業界に雄飛すべく意を決し、敢然上京して刻苦精勵、園池製作、所芝浦製作所より更らに黑田狹範製作所にあり、專らゲーヂ製作の研鑽を累ね、其の傍らにありては工手學校機械科に入りて勉學、實際と學理の並行を圖りたる逸材である。かくて昭和七年に至り漸く而立に達したる身を以つて奮然獨立、增田製作所を興し、孜々營々たる精進は遂に今日ある成果をを招來したものである。

今や同製作所は規模徒らに尨大ならずとも其の製品の優秀を以つて斯界に鳴り、業態進展の一路にあるが最近第二工場を更らに增築中であると聞く。尙ほ創立當初は氏の個人經營たりしが其後に於て合資會社組織と改めて益々時代に順應する堅實なる營業方針を立てゝゐる。

氏は資性温厚篤實の裡に烈々たる熱情と不撓の意志を抱藏してをり、しかも夙に時局の重大性を認識して産業報國の赤誠を以つて業に當りつゝある逸材である。

今や我が國は聖戰の完遂と共に東亞共榮圈の確立に邁進しつゝあり、國内生産陣の强化は益々熾烈なる秋、當所の如き直接間接に於て國策に寄與するものと云ふべきであらう。大いなる發展を祈る。

合資會社熊谷製作所

代表社員

熊谷昇

東京市大森區入新井二ノ一四三
電話大森六三一九番
（宅）大森區池上町桐里二五二

由來、東北人は動もすれば鈍重の憾みなしとせずと雖も、能く業に努めて倦怠することなく、孜々として不屈の精神力を發揮し、しかも誠實熱心にして剛毅、たゞ其の初一念を貫徹せずんば已まざるの美點長所を有するを以つて特色としてゐる。

我が熊谷昇氏が獨力熊谷製作所を拮据經營して、東都業界に令名を謳はれるに至つたものは、この鄕土的の美點長所を發揮したものと云へやう。

氏の統率する熊谷製作所は旣に創業以來十年の歷史を有してをり、其の營業とするところは高級スピンドルの製作を專らとし、其の製品の優秀なることは他に比肩するものなく、納入先方面より好評の嘖々たるものがあり、日夜受註の消化に多忙を極めつゝある。

氏は岩手縣和賀郡の人、明治二十六年五月を以つて呱々の聲を擧げ、夙に東都工業界雄飛の大志勃々たるものがあり、學を修めて上京以來、敢然業界に身を投じて精勵努力し、斯業の眞骨頂を極めると共に自から勉めて研鑽を怠ることなく、機を得るや奮然として熊谷製作所を創業するに至つた。

而して多年の經驗より割出したるスピンドルの製作を主とし、大森區大森一丁目に工場を設け、營々たる精進を累ね其の眞摯熱誠は年を加ふる毎に業態を向上せしめ、從來の工場にては狹隘を感じたるため、昭和八年現在の地に移轉擴張し、内外の諸機構を完整すると共に積極的に進出し、錚々たる名聲を博してゐる。

而して現在にては組織を合資會社となし、氏自から代表社員の要椅にありて益々努力し、産業報國の實を擧げるべく心がけてゐる。殊に氏に輩事するところは、今日と雖も自から作業服に身を固めて第一線に立ち從業員を懇切に指導し督勵して鋭意製品の優秀化と能率の增强に努め、戰時下生産擴充の責務を實踐しつゝあるところである。蓋し稀れに見るの存在と云ふべきである。

資性敦厚にして淵達、しかも業務に熱心誠實、責任感念の强固にして事小なりとも等閑に附せざる細心さを有し、又能く時運の動きを洞察するの明識がありて其の經營方針は些かも不安を見ずと云ふ。又多數の從業員に對しては温情を以つて接し、彼らも氏を仰ぐこと慈父の如く、よく仕へて和氣藹然たる裡に恪勵してゐる。蓋し、氏の高潔なる人德の然からしむるところであらう。

而して今や對支聖戰も漸次變轉し、一は繼續的武力を以つて抗日蔣政權の徹底的膺懲に當り、一は北中南支に生誕せる新政府に協力し、着々として東亞新秩序の建設に邁進しつゝあり、之れが全面的成果を齎らすために國家總力を擧ぐるの秋、國民たるものは職の如何を問はず、滅私奉公の大精神を振起し、國家をして百年の大計を能く完遂せしめるに翼賛するの要がある。

かゝる意味に於て職能奉公に努力する氏の如きは銃後に於ける産業人たるの責務を完ふしつゝある逸材として推稱するに足る。

株式會社 釜平商店鑄造所

代表取締役 貝谷豐平氏

營業所 東京市神田區大和町四一
電話浪花六四〇・六七五番
鑄物工場 川口市飯塚町一三七
電話川口二六三五番
精機工場 東京市淺草區永住町一二三
電話淺草二五五四番

現段階に於ける我が日本の對國際的地位は極めて重大であり、當面の支那事變の處理に對しては徹底的に其の完遂を期してをり、又一方三國同盟の締結されや大東亞共榮圏の確立に一路邁進しつゝあるが、之れと共に國内は擧げて一億一心、この大業に翼贊すべく心を新たに決したのである。

かくて我が産業陣の强化は益々肝要となつたが、徒らに大規模のものゝみに限らず、中堅的生産機關の健全なる發展こそ大いに期待されるところである。

玆に擧ぐる株式會社釜平商店鑄造所の如きも其の好き例の一つとして指を屈するに足る存在。當所の營業とするところは諸機械工具鑄造、建築鑄物鑄造、銅眞鍮、アルミニユーム合金鑄造、航空機部品並に精密機製作、精密螺子製作等にして、其の株式組織となつたのは昭和十一年七月であり代表取締役には貝谷豐平氏が擧げられて内外一切を綜覽し、取締役に貝谷正美、薄八一郎の兩氏、監査役として土川榮次氏が推されてゐる。

而して營業所を上叙の地、即ち神田區大和町四十一に置き、其の生産機關としては鑄物工場を川口市飯塚町一三七に設け、更らに精機工場を淺草區永住町に設置してあり、兩工場とも規模尨大ならずとも整然として内外の施設は完備され、創立以來多くの歳月を閲みせずと雖も卓越せる優秀品を製造して斯界に令名頓みに聞えつゝある。

殊に當店は釜平の名に依つても知られる通り古くより鑄物鑄造界に不動の地歩を占めつゝあつたが、時流の動きに伴ひて更らに諸般の機構を整備し、營業方面に新生面を開拓したものである。故に從來の確固たる地位に立脚して毫も粗製品を市販することなく、儼たる規格を持して市販し需要各方面より好評を以つて迎へられてゐる。

之れ、代表取締役たる貝谷豐平氏をはじめ全從業員が渾然一體となりて社業の隆興に努力精進を怠らぬためであり、實に産業報國の精神が經營者より從業員の凡べてに普遍徹底して、戰時體制下にある國家の消長に大なる關係あることを認識してゐることが明らかに判かる。

而して貝谷氏は新潟市古町の出身にして明治三十三年一月二十三日に呱々の聲を發し、夙に斯業を承けて精進努力を致した逸材。其の事業經營には卓拔なる手腕を有し、加ふるに明識あり、能く時流の動きに對する見透しも的確にして、之れに順應せる經營方針を立てゝ誤ることなく洵に推稱するに足る産業人である。

又身を持すること極めて方正謹直、其の德性を傷けぬやう日常努めてゐるのみならず、國家的見地に立ちて自己の名利を棄てゝ行動し、飽くまで公益優先を重んずるところ蹇に當代稀れに見るの士と云ふべきであらう。

今や銃後に於ける産業界は新東亞建設の大業がいよ〳〵其の緒に就き生産力の强化擴充に懸命の精進をなす重大なる時に際してをり、汎く中堅的産業人の奮起を期待しつゝある。切に加餐自愛を祈る。

合資會社 三田電機商工所

代表社員 倉田米藏氏

東京市荏原區戸越町四七八
電話荏原四三三・六八〇八番

輓近、我が國産業界の異常なる活況に依り、電氣機器の需要は頓みに旺盛となり、之れに幸ひせられて電機製造技術も着々として堅實なる進歩發展を示しつゝある。しかも、使用材料の如きも殆んど自給自足の域に到達し、製品の世界的水準への進出の熱望も略達成せられたかの感がある。

然しながら、製造業者に於ては素より現狀を以て滿足してゐるものではなく、進んで世界市場席捲せんとの念願を以て只管技術の伸長に精進を續けてゐるが、我が三田電機商工所も不撓の精進を累ねつゝあるものとして擧げ得られる。

其の營業とするところは、電氣諸機械器具並に附屬品、特種ソケット及びプレス加工品一式であるが、多くの技術熟練したる工員を擁して其の工場施設の完備と相俟つて優秀品を製造し、納入方面より絶大なる賞讃を博しつゝある。試みに主なる供給先を擧げると横須賀海軍々廠をはじめ小原製作所、富士航空計器株式會社、富士電機製造株式會社、北辰電機製作所、日新電機株式會社、京北電機株式會社等の有力著名なる諸會社工場であり、以つて當所製品の眞價を推察することが出來やう。

抑々當所は大正八年の交、倉田米藏氏が個人經營の下に芝區三田四國町に於て創業したに發してゐる。爾來氏の努力奮勵は目覺しきものがあり、累年大を加へて業勢昂揚の一途を辿り、ために工場施設の狹少を感じて現在の地に本社工場の新築をなし、昭和十二年二月十一日の紀元の佳節を卜して移轉したのである。しかし、從來の名稱たる三田電機商工所は發祥地を思ひ出とすべく變更せず、今日に及んでゐる。而して新工場に於て操業を開始するや愈々時流に乘じて大なる發展を招くに至り、現在は合資組織となし、自から代表社員として統宰しつゝある。又新たに國産ダイカスト株式會社を昭和十三年三月創立して斯界に進出を圖り社長の要椅に就きて努力をなしつゝあり、其の傍ら東京ダイカスト工業組合統制委員に擧げられて斯界のために盡瘁し寄與する處甚だ大なりと聞く。

而して氏は立志傳中の逸材と云ふべく、長野縣下伊那郡を産土の地として明治三十三年三月六日を以つて呱々の聲を擧げ、夙に京都工業界雄飛を志して若冠十六歳の少年時代に上京、直ちに業界に身を投じて粒々辛苦を嘗めつゝ業の修得に精勵したのであつた。而して其の涙ぐましき努力奮闘は獨立の機運を齎らすに至り、爾來着々として成果を結び遂に今日ある不動の基礎を築き、令名を馳せてゐる。

氏は平素多忙の裡にありても、能く社會公共に意を注ぐことを忘れず居町役員をはじめ警防團役員等公私の重席に推され、献身的の盡瘁を致して貢献するところ大あるものがあり、信望を一身に聚めつゝあるが、蓋し當然の歸結であらう。

資性温厚にして篤實、玲瓏玉の如き人格の持主、しかも敬神の念深く工場内に實成大善神を祭祀してゐる。又從業員に對しても我が子弟の如く愛護し、從業員も亦氏を德として畏敬し、工場内は和氣靄然として自づから能率の增進を見ると云ふ。

家庭には貞德高きまき夫人との間に子女三人を儲け春光穠々たり。

大和電業社

代表者

東京市品川區東品川四ノ一〇二
電話 高輪 二八八一番

我が國の現狀に即して鑛業資源の開發は、戰時たると平時たるとに拘らず、最も促進せられなければならぬ緊要事業の一つである。分けても聖戰遂行の現戰時體制下にあつては戰力强化に於ても、經濟力擴充の上に於ても、最重要性を帶びて業者は銳意努力を致してゐるが、玆に待望されてゐたのは優秀なる鑛山用撰鑛機の出現であつた。

鑛山の撰鑛作業に於て撰鑛機の優劣が、經濟的に見て如何に作業能率を左右するものであるかは今更論ずるまでもなく明白なところである。然るに、この時代的要求に即應して出現したのが大和電業社の製作になる鑛山用撰鑛機である。

同機は大和電業社を統宰する成瀨豐氏の多年に亘りて苦心研究を累ねたる精進の賜で、其の卓越せる性能は外國品を凌駕し、我が國の特許權七種を數へ、更らにドイツ、アメリカ、イギリス、カナダ等の特許をも獲得してゐる優秀機であり、蓋し工業日本の精華を海外に發揮したものであると云へやう。

而して單に同機は鑛山用のみに限ることなく、各方面の生產工場にも應用出來る特長を有してゐる。即ちガラス工場、陶器工場又はエボナイトゴム工場等に於て使用すれば、鐵と他の物質とを簡單に便利に分離することが出來、原料精撰に多大なる效果を擧げ得られるのである。要するに、各々生產品に依つて其の原料に鐵が必要の場合と鐵を除去した方がよいものとある、これら鐵の分離に際して同機を使用する時は素晴らしい成果を收めることが出來る特長がある。

從つて同機は資源開發の花形として陸軍海軍方面をはじめ各方面に納入して好評嘖々たるものがあり、大和電業社の存在は時局の脚光を浴びてグローズアップされてゐる。

抑々同社は成瀨豐氏が大正十年に芝區三田豐岡町十七番地に於て創業したもの、爾來マグネチック一式、電氣部分品一般を業とし、奮鬪また奮鬪に一貫し、着々業態の進展を示すと共に昭和十年現在の地に移轉して工場を新設、更らに規模を完整して多年の研究たる撰鑛機の製作に腐心し遂に其の完成を見るに至り、業運隆々として一躍時代の寵兒として謳はれつゝある。

かくて發展素晴しき同社は組織を合資となし、業礎を强固にして益々優秀品の生產に精進してゐるが、統宰者たる成瀨氏は廣島縣の人で、明治三十一年三月の出生であり、夙に工業界に自己の天地を求めて研鑽修業を積みたる逸材である。

氏は沈思默考、表面的には事勿れ主義の溫厚なる紳士に見えるも、果敢なる鬪志は常に心底に漲り、飽くまで眞摯的な態度を以つて科學的に事を運び、しかも不撓不屈の鋼鐵の如き精神力を有してゐる。かゝるが故に、能く艱難を克服して遂に劃期的の發明—新銳鑛山用撰鑛機を完成したものと云へやう。

今や大東亞共榮圈を目指して時局多事ならんとする秋、氏の如き逸材に期待する處大である。

西本工業所

代表者

東京市品川區五反田一ノ一五二
電話 大崎 三七六番
（宅）東京市品川區下大崎二ノ二七
電話 大崎 二三八番

自治の要諦は協同和親に依りて、人類生存の社會的關係を圓滿に進展せしめるにある。故に自治制の本旨は此處に據りてのみ初めて其の存在理由を明白ならしめるを得る。然るに近年往々にして此の自治の本領を忘れ、或は政爭の具に供せんとし、或は名利のために壟斷せんとするものあると聞くは甚だ悲しむべき現象である。

かゝる時に際し、自治本來の大精神を體し共存共榮の本旨に則り、進んで獻身盡瘁して自治の發展に寄與しつゝある我が西本啓氏の輝ける存在たるや推稱するに足る。

殊にまた西本工業所を拮据經營して、各種電線の製造販賣に當り、更らに同業組合の長として業界の發展業者の福祉增進に貢獻するに至つては正しく世の鑑たる偉材と云へやう。

氏は廣島縣の人、明治二十五年十月を以つて呱々の第一聲を發し、父君を佐久間重太郎氏と呼んで其の三男であるが、後ち西本うたよ氏の養子として迎へられ、西本姓を冒すに至つた。夙に英邁俊敏の譽れを鄕黨に馳せて其の將來を囑され、學序を踏んで早稻田大學に入り理工科にありて斯學の蘊奧を究めるべく螢雪の功を積む、而して大正三年卒業するや直ちに逓信省に奉職、孜々として精勤する處ありしが、性來獨立不羈の念烈々たる氏は、敢然意を決して大正五年西本工業所を創立して斯界に雄々しく第一歩を印したのである。

爾來、氏の至誠至勤を以てする精進努力は、着々として成果を齎らし漸次斯界に頭角を現はすと共に業運また隆々たるものがあり、かくて逐次に業を擴張して大を重ね今日ある不動の地位を占むるに至つた。

斯くて名聲を謳はれ信望彌が上にも高まるや同業關係の重席に推されて盡瘁し、現在にては東京工場協會大崎支部理事長をはじめ全國電線工業組合聯合會理事、東京可撓紐線工業組合理事長、日本可撓紐線聯合工業組合專務理事等に擧げられ、戰時體制下にありての業界の發展に銳意精進しつゝある。

而して氏は業餘、力を自治公共に致すことを惜しまず、品川區會議員に擧げられること久しく、現に同區會副議長の重席にありて區政の向上に奔走し、更らに市會議員の要椅に推されて學務委員を兼ね、市政壇上に公明正大の所論を發表して市政の刷新に傾注して功績を謳はれ、衆望の歸するところ先般改選の東京府會議員選擧に出馬し見事當選の榮譽を擔つてゐる。

尙ほ大崎警防團にありては副團長を委囑され、防空演習には自から第一線に立ちて統宰し、一朝有事の際に對處すべき心構を實踐する等全く寧日なき活動は益々衆の敬仰信賴を高める所以である。

資性敦厚にして闊達、常に覇氣を藏して不斷の精進を怠らず、其の玲瓏玉の如き人格は後進子弟の範とするに足る。

家庭には溫順にして內助の功多く氏のよき半身たる喜惠子夫人あり、其の間に長男正君、二男威君、長女孝子嬢、三男保君の三男一女に惠ぐまれてゐる。

木林工業所

木林洋之助氏

東京市本所區菊川町三ノ七
電話本所一八五一番

今や東亞新秩序の建設に即應して、總合經濟力の擴充と云ふ大事業を完成してゆくためには、國民たるものは所謂一億一心、其の處に應じ、其の業に從つて相協力して行かなければならぬ。

即ち其の社會上又は經濟上占むる地位の重要性を充分に自覺して、銃後に於ける產業報國の實を十分に擧げることが刻下の緊要事である。

我が木林清之助氏は夙に木林工業所を拮据經營し、ガラス工業界に雄飛しつゝあつたが、今次事變勃發以來は國策に順應して新興代用品の製作に腐心し、遂にスプーン、ホーク、ナイフ、ラヂオ外裝箱等の優秀なる代用品を完成するに至つたのは大いに欣ぶべきであり、其の努力には感謝の念を捧げなければならぬ。

氏は長野縣伊那郡の人、明治二十二年を以て呱々の聲を擧げ、夙に覇氣橫溢、東都雄飛の念押へ難く僅か十六歲にして上京、先づ安藤井筒堂に入りて精勤すること數星霜、其間よく主家のために內外表裏の別なく粉骨碎身したものである。しかも他日飛躍の志を抱く氏は、只管斯界の眞骨頂を究めるに餘念がなく、機を得るや惜しまれつゝ同店を辭して習得したる化粧品加工に從事し、次で大正八年に至り、現在の地に於て靑林堂木林工業所を創業して硝子工業界の第一段階に到達した。

而して精工舍の時計枠、其他の製作に當り更らに業を擴張して化粧瓶等の製作をなし、着々業勢を昂揚するに至るや輸出方面に着眼して、ガラス美術工藝品とも云ふべきカットグラスの製作を開始し、孜々として努力研鑽を重ね、遂に誇るべき優秀國產品の生產に成功し、主として北米、濠洲方面に進出して多大の好評を博し、工業日本の聲價を發揚し令名を謳はれつゝあつた。

斯くて輸出を專門としてガラス工藝界の活躍しつゝありしが、今次事變以來は更らに國策に順應すべく新興代用品の製作に傾注し、上叙の如くスプーン、ホーク、ナイフ、ラヂオ外製箱の他か高聲器、時計振子、時計用ガラス製鏡臺、ガラス製齒輪等を次々に完成して絕讃を博しつゝ其の製作工場を深川區海邊町と葛飾區小谷野町に設け、鋭意國策代用品の製作に當ると共に、一方能く研究を重ねて優秀化に精進してゐるのは眞に時代を確認する產業人と云へやう。

又輸出ガラス商組合協議員として斯界の發展に力を注ぐのみならず、居町方面に於ても町會理事、本所商工信用組合協議員會議長等の公職に擧げられて自治公共に貢獻しつゝある。

資性、敦厚にして溫健、而して玲瓏玉の如き人格の所有者たることは日常の言動に依つて能く推察されるところ、しかも國家觀念に燃ゆるの士たることは、率先、同家工場內に產業報國會を組織し、滅私奉公の至誠を涵養してゐるに依つても明白である。

家庭にいね子夫人あり、長男澄雄君は府立化學工業應用化學に學び、父君のよき後繼者である。

合資會社

市金製作所

代表社員　市川金次郎氏
支配人　澁澤清一郎氏
營業所　東京市芝區西久保巴町六〇　電話芝五六六・一〇一〇・一〇一一番
工場　東京市品川區東品川四ノ三四　電話高輪五三〇・五四六六番

自動車が國防上、產業上將また文化活動上如何に重要であるかと云ふことは今日迄幾度か言ひ盡されて來たことで、今更ら贅言の要はなく萬人一致の見解である。この見解に基いて政府當局の政策は表現され、自動車工業の著しき進展を見つゝあるは國家のために慶ぶべきである。

殊に支那事變の結果として軍機械化の充實、東亞建設に於ける輸送網の擴充を前提とする自動車の生產力擴充に益々拍車をかけてゐるが、之れに並行して自動車部品製作界も等しく發展の潮流にあるのは當然と云へやう。

既に二十有餘年の歷史を誇る市金製作所は一般自動車部品をはじめ、航空機部品、電機部品製造を以つて營業科目とし、本據を上毅の如く芝區西久保巴町に置き工場を品川區東京川四丁目に設けて、技術優秀なる百數十名の從業員を擁し、一般照明器具及び附屬品、キヤブレーター部分品、スターター及びスキツチ類、各種キヤツプ類、眞鍮アルミニユームアンチ鑄造品、ベークライト成型品類を主要製品として斯界に斷然雄飛しつゝある。

而して同所は抑々大正六年四月に市川金次郎氏が獨力にて創業したもの、爾來氏を中心として全從業員の不撓の精進は着々として大を加へ業運の昂騰と共に昭和十二年十月には組織を法人に改めて合資會社となし資本金十萬圓（全額拂込濟）を以つて益々諸般の機構を整備し、時局產業に一部門に列して大々的の飛躍を遂げ、遂に今日ある確固不動の地步を築くに至つた。

現在の品川工場は堂々八百二十坪の敷地を有し、工場建物六百二十坪にして內外の施設は完整されてをり、之れを壓搾部、操物部、加工部に分ちて全員一致協力し鋭意產業報國の精神の實踐化に努め、益々優秀製品の生產擴充に傾注してゐる。尙ほ製品の主なる納入先は自動車製造業株式會社をはじめ著名自動車自動車用品卸商に及んでゐる。

而して代表社員たる市川氏は群馬縣の人、明治二十九年七月八日の出生にして夙に業界を志して精勵、能く今日大成を獲得した熱の人であり力の人であるが、更らに氏を扶けて今日の大を招來するに寄與したる人即ち現在支配人たる澁澤清一郎氏の存在を逸することは出來ない。

氏は同じく群馬縣の人にして明治二十六年一月十八日を以つて出生、市金製作所の創立當初より參劃して資本方面にて協力し、市川氏の活動をして些かも後顧の憂ひなからしめたる功勞者である。

現在にては支配人格として重きをなし、經營營業方面に卓腕を揮つてゐる逸材、尙ほ京橋區木挽町三丁目に所在する合名會社高橋吳服店の代表社員としても重きをなす。

斯の如く、市川氏澁澤氏の名コンビは向後愈々其の力を發揮され、同所の發展は斯界恬目の的となつてゐる。

今や我が國の銃後產業界は、新東亞建設の大業が其の緖に就き益々重大なる秋にあり、同所の如き優秀中堅工場に期待する處大である。

清水研究所

所長　清水釘吉氏
技師長　岡田次郎氏

東京市深川區越中島八
電話深川九一六番

近代日本は凡ゆる方面に急テンポに進展の度を高め、一般に著しい變化を齎らしつゝある。特に工業界に於て然り、即ち輕重工業に航空工業に、或は燃料工業等に將來益々大なる飛躍を期待することが出來やう。

然し、更に新しく研究開拓を試み相當成果を擧げつゝあるものに液化瓦斯に關する低溫工業がある。之れも亦重要部門の一にして先進獨逸に於ては既に具體的有効なる道を開拓してゐると聞く。

我が國に於いて此の部門低溫の中、特に液化瓦斯(就中空中瓦斯を液化したるもの)例へば液體空氣、液體酸素、液體窒素の如きものゝ工業的利用研究に努力精進しつゝある清水研究所の存在は慥かに頼やいでゐる。

同研究所は既に昭和九年九月、液體空氣を原動機サイクルの作業物とした超低溫原動機關(日本特許第一六一五二號)を試作して世界に先鞭をつけたのは大なる功績である。而して之れを小型ボートに据付、一切他の燃料を使用することなく推進原動機關として役立つ事の實證を示した。

尙ほ其後に於ては各種液體瓦斯の特性に應じて或は之れを金屬の低溫嵌込みに應用し、又は自動車、航空機、船舶ロケット等の原動機關に考案利用の途を開き、如何にして工業的有効に活動せしむると云ふ研究を續けつゝあるは蓋に偉とするに足る。

而して今日までに於て同研究所が其の重大なる使命を痛感し、鋭意研究に從事したる成果を擧げると、低溫液體ポンプ、高壓瓦斯充塡裝置、眞空貯槽等であるが、更らに大豆油、鯨油、鰯油等に依る新燃料タンク豆油を利用したる自動車等を完成しつゝある。

斯の如く、液化瓦斯の工業的利用に精進し、化學工業日本の精華たる清水研究所は當初深川區佐賀町二丁目に清水低溫研究所なる名稱にて創業したものであるが、業態の進展と共に現在の地に敷地一千坪、建物百坪餘の工場を新設して竣工と共に移轉し、益々不撓の研究を惜しまず、今日不動の地位を占めつゝある。

而して同研究所の首腦部を擧げると所長に清水釘吉氏、副所長には清水康雄氏、清水俊雄氏があり、實質的の統宰者として理事技師長岡田次郎氏がある。所長清水釘吉氏は人も知る我が土木建築界の重鎭たる清水組社長であり、副所長の兩氏は同氏の一門、又技師長岡田次郎氏は日本橋區の人、岡田榮吉氏の次男として明治三十八年八月十五日の出生、夙に工業に志を抱いて北海道帝大工學部機械科に研鑽し、昭和六年卒業するや直ちに當所に迎へられた新進氣鋭の逸材である。

同所に入ると共に、氏は其の豐富なる學殖と天賦の才能とを以つて、不撓不屈の精進を累ね、叙上の如く世界的の發明を完成したるは、啻に當所の榮譽のみではなく、汎く我が國の國力推進のために欣ぶべきである。

玆に岡田氏の研究の實踐化を慶ぶると共に國家的事業に私財を投ずる清水氏に感謝する處大である。(寫眞は大豆油自動車と岡田氏)

合資會社　石橋商店

代表社員　石橋政太郎氏
支配人　三矢遜氏

本社　東京市荒川區南千住一ノ三六
電話淺草八九五・八九六番
營業所　東京市芝區高濱町一〇
電話三田三五八六・三五八七番

今日の如く國民保健問題の重要視せらるゝ時代に於ては、所謂食料問題なるものは又重要國策の一と云ふべきである。從つて肉食奬勵の如きは、都市地方を通じて今後益々盛んなるべきは論を俟たぬところではあるが、實際的には食用家畜の供給地は地方が主にして、その消費地は都市である。

故に其の需要供給の關係を圓滑にし、加工の施設を完備することは大都市に於ては實に重要なる問題と云ふべきである。歐米先進國の各都市に於けるが如き、理想的に完備したる施設は遽かに望むべからざるも、我が東京市に於ても今後益々この方面の施設が要求せらるべきは疑はない處である。而して東京市常設家畜市場が芝區高濱町に設けられたのは右の要望に依るものと云へやう。

合資會社石橋商店は本社を荒川區南千住一丁目に置き、營業所を東京家畜市場内に設け、牛豚肉卸業を拮据經營、業運隆々たるものがあり、都下に於ける業界の重鎭と謳はれ、不動の業礎を築いてゐる。

抑々同店は石橋政太郎氏が南千住に於て創業したもので、氏の不撓不屈の努力精進は着々として大を齎らし、遂に今日の地位を占むるに至つたもの、現在にては合資會社組織として氏自から代表社員の重椅にあるも、實際的には新鋭三矢遜氏がありて内外一切を統宰し、益々業勢の昂騰に精進しつゝある。

代表社員たる石橋氏は明治十六年三月を以つて千葉縣に出生、父君は富三郎氏と呼んで其の長男である。雄志を抱いて上京するや風浪荒き實社會に身を投じて奮鬪努力、遂に獨立して石橋商店を創業し、今日の大成を招來するに至つた立志傳中の偉材である。現在擧げられて關東豚肉卸商組合聯合會々長、東京豚肉卸商業組合理事長等の重席にあり、斯界の發展、業者の福祉に就きて盡瘁するところ大、斯界の第一人者として鄕々の名聲を謳はれてゐる。

尙ほ曩きには日本畜産工業株式會社取締役、田端合同運送株式會社取締役に推されてゐる。

更に又、石橋氏を扶けて能く業の一切に當りて奮鬪しつゝある三矢氏の存在も看過することは出來ない。氏は山形縣鶴岡市最上町を產土の地として明治三十九年五月三十日出生、夙に英邁の性を鄕黨に謳はれてゐたが、學序を踏んで早稻田大學第二高等學院に學び、卒業の後、進んで大學部商科に入りて螢雪の功を積み、昭和六年卒業と共に川崎貯蓄銀行に勤務したるも、昭和十三年九月辭して石橋商店に入る。而して縱横に卓腕を揮つて益々業勢の進展を圖りつゝある逸材である。

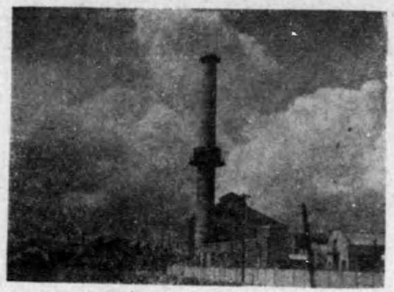
尙ほ大和特殊鑄鋼株式會社取締役、田端合同運送株式會社取締役としても重きをなす。因みに氏は石橋氏の女婿にして石橋氏もよき協力者を得たと云ふべきであらう。

また身を持すること謹嚴方正、只管其の德性を傷けぬやうに努めてゐるのみならず、國家的見地に立ちて自己の名利を棄てゝ行動するところ誠に得難き存在と云ふべく、向後に期待するところ大である。

東京フエロコンクリート工業所

所長　工學博士　阿部美樹志氏
支配人　白石雅彦氏
東京市蒲田區本蒲田四ノ七
電話蒲田二二六一番

輓近我が國のセメント工業は異常の進歩發展を遂げつゝあり、現時は世界第一の生産高を示し、延いてはコンクリート加工業も漸次殷賑を極めんとしてゐるが、斯界に其の存在を誇るものに東京フエロ・コンクリート工業所がある。



同所は實用新案たる東京フエロ・コンクリート組立塀、柵をはじめコンクリート基礎杭、煙突其他コンクリート製品を以つてする工事施工を業としてゐるが、其の創業は大正五年四月にして我が建築土木界の權威たる工學博士阿部美樹志氏が業を興したものである。

爾來、博士の指導統率の下に、業の進展を累ねて堅實なる地歩を占め今日にありては土木建築業界をはじめ各方面より受註に接し、隆々たる業績を擧げつゝある。即ち其の施工するところのフエロ・コンクリート組立塀、柵およびコンクリート基礎杭、煙突等は堅牢なること他に其の比を見ず、永久性を有してゐる點は各方面の認知するところであり、好評嘖々たるものがある。

其の主なる得意先を擧げると、宮内省大藏省營繕管財局、海軍技術研究所、第一師團、近衞師團、東京市役所、各區役所、各警察所、各消防署、東京府廳等の諸官衙をはじめ日本鋼管、愛國石油、鶴見製鐵造船、保ケ谷曹達、明治製糖、明治製菓、三井合名、東京瓦斯、京濱コークス、東洋紡績、鐘ケ淵紡績、大日本紡績、日本精鋼、北辰電氣、新潟鐵工等の著名會社場、又清水組、大林組、竹中工務店、大倉土木、戸田組、錢高組、安藤組、鹿島組、間組等の一流建築業者は勿論であり、特に華頂侯爵邸、松平侯爵邸、池田侯爵邸等にも施工して絶讃を博してゐる。以上の如きより推しても當所のフエロ・コンクリート施工々事が、優秀なるものであることを知ることが出來やう。

而して所長阿部美樹志氏は岩手縣の人、阿部德四郎氏の長男にして明治十六年五月の出生であり、夙に建築設計界に鉾々の令名を謳はれてゐる偉材、曩に米國に留學して斯學の蘊奥を究め、工學博士の榮譽を擔つてをり、現在阿部建築事務所を主宰す。

又現在、當所に於て業の一切を事實上に統宰しつゝあるは白石雅彦氏にして、氏は明治三十五年の生れ、其の雄志を建築業界に伸べるべく切磋琢磨の功を累ね、業成るや阿部建築事務所に入りて親しく博士の指導を受けたる新進氣鋭の士、昭和八年の頃より拔擢されて當所の支配人たるの要椅に就き、爾來孜々として精進、能く全從業員を統宰して遺憾なく、益々業運の進展を招來せしめてゐる。

而して業礎不動の地位にある今日と雖も、氏は自から第一線に立ちて督勵指導を怠ることなく、しかも從業員に對しては慈父の心を以つて接し、彼らも亦氏に對して敬慕措かざるものがあり、兩者の間は和に滿ちて一糸亂れざる統制を示してゐる。（寫眞は施工の煙突）

甲神護謨製造所

所主　吉田藤一郎氏
支配人　大島善次郎氏
東京市荒川區南千住三ノ二一
電話淺草三七九一番

抑々ゴム工業は一八三九年にグッドイヤーが硫化法を發見した時に基礎が出來たものと云へる。其の進歩の道程たるや極めて飛躍的に展開して、機械に電氣に鑛業に土木に其他軍需工業、農業、交通、醫療、衞生家庭用品或は被服に履物に雜貨にスポーツ用品に、人生萬般に亘つて交渉聯關を有し、ゴムと人生とは不可離の關係にある。

顧つて我が國に於けるゴム工業の發達史を視ても、明治十五年頃の濫觴時代から日露戰前後に到つて、俄然近代的工業組織の形態を備ふるに至り、更らに曩きの歐洲大戰を契機に一段の飛躍を遂げ、今や一大有機化學工業として本邦重要産業の一に數へられてゐる。この目覺しい發展振りは列國の驚異の的となつてゐる處である。

我が甲神ゴム製造所は本邦ゴム工業界の權威にして日本自動車飛行機タイヤ製造所社長たる吉田藤一郎氏が、從來ありし合資會社甲神ゴムの一切を買收し、實際的に近代的工場設置を以つて大正九年業を創始したものである。從つてゴム工業史上に於ては比較的新しい存在ではあるが爾來、首腦部以下全從業員は一致結束して不斷の努力と懸命の研究を累ねて製品の向上を圖り、年と共に順調なる業績を擧げてゐる。

現在に於ける製品の主なるものを擧ぐるとゴム耐空バッキング、ゴム螺旋用ローラ、ゴム運動靴等であるが、孰れも優秀製品として知られ、陸軍被服廠、横須賀海軍工廠、航空關係をはじめ足尾銅山、日光製銅所等に納入して好評嘖々たるものがある。

而して所主吉田藤一郎氏は專ら力を日本自動車飛行機タイヤ製造所に傾注してをり、當製造所の業務一切を擔當しつゝあるは支配人大島善次郎氏であるが、氏は明治二十八年十月十日を以つて石川縣金澤市に於て出生し、夙に業界にありて精勵努力した逸材であり、流石に吉田氏の拔擢した丈けに、事業家として勝れた手腕の持主のみではなく、信念の上に於ても決して屈伏することを知らず、しかも北陸人特有の强靱な鄕土性を有してゐる。

又た氏は性來研究心に富み、しかも不退の勇猛心を藏して何事も就さざれば止まざるの氣概を示してゐる。その氣概と周到なる注意力旺盛なる研究慾を縱横なる才幹に依つて巧みに生かしてゐる。研究心に富み、氣魄を有すると雖も、之れを活用する才幹なければ無爲に終ることなしとしない。氏は此の點自然に立脚せる才幹と到らざるなき注意力に依つて生かしてゐる。今日の地位あるは當然である。

しかも、世路風霜を經たる苦勞人丈けあつて、よく人情の機微に觸れて部下從業員を愛し、又彼らからは敬仰されて、自然の裡に醸成された抱擁力に富んでゐることは、同製造所の進展に大なる强味があると云へやう。

惟ふに東亞新秩序建設に對する重責を擔ふ我が國は益々複雜を極める歐洲の天地に對しても其の趨勢の歸する處に依り重大な役割を持つ今日國力の擴充を最急務とするが、當所の如く堅實なる基礎に立ち、製品は國家的重要資材であり、而かも統宰者の有能の士である點に鑑み、嘱望措かざる處である。

川口化學工業株式會社

取締役社長　本間金藏氏

本社　東京市日本橋區室町四ノ三
電話日本橋代表四三九〇番
工場　川口市領家町三五〇六
電話川口二四〇六番

現下の如き國際情勢下に在つては、凡ゆる産業部門は國家の存亡を決定する鍵鑰を爲すものと稱しても過言ではない。勿論、國と國との輸贏を爭ふ第一線を承るものは軍事行動であるけれども、終局の勝利を決定するもの、殊に持久長期戰に移行した場合にあつては尙ほ更らに、産業力が最後の黑白を決定するところの鍵鑰を握つてゐるのである。

然らば、其の産業部門の中にありては、最も必要なるものは何かと云へば輕率に大小輕重を決することは出來ない。極めて微妙にして複雜なるものであることは言を俟たぬところであるが、直接的影響を齎らすものは何か、と云ふならば重工業と化學工業の二者を擧げるに躊躇するものではない。

故に、世界の列强はこの重工業並に化學工業の發達に全能力を傾注し凡ゆる知識と技能と資力の三大要素を擧げて之れが進歩向上に努力してゐることは、少なくも世界の現情に有識ある者の到底否定すべからざる事實である。

我が國に在つても、かかる國家存立の必要上朝野の別なく、其の發達に深甚なる注意を拂つてゐるのも、全く彼上の理由に依るものである。而して玆に擧ぐる川口化學工業株式社の如きも、この意味に於て國策の線に沿ふところの重要なる存在であると云へやう。

當社は昭和十二年一月の創立にかゝはり、其の本社を東京市日本橋區室町四丁目三に置き、工場を埼玉縣川口市領家町三五〇六に設けてあり未だ創立以來の日子淺きにも拘らず、其の內容の充實してゐる點や、製作技能の卓絕してゐる點、更らに營業方針の堅實なる點など、總べての角度から檢討してみて所謂時局の波に便乘して簇生した新興會社工場と同列に論ずべきものではない。確固たる業礎を誇る眞の國策線上にクローズアップされたる有力生産機關の一つである。

其の製造品目の主なるものを擧げると、ゴム硫化促進劑、ゴム老化防止劑、寫眞藥品、工業藥品各種並に高級塗料溶劑ヘキサノン・ヘキサールであり、殊に高級塗料溶劑としてのヘキサノンは我が斯業界の先驅をなすものとして各方面より異常の關心と好評を受けつゝある。

卽ちヘキサノンは高級塗料の溶劑とし現在最も要望されてゐるが、然し我が國に於ては未だ工業的製産は行はれず、少數の人々により研究が爲されたに過ぎざる狀態であつたが、玆に優秀なる技術陣を有する當社が營々たる精進の結果、遂に之れが工業化に成功し、市販したる逸品である。實に化學工業日本の凱歌を高らかに奏でたものである。

而して當社を主宰するは本間金藏氏にして、新潟縣佐渡郡相川町の人明治二十五年十二月二十五日を以つて第一聲を發し、今や識見手腕共に圓熟の境に入りたる斯界の逸材、能く時代の動勢を察知して産業報國の精神の下に啻に自社の利のみを考慮することなく、高度國防國家建設の大局から社を擧げて獻身的の精進をなしつゝある、當代稀れに見るところの産業人、向後の活躍を期待するものである。

日本電氣鎔接機株式會社

取締役社長　濱野濱治氏
取締役　岡田孝輔氏
取締役　濱野時一氏
監査役　濱野正二氏
東京營業所長　後閑袈裟男氏

本社　大阪市此花區上福島北三ノ二三
電話福島五一九五・七一四五番
東京營業所　東京市京橋區入舟町二ノ二
電話京橋六九四八番

今や我が國は世界的大轉換の渦中に立ちて、曠古の大業たる東亞新秩序の建設に邁進つゞけてゐるのである。卽ち一面に於ては大業の完成を遂行しつゝ、他面に於ては世界新秩序の建設指導的役割を果さねばならぬ立場に置かれてゐる。

而して此の重大使命を果すことは勿論、單なる掛聲のみを以てして克く爲し得るところではなく、當然國家の總力を最高度に發揮し、如何なる事態の發生に際しても毅然として獨自の立場を堅持し、之れに對處し得るやう高度國防國家の建設を完成しなければならない。

云ふまでもなく、高度國防國家の根基をなすものは資源開發、生産力擴充に俟つところ甚大なるものがある。從つて我が産業陣にあるものは益々時局の重大性を確認して、職分奉公の至誠を致すのが國民として當然の責務である。

玆に擧ぐる日本電氣鎔接機株式會社の如きは擧社獻身、産業報國の標榜して精進しつゝある代表的のものと云へやう。

同社は斯業界にありて最高峰を往くものとして、陸海軍方面をはじめ各方面より多大の信賴を博してゐるが、其の製作する濱野式電氣鎔接機並に鎔接棒は專賣特許を有し、卓越せる性能は斷然他に匹敵するものを見ずと云はれてゐる。故に、陸海軍はもとより鐵道省、東京芝浦電氣株式會社、日本産業株式會社、日本石油株式會社等に納入して嘖々たる好評を謳はれつゝある。

抑々當社は大正五年に現在社長たる濱野濱治氏が獨立創業したものに端を發し、事業の進展と共に大正八年組織を株式會社となして、更らに機構を擴充し、本據を大阪市此花區上福島町三丁目に置き、工場を春日出、難波其他の地に設け、大正十年よりは東京に營業所を設けて進出し益々業積を發揚するに至つた。今や九州大牟田をはじめ大連撫順に支店を設け、北海道に出張所を設けて飛躍目覺しきものがある。

現在の首腦部陣容は社長には濱野氏自から在りて內外一切を綜攬し、取締役に岡田孝輔、濱野時一の二氏、監査役に濱野正二氏が列してをり東京營業所を主宰するは社長の令甥たる後閑袈裟男氏である。斯く整然たる陣容の下に全從業員一致協力、戰時體制下にありて生産力擴充の一助たるべく眞摯なる精進努力を捧げてゐる。

而して東京營業所を擔當して隆々たる業運をもたらしてゐる後閑氏は昭和十四年八月より東京に進出した新進氣鋭の逸材、其出生は明治四十三年にして兵庫縣の人、夙に京都同志社に學びたる後、一時東京日々新聞社にありて新聞業界に活躍したことがある。

福岡鐵工所

所主 福岡秀而氏
福岡正秀氏

東京市荒川區南千住一ノ七五
電話淺草一三一二番

生産力擴充に呼應せる重工業の發展は決定的であり、事變の長期化、國際關係等の微妙なる動きを見る時、今後の我が日本の進むべき道は、總べて戰時體制の下に邁往するの要があるのは明白であらう。

斯くして總べての生産機構が軍需材供給によつて占められることは云ふまでもなく、そこに時局工業の將來性と發展性を見られる。時局工業が國家の緊要事として生ずる以上、當然之れに携はる者の責務もまた、自づから國家本位にならざるを得ないのであるが、往々にして中にはこの眞意義を沒却して、自己本位、會社本位に墮するの弊風がある事は洵に遺憾に堪えないところである。

然し、其の一方に於ては、眞に國家を憂へて事業を透して時局克服の一端を擔える銃後の戰士あるは大いに意を强うするところである。

玆に擧ぐる福岡鐵工所を拮据經營する福岡秀而氏も亦其の一人である。

當鐵工所の營業とするところは、陸海軍各科兵器並に機械一般及び各種蹄鐵の製作であり、製品は主として時局に沿ふもののみと云つても過言ではなく、從つて當鐵工所の伸展する素質は、時局に依存するとも云へるのである。

されば統率する福岡氏の時局に對する認識振りは、その深さに於て遠く餘人の及ぶところではない。的確なる時局認識の上に立つことは、歸するところ氏の動向をして、國防産業の確立へ協力を惜しまぬ所以である。現に氏は其の主宰事業を以て國家に結びつけ、事業を通じて國家の高きを以て念じてゐる。之れを見ても、氏が單なる營利的産業人の領域を離れて、獨自の立場に時局人としての良心的經營、即ち滅私奉公の至誠を披瀝してゐるかを窺知されやう。

抑々當鐵工所は大正二年四月、福岡氏が獨力業を興したもの、爾來其の不撓不屈の努力精進は着々として成果を結び、遂に今日あるの不動の業礎を占むるに至つた。而して氏は明治十五年二月を以つて千葉縣山武郡に於て出生、夙に聰明の資性を謳はれたのであるが、學序を經て明治大學に拖み、法學部に螢雪の功を積み明治三十三年卒業した逸材の士、しかも自己の將來を斯業界に求めて新生面の開拓に奮鬪、其の貴重なる經驗を以つて大正二年創業したのである。

而して氏に最も敬服するところは謙遜の德を有し、責任感の强固にして犧牲的精神の持主たることであり、其の高邁なる識見は人格の高潔なると相俟つて昭々たる光りを放つてゐる。業餘また社會公共に力を盡くすことを忘れず、曩には畏くも紺綬褒章を賜はるの光榮を擔つてゐるのは、氏一人のみならず一家一門の擧れと云ふべきであらう。

又氏の令嗣正秀氏は、明治四十年の出生、慶應義塾大學を卒業した新進氣鋭の士、今日父君を扶けて第一線にあり、實際上に於ける總べてを統宰し、よく卓腕を縱横に發揮しつゝある。尙南千住一丁目郵便局長の任にもある。

今や我が國は東亞新秩序建設に邁往しつゝある秋、銃後産業界の一部門に當所の如きあるは大いに意を强うする。

橋場鐵工所

岡田新作氏

東京市淺草區橋場三ノ七
電話淺草五六二三番

時局以來、急激に發展して來た我が工業界は、更らに今次支那事變の勃發に依り、一段と之れを高度化し、まさに戰時下生産經濟の中樞をなしてゐるが、それ丈けに又國策遂行の一翼として重大なる使命を課せられてゐるのである。殊に事變の長期化、新東亞建設の大業遂行上から見て、之れに卽應して翼贊の實を擧げるためには、今後とも斯界の急速なる發展は切に要望されてゐる。

斯くて新舊大小を論ぜず凡べての工場にありては其の生産機構を擴大し、彌が上にも能率の高度化に努めつゝあるが、我が岡田新作氏の統率する橋場鐵工所は既に創業以來二十有餘年に亘る古き歷史を有し、獨特の技術陣を確立し優秀製品をおくり斷然斯界の一角に雄飛しつゝある。

其の製品の主なるものは、陸軍砲車用リム、國産ソリツトタイヤーリム、特殊タイヤー用ホキル、各タイヤー用ウオチケース並に一般ゴム機械設計製作等であるが、孰れも優秀を誇る逸品にして他の追從を許さぬもの、之れ岡田氏が産業報國の至誠を披瀝し、全從業員をよく統率して高度の機能を發揮しつゝあるに因由してゐるのである。

同鐵工所は現在、淺草區橋場町に本據を置き、更らに川口市に新工場を設けて相關聯して生産力の擴充に益々精進してゐるが、抑々同鐵工所は大正五年十月、淺草玉姫町に於て岡田鐵工所の名で創業され、次で十年現在の地に移轉し着々業礎を築く時、偶々關東大震災に遭遇して一切を烏有に歸したのであるが、岡田氏は不退轉の勇猛心を以て復興をなし名稱を橋場鐵工所と改稱したのである。

現在橋場に所在する工場は敷地二百餘坪、之れに內容完備せる工場を有し、又優れたる技術をもつ從業員多數を擁して居り、尙ほ川口市にある新製作所は更らに規模を大にしたるものにして、其の製品の卓越せることは主なる納入先が陸軍關係をはじめ一流ゴム製造會社たることに依つて窺知されるところである。

而して岡田氏は廣島縣加茂郡莊野村に於て、明治十二年六月を以つて呱々の第一聲を發し、夙に工業界に其の將來を求め、若冠十四歲にして敢然九州に赴き、某機械工場に入りて修業の第一歩を踏む、かくて在る事四ケ年の後、大阪に出で牧野鐵工所に入つて更らに修業を累ねたが、再び九州に渡り福岡縣直方市の福島鐵工所に精勤すること一年有餘、越えて明治三十一年には呉海軍造兵廠に奉職した。

其後、三度福岡縣に歸り後藤寺町の起業所に入り、專ら機械製作の實際に就いて修業を積み、爾來業界に在ること十餘年の久しきに亘り、豐富なる經驗を以つて桐野炭鑛機械部職長に擧げられ、次で熊本支起炭鑛に移り、更らに三井物産後藤寺機械主任に聘せられ、更らに室蘭市日本製鋼所に機械部主任として重きをなし、在ること四ケ年にして上京、獨立業を興して奮鬪よく精勵を以つて今日の大を築いた偉材である。

又氏は自治公共に志篤く、現在方面委員、其他に擧げられて貢獻す。

杉林黑鉛滿俺株式會社長
イワト電器製作所社長
高陵興業株式會社社長

區會議員 杉林健治郎氏

杉林黑鉛 東京市品川區南品川五ノ一四七
本社 電話高輪〇一三八・一八五四番
東京市品川區大井伊藤町五七二五
(宅) 電話大森二六一七番
イワト電器 東京市品川區大井南品川一七三三
本社 電話大森八一八八番

社會の凡ゆる部門に於て最も大切なるは、先づ人格を造る事にある。其の行動に於て、國家人、社會人として完きを爲す時、國家非常時も何ぞ憂ふるに足らんやである。各人が眞實を以て事に當り、心に緊張せしめ一致協力、國家的見地に立もて之に當らば何ぞ深く憂ふるの要あらんやである。凡ての動搖は人としての行動、人としての用意覺悟に缺くるところがあるからである。

日本國民は一朝有事に際して擧國的になることは容易であり、直ちに緊張そのものとなると云はれてゐるが、それは一朝有事の時のみでなく平素に於ても其の心がけでなければならぬ。

斯く思ふ時我が杉林健治郎氏の如き士あるは、大なる喜びとしなければならない。氏は事に當つて至誠を披瀝し、自己の家運の振興を思ふと共に、社會公共の福祉增進を念願として、よく衆のために靈瘁してゐる。地方自治體の如きは相共に生きると云ふ觀念に立脚しなければ發展するものではなく、互いに相反目する樣では、單に自治體の平和の破壞のみではなく、其の生存をすらおびやかすに至る、品川區會議員として氏の如き至誠の人のあるは喜ぶべき事であり、氏が今日の如き崇敬を受けつゝある所以である。

氏は明治二十三年九月八日を以て富山縣の人、與八郎氏の長男として出生、幼にして才氣衆に優れ、小學の課程を修めるや進んで高岡中學校に入りて研鑽するところがあつた。而して明治三十五年の交、父君が杉林黑鉛滿俺製造所を興すや父君を扶けて精勵し、後ち其の一切を繼承し愈々努力奮鬪を致してよく今日あるの基礎をなしたのである。

斯くて年と共に業運の進展目覺しく、明治四十三年には合資會社組織に改め、其の規模を擴張し、更らに昭和十二年九月には株式會社と組織を變更し、時流に卽應したる經營方針を立て、愈々堅實なる地歩を斯界に占むるに至つた。現在の資本金七十五萬圓にして、上叙の地に營業所工場を置き、氏自から社長の要椅にありてよく統率、卓腕を縱橫に發揮し、隆々たる業態を示してゐる。

又た合資會社杉林金屬精錬所を興し其の代表社員となり、更らに株式會社イワト電器製作所を創立し、社長として業務を綜覽しつあり、尙ほ高陵興業株式會社々長としても重きをなし、命名を謳はれてゐる偉材である。

而して其の一方に於ては社會公共に意を注ぐことを忘れず、隣保共榮に力を致し、衆望の歸する處推されて區會議員の重席に擧げられるや公明正大の所論を以て區政の刷新向上を圖り、區民の福祉增進に努めるところ甚だ大なるものがあり、一身に信望を聚めてゐる。

資性篤實にして敦厚、而して居常謙讓の美德を有し、玲瓏玉の如き人格は、また些かも圭角なく、對者に城府を設けざるところ世情に通じたる圓滑さを物語るものであらう、しかも名利を求めず、富貴を欲せずたゞ至誠努力を以つて處世の要諦とし、身を持すること謹嚴、只管其の德性を傷けざるやうに努めつゝある。

旭化工業株式會社專務取締役
合資會社佐野商店代表社員
佐野研究所々長

佐野精一氏

東京市本所區請地六〇
電話墨田一七九七番
(宅) 東京市本所區向島三ノ四
電話墨田四六二六番

現下の如き國家非常時なる我が國に於いては、凡ゆる產業機關が打つて一丸となり、眞の協力一致、政府當局の指示する國策に順應して、之れに步調を合せてこの未曾有の國難を突破克服すべきであることは敢えて喋々するまでゝもない。

故に、都市たると地方たるとを問はず、我が產業日本の一環に聯らなるものは、其の創立の新舊を問ふことなく、その規模の大小を論せず、均しく國家國民の安定を確保せんが爲めに、最善の努力を講ぜねばならないのである。

從つて諸產業に對して政府は統制を斷行し、只策國力の培養に精進しつゝあるので、この聖戰遂行には單に政府當局のみの統制力に依存すべきではなく、宜しく民間產業陣にありても之れに協力するのが肝要であり、又た日本國民たるものゝ責務であると云へやう。

玆に擧ぐる佐野精一氏の如きに、常に熾烈なる產業報國の精神を抱藏して我が產業界に活動しつゝある有爲の逸材、卽ち現在にありては旭化工業株式會社專務取締役たるのみならず、合資會社佐野商店代表社員、佐野研究所長として卓腕を縱橫に發揮しつゝあるは偉とするに足る。

氏は明治十三年三月二十五日を以つて橫濱市に於て呱々の聲を擧げ、夙に英明俊才の譽れを謳はれ學序を踏んで、東京法學院英法科にありて研鑽を積み、卒業の後は外國商館に勤務して實際的の修業をなし、次で貿易業に從事して大いに國運の進展に寄與するところ頗る大なるものがあつた。

其後國華工業株式會社、富士革布株式會社に於て常務取締役の要椅に座し、卓腕を縱橫に發揮したのであつたが、昭和十一年より旭化工業株式會社專務取締役として活躍し、又佐野商店、佐野研究所を統率して精進努力を惜まず我が化學工業界發展のために貢獻しつゝある。かくて業礎愈々堅く錚々たる名聲を謳はれてゐる。

之れ氏が、能く時流の赴くところを洞察して堅實なる經營方針を樹立し、しかも信用本位に邁進したる賜と云ふべきであらう。

氏は資性溫厚篤實にして身を持すること頗る謹嚴、人格また高潔にして志操高雅、しかも謙讓の德を有し、溫容を以つて常に人に接し、其の識見の高邁なるところ、寔に產業人の龜鑑として、推稱するに足るものがある。

惟ふに事業的人材は世に幾多數へられるところであるが、人格の士は果して何れ丈け數へ得られるか、或は事業家には人格は第二義的のものであると云へるかも知れぬが、事業としての眞の光りは其の才幹よりも人格にある。才幹に必ずしも人を悉く敬服せしめるものではない、けれど人格は萬人を畏敬せしめるものである。卽ち我が佐野隆一氏がよく多數の從業員を統率し、昭々たる實績を擧げてゐるのも其の人格の光りに因るところ大である。

趣味として讀書、日本畫、音樂を好むと云ふことに依つても其の風格の一端を窺へやう。

中屋三間印刷株式會社

取締役社長　鈴木正平氏
常務取締役　鈴木茂氏
取締役　鈴木由郎氏
同　鈴木善助氏
同　金原金二氏

本社及工場　東京市品川區東大崎五ノ二九
電話大崎二四七・二四八・二四九番
營業所　東京市京橋區築地四ノ四
電話京橋三四一・五七〇五番

近代文化に不可缺のもの―それは進歩したる印刷事業に他ならない。況してや東亜の指導的立場にある我が國の躍進に一つの重要なる役割を演じてゐることは當然なことゝ云へやう。

東都業界にありて最古の歴史と最新優秀なる技術を誇り、高級美術印刷の王者たる位置にあるものは我が中屋三間印刷株式會社である。

抑々當社は明治九年の交當時の先覺者たる福澤諭吉、早矢仕有的の兩氏が相計り、穂積寅九郎氏の名義を以つて業を創始したものに端を發してゐる。爾來、金原明善氏、金原已三郎氏、鈴木正平氏が相次で繼承し精勵よく業を綜覽して年を累ねる毎に大を加へ、業務隆々として進展の一路を辿りたるため、大正八年十一月三日の佳日を卜して組織を變更し株式會社となして時代に處して業勢の擴張を圖り、更らに昭和六年十二月十三日に至つて合名會社三間印刷所を合併し、愈々機構を擴大して今日に及んだものである。

而して今次事變以來、相次ぐ統制は日を遂ふて強化されつゝあり、特に印刷業界は益々多難なる局面に逢着してゐるが、同社は實に堅實なる歩課を以つて依然隆々たる業務を示し、斯界の注視の的となつてゐる。殊に社首脳部に人材を網羅し、擧社献身、印刷報國を期しつゝある。

現在にては資本金十萬圓を擁し、本社及び工場を上叙の如く品川區東大崎三丁目に置き、營業所を京橋區築地四丁目に設けてあり、工場敷地は千三百五十餘坪、建坪八百七十餘坪にして從業員三百名餘に及んでゐる。而して重役陣を示すと取締役社長として鈴木正平氏がありて業を統率し、之れを扶くるに常務取締役鈴木茂氏があり、取締役には鈴木由郎氏、鈴木善助氏、金原金二氏の三氏、監査役として金原已三郎氏が擧げられてゐる。

而して鈴木社長は靜岡縣の人、松藏氏の長男として明治十九年三月十四日を以つて呱々の聲を發し、長じて印刷業界に自己の道を求めて精勵中屋印刷所を興して獨立の基礎をなし、爾來發展に次ぐ發展を累ねて今日の大を築くに至り、名聲錚々として斯界に謳はれてゐる偉材の士。現在にては當社々長たるのみならず東京印刷同業組合長、東京印刷工業組合理事長の重席に擧げられ、能く業界の共存共榮のために努力を致し貢献するところ大なるものがあり、信望を一身に集めてゐる。

更らに山本インキ株式會社監査役、正久双物製造株式會社長等として斷然重きをなしつゝある。

斯様に、氏は事業經營に卓越せる手腕の持主であるのみならず、又た印刷技術方面に對する研究も深く、所謂經營と技術の二道を邁進して巧みに之れを消化してゐる。加ふるに明識あり、よく時勢に對して適切なる經營方針を立てゝ誤ることなく、しかも謹嚴方正の人格者として謳はれてゐる。

櫻組工業株式會社工場長
日本笹工業株式會社取締役

櫻井倉雄

（社）東京市王子區稲付町二ノ一六〇
電話大塚四一八四番
赤羽三〇二一―三番
（宅）東京市王子區稲付町二ノ一三一
電話大塚四一八五番

國家總力戰と云はれる今次の支那事變は、單に征地に日夜奮闘する勇士にのみ依存することなく、銃後を護る我々國民が凡べて第一線の將兵の心を心として各自が其の部署に於いて大業翼賛に努めねばならぬのは當然であるが、就中、國家的重責を擔ふものは、直接に銃後産業界に活躍精進する少壯氣鋭の士でなければならない。

叙上の意味からして、櫻組工業株式會社にありて其の工場長として令名を謳はれつゝある朝倉博氏の如き新進の産業戰士は、所謂、人的資材の必要が提唱されてゐる今日、最も期待されてゐる一人と云へやう。

氏は愛知縣豊橋市の人、明治三十八年三月二十九日を以つて呱々の聲を擧げ、父君を豊三郎氏と呼んで其の二男である。夙に英邁の資性をもつて鄕黨に鳴り、將來を囑望されること頗る大なるものがあつたと云ふ。學序を經て大倉高等商業學校に學びて秀明の譽れあり、昭和二年同校を卒業するや父業に從ひて精勵、越えて昭和九年に至り櫻組工業株式會社に入りたる逸材。而して其の不撓不屈の努力奮闘は認められるところとなり、遂に少壯の身にして同社工場長の重責を擔ふに至つたのは全く社長の信頼極めて謳く、其の卓腕の持主たることを雄辯に物語つてゐる。

尙日本笹工業株式會社の取締役として重きをなす。しかも氏は能く人情の機微に觸れて從業員を愛し、この自然の裡に醸成された抱擁力に富むところ彼らより亦敬仰されてゐるが、之れ工場の能率を發揮するに大なる强味と云へる。又業務と私生活を確然と區別し、業務上に於ける從業員に對する態度は嚴格そのもので、極めて公平妥當に裁斷し、苟くも私情關係を混淆することがない。しかし、一旦業務を離れて私交際ともなれば、友人であり、兄弟であり、殊に親子の肉親の如き情愛を以つて接するところは益々氏の德望を高める所以である。

氏は又た慧眼よく時流を洞察するの明があり、高邁なる識見を藏し、其の人格の高潔なるところは、常に謙遜の美德を發揮し、功を誇ることなく實は自からが負ふと云ふ强固なる責任觀念の持主、しかも名利を求めず、富貴を希はず、たゞ至誠努力を以つて處世の要諦となす。實に我ら社會人として最も必要なるは至誠であり、努力である。これのみが何物をも通して光被するのであり、かゝる人材は求むるに難しとするところであるが、玆に其の師表的人材として氏を見るは大なる欣びと云はざるを得ない。

家庭には父君富三郎氏老いて益々健勝、氏は令閨と共によく仕へて孝養の限りをつくしてゐる。令閨早苗夫人は靜岡縣の人、柏田治郎氏の四女で大正元年の生れ、西遠高女卒業の才媛、氏との間に一男一女を儲けてゐる。嗣子を丘明君と呼び、昭和十年の出生、長女は明美孃と呼んで昭和七年の生れであり、未だ幼少ではあるか氏及び夫人に似て聰明にして將來を囑されてゐる。

因みに氏の趣味は弓道、觀劇であると云ふ。

佐倉鋼鐵工業株式會社
專務取締役
内山英雄

東京市京橋區西八丁堀二ノ六
電話 京橋一三三四番
（宅）東京市大森區池上町九四六
電話 大森二二七二番

世に立ちて一頭地を抜かんとするには、それだけの努力を必要としてゐる。勞せずしては何事も得らるべきではない、然しその努力も其の人の才幹の如何に依りて、また其の成果に差違を生ずるは當然のことではあるまいか。

殊に今日の社會狀態に於ては、努力をして成果を擧げしむるには、才幹に俟つところが甚だ多い。才幹ありしかも努力をする。斯の如き人々は、必ずや所期の成果を擧げ得るに至ることは明白、我が内山英雄氏の如き正に其の尤たる人と云ふべく、實に才能の士であり、且つ努力奮鬪の士である。しかも、才能も徒らに誇示せず、深く内に藏して其の活躍に資す、蓋に事業家として秀れたる人材と謳はれる所以であらう。

氏は長崎縣の人、明治十九年十二月十八日を以つて出生し、父君を禎吉氏と呼んで其の長男である。夙に聰明の資性を謳はれて將來の大成を鄕黨より囑されてゐたが、學序を經て長崎縣立中學校に學び、明治二十九年同校を卒業、更らに長崎高等商業學校に進んで斯學の蘊奥を究めて明治四十二年卒業するや迎へられて下關商業學校教諭として育英界にスタートしたのであるが、飄然實業界に轉向し、大阪山發商會貿易部に入りて精勵、次で神戸大洋海運會計主任として大いに卓腕を揮つたものである。

而して大正十三年に至り現佐倉鋼鐵工業株式會社の前身たる佐倉金庫に入り、熱心誠實に業を擔當して同店の隆興に寄與するところ大、次で昭和四年同店の組織改組されて佐倉金庫鋼鐵家具株式會社の設立を見ると共に、擧げられて常務取締役の要椅に列したのであつた。

かくて益々精進を累ねて業運の進展をもたらし、昭和九年には更らに佐倉鋼板工業株式會社と改稱して時代と共に飛躍をなし、其後氏は專務取締役の要椅に推されて重きをなす。爾來、氏の至誠至勤を以つてする精進は着々として成果を齎らし、業運また隆々たるものがあり、不動の地位を謳はれてゐる。

資性、溫厚篤實にして裡に一脈烈々たる氣魄を藏し、飽くまで正義を愛し、不正を斥けて行動するところに、氏の日常の言行、或は事業に具顯されてゐる。しかも名利を求めることなく、淸廉潔白なる人格、公正なる識見を以て皇國民としての本分をつくすに務めつゝある逸材である

趣味また頗る高雅にして餘暇を得ればゴルフに依りて體位向上に力め又鳥獸を鬪はして修養の資としてゐると聞く。

家庭には淑德高き靜子夫人あり、夫人は鹿兒島縣の人相奈行政氏の二女で青山高等女學院卒業の才媛、氏との間に一男二女を擧げてゐる。嗣子英次君は大正十五年の出生、現在聽星中學校に在學中、二女明子孃は大正十一年の出生、戸板高女卒業後、長谷川家に嫁してゐるが、孰れも氏、夫人に相似て秀明を謳はれる。而して夫人は氏によく仕へると共に子女の敎育に意を用ひ良妻賢母の譽れがある。

かくてこそ、氏は何らの憂ひなく只管業に專念し實業界の一方に雄飛され得るのである。

鈴木鋼柔所

營業所 東京市芝區新橋五丁目千歳ビル内
電話 芝四六六三番
工場 東京市蒲田區羽田本町六〇七
電話 羽田五五〇番
（宅）横濱市神奈川區宮ケ谷七
電話 神奈川三二八三番

鈴木男爵

苟くも今日の逼迫せる國際情勢を洞察する慧眼を有するものは、國家の安全感を確保する重要物資に於て「鐵鋼」の重要性を最高位に置かざる者はなからう。

それほどに「鐵鋼」の持つ威力は國土を震慄するほど素晴らしいものである。東西の列强がこれが資源の獲得に相爭つてゐる理由は疑ひもなくこゝに存してゐる。我が日本が抗日支那に膺懲の劍を揮ひ、以つて東亞新秩序の建設に邁進し、一方にありては獨伊と盟約を締結して國際情勢の複雜怪奇なる變轉に善處せんとする嚴然たる國策を確立しつゝある裏面に於ては、この重要資材に對し、不斷に深甚なる用意を拂つてゐることを決して忘却してはならぬ。

この國策線上に重きをなす重要資材たる鐵鋼—殊に特殊鋼一般を取扱ひ、隆々たる業務を展開しつゝある鈴木鋼業所を主宰する鈴木暨藏氏の如きは、此の意味に於て時局に最も忠實なるものと稱するも敢えて過言ではない。

抑々同鋼業所の創業は昭和十四年の春であり、未だ年處を閲みせずと雖も、特殊鋼協議會特約販賣店として公認され、不動の地歩を斯界に占めつゝある。

而して主宰經營に任ずる鈴木氏は明治三十一年四月十四日を以つて東京市足立區島根町に於て出生、夙に業界を忘して東鄕ハガネ販賣元たる河合鋼商店に入りたるは大正二年である。爾來精勵恪勤して内外表裏の別なく、模範店員として店主の愛顧と信用とを一身に聚めたのである。

斯くて着々として登用され、遂に市内部販賣主任の要席に擧げられて重きをなし、益々卓腕を縱横に發揮し、令名を謳はれたが、其の營業方針は堅實にして些かも不安がなく、同店の發展に寄與するところ大なるものがあり、勤續實に二十有餘年の久しきに及んだのである。其間、英邁にして賢明なる氏は能く斯業の眞骨頂を修得し、獨立の機を切望してゐたのであつた。

而して昭和十三年十二月に至るや惜しまれつゝも同店を圓滿に辭し、前記の如く獨立開業し、豐富なる經驗を基として自營の第一歩を斯界に印すに至つたのである。

然しながら、多年に及んで自己を育成し、獨立の素地を培養したる河合鋼商店とは依然密接なる關係を保有し、現に東鄕ハガネ特約販賣店として活潑なる商取引を行つてゐる。更らに氏は力を工業界に伸べて愛國製作所の經營に協力しつゝあるが、同所は工場を蒲田區羽田本町に置き專ら自動車部分品の製作に從ひ、時代の潮流に乘じて業勢進展の一路にある。

氏は人となり、敦厚にして着實、しかも稀れに見る人格者、至誠至勤を以つて業に專念しつゝあるところ典型的の産業人と云へやう。

家庭には鈴子夫人ありて淑德高く、其間に健司君他か四女を擧げて和氣藹々たりと聞く。

東邦鋼機商會

代表者 有村治

營業所 東京市芝區新橋三丁目駒場ビル内（銀座三八〇九番）
（宅） 東京市荏原區中延町一三一番

近代の戰爭は科學の戰ひであると共に經濟の戰ひでもあることは、今や總べての國民が確認するところとなつた。而して今次の對支聖戰にありても、國家總動員の下に武力の充實と共に銃後經濟力の確保を第一とする。即ち資源開發、生產力擴充、物資節約、技術の練磨等、人的物的共に百パーセントの增强を圖らねばならぬのは明白な事實である。

かゝる戰時體制下に於ける生產力の擴充は、鋼材機械工具業に從ふものゝ滅私奉公の念に依存するところ大なるものがある。即ち現下の軍需的の最大の要求は工業界の確立と充實にあり、從つて業者の責任を一段と痛感されるものがある。

玆に擧ぐる東邦鋼機商會は有村國治氏の主宰經營するところのものであるが、軍需產業をはじめ諸工業の勃興に並行し、重大時局に際して益々國力の强化に寄與しつゝある。

同商會の營業科目の主なるものは、高速度鋼、一般工具用鋼、ダイヤモンド工具、金剛砥石、クニ洗滌液等であるが、殊に超高級完成バイト附刄バイトニツケルクローム鋼用、マンガン鋼用の製作販賣に主を注ぎ其の製品の優良にして他に匹敵せざる卓越性を有し、都下に於ける白眉と謳れてゐる。

其の營業の本據を上叙の如く新橋三丁目駒場ビル内に設けると共に製作工場を横濱市中區杉山町四丁目に設け、徒らに規模の大を誇らず技術優れた工員を擁し、孜々として受註の消化に應じてをり、今や業運の進展目覺しきものがある。

而して有村氏は明治二十八年十月二十日を以つて鹿兒島市草牟田町に呱々の聲を發し、生家は鹿兒島藩に聞えたる有村一門の裔であると聞く氏は夙に英邁の資と俊敏の才を以つて鄕黨に鳴り、學を卒へるや東都工業界雄飛の念勃々たるものがあり、機を得て上京、風浪荒き實社會に投じて精勵よく業を修む、かくて昭和十一年に至り敢然獨立し、東邦鋼機商會の名稱の下に創業したのである。

爾來、不撓不屈の努力奮鬪は難關に遭遇して動ぜず、之れを克服して基礎を築き、加ふるに今次事變の勃發と共に生產擴充の波に乘じ、愈々大を累ね、遂に今日ある不動の地歩を占め信賴極めて高く鉀々たる名聲を謳はれてゐる。

資性、敦厚にして淵達、しかも周密なる頭腦を有してをり、半面には一片脉々として波うつ覇氣を藏し、絶えざる研究心と相俟つて益々事業の發展には不退轉の精進を續けてゐる逸材、尙ほ氏に敬服する處は熾烈なる愛國精神の持主であり、國家のために銃後產業人たるの責務を果すべく、赤誠を吐露し些かも私利私慾を顧みずと云ふ。

之れ、實に當商會の今日ある所以は、決して偶然でなく、氏の人格美の顯はれが凝つて成果を齎らしたものであらう。

家庭には貞德の賢夫人たる次枝夫人あり、其間に二男三女を得て和氣藹然たるものがある。因みに長男を正一君、次男を正人君、長女を靖子孃、二女を久子孃、三女を邦子孃と呼び、子女は皆な秀明の資性を以つて知られてゐる。

松尾組出張所
田中甚吉氏

自宅 東京市荒川區尾久町八ノ二三一番 電話下谷三九四一番
工場 電話下谷八五三四番

爲せば何事もなると云ふ言葉は幾度か訓へられた言葉であり、或は今日の社會に於ては爲すともならぬことはないと限られぬ。然し、要は今日と雖も爲すことが第一條件である。これも單なる「爲す」ではなく、周到なる思慮と他に信ずる努力と至誠を以てしなければならない。

「生活は戰ひである」とは古今を通じた格言であり、從つて我らの生活は常に戰ひである如く、間斷なき努力奮鬪があつてこそ、始めて「爲す」が具顯化するものである。かゝる意味よりして、今日社會階層に特殊の地位と不動の地盤を堅持するものは、悉くがこの「爲す」の實踐者であると云つても決して過言ではない。

而して玆に擧ぐる田中甚吉氏が今日斯業者間に於て特異的立場を保持し、益々隆々たる業務を展開しつゝある所以は、氏の宜しき指導と常に時機を利する謂はゞ敏捷なる行動が其の成果の最大原因ではあるが、蓋し特に見逃すべからざるは氏が常に不動の「爲す」の主念に基き、周到なる思慮を以て努力奮鬪、至誠至勤を披瀝するところが寧ろ今日の地位を堅持する所以であらう。

即ち田中氏は松尾組出張所の名稱の下に土木建築請負業を拮据經營し業者の集中する大東京に於いて特異の存在を示し、業運益々昂揚の一路にあり、鉀々たる名聲を馳せてゐる逸材である。其の主とするところは航空機格納庫飛行場の建設にして、既に今日に至るまでに多くの實績を擧げてゐるが、最近施工のものを記すと、大日本航空株式會社横濱支所の格納庫がある。之れは昭和十五年一月地鎭祭を擧行して工事に着手したのであるが、氏は烈々たる報國の赤誠を吐露し、其の完成に献身しつゝあり、恐らく本書刊行の際は既に竣工成るものと思はれる。

氏は明治三十一年東京市葛飾區に於て第一聲を發し、父君を淸十郎氏と呼んで其の次男である。夙に男性的氣魄に富み、志を土木建築界に立てゝ刻苦精勵する處あり、斯業の眞髓を究めるや大正九年若冠二十三歲にして獨立、華々しき第一歩を斯界に印した。爾來、眞摯奮鬪に一貫して着々業の發展を招來したる際、かの關東大震災に遭遇したが、不撓不屈の精進を以つて此の難局を克服し、年を累ねる毎に大を積み、遂に今日ある牢固たる地盤を築いた逸材である。而して氏が業に當るや全智全力を傾注し、艶れて後止むの大精神を實行するところに斷然たる强味があり、氏が確たる信念の持主たることを雄辯に物語つてゐる。之れ氏は日蓮宗に深く歸依し、日蓮聖人の鐵の意志を遵奉してをり、以つて處世の鐵則としてゐると云ふ。每年正月元旦には千葉縣小湊にある誕生寺に參詣する由、其の人と爲りを窺ふに足る。

家庭には富美子夫人ありて內助の功多く、節子孃、壽子孃、愛子孃、高明君を儲けて淸福に惠ぐまれてゐるが、節子孃、壽子孃共に瀧野川高女に在學して才媛の譽れがある。

城北電線株式會社

專務取締役　權藤常次郎氏

東京市荒川區尾久町八ノ二七三六
電話　下谷二三四〇番

愈々長期建設期に入り、戰時經濟體制は生産力擴充と物資動員計畫が新東亜の秩序を建設すべき當面の目標とされてゐる。國防産業の確立こそ非常時日本に於ける工業國策の使命であるが、之れに邁進する幾多の生産機關の一環として玆に擧ぐる城北電線株式會社の存在たるや看過することが出來ないものがある。

同社の營業とするところは可撓紐線、絶緣電線、模卷線製造販賣にして、其の性能の優秀なるを以つて斯界に鳴り、納入先方面より多大の賞讃を博しつゝある。而して同社が創立以來十星霜を閲みしたる今日にありて、疾くも不動の基礎を築くに至つたのは、實に同社首脳部の一糸紊れざる指導統率の下にありて、練達なる專門的技術者が蘊蓄を傾けつゝある賜であらう。

抑々同社は昭和四年六月の交、權藤常盤氏の手に依りて創業されたものに端を發して居り、爾來同氏を中樞として全從業員の一致結束の努力奮闘は、年を累ねるごとに斯界に確たる地歩を占めるに至り、業運の進展と共に昭和十一年三月組織を合資會社に改めたが、更らに同年十一月より株式會社に變更し、社内外の機構を刷新して時代と歩調を合せて進むことゝなつた。

卽ち社の中樞部としては社長に眞鍋儀十氏を擁し、專務取締役には常盤氏の父君たる權藤常次郎氏を擧げ、實際的の業務を從前通り權藤常盤氏が擔當し、愈々精勵精進を惜しまず、着々として業態の昂揚を招き遂に今日ある地位を占むるに至つた。

現在の新工場は敷地二百數十坪、徒らに規模の大を競はずと雖も其の整備された内容は優秀なる技術と相俟つて常に大なる成果を齎らし、隆々たる業績を擧げてゐる。其の販路は市内問屋より更らに大陸方面に進出を策してゐると云ふ。

而して實際的に同社の業務を統宰してゐる權藤常盤氏は、專務取締役權藤常次郎氏の息、其の搖籃の地は福岡縣三井郡であり、夙に同農學校に學びたる異色ある存在、志を東都業界に立てゝ敢然として二十四歳の時に上京し、獨立業を興して今日あるの基礎を拓いた。爾來不屈の努力と不撓の研究心を以つて着々と業運の隆興を圖り遂に今日ある城北電線株式會社を築いたのである。

彙きには大連、ハルビン、新京、吉林、奉天、張家口等の各地を巡歷して見聞を廣めると共に、將來の活躍の天地を求めるべく腐心する等、只管事業の進出に沒頭してゐるところ少壯産業人の典型とも云ふべき逸材である。現在大陸進出の第一歩として令弟をして彼地に於て斯業に從事せしめてゐる。

責性熱誠眞摯、しかも責任感强固にして犧牲的精神に富み、今次事變の勃發を見るや卒先滅私奉公の大精神の下に行動しつゝある。寔に名利に淡白なるところ高潔なる人格と相俟つて敬仰の念を一身に聚めてゐる。

家庭には淑德高き五枝子夫人ありて、氏と共に父君常次郎氏によく仕へて孝養の限りをつくし、其間に一男一女がある。長男を勝則君と呼び長女を信子孃と云ふ。

井實商會

井實萬二郎

事務所　東京市麴町區丸ノ内仲通り三號館
電話丸ノ内六三一八・二六一五番
（宅）東京市大森區雪ヶ谷六〇
電話荏原五九一四番

よく時代の風雲に乘じて一世を叱咤することも寔に快心の限りではある。然し、これは多くの場合、時運の扶翼に依るものであり、何人にも企て得られるものではない。寧ろ常に勉めて懈らず、身を修め家を修へて着々として地歩を占むるのが、人としての向上進歩の要諦ではあるまいか。

しかも、業餘、力を社會公共に盡すの勞を惜しまざるに至つては、正しく忠良なる國民の師表的人物として擧げ得られる。我が井實萬二郎氏の如きは蓋し其の一人。能く家業に精勵努力を致し着々として業運を拓き、今日あるの不動の地位を占むるに至つた偉材の士である。

氏は現在、帝都の中樞地丸の内街に事務所を設け、井實商會の名稱の下に主として礦油輸出入業を拮据經營しつゝあるが、今次事變の勃發するや銃後産業の國家的使命の重大性を深く認識するところあり、至誠を披瀝して業に當り、滅私奉公、公益優先の實を擧げつゝある。斯くてこそ信望翕然として聚り斯界に錚々の名を謳はれる所以である。

時局といふ時代の潮流に、幾多無數の産業人を送り出して正に戰時體制下に於けろ總力動員を遺憾なく發揮してゐる。然しながら、時局は之れを利用するものに非らずして、飽くまで正しき認識の下に、時局に添はなければならぬのは明らかだ。この認識を得ずして徒らに時局を阿ねることは、決して良心ある産業人のなすべきではない。今日の場合、眞の銃後産業人として執るべき行動は、一切の邪念を棄てゝ飽くまで國家の礎石となり得ることである。この例の人として氏の如きを擧げることを大なる欣びとする。

而して氏に最も敬服するところは、常に奮闘主義を信條とし、また生實として堅忍不拔の精神力を抱藏し、勇往邁進、以つて事業の發展を圖つてゐる、而して事業に對しては頗る活眼達識、且つ細心周到なる計畫の下に進出し、些かも不安の念を起さしめずと云ふ。また内外表裏の別なく身を持すること極めて謹嚴、只管其の德性を傷けぬやうに力めてゐるところに、氏の日常の敎養の奥床しさが知れる。更らに溫容にして人に接するに自から傲ぶるところなく、謙讓の德を發揮してゐるあたり、慥かに人に將たるの器局を具へてゐる逸材である。

趣味も亦頗る高雅にして氣韻あり、閑暇を得ればゴルフに興じ、體位向上を圖ると共に、多くの書畫骨董を愛藏してゐるが、新古の逸品があると聞く。

今や我が國は振古未曾有の非常時に直面しつゝあり、此の國難を突破し、國家を安泰ならしめんとするのは、軍備の强化擴充と共に、銃後に於ける産業陣の增强を緊要としてゐることは明白である。それには國民たるものが各自の業務に誠實を以つて當り、職分奉公國家隆興を築かねばならぬ。

かゝる際、井實氏の如き有能有爲の材幹ありて、産業陣の一角に活躍するは大いに意を强うするところである。

堀鐵工所主 堀榮太郎

東京市城東區南砂町七ノ四〇
電話本所二七一四番

今や我が日本は、對支の聖戰も着々成果を齎らし、大東亞共榮圏の指導者たる大責任の遂行に向つて邁進しつゝあるのであるが、之れが全面的效果を擧げんと欲するならば、國民の時局認識と積極的協力とを何よりも喫緊の問題とするのである。

故に國民は其の職の如何を問はず、その地位身分の何たるを論ぜずして國運の隆興のために滅私奉公の誠心を振起し、國家をして百年の大計を能く實踐せしめるに努力せねばならぬ。

斯く論じ來つて我が產業陣を見るときに、孰れもこの大使命に向つて極力奮勵してゐるが故に、吾人は大に意を强うするに足るのであるが、我が堀鐵工所主堀榮太郎氏の如き、愛國的熱情に富み、手腕力量を具有する練達の士に對し、特に健闘を祈るものである。

氏は化學機械、土木鑛山機械の製作を主とする堀鐵工場を經營しつゝあるが、其の製品の優秀なることは既に斯界に定評があり、加ふに技術報國の念頗る熾烈なる堀氏は絶えず製品に對して研究を怠らず、土木機械の如きは氏の豐富なる經驗と天賦の才能とに依り、最高の水準に達してゐる。

而して同所の創業したのは昭和十年の春であるが、今日疾くも確固不動の業礎を築き名聲嘖々たるものがあり、一流諸會社工場に納入し、更らに大陸への進出をも企圖しつゝある。

斯く我が工業界の一分野にありて隆々たる業績を擧げてゐる堀氏は岐阜縣の人、明治二十七年九月を以つて梅太郎氏の長男として呱々の聲を發し、夙に青雲の志勃々たるものがあり、若冠十數歲にして敢然上京、直ちに東都工業界に身を投じ、月島にある不動鐵工場に入りて研鑽を積む、爾來精勵精進を累ねること幾星霜、其間刻苦よく斯業の眞諦を把握すべく努力し、同工場の先輩たる兒玉氏が獨立、兒玉鐵工所を興すや招かれて同所に入り、主として技術方面を擔當して卓腕を發揮し其後同所の組織變更して株式會社となるに及んで取締役に列して重きをなし、同所を圓滿裡に退きて獨立したる現在にても其の地位にあり、又た昭和鑄工株式會社監査役に擧げられてゐる逸材である。

又た今日あると雖も常に事業に對する研究を怠らず、よく自から第一線に立ちて從業員を督勵し指導しつゝあり、全く慈父の心を以つて對し彼らも氏に對して敬慕措かざるものがあり、兩者間靄然たる和氣に滿ち一糸亂れざる協調を示してゐる、之れ氏の人格の高潔なるところを如實に表明してゐると云へやう。

更らに氏は業餘、社會公共の念頗る篤きものがあり、居町たる深川區海邊町會にありて幹部役員に擧げられて重きをなし、隣保共榮に奔走する處大、又た扇橋警防團燈火管制部副部長に推されて寄與しつゝあり、信望を謳はれてゐる。

之れ要するに、內外重大なる我が國に於ては、產業陣にありても報國の精神に燃ゆるの士を希求すること切なるものがあり、かゝる際、氏の如きを其の一人として推稱するに躊躇するものではない。

原電氣工業商會 原商店 代表者 原喜久次氏

東京市大森區大森二ノ一六六
電話大森六三一五番

今や國際情勢の推移は、愈々緊迫を加へ來りて東亞に及ぼす影響も亦寔に甚大なるものがある。此の非常時重大の危局に直面して、我々國民は更らに一段の緊張と不退轉の大勇猛心を振り起し、興亞聖戰の大目的を完遂するの覺悟を固めねばならぬ。

而して之れが爲めには、古き自由主義、個人主義の思想を排擊し、萬事に於て公益優先の考へを先にし、個人の利益幸福の如きは夫れが公共のためならば假令滅殺されても亦止むを得ないのである。

即ち國內に於ては出來得る限り相剋摩擦を避け、協同偕和、億心輔翼以つて職分報國の實を擧げなければならぬ。

今や革新の鐘は鳴りひゞき、庶政一新、凡ゆるものは悉く解消して新體制下に大政を翼賛する建前をとる事になつたのである。この秋に當り銃後の第一線に活動する產業人も宜しく責務の重大なるに鑑み、滅私奉公の至誠を吐露することが當然の義務であり責務であるのは敢えて喋々するまでゝもない。

玆に擧ぐる原喜久次氏の如きは獻身、滅私奉公の念の燃えて眞摯精進よく時局下產業人たるの重責を遂行しつゝある新進逸材である。

現在氏は原電氣工業商會並に原商店を拮据經營しつゝあり、其の主たる營業科目を擧げると電線、電氣器材一般、エナメル線、抵抗線其他であるが、創業以來五星霜にして能く不動の地步を占め、錚々たる名聲を謳はれてゐる。

之れ、氏が產業報國の精神を體して、毫も不當の利潤を得ることなく常に優秀なる製品を納入して信望を聚めたところに歸因してゐるものと云へやう。

氏の鄕里は紀州和歌山縣、明治三十四年十月二十日を以つて呱々の聲を發してゐる、夙に東都工業界雄飛の念勃々たるものがあり、鄕校を卒つて後、早稻田工手學校にありて學を修め、更らに日本大學專門部に進みて研鑽を累ね、卒業の後吉田電機製作所に入りて精勵すると共に、よく斯業の實際的の研究を積みて他日に備へるところがあつた。

斯くて昭和十年、獨立の機を得るや敢然として現地に原商店、原電氣工業商會を興し、上叙の如き營業科目を以つて鋭意邁進、着々として大を加へ、遂に今日ある確たる業礎を築くに至つたのである。

資性、敦厚にして堅實、しかも明敏犀利なる頭腦より劃出す周到なる經營方針は寔に敬服に値いするものがあり、又た不撓不屈の烈々たる意志に燃え、寡言實行の人、其の謙讓の美德は事に觸れて發揮され、自づから敬仰の念を抱かしむると云ふ。

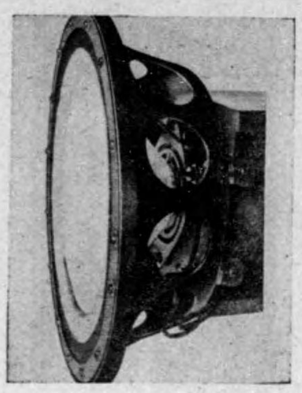
又た氏は縣人會常務理事、大森支部長として鄕土人の發展共榮にも盡瘁しつゝあると云ふ。既に夫人を喪くしたるも其間に澄子孃、淑子孃、淳子孃の三女を有して和氣藹に滿つ。

久壽電氣研究所

代表者　中村忠樹氏

研究所　東京市荒川區渡邊町一〇四〇
電話駒込一七四七番
工場　荒川區日暮里目九丁一〇五七

現代は無線の時代であり、電氣の時代でもある。この性能の良否と機構の適否とは大いに一國の文化を左右し、延いては國防の完否にも影響せずには措かないものである。



日本の科學文明を反映する證正と看做しても當然ではあるまいか。

當所は中村忠樹氏の主宰經營するものであるが、主として擴聲器變壓器の研究製作に當り、創立以來、孜々として科學的研究と技術的練磨を累ね、漸を追うて着々として進展のコースを辿りつゝあつた。而して時代の進展に伴ひ擴聲器の需要は電氣界に無線界に又た醫療器界に彌々增加する趨勢にあり、從來の市販品としては遺憾ながら完全なる音質を再現するもの、殆んど皆無に近く、眞に優秀にして完全なる擴聲器を渇求する聲は益々熾烈なるものがあり、玆に於て十年に亙る研鑽努力、不撓の精進を以つて遂に優秀無缺の擴聲器を完成した當研究所では、敢然研究室より街頭に進出して其の眞價を發揮するに至つたものである。

當所の製品は全く中村忠樹氏以下全從業員が協力一致の下に大なる研究費と長年月を費して世界最高標準を目標として完成したものであり、從來の缺點を是正し是れ以上研究の餘地なき迄に完成したもので、外國製品の模造の域を脱し、眞に我が國の風土に適する完全なる創造の先驅者であると云へる。

而して當所は研究所を上叙の如く荒川區渡邊町一〇四〇に有し、工場を荒川區日暮里九丁目一〇五七に設けてあり、其の規模に於ては必ずしも大なりとは云ひ得ないけれども、內容の充實してゐる點や、敏活迅速なる其の運營ぶりに至つては、他の多くの同種工場なども徒らに宏大を誇負するものゝ到底追隨を許さぬところである。

主宰經營に任ずる中村忠樹氏は明治三十三年十二月十五日を以つて出生、夙に早稻田大學商科にありて研鑽するところあり、同校を卒業するや穎然身を挺して工業界に入り、久壽電氣研究所を興して不撓不屈の精進を累ねたる異色ある逸材である。しかも產業報國を奉じて一意專心、工業日本の建設に努力、健闘し續け來たつたことは、世の專業家と大ひに異るところである。

而かも今日と雖も、多分に研究心を藏し、孜々として獨自の境地を開拓することに精勵しつゝある。其の製品の精華は實に一切の利慾利念を解脱したる氏が研究努力の賜と云ふべく、之れ氏の全生命である。加餐自愛を切に祈る。

株式會社近藤商店

代表取締役

近藤貞一

本店　東京市淺草區聖天町三五
電話淺草五二〇一・五二〇二番
大阪　大阪市東區南久寶寺町一ノ七
支店　電話船場五四〇六番
工場　東京市足立區大沼田町七八八
電話足立三六二五番

商業の道德は不合理なる利潤を得ることなく、相當せる價格を以つて汎く之れを販賣するに在る、かくしてこそ信用自づから篤く、業態また向上の一路を辿るに至るのは必然的である。

勿論、勤勉努力は必要とするも、其の努力を合理的に活用し得て以つて他を利し自己も亦益するが故に、始めて商業の妙諦を發揮したるものと云ふべし。この點に於て近藤商店を統率する近藤貞一氏が、精勵措しむことなく、しかも常に誠實奉仕を信條として終始一貫、着々として業運の進展を齎らすに至つたのは、慥かに斯道の眞諦を知るの士として推稱するに足る。

氏は明治二十七年十二月を以つて新潟縣長岡市に於て呱々の聲を發し夙に實業界に將來を求むべく若冠十八歳にして上京、風浪荒き實社會に身を投じて粉骨碎身、營々たる努力を傾注して只管業務の修得に勵精するところあり、其の眞骨頂を究めるや敢然獨立の意を決し、大正八年に近藤商店を創業し、爾來不撓不屈の精進と天賦の才能を發揮して、よく業勢の伸長を圖り、年を加へる毎に堅實なる地位を斯界に占め、遂に今日ある大を築くに至つた。

而して其の營業とするところは實用新案美錠釦、ハトメ、ホック、靴紐、靴縫糸、靴用附屬品、金屬雜貨製造販賣にして、本據を淺草區聖天町三十五番地に置き大阪支店を大阪市東區南久寶寺町一丁目久寶寺橋西詰に設け、又た工場として近藤ハトメ製作所を足立區下沼田町に有してをり、業勢の向上と共に昭和十四年九月組織を變更して株式會社となし氏自から代表取締役の要椅にありて內外一切の業務を綜覽しつゝあり、愈々不動の地位にある。

而して曩きには製品の海外進出を企圖し昭和六年の頃より、南洋方面に販路を開拓してメイド・イン・ジャパンの眞價を高揚し、好評嘖々たるものがあり、又た今次事變の勃發するや、品を軍關係に納入して至誠を披瀝して產業報國の實踐に努めてゐる。

氏は人となり、溫厚篤實にして高潔なる人格の所有者として知られ、常に名利に淡白、信用本位を以つて店是としてゐる。しかも堅忍不拔の意志を以つて勇往邁進、着々として業の隆興を期し、加ふるに活眼明識細心なる計畫を以つて臨む堅實なる步調が大に成果を擧げつゝある所以であらう。

惟ふに刻下の我が國は征支の軍事行動は最後的段階に達したりと雖も尙長期戰に移行し、華々しき大會戰は暫らく豫測せられぬが、反つてそれ丈けに地味で目立たぬ蔭くれたる苦心苦勞は、一般國民の想像を遙かに超越してゐる。この皇軍の勞苦と忠誠とに報ゆる爲めには、銃後にある國民たるものは、その職の如何を問はず、地位を論ぜず、各自その職分に應じて滅私奉公の誠心を吐露しなければならぬ。かゝる際にありて我が近藤氏の如きは公益優先の建前を持して、よく銃後國民たるの責務を完ふしつゝある。寔にその至誠の態度は敬仰に値ひする。

丸田屋商店東京店

松本俊三氏

（店）東京市日本橋區濱町一ノ二
電話茅場町五五五四番
（工場）東京市向島區吾嬬西八ノ八
電話墨田五四六二番

「東京」は我が國に於ける首都であり、又た商工業の中樞地である。從つて各業界に於いての競爭も激甚を極め、一瞬時の偷安も許されないかゝるが爲めに、常に努力に次ぐ努力を以てしなければならぬ。

勿論社會にある者は誰しも努力は必要とするが、然し東京の如き商工業の土地にあつてはそれが一層甚だしく、努力せねば何時かは敗者の烙印を受けなければならないのである。

今日成功者としてある人々を見て誰しもがそれを羨望し、また成功者たらんとするも、その成功者に學ばんとすれば、その人の今日を見るよりも、過去を見なければならぬ。即ち成功へと辿り來つた過程に學ぶことが必要である。成功者の過程には、成功を贏ち得た丈けの努力がある成功者の尊さは、示現された成果よりも、其の過程にあると云はねばならぬ。

今日、丸田屋商店東京店が我が松本俊三氏並に氏の母堂の精進努力に依り、斯界に絶大なる信用と不動業礎の上に立つて確固たる活躍を續けてゐるとは云へ、今日に至るまでには幾多の波瀾も越え、幾多の忍苦をも凌ぎ來つた苦闘の跡歴然たるを見る。しかも松本氏並に母堂は尙ほ勉倦むことなく日夜孜々として業態の發展に腐心してゐるところ寔に典型的實業人として推稱する足る。

抑々丸田屋商店は文化二年の交に松本彌太郎氏の手に依り創業された老舗であり、其の發祥地は滋賀縣島居元町である。往時は合羽等の製造販賣を以つて營業としたが、其後油紙漉紙等の包裝紙一般の製造卸問屋として知られ、業を相承けて現在にては五代を累ねてゐる。

而して時代の進展と共に荷造包裝紙一般を以つて業とし、本據を發祥地に置きて關西方面並に關東方面に進出して其の發展飛躍を期し、着々として斯界に强固なる地歩を占むるに至つた。

東京店は昭和四年より現在地に於て創業し、松本俊三氏が其の主宰者としてあり、大いに努力奮闘して益々業務の發展を圖ると共に昭和六年には製造工場を合資會社組織にて向島區吾嬬に興し、爾來愈々大を加へて堅實なる基礎を築き今日に及んでゐる。

斯の如く同店が隆々たる業績を以つて斯界に雄飛しつゝあるのは、松本氏の營々たる精進もさること乍ら、氏の母堂する刀自の努力もまた看過することは出來ない。刀自は明治十四年の生れにして、彦根高等女學校を第一回に卒業したる才媛として鄕黨に聞え、其後家業を扶けて精勵よく同店今日の業礎を築くに與つて力があり、東京進出の企畫なるや俊三氏と共に上京し、益々氏を扶けて活動目覺しきものがある。現在にても能く一切を督勵して間然するところなく實に同店の柱石であらう。

而して俊三氏は明治三十二年の產れ、夙に英邁なる資性は母堂の夫れを承け、相協力して丸田屋商店の名を益々發揚せしめてゐる逸材、東京進出以來は、母堂と共に愈々精勵努力を措しまず遂に堂々たる今日の威容を齎らすに至つた。

佐藤賢司氏

佐藤化學研究所
ケンシボマード本舗

東京市下谷區西町四十七
電話下谷一五二六番

「ケンシボマード」「アイユ洗顏クリーム」並に「メモリーバンド」の製造發賣元たる佐藤化學研究所、ケンシボマード本舗を主宰するは我が佐藤賢司氏であり、今や斯界に不動の地歩を占め錚々たる名聲を謳はれてゐる。

而して氏が大正二年の頃疾くも純植物性煉香油たる「ケンシボマード」を創製して斯界にエポックを劃したが、氏が鋭意研鑽を累ねて創製に至る過程は、昭和四年創業十五週年記念に際しての寫眞帖に記述してあるから、茲に掲げて、氏の並々ならぬ苦心努力を知ることゝする。

『其當時我國美容界に於て專ら使用されて居りました煉香油は、純ソセリン材の舶來ポマードで有りました。是れが使用流行するに從て我が國化粧品製造家が續々と輸入のワセリン煉香油を製出販賣し、其賣れ行も一時は盛んと成りました爲に其原料の輸入高は驚くべき增加を來たし我國經濟上甚だ憂慮に堪へざるのみならず其製品が我大和民族の特有なる天性の美髮に尠なからず惡害を加へ、衞生上にも危害を及ぼす處は甚大であると自他共に認むる次第で有りました。玆に於て私は公衆衞生のみならず國產振興上國家的の見地より全く一日も忽にすべからざる國民としての急務である事を痛感致しまして一層研究の歩を進め完全に保證する確信を以て創製し「ケンシボマード」と名稱し登錄の上是を社會に發表と同時に輸入の礦物油を壓倒すべく宣傳に努力したので有ります、果せる哉豫期に反せず現今に至りては正にワセリン輸入を防壓するに至り最近植物油ポマード流行の全盛となりし事實は最も喜ばしき事である。

（下略）』

更らに又、最近發賣した「メモリーバンド」は健腦器として申分なき特色があり、各方面より好評を以つて迎へられてゐる。

氏は生來、資溫溫厚にして篤實、しかも胸中に一片脉々として波打つ覇氣を藏してをり、事業に對しては渾身の努力を健けつくしてゐる精力家であり、奮闘の士である。又よく世情の機微に通じて溫情流露たるところの仁俠の念に富み、情義にもろく、常に公正の大道を一路邁進しつゝある。又た、信ずるところ强く、行ふところ强い男性的な人物、其間縱橫の才幹あり、努力あり、創業以來多少の波瀾なきに非らざれども不撓不屈、敢然として終始してゐる。斯の如きは容易に常人の爲す能はざるところである。

斯く大成を招來し不動の業礎を築いた氏は明治十五年二月新潟縣に出生し、上叙の如く大正二年小石川區原町に創業、昭和八年現地に移轉擴張したのであるが、五年前日本橋宮坂香料店主宮坂文雄氏の薦めにより大日本獅子吼敎會に歸依したが、今日にてはふじ夫人と共に熱心なる信者となり、大いに其の深遠なる敎義の普遍化に努めてゐる。

又夫人は獅子吼團婦人部に於て活躍しつゝあると聞く。

カネヨシ商會

祁答院包義

東京市淺草區菊屋橋二ノ八
電話淺草三六八番

熱心誠實、以つて事に當つてならざるはない。時にその間に盛衰消長あらんも、熱誠をもつて終始一貫すれば事遂に就る。現在の如き科學の發達せる時代にありては、一面勞せずして功を得んとする人甚だ多し。斯の如きは誤れるの甚だしきものにして國家の不祥事と云ふべく、しかも今日世の多くの人は勞せずして功を得んとする認識の過誤に陷りつゝある。

かゝる時、至誠至勤を以つて終始一貫し、終に今日を築くに至りたるカネヨシ商會主祁答院包義氏の如き逸材を見るは、深き喜びとしなければならぬ。

氏は現在、カネヨシ商會を拮据經營し主として電氣絶緣材料、萬年筆材料等、エボナイト製品一般を業とし、熱誠を吐露して努力奮鬪するところ着々として業礎をかためにに至り、牢固不動の地歩を業界に占め、信望翕然として聚り、嘖々たる名聲を謳はれてゐる。

其の出生地は九州鹿兒島縣姶良郡重富村にして、明治二十七年九月を以つて呱々の第一聲を擧ぐ。夙に青雲の志勃々たるものがあり、鄕關を出でゝ切瑳琢磨の功を積み一時は育英界に身を投じ、八王子在にて小學校訓導として子弟の教育に献身したこともあつた。其後敢然として實業界に轉じ、某ゴム會社に入りて專ら事務を擔當したるも、性來研究心に篤き氏は、業餘只管製造方面の技術を研鑽習得し、久保エボナイト製作所の（現在の昭和化成株式會社）創業に參畫し、設立と共に技師長として活躍、優秀製品の生産に努力を致し、大いに業運の進展に寄與するところがあつた。

かくて昭和十二年、獨立の機を把握するや奮然現在の地に於てカネヨシ商會の名稱の下に業を興し、爾來專心努力を傾けて他を顧みず、着々として業礎を築き遂に今日を成した力行の人である。

嘗てより「着實信用本位」を標榜する氏は、その經營については飽くまで堅實の一路を邁進し、毫も不純の利を貪ることなく、顧客に對しては信用第一主義を以つて當つてゐる。勿論誰れしもが云ふ點ではあるが氏は之れを實踐してゐるところ隆々たる家運を招いてゐる。

而して氏は常に奮鬪主義を以つて鐵則とし、細心周到なる經營方針の下に進出しつゝある。しかも人と爲り、溫厚篤實の裡に一脉の氣骨を藏してをるも、常に謙遜の德を以つて人に接し、能く世情に通じて義心に富むと云ふ。又氏に敬するところは子女の教育に力を注ぐ點であり、現在市立二中後援會理事として重きをなしてゐる。

家庭には內助の功篤きカネ子夫人あり、其間に長男包隆君（市立第二中卒業、第一高等補習學校在學中）長女春江孃（忍岡高女在學中）二女俊子孃（上野高女在學中）二男義昭君（小學校在學）の二男二女を擧げ一家春光藹々たるものがある。

驟つて惟ふに、今や我が日本に對支聖戰の最後的段階に入り、之れが完遂を急ぐと共に大東亞共榮圈の確立を目指して國家の總力を擧げて勇往邁進しつゝあり、益々物的人的兩方面の强化を必要とするが故に、祁答院氏の如く產業界の中堅的分子の活動に期待するところ甚大なるものがある。

東洋ヴルヴ商會代表者

中村國治

營業所　芝區琴平町三七　喜多ビル
電話芝一八四・二九七一番
（自宅）赤坂區青山南町六ノ四七

本邦私學界の權威たる早稻田大學は、今日まで多くの人材を活社會の各層に送りつゝあることは、敢えて玆に喋々するまでもなく一般社會のよく知るところである。或は文化方面に或は產業方面に、或は政治方面に、或は自治方面に往くとして可ならざるはなき有爲有能の人物が、都の西北に學燈煌として輝やく早稻田の學園を人物練成の坩堝としてゐると云つてもよい。

玆に擧ぐる中村國治氏も亦、この早稻田の學園にあつて智識技能を修得した少壯產業人の一人である。

氏は明治三十一年を以つて千葉縣市原郡鶴舞町に於て出生、父君を友三郎氏と呼んで其の長男である。疾くより秀明俊敏の譽れ高く、將來の大成を囑望されてゐた。小學校より中學校を經て、更らに早稻田大學に進み理工科にありて斯學の深遠なる學理の研鑽を累ねて大正十五年卒業直ちに東京電燈株式會社に入社して實社會の第一歩を踏む、而して至誠至勤に一貫して能く自己の職責を完うすること實に九ケ年の久しきに及んだのである。昭和九年に至るや感ずるところありて同社を辭し、翌十年には外國商館アンドリユース商會に入社し、愈々卓腕を發揮して令名を謳はれ着々其の地位を高めるに至つた。

然しながら、獨立不羈の念熾烈なる氏は同商會在勤中、既に東洋ヴルヴ商會の創業を企圖し、昭和十三年六月より業を興して其の內容の充實に專心しつゝあつたが、次で翌十四年二月に至り、アンドリユース商會を退きて自己の業に全力を傾注、あくまで堅實なる方針の下に歩一歩主義をモットウとして業の向上を圖りて恪勤精勤、年を累ねる毎に大を招き、遂に今日ある不動の地歩を築いた偉材である。

而して同商會は主として東洋ヴルヴ會社の製品を取扱ひ、納入先方面よりいたく好評を博してゐる。今や營業所を芝區琴平町喜多ビル內に設け、斯界に優秀を以つて鳴る東洋ヴルヴ會社の製品を市販し、業績隆々として發展の一路にあるのは、氏が自から第一線に活躍する賜と云ふべきであらう。

資性、敦厚にして溫達、しかも高邁なる學殖と卓越せる手腕を有するも、之れを毫も傲ぶることなく、常に謙讓の美德を發揮しつゝあり、又た能く時流の動きを洞察するの明識を具有し、巧みに事業の進退を圖りて間然するところなしと云はれてゐる。

家庭には令閨喜美子夫人ありて貞淑の譽れ篤く、氏によく仕へて賢夫人の名を謳はれてゐる。夫人は山梨縣の人、今福家の二女で明治四十一年の出生、日本女子大學を卒業した近代的教養ある才媛であり、其の間に長女昌代孃（昭和四年出生）二女郁代孃（昭和六年）を擧げて和氣藹々としてゐると聞く。

今や我が對支聖戰に、愈々最後の段階に移行し、我が國內に於ける戰時體制は愈々强化されるに至り、東亞共榮圈の確立近き將來にあると物的人的の兩方面に亘りて强化されてゐる、かゝる際に當商會の如き堅實なる方針の下に營々として其の地歩を占めつゝある、蓋し經營者の頭腦の凡ならざることの證左と云へやう。

株式會社吉善商會
代表取締役　吉村善一氏

營業所　東京市神田區元岩井町十一
電話浪花五四一、四三五七
五五二一番
工場　横濱市中區本牧町一ノ九
電話本局三四一三番

爲せば何事も成ると云ふ言葉は幾度も訓へられた言葉であり、或ひは今日の社會に於いては爲すとも成らぬことないと限らぬ。然し要は今日の社會と雖も爲すことが第一の條件である。それも單なる「爲す」ではなく周到なる思慮と他に倍する努力と至誠を以てしなければならぬ。

商業は平和の戰ひであると云はれるが我等の生活は常に戰ひである。殊に今日の如き凡ゆる階層が飽和狀態に達してゐる時代に於ては、單なる「爲す」のみでは勝利者——即ち成功者たり得るは至難である。今日成功者たり得るのは異常なる努力を要し、又周到なる思慮を要するが、玆にその好き例として吉村善一氏を擧げられる。

即ち氏は神田區元岩井町に本據並に工場を置き、又横濱市中區本牧町にも工場を有する株式會社吉善商會の代表取締役の要椅にあり、同商會の一切を統率して令名を謳はれてゐる。

同商會はベビー服、小供服、婦人服、帽子、シャツ類の製造卸問屋として斯界に雄飛し、更らに出張所を大連市常盤町に設けて大陸に進出をなすのみならず、合資會社吉善生地部を神田區元岩井町十五番地に置き尙ほ吉善札幌市南大通り西六丁目に設けてあり、本店を中心として各店相呼應して鋭意業態の向上に努めつゝある。

而して氏は岐阜縣の人、明治二十四年一月九日を以つて呱々の聲を發し、父君を善三郎氏と呼んで其の二男である。學を岐阜市立商業學校に修めて後、明治四十三年雄志を抱いて横濱市に赴きて絹織物貿易に從事し、精進努力を以つて大いに業運の進展を圖りたるも、感ずるところありて大正六年より現業に轉向、次で昭和六年より現在の地に於て吉善商會を興すに至つた。

爾來、商業道德をよく遵率して堅實主義をモットウとして顧客本位に邁進し、常に時流の趨くところを能く洞察して其の經營方針を誤ることなく、隆々たる商勢を張り不動の地位を占めるや昭和十四年一月には組織を株式會社に改めて益々其の機構を擴充し、更らに飛躍を期す。

「商品良好なれば顧客速かに來る」と云ふ諺があるが、氏が業に臨むやよくこの言を服膺して極力良品を製造し、薄利多賣、以つて永久の利を失はざるやうに努めてゐるのは寔に偉とすべきである。斯くてこそ業勢隆々として止まるところを知らず、斯界に名聲を博し信望極めて高く、同業者間にありても斷然重きをなしてゐる。

又多くの從業員に對しても、我が子の如く愛してをり、從業員も氏を敬すに慈父の如く、精勵よく業務に從つてゐる。この主從兩者の接近の美しさも氏の人格の致すところである。

資性淸廉にして溫厚、氣宇濶達にして人を容るゝの雅量があり、接するものは齊しく其の光風齊月の心境に敬慕の念を抱くと云ふ、しかも身を持すること極めて謹嚴、日常敎養を怠らず、殊に劍道、謠曲を趣味として、人格の陶冶に力めてゐると聞く。氏の劍道は旣に久しく、五段の腕前を有して一家をなしてゐる。

家庭にはひろ子夫人ありて良妻賢母の譽れあり、令嗣善夫君（府立第一中學卒業）、長女孝子孃（女子藥專卒業）は偉允君を迎へて別家し、二女良子孃（双葉高女卒）は父君を扶けてゐる。

三五電機工業所
代表者　飯田虎元

東京市深川區住吉町二ノ五
電話本所四〇九七番

今や國際情勢の推移は愈々緊迫を加へて、東亞に及ぼす影響も寔に甚大なるものがある。此の非常重大の危局に直面して、我々國民は、更らに一段の緊張と不退轉の大勇猛心を振ひ起し、興亞聖戰の大目的を完遂するの覺悟を固めねばならぬ。

而して之れがためには古き自由主義、個人主義の思想を排して、何事にも公益優先の考へを先にし、出來得る限り相剋摩擦を避け、協同偕和一億一心の輔翼を以て職分報國の實を擧げるの要がある。

此の秋に際して、銃後第一線に活躍する産業戰士は其の責務の大なるに鑑み、肇國の大理想顯現に全力を捧げることが、國民として最大の義務であり、産業人として當然の責務ではあるまいか。

玆に擧ぐる飯田虎元氏の如きは慥かに銃後産業人としての本分を盡してゐる一人、即ち氏は現在の地に於て三五電機工業所の名稱の下に發電機、電氣部分品の製作販賣を業としてをり、其の規模は決して大ならざるも其の精神に於て熾烈なる産業報國の赤誠を具顯しつゝある。

今次事變と共に發展飛躍を遂げつゝある時局工業にありては、當然之れに携はるものゝ責務も自づと國家本位にならざるを得ないのであるが中には往々にしてこの意義を沒却して、徒らに自己本位に墮するの弊風があるのは洵に遺憾に堪えないところであるが、其の一方にあるて、眞に國家を愛するの赤誠に燃え、事業を透して奉公の實を擧げてゐる氏の如きあるは、大なる慶びと云はねばならぬ。

氏は明治三十五年二月十日を以つて埼玉縣兒玉郡兒玉町に於て呱々の聲を發し、夙に電氣工業界に自己の將來を求めて切磋琢磨の功を積むこと幾春秋、其後東京電燈株式會社に在りて精勤を謳はれたものであるが獨立不羈の念烈々たる氏は小成に甘んずることなく、遂に大正十三年より現在の地に三五電機工業所を創業するに至つたもの、爾來孜々として倦まず營々として奮鬪し、着々其の業礎を固め、遂に今日ある不動の地歩を占めつゝある。

斯くて斯界の一方に雄飛すると共に、其の堅實なる經營方針は東電指定工事店として擧げられてゐることに依つても明らかであらう。

しかも氏に最も敬服するところは謙讓の德の持主にして責任感の強固而して熱誠にして篤實、名利に淡白であるのみならず、圓滿なる常識を具へたる高潔なる人格者として知られてゐることである。更らに餘力を能ふ限り社會公共に盡してゐるが、曩には鄕里の小學校にサイレンを寄贈する等の篤行は益々氏の人格を大ならしめてゐる。

今や我が國は勞頭に叙べたる如く、振古未曾有の非常時に直面しつゝあり、この國難を突破し、克服して國家をして安固たらしめんとするには、軍備の擴充强化はもとよりであるが、一方に於ては銃後の力、特に産業界方面の健全なる發達に俟つところ甚だ大なるものがある、それには國民たるものが各自の業に熱誠篤實を以て當り、國家隆興の基礎を築くことが肝要である。

かゝる際に於て氏の如き有能有爲の人材にして實行力の旺盛なる産業人を見ることは、大いに意を强うするに足る。

丸新フエルト製造所

佐藤禎助氏

東京市荒川區日暮里六ノ三二八
電話根岸三六八四番

努力奮鬪は最後の勝利を生む、しかしその勝利をして速かならしむるのは、其の人の材幹であり明識である。今日の如き社會の各部門が飽和狀態に達した時代に於ては、單なる努力のみでは速やかに勝利の榮冠を獲得することは意に委せられない。

現在の社會にありて勝利者と云はるゝ人、成功者と言はるゝ人は努力の士であると共に、才幹明智を併せ備ふる士である。玆に擧ぐる佐藤禎助氏の如きも其の一人であると云へやう。

即ち氏は今より約二十餘年前に於て疾くも我がフエルト界の不振なるを痛感し、同時に其の將來性あることに着眼して丸新フエルト製造所の名稱の下に、業を興したもの、而して其の事業に對する熱意と明智は全く稀れに見るところであり、又孜々營々たる努力精勵は涙ぐましきものがあつた。かくてこそ今日、氏がフエルト業界の權威者として謳はれ、不動の地歩を占むる所以である。

其の主宰する丸新フエルト製造所の營業品目を擧げると一般フエルト製造（羊毛、牛毛）、反毛製造紡毛糸製造であるが、氏の時代に順應したる經營方針の下に、着々として堅實なる躍進を遂げ、斷然斯界に頭角を抽んで雄飛しつゝある、しかも氏は常に製品の品質向上に念慮を拂ふことを忘れず、信用第一主義を遵奉してをり、其の販路の如きは全國一般より遠く滿洲方面にまで進出し、好評嘖々たるものがある。

更らに又足立區西新井町に丸新毛絲紡績工場を興して、事業の擴張を圖りつゝあるが、この新工場は敷地六千坪の尨大なるもの、工場建物三千坪に達してゐる。

而して氏は茨城縣の産、精力絶倫なる奮鬪家であり、殊に其の事業家として好適なるは、その常に時流の動きを洞察する明があり、巧みに事業の進退をなして誤ることなしと云ふ。しかも居常謙遜の美德を發揮して玲瓏玉の如き人格者、人に接して些かも圭角なく、圓滿なる態度は自づから敬仰の念を湧かしむるものがある。

又多數の從業員を擁してゐるが、彼らも遇することに厚く、常に我が子弟の如き觀念をもつて對し、從業員も氏を敬すること慈父に對するが如く、その悉くが氏の指導督勵下にありて業にいそしんでゐる、此の勞資渾然一體となりこの精進は、益々丸新フエルト製造所の名聲を高める一因である。

しかも、氏は今日あるの地位名望を些かも矜ることなく、たゞ至誠至勤、時局下産業人の重大なる使命を認識し、默々として業に精勵しつゝあるは、益々信望を高め、景仰の念を一身に聚めてゐる。斯く精勵一路の人の足跡こそ永久に社會を照らし、人々を訓へるものである。

殊に、刻下の我が國は征支の軍事行動も長期戰に移行し、大東亞共榮圏の確立に邁往すべく擧國一致の秋にあり、我ら國民たるものは其の職の何たるを問はず、地位を論せず、各自の職分に應じて滅私奉公の誠を發揚しなければならぬが、かゝる際に於いて佐藤氏の如きは率先して銃後産業人たるの責務を果すべく眞摯邁往しつゝある。此の非常時局に於て往々闇取引に私利に狂奔する徒輩あるを聞くに當り、氏の如きあるは大いに意を强ふするに足る。

大日本航空株式會社補給課長

小池武夫氏

（宅）東京市四谷區寺町一四
（社）東京市麴町區有樂町

皇國日本は今やあらゆる國力を總動員して、新東亞の建設といふ振古未曾有の一大覇業のために、軍官民は協力一致、勇往邁進しつゝある。この輝やかしい事實は、日本の現在を確保するばかりではなく、日本の將來を決定し、日本の東亞に於ける盟主たるの地位を益々向上せしめることは云ふまでもなく明らかなところである。從つてこの國家的一大覇業の完成のためには各自がその部署を守り、その職能に從つて報國の一途に精進努力せねばならぬ。

曩には陸軍航空兵中佐として我が空軍の發達に盡瘁し、しかも今次支那事變の勃發するや敢然中支に出征、身を鴻毛の輕きに比して武勳赫々たるものがあり、現役を退いて後は專ら其の經驗豐富なる特殊技能を以つて民間航空事業に携り、均しく國家奉公に專念しつゝある我が小池武夫氏の如きは、全く時代に生き、祖國のために一身を捧げて他を顧みる處なき逸材、其の存在は輝やけるものである。

玆に氏の略歷を記すと昭和十二年陸軍航空本部々員に任ぜられて精勵更らに同年歐米各國の航空事情視察を命ぜられて大いに見聞を廣めて歸朝、我が陸軍航空界に寄與するところあり、越えて昭和十三年には中支那に出征の令下り、勇躍彼地に赴きて我が陸の荒鷲の活躍に蘊蓄を傾注し、大なる功績を樹てゝ武勳を謳はれたものである。而して同年十二月豫備役に編入されると共に大日本航空株式會社に聘せられ、同社補給課長たる現職に就き、更らに餘生を以つて民間航空の發達に盡瘁しつゝある偉材である。

人となり、重厚にして篤實、しかも名利に淡白にして些かも富貴を求めることなく、たゞ至誠至勤を以つて處世の要諦となし、神を敬し人を愛するをもつて其の精神としてゐる高潔なる心境は、自づから敬仰の念を湧かしむるものがある。而して圓滿なる常識を具えて玲瓏玉の如き人格の持主たる半面にありて一片稜々の氣骨を藏してゐるあたり、其の軍人氣質の片鱗を窺へる。

又頭腦明晰にして識見卓拔、常に烈々たる研究心に燃えて只管我が民間航空界の發展を希求して精進するところ寔に偉とすべき存在、慶して餘りがある。

惟ふに、我が民間航空界は歐米諸國に比して其の發展頗る遲々たるの憾がありしが、其の後支那事變の發展に伴ひて我が民間航空事業は、東亞新秩序の建設に呼應し、日滿支を一體とする大陸航空路の擴充强化に邁進すると同時に、國際航空路を伸張し、少くとも全東亞に於ける航空覇權を歐米の手から奪還すべく意圖の下に、從來の日本航空輸送株式會社を解消して國策航空會社たる大日本航空株式會社の設立を見たのであつた。かくて歐米諸國の東亞航空路を克服すべく擧社獻身、努力精進に一貫して成果を擧げ、南方航空路を開設し、東亞航空日本の盟主たるべき巨大なる第一歩を踏み出したのである。

斯の如く、大東亞共榮圏に卽應する大東亞航空圏の確立こそ、航空日本の航路を示唆すべきものであるが、この秋に際し、實際的經驗に豐富なるところ氏が、大日本航空株式會社補給課長の重席に就きて益々其の飛躍に全智全力を傾注するのは大いに意を强うするに足る。

大日本齒科技術研究所長
大塚齒科醫院長
ドクトル **大塚豊美氏**
品川區大崎本町三ノ五八五
電話大崎 四九三四番
四三八四番

事業であれ、研究であれ、其他凡ゆる如何なることに於ても、其の事に精魂を打ち込み得るは幸福である。ひたむきなる心、之れはもつとも純眞なる心境であり、そこには何の蟠りもなく、右顧も左眄もない。しかも、それは世の多くの例に於て成功に到達する唯一の方法である。

しかし、今日の如く科學の發達した時代に於ては、往時人々が訓へられたやうな努力が何れほど力强いものとなるか疑ふものもあらう、けれど、成功に到るの要は、誠心を努力を其の才幹と思慮とに依つて生かすところにある。其の代表的の人物として我らは玆に大塚豐美氏を擧げるに躊躇するものでない。氏は誠心努力の人であり、才幹思慮の人であり今日に至るまで孜々として精勤、着々として歩を進め來たつたのは寔に偉とするに足る。

氏は明治二十六年二月を以つて群馬縣勢多郡黑保根村に於て呱々の第一聲を發し、父君を萬平氏と呼んで其の長男である。夙に聰明の資性を鄕黨に謳はれてゐたが、青雲の志勃々たるものがあり、學序を經て上京するや、東京齒科醫學專門學校に入りて切瑳琢磨の功を積み、斯學の蘊奥を極めて大正二年卒業、同年文部省檢定試驗に合格したる後、山梨縣下に於て開業、其の優秀なる技術をもつて信用を博し、名聲嘖々として山梨縣齒科醫師會評議員、副會長等に擧げられて貢献し、又同縣囑託、鐵道省囑託として重きをなしてゐた。

然し、熾烈なる研究心を抱藏する氏はこの小成に甘んぜず、昭和三年敢然として先進國ドイツに留學し、ベルリン大學其他にありて研鑽を積み、大いに得るところありて歸朝、昭和四年より現在の地に大塚齒科醫院を開業すると共に、兼ねて研究を累ねたるウキプラ白金應用特殊義齒の製作を事業化して、大日本齒科技術研究所を創設し、齒科金屬工業界に進出したのである。

爾來、至誠至勤を信條とし、また全生命として勇往邁進、着々として其の業礎を固め、遂に今日ある大なる成功を齎らすに至つたもの、斯の如き氏の努力精進ぶりは益々成果を擧げ、其の製品たる特許義齒は各方面より絶對的の優秀性を認められて稱讃を博し、日本齒科醫師會指定となつてゐる。

現在、研究所は合資會社組織として規模整然たる製作工場を有し、從業員また百餘人の多きに達してゐるが、氏が苦心發明したる義齒は、非常時局下にありて國策に順應したる代用品としても大なる完成と云はねばならぬ。其の堅實なる發展を切に祈つて止まない。

氏の趣味はゴルフ、圍碁であり以つて其の風格の高雅なるを窺ふに足り、家庭には須磨夫人との間に長男昌助君二男弘介君がある。夫人はまた氏に仕へて貞淑の譽れがある。

株式會社鷹岡商店
取締役兼東京支店長 井澤次郎
東京支店 東京市神田區須田町一ノ二一
電話 神田 [illegible]・[illegible]番
(宅) 東京市四谷區大番町十五
電話 四谷 六一七一番

商業の道德は不合理なる利潤を貪ることなく、相當せる價格をもつて汎くそれを販賣するにある。斯くしてこそ信用自づから篤く、業態また向上進展の一路を辿るに至る。勿論、勤勉努力は必要とするも、其の努力を合理的に活用し得て、以つて他を利し、自己も亦益するが故に、始めて商業の妙諦を發揮したるものと云ふべきである。

この點に於て、須田町の一角に堂々たる店舗を構へる洋服地問屋、株式會社鷹岡商店東京支店を統宰する井澤次郎氏が、精勵惜しむことなく しかも常に誠實奉仕を信條として終始一貫、着々として業運を飛躍せしめつゝあるは、慥かに斯道の眞髓を知るの士として推稱すべきであらう。蓋し信望極めて篤く、名聲錚々たるものあるは當然の歸趨ではあるまいか。

氏は明治三十三年八月を以て井澤甚助氏の三男として呱々の聲を擧ぐ夙に實業界に自己の將來を求めて京都四條商業學校の前身たる京都實習商業學校に入りて螢雪の功を累ね、同校を卒業するや直ちに商業都大阪に赴き、洋服地問屋として斯界に關えたる鷹岡商店に入店したのである。時、大正四年であつた。

斯くて實社會の第一歩を踏んだ氏は、孜々として精勤精勵、內外表裏の別なく只管斯業の眞髓を會得すべく努力し、大いに主家の信用を博すると共に着々其の地位を高めた。而して昭和八年に至り、同店が株式會社に組織を變更して機構を擴充するに及び、擧げられて取締役の重椅に推された逸材である。

更らに同店が昭和十年秋より東京進出をなすや初代支店長としての重責を擔ひ、爾來豐富なる經驗と天賦の才能をもつて縱橫に卓腕を發揮し支店開業數年にして今日あるの大を招來するに至つた。

而して鷹岡商店は創業六十餘年の歷史を有する斯界有數の老舗として知られ、現在資本金二百萬圓を擁し、其の首腦部には取締役社長として三代目の當主鷹岡覺之助氏があり、專務取締役には水原豐次氏が擧げられ、取締役に上田貞二氏、並に我が井澤次郎氏が列してゐる。かくて關西關東相呼應して堂々たる業績を擧げてゐるのは、首腦部の統宰宜敷きに依存してゐる。

尙ほ氏は資性頗る溫厚にして篤實、その人格の高潔なるところ稀れに觀るべく、店內外の信望篤きものがあり、名聲嘖々として斯界に謳はれてゐる。しかも識見高邁にしてよく時流の動きを洞察するの明があり、常に之れに順應したる堅實なる經營方針を樹立し、着々として其の基礎を鞏固ならしめてゐるのは偉とするに足る。

又從業員に對する理解も深く、彼らを遇するに篤きは、氏の人に長たるの素質を雄辯に物語るところ、從業員も亦氏を畏敬し信賴して和氣藹々の裡にありて各自の責務を果しつゝあり、之れ愈々業運を隆興せしめる一因である。

趣味としては寫眞と謠曲であり、以つて其の氣韻高雅なる風格を知るべく、家庭には淑德高きかね子夫人（京都府田中清次郎氏の女、精華女學校出身）ありて其間に嘉男君、章次郎君の二兒を儲けてゐる。

相馬工場主

相馬信雄

東京市京橋區入舟町一ノ二三
電話京橋三九四六・四六八六番

我が日本は、今やあらゆる國家の總力を動員して、東亞新秩序の確立を圖り所謂大東亞共存共榮圏の建設と云ふ振古未曾有の一大聖業のために、軍、官、民の三位一體となりて其の目的達成に勇往邁進しつゝある。この光輝ある聖業こそ、我が日本の現在の地位を確保するのみでなく、將來の地位をも決し、更らに東亞に於ける盟主たる地歩を確定せしめることは云ふまでもないのである。

從つてこの聖業完遂のためには國民たるものは各自の職分に應じて、滅私奉公の赤誠を披瀝しなければならぬのは、敢えて玆に喋々するまでもあるまい。

我が相馬信雄氏の如きは相馬工場を拮据經營して、銃後産業人たるの責務を遂行すると共に、更らに力を自給公共に伸し、また報國貯金の普及に盡瘁しつゝあるは、蓋し時代に生き、祖國のために一身を捧げてゐる稀觀の逸材として推稱するに足る。

氏は青森縣北津輕郡下に於て明治三十一年八月三十一日の出生、父君を彦藏氏と呼んでゐる。夙に青雲の志勃々たるものがあり、東北の小天地に跼蹐することを潔よしとせず、奮然少年の身を以つて上京し、自己の將來を工業界に求めて斯界に身を投じ、只管業の習得に努力したのであつた。しかも其一方に於ては業のかたはら工手學校に學びて、學理と實際との兩方面の研鑽を怠ることなく以て將來に備へたと云ふ。

而して大正十年の頃、雄志を抱いて青島に渡り鐘紡其他の發電所水道工事に活躍するところあり、其後貿易業に從事したが歸朝し、昭和三年より現在の地に於て相馬工場を興し、ボールトナツト類の製造に當り、爾來一貫して努力精進、誠實本位を鐵則として着々業運を發展せしめ、遂に今日ある大を招來するに至つたのである。

現在、斯界の嘖々たる名聲を謳はれて斷然重きをなしてゐるが、氏は自から第一線に立ちて製作技術の指導に努め、優秀なる製品を生産すべく傾注し、國産品の聲價の發揚を期してゐる逸材、我が産業界の向上發展に寄與するところ大なりと云ふべきである。

又業餘よく社會公共に意を注ぎ、居町會理事十日會々長等に擧げられて隣保共榮に盡瘁しつゝあるのみならず、防火群長の任にありて活躍し、更らに報國貯金の普及に努力してゐることは氏の奉公心の發露と云ふべきであらう。

氏は常に堅忍不拔の精神を抱懷して勇往邁進し、しかも事業に對しては活眼明識あり、且つ周到細心なる態度を失はず、其の烈々たる愛國の至誠は全く私利を超越するところがあり、人格の高潔なるは其の責任感の鞏固なると共に益々信望を高めてゐる所以である。

而かも氏は從業員に對する現厮も深く、彼等を遇するに自己の子弟の如き愛護を以つてするは、氏の人に長たるの素質を無辨に物語つてゐる從業員も亦氏を長敬し信賴して和氣藹々裡にありて各自の責務を果しつゝある。之れ益々業運を隆興せしめる一因ではあるまいか。

家庭には淑德を謳はれる賢夫人ありて内助の功多く、令嗣大五郎氏は目下出征、某地にありて奮鬪中である由、其の武運長久を切に祈る。

合資會社榮進社支配人

蒲生元

（社）東京市荒川區日暮里六ノ二五六
電話根岸二一二一——五番
（宅）東京市澁谷區代々木深町一六六八
電話澁谷二〇〇番

事業家としての材幹を備へたる人は世に多くある。然し、事業家にして完き人格の士は容易に見出すことは出來ない。恒産を有し物質的に社會に寄與したと云ふても、必ずしも其の人の人格が完成されてゐるとは言はれぬ。

平素の言行が人としての完璧を示さなければならないが、之れは言ふ得べくして却々に望めるものではない。人の眞價は棺を蔽ふて初めて知ると言はれるが、これは一般の人に云ふことであり、人格の士は何時にても既に偉大なる價値がある。

業務そのものに就いては、假令それが大成しやうとも、そこには色々の角度よりする見方もあらうか、人格の士には斯くの如き見方は許されてゐない。それは存在そのものが絶對的の價値であるからである。我が浦川吉藏氏の如きは正にその一人であり、氏の言行には常に閃然するところが些かもない。而かも事業家としての材幹をも充分に具備してゐる蓋し當代稀れに見るの士として榮進社支配人の要席にあり、同社隆興の重責を擔つて活躍しつゝある。

氏は明治三十六年五月五日、男子の節句たる佳き日に生誕したが、其の搖籠の地は北海道常呂郡端野村であり、父君は玉吉氏と呼んで其の長男である。夙に英邁の資性を謳はれて將來の大成を鄕黨に囑望されてゐたが、學序を經て東京商工學校に進みて之れを卒業、大正十三年榮進社に入社し、爾來至誠至勤に一貫して着々其の地位を高め、營業總務各部長を經て後、現職たる支配人の席に擧げられるに至つた。

斯くて合資會社榮進社の内外一切の業務を實際的に綜覽し、益々業態を向上せしめつゝあるのみならず、更らに清水重工業株式會社、日本航空機工業株式會社、義林鑛業株式會社、城北運輸株式會社、合資會社東京鋼鐵製作所、清水事務所にありても夫々樞機に參じて卓腕を發揮しつゝあり、又日本工業會々員に列して躍進工業日本の向後の發展に盡瘁するところ多く、令名嘖々として謳はれてゐる。

資性敦厚にして熱誠、しかも玲瓏玉の如き人格の持主にして敬天愛人の念に富み、名利を求めず私心なく、富貴を欲せずしてたゞ至誠努力を信條としてゐる。又犀利明晰なる頭腦より劃出す經營方針は常に時流に順應して遺憾なく、しかも情義を重んじ、掬すべき溫愛は衆望を一身に聚めてゐる。

趣味は讀書、旅行にして家庭には大妻高女卒業の才媛たる八千代夫人があり、氏によく仕へて貞淑を謳はれ、些かも氏に後顧の憂を抱かしめることなしと云ふ。かくしてこそ氏が其の才幹を各方面に遺憾なく發揮することが出來る。其の間に禮子嬢、薫子嬢の二女があり、未だ幼少なれども氏並に夫人の資性を享けて英明である。

因みに榮進社は清水組の傍系にして鋼鐵建具家具の製造を主としてゐるものである。

大倉土木株式會社
取締役兼土木部次長

池野敏夫

（社）東京市京橋區西銀座二ノ二
（宅）東京市四谷區西信濃町一〇
電話四谷七一一三番

今や我が國は文化の進展或は産業の興隆と相俟ち、更らに國防上よりしても道路、鐵道、橋梁、港灣、運河、治水、上下水道、水力電氣など、の土木的事業の施工は益々重大なる役割を演じてゐるのは明らかな處である。

而して斯業界に於て五指を屈するもの丶一に大倉土木株式會社があるが、もとより同社は各方面に多くの人材を網羅して隆々たる業績を齎らすに至り其の眞價を發揮しつゝある。

玆に擧ぐる池野敏夫氏も同社の至寶的存在として錚々たる名聲を謳はれる逸材であり、現に取締役兼土木部次長として重きをなしてゐる。

氏は明治二十六年四月を以つて島根縣に於て呱々の聲を發し、夙に俊敏の聞え高く將來を待望されてゐたが、學序を經て東京帝國大學工學部に進み、孜々として螢雪の功を積んで大正五年同校を卒業、實社會への第一歩を大倉組技師として迎へられて印し、爾來至誠至勤に一貫して頭角を現はし、其後大連支店に勤務すること數星霜、次で大正十一年には歐米視察を命ぜられ、先進諸國の土木建築業界を詳さに研鑽して大いに得るところあつた。

而して歸朝の後、劃期的大々事たる東京地下鐵工事主任として卓腕を縱横に揮ひ、顯著なる功績を謳はれ、更らに擧げられて同社監査役として樞機に列して重きをなしつゝあつたが、更らに昭和十四年より取締役の要椅に推され兼ねて土木部次長の重責を擔つて今日に及んでゐる。

資性、明朗闊達にして高潔なる人格の持主として知られ、しかも業務には熱心誠實、其の責任感の强きことは事小なりと雖も些かも等閑に附すことなく、全智全力を之れに傾注しつゝある。又豐富なる學殖經驗を牽も傲ぶるところなく、多數の從業員に對しては溫情を以つて接し、彼等も亦氏に能く仕へて其の意の如くに動いてゐるのは氏の人德の然からしむるところであらう。

家庭には淑德の譽れ高き令閨千代子夫人あり、其間に長女凉子孃を擧げて和氣藹々たる清福に惠ぐまれてをり、尙ほ氏はゴルフを以つて體位向上、精神修養との資としてゐると聞く。

顧つて我が現下の國情を顧みるならば、對支聖戰完遂のために國家總動員制度は布かれ、今や國を擧げて全力を傾注してゐるが、右に破邪の正義の劍を揮つて執拗なる抗日蔣政權の徹底的覆滅を期すると共に、左に建設の鍬を執りて所謂東亞に於ける共榮圈の確立を圖るべく、物心兩方面の力を發揮しつゝある。

この二大聖業を達成せしむるには、銃後に於ては凡ゆる業界の各部門に亘つて人材を動員し、其の資源開發、生産力擴充に邁往することを必要としてゐる。この意味に於て吾人は、經濟文化の先發事業たる土木事業界にありて大倉土木株式會社の中樞的地位にありて其の縱横無碍なる卓腕を謳はれる逸材、池野敏夫氏の活躍に期待するところ甚大なるものがある。

月島機械株式會社取締役
兼工務部長・鶴見工場長

木村正孟

（社）東京市京橋區月島通五丁目
（宅）東京市杉並區高圓寺二ノ九〇
電話中野七〇〇三番

最近我が國に於ける化學工業の躍進的進歩發達に伴ひ、之れと不可分の關係にある化學工業用機械の製作技術も亦、目ざましい進歩と劃期的な發達を遂げ、之れを從前の實情に比較する時は、質的にもまた量的にも顯著なる向上の跡を示してゐる。

かゝる業界にありて優秀なる技術と完璧なる製品とに於て一頭地を抜くもの、即ち月島機械株式會社の存在を忘れることは出來ない。と同時に同社取締役にして工務部長を兼ね更らに鶴見工場長たる木村正孟氏の隱れたる努力精進も亦看過してはならぬ一事である。

氏は明治十七年九月二十六日を以つて生れ、當年五十七歳、技術者としても統宰者としても一家をなして十二分の域に達してゐる。夙に工業界雄飛を志して築地工手學校（現在の淀橋工學院）に學びて螢雪の功を積み明治三十七年同校を卒業したが、次で同三十九年に當社の前身たる月島機械製作所に入社したのであつた。當時は組織的にも規模的にも微々たるものであつたが、氏は孜々として精勵を惜しまず、其の至誠至勤は着々として光りを放ち、認められると共に其の地位を高め、遂に今日あろ取締役兼工務部長として重きをなし、更らに鶴見新工場の創設されるや之れが實際的の統宰者として愈々卓腕を縱横に發揮し令名を謳はれてゐる。

氏は人となり、敦厚にして着實、しかも飽くまで實力主義を遵奉して自から實踐躬行、事小なりとも其の全精神を傾倒すると云ふ直行熱意の士である。又た人情の機微に觸れてよく部下を愛し、彼らから亦景仰されてをり、自然の裡に醸成された抱擁力に富んでゐることは、業務の能率を高める所以である。

而して胸中に脈々として波打つ熾烈なる愛國心に燃え、滅私奉公の大精神をもつて、銃後戰士たるの赤誠を捧げてゐる。

家庭には環夫人ありて淑德を謳はれてゐるが、夫人は千葉縣の人、小谷清太郎氏の長女で同縣女子師範學校を卒業した才媛、從つて良妻賢母たるの名に背むかず、氏との間に擧げたる長男靖君（昭和元年出生）二女幸子孃（大正六年出生、櫻蔭高女卒業）四女和子孃（昭和三年出生）五女留子孃（昭和五年出生）等子女の薫育に力めて間然するところなしと聞く。

惟ふに對支聖戰も最後段階に移行すると共に、武力工作に並行して産業力に依る建設的工作が新東亞に曙光を齎らすに至つたが、この劃期的大業の完遂には益々生産力の擴充を圖り强靱なる國力の培養に努めねばならぬ。

然しながら、生産擴充の時局は之れを利用するものではなく、飽くまで正しき認識の下に時局に適應しなければならない。この認識を得ずして徒らに時局に阿ねることは、決して良心ある産業人の爲すべきではない。戰時體制下、國家總力を擧げる今日に於て、眞に産業人たるべきは一切の功利の邪念を棄てゝ報國の精神に生きることである。其の良き例として木村氏の如き秀れたる逸材のあるは大いに意を强うするところである。

岡田ゴム工業所

岡田二三氏

東京市葛飾區小谷野町一八〇
電話足立二九二四番

現下の如き國家非常時たる我が國に於いては、あらゆる産業機構が打つて一丸となり、眞の協力一致の下に、政府當局の指示する國策に順應して、之れに歩調を合せてこの未曾有の國難突破に邁往すべきであることは、敢えて玆に喋々するまでゝもない。

斯くして我が産業日本の一環に聯らなるものは、都鄙を問はず、其の新舊を論ぜず、又其の規模の大小に拘泥することなく、均しく國家國民の安定を確保せんがために高度國防國家の建設に最善の努力を致すの要がある。從つて諸産業に對して政府は統制を强化し、只管國力の培養に努めつゝあるのであり、この聖戰遂行には單に政府當局にのみに依存すべきではなく、民間産業陣に於いても之れに協力し、其の職分に應じて奉公の至誠を披瀝しなければならぬ。

玆に擧ぐる岡田二三氏の如きは常に烈々たる産業報國の精神を抱藏し滅私奉公を實踐しつゝある逸材である。即ち上叙の地に於て岡田ゴム工業所を拮据經營、其の製品の優秀を以つて斯界の最高水準を占むるに至り、錚々たる名聲を謳はれてゐる。

抑々氏が獨立業を創始したのは昭和四年にして、當初は日本自動車飛行機タイヤ製造會社工場内に於て小規模にて經營、主としてオートバイ用、三輪車用、リヤーカー用、コードタイヤ製造に從ひたるも、氏が第一線に立ちて督勵指導して製造する爲めに、品質の優秀にして堅牢耐久非凡なる効能を以つて着々業運は向上し遂に昭和七年、新工場を設立して諸般の設備を完整し益々生産能率を高め、殺到する受註の消化に力めるに至つた。

爾來、工場の擴張を行ふこと再三、今日に於ては一千百餘坪の尨大なるものにして、當地一帶にありて隨一の稱がある。其の第一工場は葛飾區小谷野町一八〇番地に、第二工場は同じく一八一番地に、第三工場は同じく三〇六番地に所在してゐる。

而して之れを統宰する氏は、能く時流の趨くところを洞察して堅實なる營業方針を立て、しかも信用本位に邁進して業運隆興の一途にあり、事變勃發して後、ゴム原料の統制のため配給減少したと雖も不動の地盤は毫も搖がず、依然として斯界に重きをなしつゝある。

氏の出生地は廣島縣加茂郡にして父君は橋場鐵工所を統宰する岡田新作氏にして、其の長男である。夙に工業界に身を投じて精勵、大正十三年二月には日本自動車飛行機タイヤ製造株式會社に入り機械部責任者として卓腕を揮ひつゝあつたが、其間に於てゴムタイヤー製作に就いて研究を累ね、遂に其の完成を見るに至りしため、同工場内にて獨立、製品を市販して好評を博し、更らに新工場を現在の地に設けて業を擴張、遂に今日の大成を招くに至つたものである。

而して氏は人となり、謹直にして人格高潔、しかも信念の人として聞えてゐるが、之れ氏が廣池博士を主體とする「モラロヂー」—即ち最高道德科學を遵奉することにある。

惟ふに、今や我が國は内外時局愈々重大性を帶びつゝあり、從つて産業陣の强化は必然的であると共に眞に報國の精神に燃ゆるの士を希求してゐるが氏の如きは其の一人であらう。

合名會社

岡本ポイント製作所

岡本信重氏
岡本格治氏

東京市京橋區月島八仲通五ノ六
電話京橋三七〇三番

今次の支那事變は、凡ゆる角度から我が日本を物質的にも精神的にも刺戟した。而してその强い刺戟は、我が國をして國力を益々强化せしめたことは云ふまでもないが、就中、特記に値ひするものは産業機關の增强といふ一事であらう。

近代の戰爭は經濟戰であり、物の消費力の戰爭であるとさへ云はれてゐる。從つて軍事上の威力のみを以つてしては、到底最終の勝利を的確に把握することは不可能であると云はれてゐる。武力と同時に之れを裏付ける銃後産業機關の强化に俟つところ極めて大なるものがある。

而して、かゝる前提を立證する最も力强い銃後産業陣には、各種各樣のものがあり、各々その精巧を矜り、或は優秀を得意として、その成果の絶大なるを高唱してゐるけれども、玆に擧ぐる岡本ポイント製作所の如きも特殊的の存在として鄰やいてゐる。

抑々岡本ポイント製作所は、岡本信重氏が大正二年に創業したもの、其の主なる製作品目は鐵道、轉轍器、轉及信號機、橋桁レール、其他附屬品一式である。爾來信重氏の孜々營々たる精進の下に着々業運を昂騰せしめ、今日あるの基礎を築いたもので、其の製品の卓越優秀なる點は全く他に其の比肩するものなしと云はれ、好評嘖々たるものがある。

而して今日にありては信重氏の高齢なるを以つて第一線を退き業務の一切は養嗣子たる格治氏が統宰し、卓腕を縱横に發揮しつゝあり、工場諸設備を完整して其の能率を高め、益々發展を招來して部下鐵道工業界に於ける代表的工場として屈指のものに擧げられてゐる。

かくて昭和十四年三月より組織を改めて合名會社となし、格治氏が代表社員として擧げられ、愈々時代の進展に並行しての飛躍を期し、鋭意精進を累ねてゐる。近く東亞新秩序建設の曙光あり、大陸開發の第一歩たる鐵道工業の發展と共に當所の彼地進出は期待されてゐる。

而して代表社員の要椅にある格治氏は宮城縣の人、藤本義都喜氏の七男として明治三十四年二月を以つて出生、夙に聰明の資性を鄕黨に謳はれ、白石中學校を卒業するや育英界を志して臺北師範學校に學びて螢雪の功を積み、卒業の後は訓導として精勵すること十星霜、而して岡本家に迎へられて同姓を冒したもの、昭和三年の頃より父業に從いて大いに活躍し、當所發展に與つて力があり、今日にては第一線に立ちて統宰益々業績を擧げてゐる逸材である。

資性、温厚篤實にして人格の高潔なるところ稀れに觀るべく、しかも識見高邁にして能く時流の動きを洞察し、常に之れに順應したる經營方針を樹立して遺憾なく、着々として業運の向上を圖り父業をして一歩たりとも後退せしめざるは偉とするに足る存在、蓋し異數の手腕家として謳はれてゐる。

家庭には信重氏の女たる益子夫人ありて淑德高く、夫人は渡邊高等女學校、文化裁縫女學校を卒業した才媛であり、和氣堂に滿つ。

今や東亞共榮圏の確立に國家の總力を擧げて邁往しつゝあり、國民の總和と奮起が要望されてゐる秋、氏の如き中堅的産業人の活躍は大いに囑望するところである。

月島機械株式會社　取締役兼經理部長　小川只治氏

（社）東京市京橋區月島通り
（宅）世田谷區世田ヶ谷四ノ七四四
電話世田ヶ谷三七五七番

世の人の多くは社會に於ける要位の人々を見て、直ちに之れを羨望するが、その人の今日に至れる過程を見るともしない。この認識の錯誤は現代人の通弊とも云へる位ひである。之れは國家社會の發展の上から見ても、また個人そのものに見ても決して欣ばしい現象ではない、勞少なくして成果を得んとする心は、之れを得ざることに依つて自らに省みることなく、却つて不平不滿を起し、やがて反抗意識を强めることゝなるこの缺陷さこの認識の錯誤を反省し、解消せざる限りに於て、成果などは到底望み得られぬ。

世の多くの人々が社會重要の地位にあるも、彼らはその地位に達すべく過去に於て數多の苦闘を經、艱難を征服し來たつたのであり、決して一朝にして達したものではない。我が小川只治氏の如きも今日、化學機械製作界の最高峰に立つ月島機械株式會社にありて取締役兼經理部長たる重責を擔ひ、産業界の第一線に雄々しく活躍しつゝあるが、氏が今日に至れるに就いて、は其の天の賦の才能に加ふるに人に倍せる努力精進を以つてしてゐたことを知らねばならぬのである。

氏は長崎縣の人、氏關峯太郎氏の二男として明治十九年七月九日を以つて呱々の第一聲を發し、其後に小川實治氏の養嗣子となりて同姓を名乘るに至つた。夙に聰明俊敏の資性を以つて鄕黨に鳴り、其の將來を望されるところ大、學序を經て高等商業學校に進み、切磋琢磨の功を積みて明治四十四年に卒業した、それより黑板工業所に入りて、專心同所の興隆のために精勵して倦むことなく、其の至誠を黑板所長に認められるや大正六年同系統の月島機械株式會社に移り、爾來益々至誠至勤を以つて一貫し、遂に同社取締役の樞機に列し經理部長として重きをなしつゝある。

而して氏にして最も敬服するところは謙讓の德を發揮し、責任感の鞏固にして犧牲的精神を藏すること極めて篤く、しかも名利に淡白にして高潔なる人格は、社内外の信望を一身に聚め、敬仰欽慕の的となつてゐる。

氏の趣味とするところは謠曲、圍碁であるが、孰れも心身鍛錬、精神修養の資として閑暇を得ればこれに親しみ、又スキー等をも試みて專ら體位向上を圖ると云ふ。

家庭には貞淑なるハタ子夫人ありて氏によく仕へて賢夫人の譽れ高く長男正君は農大を卒業した逸材であり、一家清福に惠ぐまれてゐるのは羨望に値ひする。

轟つて惟ふに、今や對支聖戰も漸次變轉し、一は繼續的武力をもつて抗日蔣政權の徹底的膺懲に努め、一は北支南支の新國民政府に協力して着々として東亞新秩序の建設に邁進しつゝあり、之れが全面的成果を齎らすために國家總力を擧ぐるの秋に際してゐる。即ち國民たるものは其の職の如何を問はず、報國的奉公心を振起し、國家をして百年の大計をよく完了せしめるべく努力精進するの要がある。

玆に銃後産業人たるの責務をよく自覺し、鋭意精進する我が小川氏の如きは寔に斯界の師表的存在として推稱するに足る。

鷲見電機製作所　代表社員　鷲見桂雄

東京市品川區西大崎二ノ二〇八
電話大崎六五八番

今や我が國は、對支聖戰が愈々最後の段階に到達すると共に、大東亞共榮圏確立の亘歩を印しつゝある。所謂、一億一心、擧國一致の體制下に國策に順應して益々生産能力の强化擴充に努め、强靱なる國力を擁して銃意之れが達成に邁進してゐるのである。

而してかゝる前提を立證する最も力强い銃後産業陣には各種各樣のものがあり、或ひは其の技術の精巧を誇り、或ひは性能の卓越を誇りて其の成果の絶大を高唱してゐるが、玆に擧ぐる鷲見電機製作所の如きも慥かに其の一として指を屈するに足る。

抑々同製作所は昭和三年の交、品川區五反田二丁目に於て我が鷲見桂雄氏が獨立自營したに端を發してをり、其後業勢の進展に伴ひて工場を擴張する必要に迫まられ、昭和八年に現在の地に移轉をなし、諸機構を擴充して益々生産能力を高めたのである。次で昭和十四年九月には更に組織を合資會社に變更し、氏自から代表社員の要椅に座して内外一切を綜覽し、愈々時代と共に進展目覺しきものがあり、不動の業礎を築くに至つた。

其の製造する電機器具一般は品質の優秀、精巧を以つて斯界に鳴り、專ら軍部へ納入して好評を博してゐるが、之れ鷲見氏が自から第一線に立ち、滅私奉公の赤誠を吐露して多くの從業員を指導し督勵するに歸因してゐる。寔に銃後産業人たるの資格を充分に具備してゐる逸材として推稱するに足る。

氏は明治三十七年十二月二十日を以つて長野縣下伊那郡山吹村に呱々の聲を發し、父君を竹太郎氏と呼んで其の次男、夙に俊敏英邁の資を以つて鄕黨に聞えてゐたが、小學校を卒業するや烈々たる青雲の志を抱いて若冠十五歳にて上京した。かくて工業界に將來の天地を求めて斯界に身を投じ、先づ芝區にあつた菅沼製作所に入りて專心業の修得に努力するところあり、在ること五ケ年にして三英電機製作所に轉じ、益々其の蘊奥を極めるべく精進すること六ケ年に及んだと云ふ。

斯の如く、業界に第一歩を印してより十有餘年、其の技術も愈々圓熟となり獨立の機運の到ると共に昭和三年敢然として鷲見電機製作所を創業し、爾來努力奮闘に一貫し着々として業運を高揚せしめ、遂に今日ある大を招來し、令名を斯界に馳せてゐるのは偉とするに足る。

資性、明朗濶達にして高潔なる人格の持主、しかも業務に精勵、責任感の强固にして專小なりと雖も等閑に附せず、熱心誠實を以つて之に當つてゐる。又多數從業員に對しては温情を垂れ、從業員も氏に仕へること篤く和氣藹然たる裡に職務に恪勵し、氏の意の如くに動くのも、蓋し其の崇高なる人德の致すところであらう。

而して業餘にありては社會公共に意を注ぎ、大崎警防團の組織されるや先づ之れに參じ防空訓練の毎には眞摯なる活躍をなして範を示してゐるのは、寔に稀覯の士と稱すべきであらう。

家庭には淑德な令閨喜代子夫人あり、夫人は三輪田高等女學校卒業の才媛である。氏との間に長男光保君、二男桂一君の二男を儲けてをり、春光融々たる和氣が漲つゝある。

火災保險鑑定・燒殘物評價業

竹内敏泰

東京市淺草區松葉町一三八
電話淺草二二八五番

人は誰しも成功を望む。然し幾千の人が成功してゐるであらう。勿論成功には各種の條件が具備しなければならぬ。環境も重大な役をなし、運も之を援ける。然し要はその努力であり、誠心であり、才幹であり、思慮である。

今日のやうな科學の發達した時代、機械力が人間の勞力に代り、時間空間の短縮された時代には、往時人々が訓へられたやうな努力が何れほど力强いものとなるか疑ふものもあらう。然し努力は單に努力のみに限らぬ。誠心も今日の社會では寧ろ消極的な役割をしか果さぬと見る人もあらうが、誠は永遠の光りである。人の生活に誠が價値とならぬことはない。要は誠心を努力をその才幹と思慮によつて生かすところに成功の途が拓けるのである。

その代表的の人物として我等は玆に竹内敏泰氏を見る。氏は誠心努力の人であり、才幹思慮の人である。今日まで營々として勤め、着々として歩を進めて來たのは偉とするに足る。

其の家業とするは、火災保險鑑定業、燒殘物評價業にして全く大東京に於て特異のもの、しかも其の鑑定評價の正確なることは驚異的であり全く無比と云はれてゐる。かくて各火災保險會社をはじめ保險契約者より絶大なる信用を博し、隆々たる業運を示してゐるが、蓋し當然の歸結であらう。

氏は明治三十二年を以つて愛知縣に於て呱々の第一聲を發し、夙に才氣喚發、英明の資性を鄕黨に謳はれてゐたが、大正元年に上京し、學を修めたる後、父君の明治三十年の頃既に創業したる火災保險鑑定、燒殘物評價業に從事して努力するところあり、能く其の眞髓を究めて父君の良き繼承者と謳はれてゐたが、大正十年より其の一切を繼ぐに至つた。

かくて更らに一段の精進をなして其の火災保險學に對する深甚なる造詣を實際的に活用し、以つて鑑定評價の萬違算なきを期してゐる。今や東京市はもとより關東一帶、東北方面にまで業の範圍を擴張し、舊來の信用を更らに倍加して斯界の權威として斷然頭角を現はしてゐる。

而して、氏に最も敬服するところは、常に奮鬪主義を信條として又全生命として終始一貫、勇往邁進をなして、其の業の隆興を圖るのみならず、業に臨むや頗る活眼明識、且つ細心周到なるところは些かも不安の念を起さしめずと云ふ。また內外表裏の別なく身を持すること謹直、只管其の德性を傷けぬやうに努めてゐるのは、氏の日常の敎養を物語つて餘りがある。更らに溫容にして人に接するに自から傲ぶることなく、常に謙遜の德を發揮してゐる。

家庭には淑德を謳はれるツル子夫人ありてよく氏に仕へて內助の功多く、其間に長女泰子孃を擧げて一家和氣淸穆に惠ぐまれてゐる。

今や支那事變も愈々第四段階に移行し、一方に軍事的行動を繼續し、飽くまで我れに抗する蔣政權に對し鐵槌を下すと共に、一方にありては其の占據區域に新政權の誕生を見、新秩序建設の曙光ある折柄、銃後國民たるものは須らく自己の職責を完うして聖なる大業に翼賛しなければならぬ。實に前線銃後に國を擧げて精進するの要がある秋、玆に氏のあるは大いに意を强ふするに足る。

荒城商店主

荒城弘安

營業所　東京市日本橋區兜町一ノ八東株ビル
電話茅場町一二六一——五番
三〇四——六番
（邸）東京市大森區市ノ倉六六
電話大森七〇〇〇番

名蹟世襲の慣習は、我が國家族制度に伴ふ長所美點ではあるが、一面に於て父祖の遺產に遊食して、獨立自營の健全なる精神を忘却するといふ缺點もある。

故に富祐豪家の子弟に凡庸人多く、淸貧の家に逸材傑物が出る。然るに我が荒城弘安氏は所謂豪家に生を享け、頗る順境なる家庭に育くまれたのであるが、性來非凡なる才識と不屈の精神を抱藏し、家業を繼承するやよく精進努力を以つて、益々家名を高揚せしめてゐる。

殊に有爲轉變常なき株式界にありて不動の業礎を築きて家名を些も傷けることなく、若冠よく業の伸展を圖り更らに一般の光彩を放つに至らしめてゐる。寔に偉とすべきであり、其の存在は輝やいてゐる。

氏は明治四十年八月一日を以つて東京に於て呱々の聲を發す。父君誠二郎氏は株式界に錚々の名を謳はれた偉材であり、氏は其の長男である小學校、中學校を卒業すると共に進んで慶應義塾大學に入り、經濟學部にありて斯界の深遠なる學理を研鑽し、昭和七年春同大學を卒業した英才である。

而して實社會の第一歩として大株一般取引員たる武田憲次郎商店に入り、一般取員に伍して波瀾極りなき業界の表裏を詳細に究めるところあり、次で父業たる荒城商店を繼承し、爾來、株式界本來の使命をよく認識して堅實なる經營方針を以つて臨み、其の出所進退を誤ることなく、先考の遺業を益々光輝あらしめ、業運逐日進展して今日の盛業を招來しつゝある。

今や東京株式取引所取引員、株式短期實物取引員、東京株式取引員として、斯界屈指の大商店と謳はれ、一般顧客の信賴愈々高く、其の取引高は常に同業者間に於て驚異的となつてゐる。蓋し、誠實、勤勉、商道の正路を邁進しつゝある當然の歸結であらう。而して氏は尙ほ年齡少壯にして洋々幾春秋を有し、業界屈指の逸足として一層の活躍を期待されてゐる。

資性溫從にして篤實、しかも至誠努力を以つて處世の要諦となし、毫も名利を求めず、榮譽を欲せず、敬天愛人の大理想をもつ高潔なる心境は、自づから敬仰の念を湧かしむるものがある。而して高邁なる學殖は內に藏して徒らに傲ることなく、常に謙遜の美德を發揮し、又人に接して城府を設けず、よく人の言を容るゝの雅量を備へてゐる。

しかも明晰なる頭腦より劃出す整然たる營業方針は、能く時流の趨く處を洞察して事業の伸縮を圖りて狂ひなしと云はれてゐる。殊に今次事變勃發の後は、其の抱藏する愛國的信念に基づいて只管銃後人としての使命の遂行に心がけてゐると云ふ。

家庭には母堂柳刀自（明治十五年生れ）健勝にして氏はよく仕へて孝道の全きを期してをり、令閨は未だなく、次弟謙之君（明治四十三年出生）は刀圭界を志し東京帝國大學醫學部を卒業した逸材であり、末弟武之助君（明治四十四年出生）は東京帝國大學文學部を卒業した秀才であり、一家和樂に滿ちてゐる。

久保田證券株式會社
取締役兼募集部長

神田四郎

（社）東京市日本橋區兜町一ノ一
電話茅場町二二〇二—八番
（邸）杉並區阿佐谷三ノ三二九
電話荻窪三九七〇番

成功不成功を時運に託して之れを辯護せんとする人が多い。しかし、成功不成功は時運として見るが如き他動的のものではない。或は他動的に決するが如く見ゆる場合無きに非らざれど、その仔細を見れば決して時運をして言ひ去るべきものでなく、そこには各自の注意力なり努力なりに在ることを知り得らる。

それは、其の時その場合に於ける機會の把握、時宜に適合した行動の如何が成否の鍵となるのである。行動の合理性—須らくこれが成功の要諦ではなからうか。

漠然と自己の行動の成否を時運に託するが如きは、寧ろ社會の第一線に立つて活躍せんとするものゝ採るべき態度ではない。勇往邁進、且つその時その場合に適して行動し、處置することである。勿論、斯の如き人は秀れたる才幹の資であるかも知れない。然し、才幹の士と雖も努力精進せざれば成功は得られぬ。從つて多くの人も時宜に適した奮闘努力を以つてすれば成功するのは自明の理である。

玆に擧ぐる神田四郎氏の如きは、もとより才識兼ね備ふるの士である然し、その神田氏にして尙ほ且つ努力精進し、周到の注意を以つて事に當る。洵に氏が今日、久保田證券株式會社取締役として樞機に參劃、募集部長を兼ねて重きをなす成果を收めたる所以であらう。

氏は埼玉縣入間郡の人、神田萬氏の四男として明治三十九年九月十五日に呱々の聲を擧ぐ、郷校より更らに川越中學校に進み大正十三年同校を卒業し、次で東京外國語學校に入りて佛語部貿易科にありて螢雪の功を積み、昭和三年卒業した逸材、實社會の第一歩を帝國海上火災保險株式會社に印し、精勵格勤するところあり、次で新興證券株式會社に移りて會計課に勤務し、證券界に階梯を踏む。克く精進努力して社業の發展に寄與し、昭和十五年五月に至りて久保田證券株式會社に轉じたのである。而して同社取締役兼募集部長要椅に擧げられるや其の才腕を發揮して業績の向上に努力しつゝあり、しかも天賦の明識は誠心努力と相俟つて能く成果を齎らして今日に至つてゐる。

資性、温厚篤實にして闊達なる半面があり、加ふるに才氣縱横、よく時流の動きを洞察して堅實なる方針の下に歩一歩主義に精進し、しかも至誠至勤を以つて事に當つてゐる。而して神を敬し人を愛する大理想を抱き些かも名利を希求せざる高潔なる人格の持主、社内外の信望を一身に蒐めて名聲を博する所以である。向後の證券界は氏の如き新進氣鋭の士に負ふところ大であらう。

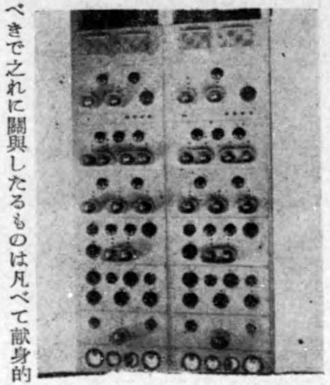
趣味としては運動を好み、餘暇を得ればゴルフ、ボートに親しみて體位の向上を圖ると共に浩然の氣を涵ふと聞く。

家庭には温雅貞淑なるミサオ夫人がありて氏によく仕へてゐる。夫人は奥野仙太郎氏の二女にして明治四十二年の出生、香蘭女學校を卒業した才媛として知らる。其の間に長男禮次君（昭和八年出生）長女枝美子嬢（昭和十一年出生）二男光三君（昭和十三年出生）の子女三人を儲けてあり、和氣堂に滿つ。

木下無線研究製作所

木下金作氏

東京市目黒區上目黒四ノ三七七
電話澁谷一四八〇・二〇三三番



輓近急速度の發展を遂げつゝある躍進工業日本の一分野に、優良なる無線電信電話超短波電信電話機器の研究並に製作に沒頭し、輸入防遏の一端に資して名聲を博してゐる木下無線研究製作所は斯界の權威たる木下金作氏の主宰するところである。

而して木下氏が今日を築くまでには縷骨碎心、全くの努力奮闘に一貫し優良國産品の生産に研究を遂げた賜に他ならぬ。氏が斯界に第一歩を印した大正五年當時は我國無線事業の搖籃時代と云ふべきで之れに關與したるものは凡べて獻身的の奮闘に終始したのであつた。就中木下氏の熾烈なる研究心は着々として優秀品の生産を結實するに至り、氏が技術者として在つた日本無線電信電話株式會社の名を高揚せしめるに力があつた。

氏が今日まで該事業に關與しての主なる製作經歴を擧げると、大正八年初めてトロール漁船に無線機を設置し、次で大正十五年眞空管式の無線を大連栗林汽船、三菱造船等の船舶に設置して本邦に於けるトップを切り、又關釜連絡、青函連絡等にも設計製作の主技術者として貢獻し、訪歐飛行を完成した神風號の無線機製作等その功績は枚擧に遑がない。

斯の如く我が無線事業界の異常の發達進歩に重大なる貢獻をしてゐる木下氏は、大正五年海軍電氣研究所に入りて研修、其後日本無線電話株式會社に迎へられて技術を研鑽し性能顯著なる新製品を發表し同所の地位を不動ならしめるに大なる功績を樹てゝ聲名を謳はれたのである。又一方に於ては財團法人電信協會無線電信講習所の講師として後進の指導に力を注ぎ幾多の優秀技術者を斯界に送つてゐる。

而して昭和十年十月、獨立以つて自由なる立場より研究製作を致すべく木下無線研究製作所を創立し、研究所を目黒區上目黒四ノ二一七七（電話澁谷二〇三三番）に工場を同じく二一七八（電話澁谷一四八〇番）に置き二十餘年の實驗を基礎として大小受信機並に部分品、醫療用電波機器の研究製作に從事し、特に短中長波單一働作スーパー及びオールコンバター、漁船ラヂオ、コンパス無線機の如く總て新方式に依る機器の完成に努力をなしつゝある。實に同氏の如き斯界の權威が益々熱と力が傾注して邁進されることは國防上よりしても産業上よりしても大なる欣びと云はなければならぬ。

尙ほ氏は福井縣大野町に於て明治二十五年十一月の出生、父君を善三郎氏と呼んで其の三男である。若冠十七才にて雄志を抱いて上京し、電機學校高工等科にありて斯學の研鑽を累ねたる逸材であり、次で海軍技術研究所に入所したのは上叙の通りであるが、其の温厚にして寛仁の資性に稀れに知るべく、しかも今日と雖も孜々として研究を怠らざるところ偉材として推稱するに足る。

家庭には令閨きぬ夫人ありて内助の功多く、其間に長男金吾君（明治學院卒業）の外一男一女を儲けてゐる。

富士アイス支配人

代田富士穂

東京市品川區大井瀧王子町[illegible]
電話大森七九二五番

勞少なくして成果の多からんことを望むは世人の常である。然し、勞少なくして成果を得んとするが如きは誤れるの甚しきもので、若し斯樣に人々のみなれば國家社會の興隆などは決して望めるものではない。しかも、斯の如き人々の尠なからざるは甚だ遺憾とするところである。これは近代文化の特異の一弊害と云へやう。

玆にこれ等の對蹠的人物として代田實穂氏の如きを見るを大なる喜びとしなければならぬ。氏は意志の人であり、また才幹の人である。確固不動の意志を秀れたる才幹に依つて生かし、着々として自からの地歩を占めつゝある。

今日、富士アイヌ支配人として文化の中樞地たる銀座に於ける店舗を統宰して敏腕を揮ひ、よく時流に順應したる營業方針を立て間然するところなく隆々たる成果を齎らし、銀座街にあり富士アイスの名は彌やが上にも高く、文化人にして同店の存在を知らぬものなしとさへ云はれてゐる。之れ一に氏が營々として十星霜に亘る苦心努力の賜である。

氏は長野縣の人、代田雅夫氏の二男として明治三十三年四月五日を以つて呱々の聲を擧ぐ、學序を經て縣立上伊那農學校に入りて螢雪の功を積み、大正七年同校を卒業した後、片倉合名會社に入社して精勵し、次で京濱電力安臺出張所に轉じて精勵、其の熱誠なるところは孰れにありても輝やき大いに信頼を博したのである。

然るに、氏の才氣喚發、英明なる資性はこの小成に安んじることなく更らに動的なる業務に自己の新天地を求めるべく上京、昭和二年より富士アイスに入社し、現職に就く。爾來、時代の趨勢に並行することに努めると共に顧客本位をモットウとして精進を累ね、遂に同店をして今日あるの大を築き斯界に不動の地歩を占めつゝある。

而して氏は多くの從業員を使用するも、かれ等を遇するに我が子我が弟の如く愛護し、彼らも亦氏を德として表裏内外の別なく氏の手となり足となりて精勤しつゝある。かくて自づからなる裡に業運は昭々として高揚されてゆく。

氏は人となり、溫健にして着實熱誠、尋常謙遜の美德を有し、玲瓏玉の如き人格は些かも圭角なく接するものに城府を設けず、終始微笑を以て對するところは、世情に通じたる圓滑さを示してゐる。しかも自己の名利を欲せず、富貴を希はず、たゞ努力奮鬪するを以つて處世の要諦としてゐる、故に百難に對する不撓不屈の氣魄を抱藏してゐると云ふ。

家庭には萬延元年生れの母堂しづ刀自ありて健勝、氏は令閨と共によく仕へて孝養の限りをつくしてゐる。夫人は明治三十五年の生れ、長野縣守矢一太郎氏の三女で諏訪高等女學校卒業の才媛、よく内助の功多き賢夫人である。氏との間に三男を擧けてゐるが、長男を春水君と呼んで大正十二年の生れ、府立第一中學校に學びて四學年より府立高等學校に入學した秀才であり、次男は益穆君と呼び昭和二年の生れ、今春から府立第一中學校に入學し、三男を繁夫君と呼び昭和五年の生れで、大井小學校四年在學中、孰れも英明の資性を以つて知られてゐるが、氏等夫妻は特に教育方面には熱心で令息の訓陶に力を注いでをる。

蓋に偉とすべき存在である。

東洋精機株式會社
精機部工作課長

備後三郎

（社）東京市世田谷區下丸子[illegible]
（宅）東京市世田谷區奥澤一ノ[illegible]

近代の戰爭は資材戰とも謂はれるが如く實に莫大なる物資を必要とする。故に戰爭の遂行には銃後の經濟力、就中、國防產業の生產力を擴充强化することが最大の緊喫事であるのは敢えて玆に喋々するまでゝもあるまい。卽ち近代戰に於いては、物資の補給と云ふ點は銃後の國民にも前後將兵と全く同一の重大なる責任を課せられてゐる。

而して現下の如き國家非常時の我が國に於ては凡ゆる產業機構が打つて一丸となり、政府の國策に指示するところに順應して之れと協力步調を一にし、戰時經濟體制を支障なく運行せねばならぬ。

斯の如き產業上の國家的大使命をよく認識して、其の國策の線に沿ふて高度國防國家建設に邁進しつゝある東洋精機株式會社に在りて精機部工作課長として能く職分奉公の至誠を發揮しつゝある備藤三郎氏の如きは、實に我が銃後產業陣の一翼として力强き存在を示してゐるものと云へやう。

氏は明治二十六年一月九日を以つて岡山縣吉備郡薗村に於て呱々の第一聲を發し、父君は壯太郎氏と呼んで其の長男である。夙に英明の資性を謳はれてゐたが、將來活躍の天地を工業界に求めて縣立工業學校の機械科に入り、孜々として研鑽を累ね、明治四十三年卒業するや勃々たる雄志を抱いて米國に赴いたのは大正五年であつた。

而して紐育コロンビア大學工學科にありて益々斯學の奥を極め、大正十年驚異的成績を以つて卒業し、更らに歐洲先進國の工業都市を歷訪して見聞を廣め、大いに得るところありて同十二年十一月末に歸國したのである。直ちに橫濱高等工業學校の講師として聘せられ、其の該博なる學殖と豐富なる識見を傾けて、後進學生の敎導に努めて倦むところなく一身に敬愛を聚めてゐたが、昭和二年同校を辭し玆に實業界に轉身すべく意を決し、先づ大阪に本社を有する浪速貿易商會東京出張所主任となり、卓腕を發揮して業績の向上に寄與するところがあり、斯界に令名を謳せるに至つた。

昭和五年十月に至りて、同商會を辭し愈々獨立自營の下に日本レフレックス商會を興し、大いに努力精進を累ねてゐたが、昭和八年一月に至り、株式會社津上製作所に迎へられて入社し、其後同所が組織を變更して東洋精機株式會社と改稱されて後も引續き同社にありて精勵し、現在にては同社精機部工作課長の重責を擔ひつゝある。

而して氏は生來研究心に富み、しかも不撓不屈の氣魄を抱藏してをり其の氣慨と周到なる注意力、旺盛なる研究慾と加ふるに縱橫の才幹を以つて孜々として熱誠業に從ひ、國防產業の確立と云ふ信念の上に立つてゐる。

更らに人物は溫容にして寬宏、身を持すること謹直方正ではあるが、よく世情に通じて掬すべき溫情の人として知られてをり、從業員に對する思ひ遣りにも深く、自からを奮鬪の第一線に立つて躬行し、德望の的となつてゐる。

趣味は讀書、音樂、旅行ときくことに依つても、氏の氣韻典雅なる風格の一端を窺知することが出來る。近代的敎養を多分に有する業界稀れに覩る氏に向後を期待するもの大なりである。

小松崎鐵工所
代表者 佐藤國治氏

東京市京橋區月島東仲通一〇ノ二
電話京橋七五一四・六四七〇番

今、各國の歴史を見ると交通機關は國家の經濟産業の發展に、軍事國防の確立に將たまた文化の伸展に寄與するところ頗る大なるものがある

而して最近、地上交通機關の飽和狀態と國防上の見地よりして地下鐵道の企畫が、諸列國に於てなされ着々實施しつゝあるが、我が國にありても既に帝都、大阪に於て其の施設を見たるは欣ぶべきである。

首都東京に於ては東京地下鐵道株式會社の淺草—新橋間、東京高速度鐵道株式會社の新橋—澁谷間の二線が開通し、安全にして迅速、しかも正確と快適を誇つてゐるが、之れ建設工事に從ひたるものゝ交通文化に貢獻したる功績は沒すべからざるものがある。

即ち東京地下鐵の日本橋—銀座、新橋間、東京高速度鐵道の新橋—虎の門間の工事を請負たる大倉土木株式會社の功績はもとより大なるものがある、然しこの數工區の下請工事者たる小松崎鐵工所佐藤國治氏の努力精進こそ寔に大、其の熱と力の涙ぐましい奮鬪は見るもの聞くものをして感動せずには置かぬものであらう。

而して東京地下鐵の日本橋—新橋間の數工區を見事に完成したる佐藤氏は更に東京高速度鐵道の新橋—虎の門間の四工區を擔當し、鋭意精進を累ねて遂に其の工事の完成を見たのは偉とするに足る。殊にこの二區は帝都地下鐵工事中の難工事と稱されてゐたにも拘らず、氏は自から第一線に立ちて工事從業員を指導し鞭撻し、その頗る當を得たる統率振りは熱誠なる努力と相俟つて着々成果を發揮し、所期の豫定通り完成を見るに至つたのは業界驚異の的となつてゐる。

斯の如く滿身熱と力に漲る佐藤氏は茨城縣眞壁郡下館町に於て出生、若冠にして勃々たる雄志を抱いて郷里を出でゝ上京し、業界に身を投じて刻苦艱難と戰ひつゝ將來の基礎を固め、短日月の間に獨立自營の飛躍を遂げた奮鬪家、現在にては小松崎鐵工所を統率して業運隆々たるものがある。而して同所は鐵骨、鐵筋、諸金物、水壓タンク、ボイラー等の製作工事一式を業としてゐるが、專ら大倉土木の下請工事請負をして名聲を博してゐる。かくて本據を上叙の如く月島東仲通り十一丁目二に設けてゐるが、最近に於て更に製作工場を月島東仲通り十丁目十二に置き、最近に於ける主なる工事を擧げると前述の地下鐵工事の他か吾妻橋、小松川橋、越中島橋、龜居橋等をはじめ數百橋に及んでゐると云ふ。以て業績の一端を窺知出來る。

資性豪放果敢、あくまで名利を斥けて行動し、たゞ至誠の大道を邁往するを以つて男子たるの矜りとしてゐる偉丈夫である。又世路風霜を經たる苦勞人丈けあつて掬すべき情味を有し、しかも仁俠の精神に富み正義のためには敢えて水火をも辭せざる烈々たる氣魄の持主として知られ從業員の敬慕を一身に蒐めつゝあり、氏も亦よく從業員を愛護して協力一致渾然一體となりて眞摯熱誠を傾けて邁往するところ昭々たる業績を擧げてゐる。

今や蔣政權に最後的鐵槌を下し、新東亞建設の大業も愈々曙光を見るに至らんとする近き將來に於て、大倉土木のこの新天地に活躍の亘歩を印すは必然的にして、斯の時にこそ熱血漢佐藤國治氏の眞の奮鬪は刮目に値ひするものがあらう。

株式會社
林製作所

取締役社長 德島佐一氏
專務取締役 林久太郎氏
常務取締役 白石博氏

東京市大森區五ヶ原町二二九
電話池上五六三番

生産力擴充の基礎は工作機械にあり、從つて其の充實如何は一國の産業並に軍備の實力を決するに至つてゐる。「將來戰の勝敗は工作機械の能力に依つて決定される」とまで斷定されてゐる位、國防と工作機械は密接不可分の關係にあり、工作機械の設備とその作業力とは一國産業力の高下を示すバロメーターであるが、現時のやうな國際間の對立狀態の下にあつては、之れまた國運の興廢を左右するものであるとも云へる。

されば工作機械工業の確立發展は、戰時下の日本が直面する緊急の問題で官民あげて其の增産に必死となつてゐる。この秋に當り株式會社林製作所の如き工作機械界に於ける現下の要望に應へて、從來の規模を擴張し優秀機械を設備し、優秀技術者並に熟練工多數を擁して産業報國の實を擧げるべく國策の一線を躍進しつゝある。

抑々當林製作所の發祥は昭和十二年四月を以て現專務取締役林久太郎氏が個人經營にて創業したものである。其後、時代の進展と加ふるに突如勃發した支那事變の影響により急激に發展した我が工業界の生産力擴充に即應すべく昭和十三年十一月に至りて株式會社組織に改めて內外の諸機構を擴張し、現下目本工業界の翹望する超高精度高能率工作機械の增産に擧社獻身、鋭意努力を捧げてゐる。

而して其の首腦陣容を擧げると取締役社長には德島佐一氏を推し、專務取締役の重席には林久太郎氏が列し、常務取務役の要椅には白石博氏が就き、取締役として德島佐太郎氏、野村實氏、矢田健二氏等があり、監査役として肥後藤吉氏、內田政男氏が擧げられてゐる。而して社長、專務、常務以下各重役諸氏は常に國家的見地に立脚して、産業報國を標榜して獻身的の努力を傾注し、其の統宰は一絲紊れざる整然たるものがあり、しかも多數從業員も滅私奉公の赤誠に燃えて之れに協力し、時局下益々業運を高揚せしめて不動の地歩を占めてゐる。

尙ほ常務取締役として縱橫に卓腕を發揮しつゝある白石博氏は明治二十九年を以つて福岡縣三井郡本郷村に於て呱々の聲を發す、夙に英明の資性を謳はれて郷黨より其の將來を囑望されてゐたが、學序を踏んで明治大學に進み政經科にありて其の蘊奥を極めたる後、大志を抱藏して渡支を決行し、上海にある方學院に於て支那文化の研鑽を累ねたる逸材である。

其後對支貿易に從事し着々として地歩を築きつゝありしが、今次事變の勃發を見たるために歸國し、爾後産業界の發展に力を致すべく林製作所の改組と共に入社し、常務取締役に擧げられるや不撓の精進努力を續けて身を惜しまず、錚々たる手腕を謳はれてゐる。

しかも本年四十五歳、年齢的から云ふても今後に大なる期待をもたれる少壯産業人の一人、其の實力的なることに於ては一段と鮮やかしく將來を約束されてゐる。其の滿々たる鬪志は何事も突破せざれば止まぬ氣慨があり、事に處して動ずることなく、常に遠大なる志望に燃えてゐる今や大東亞共榮圏の確歩されつゝある秋、氏の如き熱あり力ある士に俟つ處大である。

昭和産業株式會社上尾工場

工場長　伊藤正男氏

埼玉縣北足立郡上尾町谷津
電話上尾三五番

新興産業の花形たる昭和産業株式會社の上尾工場は、昭和十四年三月竣工した新鋭工場であり、總坪數は三萬餘坪、現在の建坪は約一萬數千坪であるが目下擴張中のものが完成した曉きには縣下隨一の大工場となり、從業員も現在の六百名が一躍二千人となると云ふ。以つて其の規模の如何に宏大なるかが想像出來やう。

而して當工場は製麥部、製飴部、製絨部に分れ、製産する品目を擧げると製麥、製粉、製飴、製菓、シルクール、絹毛、紡織であり、殊に世界的發明たる大豆蛋白纖維シルクールを製織することは當工場の誇りとするところであるが之れは正しく延いては我が國の大いなる誇りであると云へるのである。

以下當工場各部に就いて略述すると——。

製絨部では我が國現下の重要問題たる纖維工業の發展に資すべく、又羊毛、棉花等の輸入防止、緩和を圖るべく神奈川縣茅ケ崎の一宮工場から送付される世界的發明たるシルクール、フアイバーに絹毛を混毛し、之れを製織して大幅物の原反とする作業を行つてゐる。次ぎにこの原反は染色工場に送られて仕上げして製品となるのだが、近い將來に於ては染色工場も設置して、フアイバーから製品への一貫作業が行はれることゝなる。

製飴部では、甘藷澱粉から工業藥品たるグリコースや晒水飴の良品を生産して、食料問題解決の一端に資せんとしてゐる。

製麥部では戰時體制下にありて食糧問題の解決に又國民保健上の榮養に資すべく大麥、裸麥の製麥を行つてゐる。而して當工場の能力は本邦最大のものと稱されてゐる。

斯の如く國策に順應してゐる當工場の設備は完整されてをり、從業員の福祉增進、健康、慰安娯樂等にも細心の注意が拂はれてゐる。即ち工場内に設けてある運動場に於ては、休憩時間を利用してスポーツが奬勵され、又映畫會慰安會等も開催されてゐる。

又新設される寄宿舍には女工員數百人を收容し得られ、完成の上は内容外觀ともに充實した模範的寄宿舍となると聞く。

而して當工場長として統率の任を帶ぶるは、新進氣鋭の伊藤正男氏である。氏は明朗闊達な人格者であり、しかも高邁なる識見を藏してよく時流の動きを明察し、熾烈なる産業報國の精神の持主として知られてゐる。又抱擁力は大きく仁俠の氣風に富んでゐるので、全從業員の敬慕を一身に聚めてをり、氏も亦よく從業員を愛護して、全工場の協力一致の至情は他に餘り類を見ぬところである。かくてこそ業績の向上著るしきものがある所以である。

今や蔣政權最後の殲滅戰に移行すると共に、一方新東亞の建設事業も愈々曙光を見るに至り、益々重大なる時局下にあるの秋、當工場の如き國策に適應して擧社獻身的の精進をなしつゝあるは大いに意を强うする處である。

因みに、科學日本の精華たるシルクールとは何ぞ、大豆の蛋白質から良質の纖維をとることは今日斯界の定説となつてゐるが、恐らく大豆蛋白の利用研究に就いては我が國が世界をリードしてゐるもので、之れに就いては伊藤社長以下の苦心は實に容易ならぬものがあつた。

增淵鐵工所

所主　增淵東衞氏
支配人　伊藤芳郎氏

營業所
第一工場　川口市榮町一ノ四五　電話川口二六六・二六六三番
第二工場　川口市金山町二〇九　電話川口二一六八番

工作機械は生産力擴充の基礎であり、從つてその充實如何は一國の産業並に軍備の實力を決するに至ると云ふも過言ではない。實に國防と工作機械は密接不可分の關係にあり、工作機械の設備とその作業力とは、一國産業力の高下を示すバロメーターである。されば工作機械工業の確立發展は戰時下にありて最も急務とされてゐる。

この秋に當り增淵鐵工所の如きは現下の要望に適ふ代表的のものである。同所は明治三十七年以來の豐富なる經驗と老練なる技術を以つて性能優秀なる製品を生み、殊に正面盤に至つては各方面より絶讃を博しつゝある。

抑々同所は初代中右衞門氏が明治三十七年三田松坂町に創業したものにして、次で業を繼承したる先代肇氏は明識あり將來を考慮して川口市に移轉、當初は金山町に工場を設立、營業を開始し、第一次歐州大戰に際會して俄然飛躍をなし、大いに業礎を固めるに至つた。昭和二年引退して業の一切を當主東衞氏に讓り、之れを繼承した氏は先代の指導と相俟つて天賦の才能を發揮し、業績大いに擧り生産能力の擴充に迫られ、昭和四年七月現在の榮町一丁目に新工場を建設したが、滿洲事變、今次事變に際會して愈々業運の隆興を見、昭和十二年六月には營業所附近の新工場を第一工場となして增築、金山町の舊工場を第二工場として設備の完整を期し、殺到する受注の消化に努めつゝ今日に至り、其の不動の業礎は益々鞏固なるものがある。かくて工作機械製作界に雄飛し、名聲赫々として斯界に喧傳されてゐる。

而して第一工場は敷地千百數十坪、作業所二棟百十三坪、第二工場は敷地四百數十坪、作業所二棟百五十坪にして、その機械設備は新鋭優秀を誇ると共に經驗と老練の技術員を擁し、絶えず新知識を取入れ技術、構造材料等の研究は常に怠ることなく、良品の製作に沒頭しつゝあり、主なるものとしては正面盤、プレーニングマシン、シエーピングマシン其他である。其の納入先は陸海軍關係をはじめ日本鐵、日産化學工業、滿鐵、日本電波、日本ビストンリング、朝鮮理研金屬、大阪鐵工、小松製作、日立製作、立川飛行機、正田飛行機、富士電氣、淺野物産、三井物産等であるが、更らに大陸方面へ進出を企圖してゐると聞く。

而して當主東衞氏明治四十一年の出生、工學院に學びたる後は父君の指導を受けて第一線に立ちて實際に精進を累ねたる逸材。業を承けるや至誠を以つて臨み、良心的の製作をなして益々名聲を高揚せしめてゐる資性、温厚篤實にして氣韻高雅、しかも裡に烈々たる産業報國の赤誠を藏してゐるところ少壯産業人の典型である。

又た氏を扶けて伊藤芳郎氏が支配人として、卓腕を發揮してゐるが、伊藤氏は明治大學卒業の逸材、明朗闊達にして明識あり、同所の前途は愈々大である。

株式會社 關東機械製作所

取締役會長　小林采男氏
取締役社長　富松梅太郎氏
取締役副社長　小池爲一氏
專務取締役　齋藤東海氏
常務取締役　稲垣軍平氏
常務取締役　林部榮氏

本社　京城府黄金町二ノ一九九
電話本局代表八一四一番
東京　川口市青木町二ノ三三〇〇
工場　電話代表川口三〇六〇番

鑛山用及び土木建築用機械製作販賣、輸送用機械製作販賣、索道設計製作架設工事請負、採鑛、選鑛、製錬所の設計工事請負を營業とする株式會社關東機械製作所は特自の技術を以て斯界に鳴り、名聲嘖々たるものがある。

抑々當社の發祥は大正十四年九月、合名會社關東機械製作所として設立されたもの、當時に於て未だ國産品の稀れなる時期に於て鑛山、土木、建築、輸送用機械の製作に當り、多年の研鑽を累ねたる成果を世に問ふべく關東式と稱して市販に努め、漸次其の眞價を認められて遂に外國輸入品を驅逐して好評を博するに至り、其後工場を東京府より川口市に移し擴張するに及び、其の生産額も增大し、愈々隆々たる業績を擧げ斷然斯界に雄飛しつゝあつた。

然るに資源開發の國策に從ひ、鑛山用機械の需要增大に鑑み、昭和十三年二月資本金一百萬圓の株式會社關東機械製作所を設立し、本店を京城府黄金町二丁目に置き更らに東京工場を擴張すると共に、朝鮮鑛山界に貢獻すべく新たに工場を京城府道林町に新設し、尙ほ昭和十四年四月株式會社昭和工作所を買收合併し、其の營業權を繼承し今日に及んでゐる。又た當社京城工場は更に擴張の豫定にして、將來益々設備の完整と技術の練磨に依り、優秀機械の生産に邁進すべく、不撓の努力を傾注して精進しつゝある。而して現在當社の首腦部は取締役會長として小林采男氏を推し、取締役社長には富松梅太郎氏が擧げられ、取締役副社長に小池爲一氏があり專務取締役に齋藤東海氏、常務取締役に稲垣軍平氏、林部榮氏の二氏、取締役としては平井千乘氏、三好悟氏が監査役小木直定氏、堀内純一氏があり、前記本社並に工場の外に東京出張所を麴町區丸ノ内丸ビル内に大阪出張所を大阪市西區薩摩堀西久町に設け、東西相俟つつて販路の全國的擴張を圖りつゝある。

今日までの主なる納入先を擧げると、宮内省帝室林野局、陸海軍關係、内務省の關係、農林省、朝鮮總督府關係、東京府廳、東京市役所、大阪市役所、愛知縣廳、岐阜縣廳、岩手縣廳、横濱市役所、佐世保市役所、滿洲國中央銀行等各官公衙方面をはじめ民間では間組、西松組、日本土木建築、飛島組、戸田組、飛田組、中央土木、日滿土木、鐵道工業、橋本工業、大林組、大倉土木、竹田組、松村組、安藤組、清水組、鐵高組等の一流土木建築關係、三井鑛山、住友鑛業、久原鑛業、日本産金振興、東洋拓殖、東洋鋼材、東邦電力、朝鮮鑛業、中外鑛業、朝鮮電力、礦々商店、範多商店、日本高周波、大同電力、横山工業、淺野セメント、小野田セメント等の一流會社工場にして何れも好評を博してゐる。

而して社首腦部には有識有材の士を網羅してゐるが、東京工場にありて内外の業務を擔當する稲垣常務は常に産業立國、技術報國の精神を有し、戰時體制下にありて生産力擴充の一助たるべく眞摯なる努力を捧げてゐる。

昭和機械工業株式會社

取締役社長　上野豐雄氏
專務取締役　谷口武雄氏

川口市並木町一ノ二七八二
電話川口二四七二番

聖戰貫徹、東亞新秩序の建設下にあつて、生産力擴充が銃後産業人の責務であることは、今更ら玆に論ずるまでもない。之れに順應したる會社工場が、生産規模を擴大し、飽くまで時局に添ふべく精進しつゝあるのは當然のことであらう。

輓近、工業都市として發展しつゝある川口市並木町にある昭和機械工業株式會社の如きも其の一つ、即ち同社は昭和九年四月合資會社昭和製作所として創立され、各種起重機、鑛山機械、土木機械、各種汽罐及びタンク、鑄物工場用機械器具の製作を營業としてゐたが、昭和十三年八月時變下に於ける生産力擴充に順應すべく組織を改め、昭和機械工業株式會社を設立し、更らに内容諸設備を强化完整して遺憾なく、益々卓越せる技能を發揮して優良品の生産に努力し、隆々たる業運にあり、同所の主なる納入先は鐵道省をはじめ新潟鐵工所、大日本鹽業株式會社、理研前橋工場同じく王子工場、中島飛行機製作所等の外鐵工所、鑄物工場等三百餘工場が算へられてゐる。

而して現在資本金は參拾萬圓にして、重役陣には取締役社長として上野豐雄氏が擧げられ、專務取締役としては谷口武雄氏がありて、内外業務を擔當して縱横無碍なる卓腕を揮つてゐる。

氏は明治四十年八月二十五日を以つて茨城縣の人谷口仙吉氏の長男として呱々の聲を擧げ、夙に栃木縣立眞岡農學校に學びて卒業するや直に下館稅務署に奉職、精勵恪勤を謳はれてゐたが、生來篤學の氏は更らに上京して中央大學法學部にありて螢雪の功を累ね、同校を卒業したる後尙ほも大學院研究室に於て法學博士平井彦三郎氏指導の下に孜々として法學の蘊奥を究めたと云ふ逸材である。然るに其後志を轉じて工業界に雄飛すべく敢然身を業界に投じて精進努力、遂に今日ある地歩を占むるに至つた。

資性、溫厚篤實にして人格の高潔なるところ稀れに觀るの士として社内外の信望篤きものがあり、鈍々たる名聲を馳せてゐる。しかも、識見高邁にして能く時流の動きを洞察し、之れに順應せる堅實なる經營方針の下に着々業礎を鞏固ならしめてゐるのは、異數の手腕家として推稱するに足る。

而かも氏は從業員に對する理解も深く、彼等を遇するに自己の子弟の如き愛護を以つてするは、氏の人に長たるの素質を雄辯に物語つてゐる從業員も亦氏を畏敬し信賴して和氣靄々裡にありて各自の責務を果しつゝある。之れ益々社運を隆興せしめる一因ではあるまいか。

趣味は讀書、旅行、登山にして、業餘閑暇を得れば淨机に倚りて東西の書に親しみて敎養を高め、或ひは又た山野を跋渉して大自然の景觀に觸れ、浩然の英氣を涵ふと聞く。

家庭には令閨悅子夫人ありて淑德高く、夫人は上野社長の女にして宇都宮高女卒業の才媛であり、其間に令嗣定雄君を擧げて清福なり。

（寫眞は谷口專務）

日本鑄造株式會社

取締役・工場長　山上秀雄氏

神奈川縣川崎市白石町三
電話川崎六六五—七四四七五—五番
電話鶴見四〇八五—七番

輓近急速度の發展を遂げつゝある躍進工業日本の一分野に、其の製品の技巧精緻なるを誇り、斷然他の追從を許さゞる處の日本鑄造株式會社がある。陸軍省、海軍省、鐵道省、帝國海軍協會、英國ロイド協會等の指定工場として斯界に重きをなしつゝあるは其實質上當然であろう。

當社は大正九年九月淺野總一郎氏に依りて創立され同時に鶴見工場を建設し、並通鑄鐵及び合金類の鑄造を開始したもので、爾來徐々として發展の順路を辿り、一時財界不況の餘波を受け、相當に苦難の道を歩みし時もあつたが、堅實なる營業方針の下に能く之れを克服して着々業礎を固め、遂に今日あるの隆昌を招致するに至つた。而して昭和三年四月には事業の擴張を企畫し、更に昭和九年十月に及んで益々規模を擴大して並通鑄銅の外、滿俺銅等の特殊鑄銅品を製作するに至り殊に最近は工場及び機械の增設並に諸設備の改善を爲して内容の充實を圖り、上述の如く多くの指定工場として諸官衙諸會社より多大の推賞を蒙りつゝある。

現在の工場設備は總坪數數千坪を有し、鑄物工場、機械工場、木型工場外に研究室等を設けて優秀なる最新式の機械を備へ、鑄鐵品、鑄銅品、合金類等の製作に從事し、其製品は何れも多年の經驗と卓越せる技倆とに依りて斯界に定評あるもの、今や戰時下生産擴充に全力を擧げつゝある秋、同社の一大飛躍は期して俟つべきものが多い。

同社をして今日あらしめたる主腦部の功績は洵に沒すべからざるものがあるが就中同社取締役にして川崎及鶴見工場長として同社第一線に活躍し、よく實績を擧げて衆望を據ひつゝある處の我が山上秀雄氏の存在は當社發展史に缺くべからざる偉材である。氏は明治二十四年一月四日長野縣に於て本多政庸氏の長男として出生、夙に俊敏の聞え高く、山形縣士族山上幸平氏に望まれて同家の養子となり、夙に工業界に志して東京高工に學び、斯道の眞諦を極めて大正三年同校を卒業、直に芝浦製作所に招かれ、孜々として研鑽を積みつゝありしが、本社に聘せられて今日に至つてゐる。其の間氏の至誠一貫せる精勵恪勤はよく認められて遂次累進し、昭和十三年には取締役兼工場長の重椅に推されるに至つた。而して爾來、多年研鑽を累ねたる實際的技術と、質實剛健而かも從横無碍なる卓腕を揮ひ、同社今日の隆盛に甚大なる功績を現し、錚々たる聲名を謳はれてゐる。

又、今日あると雖も常に事業に對するの研究を怠らず、從業員を督勵し自から第一線に立ちて活躍す、更らに從業員に對しても全く慈父の心を以つてし、彼等も氏に對して敬慕措かざるものあり、兩者間靄然たる和氣に滿ち、一絲亂れざる統制を示してゐる。蓋し氏の資材人格の致すところと云ふべし。

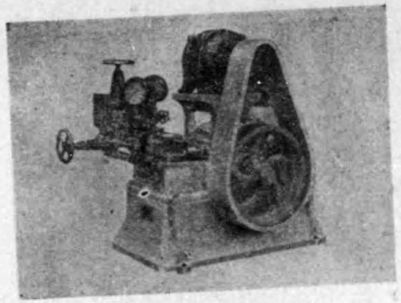
家庭には内助の功厚く淑德の譽れを以つて聞ゆる慶子夫人あり、（夫人は千葉縣の出生、山河俊雄氏の令姉にして實踐高女出身の才媛）その間に長男恒雄君（縣立二中在）二男健次郎君、三男司朗君の三男に長女和子孃（川崎高女卒業後實踐高女專門部を卒業）二女信子孃（東京家政女學校在學）三女照子孃（川崎高女在學中）の三令孃があり、家庭内は常に春風堂に滿ちて和氣靄々たるものがあり、近隣の羨望を集めてゐる。尙氏の自邸は川崎市京町にある。

株式會社三丸鐵工所

代表取締役　高橋恒信氏

靜岡縣沼津市二枚橋日ノ出町
電話一六一〇番

今次の支那事變には、單に武力のみならず國家の有する凡ゆる總動員を斷行することに依りて、初めて聖戰目的の最後的終末を告ぐることが可能なのである。



從つて、産業界に於ける大會社中少工場を問はず、總べての機能を十分に發揮せしめ、今や斷末魔に喘ぐ蔣政權に對して徹底的擊滅の銃火を浴びせてゐるのであるが、その赫々たる戰果は素より忠勇義烈なる我が皇軍の武勳に因由するのは云ふ迄もないが、尙ほその背後にありて孜々奮勵しつゝある産業戰士の功勞を、斷じて看過することは出來ない。

玆に擧ぐる三丸鐵工所は、この意味に於て銃後産業戰士の一環をなすものと云はざるを得ないのである。

抑々當鐵工所は、既に大正七年三月に創業せるものであつて、今日に至る迄に二十有餘年の尊い沿革を有し、他の時局に乘したる新設工場など、到底日を同じうして論ずべからざるものがある。當初は個人經營の下に營業したるも、漸次業の伸展と共に組織を變更、昭和九年十二月には資本金五萬圓（全額拂込濟）にて株式會社となし、以來一層業勢を擴大して昭和十四年に增資を試み、現在にては資本金十九萬圓に及んでゐる。

而して、當鐵工所の現在の營業種目をあぐれば、酪農機械、製菓、罐詰、農産物加工特殊砲金鑄造、各種機械製作であるが、特にヒスクラッザーは當鐵工所にて特許を獲得したる卓拔なる性能を有するもの、發明博覽會其他に於て受賞されてゐる。優良國産品均質機として名聲を各方面に謳はれつゝある。販路は主として縣下一圓ではあるが全國各地に及んでゐるも、最近は航空機自動車部分品製作を專らとして殷賑を極む。

之れ等は何れも他工場などの企及されぬほどの卓越した技術と取引上の堅實性を發揮してゐるのであるが、寔に多年に亘りて培はれ練磨と經營主腦者高橋恒信氏その人の、責任感と人格美とに基因するものと云はざるを得ない。三枚橋日の出町の現工場は、其の規模が徒らに尨大ならずと雖も、諸施設は完整したる理想的のものにして、從業員また技術の至練なる優良のみである。故に今日ある隆々たる盛名あり。

偖て、當鐵工所の代表取締役の要椅にありて内外の業務一切を綜覽し縱横に卓腕を發揮してゐる逸材は、高橋恒信氏である。氏は不惑を越ゆること一歲、所謂働き盛りの少壯産業人にして、滿身熱と力の結晶の如く、難に逢着すれども些かも動ずることなく、不退轉の勇猛心を以つて之れを克服、着々として大を築くに至つた。

資性、敦厚篤實にしてしかも高潔なる人格の持主、人に接するや凜然たる裡にも春風駘蕩たる感あるは、多年練磨の圓熟せる風格の然らしむところ、當地有數の工業家として名聲を博し信望がある。又た沼津鐵工機械工業組合長の要席に擧げられて斯界の向上發展に盡瘁し功勞甚大なるものがある。

株式會社 清朝機械製作所吉原工場

常務取締役 築井朝一郎氏
靜岡縣富士郡吉原町俠田原
電話 吉原二一五番

偉れたる事業、秀れたる人の背後には、常に並々ならぬ努力精進が伴つてゐる。努力なくしては何事も成就するものではない。古來より秀れたる事業と云はれ、秀れたる人と云はるゝものは、即ち努力精進の結晶に他かならないのである。加ふるに時流の趨勢を見きはめて進退をする明識なくば、到底大を成すことは不可能と稱してもよい。明識あり努力ある人の主宰經營する事業は、年を遂ふて大を築くことが明白である。其の好き例を次に擧げる。

靈峰富士山麓に連なる吉原町一帶は夙に工業地帶として知られてゐるが、其の吉原町に於ける業界の最高峰を往く者に我が清朝機械製作所吉原工場がある。抑々同工場は最初にありては金子清太郎氏、筑井朝一郎氏の合資に依りて大正十四年に創立されたもの、爾來兩氏の不撓不屈の精進努力に依りて着々として大を加へ、業績見るべきものがあつた。而して斯業界に練達せる筑井氏の營業方針は毫も不安なる處なく、生産する一般機械類は滿洲炭鑛、東京人絹をはじめ其他の大會社に納入されて優秀を謳はれ、隆々たる社運を齎らすに至つたものである。

併し、慧眼なる氏は今次事變勃發するや工業界の黄金時代の到來することに着目し、更らに機構の擴充を圖りて殺到する受註を消化すべく意を決し、昭和十三年株式會社に組織を變更し、資本金百萬圓を擁し、新たに社長として名取恒弘氏を擧げ、副社長に金子清太郎氏を推し、專務取締役として倉林忠七氏、常務取締役筑井朝一郎氏、名取昌義氏と云ふ堂々たる陣容を以つて斯界に臨んでゐる。しかも、重役諸氏何れも産業報國を念じて努力をするところ社運隆昌の一途にある。

かくて、本社を東京市京橋區築地に置き、工場は吉原工場をはじめ東京蒲田、沼津の二ヶ所に設けて株式會社清朝機械製作所の名は益々昂揚されつゝある。而して當吉原工場を統宰する筑井氏は群馬縣桐生市の人明治二十年の生れである。夙に工業界に自己の將來を求めて、精勵し、其後鄕里に於て鐵工業を興したことがあり、豐富なる經驗と卓拔なる手腕の持主として知られてゐる。

最近までは富士鐵工工業組合副組合長の要椅に擧げられ、斯業界の向上發達に留意すると共に業者の福祉增進に盡瘁し、沒すべからざる功績があり、又自給公共の念にも篤く、吉原町會議員に推薦されること二期現在其の任にありて町政の刷新に參劃して寄與するところ大、信望を一身に擔つてゐる。

資性温厚にして篤實、加ふるに人格高潔にして名利に淡白なる處、私利私慾にのみ汲々たる業人と類を異にし、信用誠實本位を以つて業に臨んでゐる。しかも居常謙遜の德を發揮するのは敎養の高さを物語つて餘りがある。

家庭には長男和一郎君（足利工業卒業）の他に子女五人に惠まれ、和氣靄々たるものがあり、しかも子女は氏の資性を承けて秀明の譽れがある。

今や我が國の銃後産業界は新東亞建設の大業がいよ／＼其の緒に就き益々重大なる時機に際會してゐるのであり、生産擴充以つて國力の增强をはからねばならぬ。此の秋同社の如き學社獻身して總力戰の一環たるべく精進しつゝあるは欣ぶべきである。

芝浦マツダ工業株式會社

東京市品川區大井關ヶ原町一三〇五
電話大森七五四一番（代）八五四一番（代）

芝浦電氣冷凍器、同裝置、芝浦電氣掃除機、電氣洗濯機、電氣ポンプ電熱器類、電氣保健機、小型空氣調和裝置、マツダ電氣時計、マツダ擴聲裝置、時間記錄器の他、タンガロイ、タイヤロイ、其他附帶工具一式を營業品目とする芝浦マツダ工業株式會社は資本金五百萬圓、工場を大井關ヶ原と川崎市に特殊合金工具製作所とを有し、營業所は東京營業所を東京銀座マツダビル内に置く、大阪、名古屋、福岡、廣島、小倉、京都、神戸、京城、臺灣、大連、新京に設けてある。

抑々當社は昭和十一年大井電氣株式會社の名稱にて芝浦製作所、東京電氣株式會社に依りて設立されたもの、而して兩社の研究苦心の所産たる家庭電氣器具の製作販賣に從ひ、優秀なる國産品を提供して名聲があり、社業の隆盛を招くと共に生産設備を擴張し、昭和十一年十二月芝浦マツダ工業株式會社と改稱するに至つた。又昭和十二年三月特殊合金工具株式會社を（東京電氣・芝浦製作共同出資にて昭和九年設立）合併して其の主要製品たるタンガロイ、ダイヤロイに依り近代工業躍進時代に於ける生産能力の高度化と國際非常時局に際し經濟上軍事上重要なる役割を擔當しつゝある。

斯くして不動の業礎を誇り斯界の最高峰にある當社の將來は既に約束されたかの感がある。現在重役陣は代表取締役に國安邦一、津守豐治の二氏があり、卓腕を縱横に發揮しつゝある。

日本鋼管販賣株式會社

東京市麹町區丸ノ内二ノ二〇
電話丸ノ内一八六三番三九九一番

東亞新秩序建設のため、政府當局は複雜怪奇なる列國の動向を注視しつゝ鋭意軍備の充實と生産力の擴充を期すべく、國家總動員法を全面的に發動し以つて統制を更に强化しつゝある。

而して此間にありて當日本鋼管販賣株式會社は、商工省指示の鋼管配給機構整備要綱其他に基き、鋼管共同販賣組合員たる鋼管製造業者と一手販賣契約の締結をなすと共に、鋼管指定問屋を選定して東西兩方面別に商業組合の結成を遂め、鋼管共同販賣組合の再製用材料管問屋並に其問屋組合を其の儘繼承指定する等專ら配給機構の完備に努め、又製造業者より既契約品の引繼事務を開始し、他方問屋より手持切符を提示せしめ浮遊切符の整理をなし、緊急品の賣出をなす等順次適切有効なる諸方策を講じつゝあり、從つて需要の跛行も着々緩和せられてゐる。

當社は既に期を重ること九期、堅實なる基礎に立脚し、昭和十四年十一月より現社名に改め、年末より本店を丸ノ内に移したが、現在の首腦部は次の通りであり、向後益々統制の强化と共に其責務たるや重且つ大なるものがある。

重役陣は、社長に白石元治郎氏を擧げ專務取締役小泉澄、常務取締役渡邊正人の二氏がありて卓腕を揮ひ、取締役には澁谷正雄、河村龍夫、稻垣平太郎、井上長太夫、齋藤長八郎、石橋豊藏、野口穣、吉武德三、茶谷順次の諸氏又監査役に北川源次郎、井上萬吉氏がある。

東京芝浦電氣株式會社
マツダ支社東京出張所

所長 合田享氏

東京市京橋區銀座西五ノ二
電話銀座代表五五七一—六番
一八九番

マツダランプ、マツダ眞空管の製造元たる當社の營業品目は多岐多樣に亘つてゐるが、主なるものを擧げると電球、電氣計器類、配線器具、配線材料、照明器具（屋内・屋外）ラヂオ用機械器具、醫療用器機、物理製品、化學製品、金屬製品等であり、本社を川崎市に置き、東京事務所を銀座西マツダビル内に設け、賣店を銀座、新宿に置いてあり、大阪にては事務所を西淀川區に置き心齋橋筋に賣店を設け、其他京都、金澤、廣島、名古屋、札幌、仙臺、福岡、小倉、臺北、京城、上海、天津に出張所があり、其の販賣網は全國的より大陸にまで進出しつゝある。

而して東京出張所を主宰するは合田享氏であるが、氏は明治二十年を以て新潟縣に出生、學序を經て東京外國語學校に學びて之れを卒業した逸材である。當社入社以來は精勵恪勤、着々地位を進めて現在の東京出張所長の要椅に就く。而かして、識見高邁にして卓腕があり、人格また高潔、常に經營の方針を需要者の福祉增進を目標とし、產業文化の第一線にありて、鋭意業務に精勵し昭々たる業績を擧げてゐる。

又從業員に對する理解深く、彼等に對するに慈父の如き愛を以つてし又、從業員より大なる信用を受けてゐる。

切に加餐自愛を祈つて止まない。

生命保險會社協會

東京市丸ノ内三ノ四生命保險會館内
電話丸ノ内一〇一七番 一〇一八番 一〇一九番

非常時國策の達成に協力して保險報國を標榜し、着々實績を擧げつゝある生命保險會社協會の設立は相當古く、社團法人組織を以つて設立されて頭書の地に事務所を置いてある。

其の目的とするところは、生命保險事業の進步發達を圖るに必要なる諸般の方法を研鑽すること、生命保險の學理及び實務を研究し、事業の改善に資する諸般の設備をなすこと、業者相互の交情を溫め、且つ社交を擴むる機關を設くること、生命保險に對する社會の認識を高めるに必要とする方法を講ずることの四大項目であり、之れが實踐に協會首腦部以下社員會社に於て努力をなしてゐる。

而して現在の社員會社は、板谷生命保險、日本生命保險、日本徵兵保險、日華生命保險、日清生命保險、千代田生命保險、片倉生命保險、太平生命保險、太陽生命保險、大正生命保險、第一生命保險、第一徵兵保險、大同生命保險、野村生命保險、安田生命保險、前川生命保險、富國徵兵保險、富士生命保險、福德生命保險、福壽生命保險、國華徵兵保險、帝國生命保險、愛國生命保險、有隣生命保險、明治生命保險、三井生命保險、昭和生命保險、仁壽生命保險、住友生命保險の二九會社である。

因みに常務理事は田卷助三郎氏、書記長は畠山重昌氏である。

帝國火災保險株式會社

東京市麴町區内幸町二ノ九
電話銀座自五五八一 至五五八六番

火災保險界の雄たる帝國火災保險株式會社は堅實、親切、公正の三方針を以て明治四十五年四月創立され、現在資本金一千萬圓を擁し、保險契約高は十二億一千萬圓に達してゐる。而して經營主體は堅實無比の定評ある東京川崎家が中心となり、各地の一流實業家と聯繫してをり、大阪、京都、名古屋、神戸、横濱、福岡、仙臺、新京に支店を置き、不動の業礎を築いてゐる。

其の營業種目を擧げると火災保險をはじめ、海上、運送、森林、傷害自動車、信用等にして、重役陣には社長として川崎甲子男氏があげられ常務取締役に加倉井謙吉氏があり、取締役に久米平八郎、山崎清、橋本龍一、早川成一、近藤利兵衞の諸氏又取締役支配人として寺田宗一氏がある。常任監査役に上條恒二氏、監査役に早川萬一、白勢量作の二氏、支配人代理に川崎豐氏相談役として川崎肇、川崎守之助の二氏がある他協議役に田中一馬、下出義雄、柳父昌一、伊藤豐、濱岡清次の諸氏が列して堂々たる威容を示してゐる。

常務取締役の要椅にある加倉井謙吉氏は明治四十四年の出生、慶大法科を卒業した俊才英明の士、川崎八郎右衞門氏の四男として生を享けたが、加倉井家を繼いで同姓を名乘つてゐる。能く時流に適應した經營方針を立てゝ誤ることなく、益々社業の隆興を大ならしめてゐる。當社の他、株式會社定德會取締役、日本火災保險取締役等を兼ねてゐる。

朝日鑛業株式會社

東京市麴町區丸ノ内昭和ビル内
電話丸ノ内代表六〇一九 三六五五番

生產力擴充計畫遂行のため石炭の需要は愈々激增しつつあり、炭鑛業者に在つてはこの國策に順應せんとして何れも增產に懸命の努力を拂ひつゝある。

我が朝日鑛業株式會社も其の一つ、同社は資本金六百五十萬圓にして既に期を累ねること十二回に及び、本社を丸ノ内昭和ビル内に置き札幌支店を札幌市北三條西二丁目に、出張所を名古屋市東區久屋町四丁目と北海道留萌町に設けてあり、又坑務所は北海道空知郡栗澤村美流渡、同白糠郡音別村、同空知郡芦別村上芦別に置いてあり、其の所有鑛區は、石炭鑛區として前記栗澤村美流渡に一ケ所、芦別村に二ケ所、音別村に四ケ所、留萌村に二ケ所を有し、硫黃鑛區は青森縣中津輕郡岩木村に、硅砂鑛區は朝鮮忠淸南道保塚郡鰲川面に三ケ所ある。

而して現在の重役陣は取締役社長として村上禮亮氏があり專務取締役に村上良平氏があり、取締役に原吉雄氏があり、監査役として伊藤成裕氏、國谷任男氏、曾我正一氏が列してゐる。

尙ほ專務取締役村上良平氏は明治三十八年九月の生れ、父君は村上禮亮氏にして其の長男である。愛媛縣松山商業學校に學びて卒業後は父君を扶けて朝日鑛業の社業振興に精勵しつゝある逸材。又日本採石工業株式會社重役としても卓腕を揮つてゐる。資性敦厚にして溯達よく事業の重大使命を認識して滅私奉公の念に燃ゆるところ將來を期待さる。

小梅染絨所

支配人　**大住勝美**

東京市日本橋區堀留町一ノ四
電話茅場町六五五二番

資性篤實にして謹直、而かも達識長眠の士たる名に背かず、克く時流を觀察するの明ありて善處し、其の溫情流露たる人格と相俟つて超凡の才腕を謳はれつゝある我が大住勝美氏の存在は洵に輝しきものがある。

氏は香川縣の人にして、明治三十七年九月十七日を以つて呱々の聲を擧げ、夙に聰明俊敏の譽れ高く、鄕校を卒えるや更に中學校に進みたるも、東都雄飛の希望に燃えて學半ばにして上京し、京北實業學校に學び孜々として螢雪の功を積み、次で法政大學に入學して切瑳琢磨、よく學生の本分を守りつゝありしが、思ふ處ありて敢然實業界に身を投じ、小梅染を以つて聞えたる小梅染絨所に入社し、精勵恪勤、業運の進展に擧つて力があり、着々とその地歩を獲得して支配人の要職に就きて今日に至つてゐる。

尙氏は今事變に際して勇躍應召出征し、中支、北支と轉戰して、文字通り砲煙彈雨の中を馳驅し、赫々たる武勳を樹て二年目にして目出度凱旋せる勇士である。寔に氏の如きは出でゝは國家の第一線に活躍して武勳を樹て入りては忠良なる臣民として自己の職業に忠實なるは、後進の生きた教訓として推稱するに足る存在である。

家庭には氏を扶けて內助の功顯著なる得子夫人あり、その間に明子孃を儲けて、和氣靄々たるものがあり近隣の羨望をうけつゝあると聞く。

東京護謨株式會社

常務取締役　小島正次郎氏
自宅　東京市淀橋區西落合一ノ三〇
電話落合長崎二四八五番

帝都護謨製造業界の代表的株式會社として既に業勢隆々たるものに我が東京護謨株式會社がある。本社を東京市淀橋區上落合一ノ一一九に置きて、これを統率する幹部諸士は、先づ常務取締役に小島正治郎氏を擧げ、取締役に小高義一氏、陸川辰五郎氏、金井禮重氏、竹內榮次氏、監査役に永井外吉氏、汲田半太郎氏の錚々たる人物を網羅し堅實無比の營業方針の下に着々隆盛を加へ、鐵道省、軍部方面に納入して信望を博してゐたが、四五年前、日本ゴムを買收して專ら軍部の需要に應じてゐる。

常務取締役小島正治郎氏は、明治卅五年一月、栃木縣人卯八氏の二男として呱々の聲を擧げた。學序を經て東京早稻田大學に入學し、孜々として勉學に努め、昭和六年功成りて同校を卒業するや直に本社に迎えられ、爾來精勵恪勤して銳意社運の興隆、斯界の發展に貢獻する處尠からず、着々信任を得て累進し、遂に今日の大をなすに至つたものである。

資性溫厚にして篤實、其の卓腕は益々銳鋒を加へ、獨自の見識を以つて克く職責を完ふする所、同社を躍進的發展に導き、今や斯界有數の代表的會社の榮冠を贏ち得てゐる。家庭には、明治四十二年生れの才色兼備せる夫人淑子氏ありて、その間に長男正君（昭和六年）三男康男君（昭和十二年）生れの二男に惠まれ、家庭內は常に和氣靄々として近隣の羨望をうけつゝあると聞く。

陸王內燃機株式會社

支配人　**椿祥次氏**

工場　東京市赤坂區溜池町一二
自宅　東京市杉並區高圓寺ノ六六
電話中野三六四六番

今事變勃發以來、諸工業の勃興飛躍は正に劃期的壯觀とも云ふべく躍進工業日本の盛名を世界に冠たらしめ、其白熱的盛觀の裡に幾多斯業者絢爛豪華の製作販賣戰を演じつゝあるが、帝都凡百の內燃機製作所中の雄陸王內燃機關の如きは製品の優秀、堅實なる營業方針に依る業運の躍進振りは他に求め難き處であらう。而して同社發展の爲めに獻身的努力を捧げつゝある我が椿祥次氏の功績も沒すべからざるものがある。

氏は明治十五年十二月二十一日熊本縣に出生し、學序を經て山口高等商業學校に學び、明治四十五年同校を卒業するや興東貿易株式會社に入社、次で大正十四年ハーレーダビットソン株式會社に轉じ遂次重用されて累進し、庶務課長兼會計課長としてその才腕を縱橫に揮ひ、社運の隆盛に甚大なる貢獻をなしつゝありしが、思ふ處ありて同社を辭し、現社たる陸王內燃機株式會社に入社した。而して爾來、益々圓熟を加へつゝある手腕識見を發揮して精勵恪勤し、只管社の隆盛を思ひて他念なく令名燦然と輝てゐる。尙興東貿易株式會社の支配人をも兼ねてゐる。

家庭には內助の功篤き梅子夫人ありて、その間に二男辰夫君、長女久子孃、二女直子孃があり、辰夫君は府立一中を經て商科大學を卒業した秀才にして目下中島飛行機製作所に勤務し、久子孃は府立第五女學校に在學中の才媛である。

萩工業貿易株式會社

常務取締役
總務部長　**諸藤秀雄氏**

東京市蒲田區女塚三ノ二〇

志を國家の大局に置き、國際親善以て國富を增進せんと欲すれば、須らく對外的に折衝して外國貿易を旺盛ならしむるに如はない。我が萩工業貿易株式會社は此の高邁なる識見に立脚して業を營み、斯界に侮り難き勢力を扶殖しつゝあるは社長を始め主腦部諸氏の獻身的努力に俟つ處大なるものあり、就中當社常務取締役兼總務部長の要椅にある諸藤秀雄氏の如きはその尤たるものにして、常に至誠一貫、只管社運の興隆を念じて努力奮鬪し、着々業績を擧げつゝある偉材の士である。

氏は明治四十年十月卅日を以つて神奈川縣大磯町諸藤米三郎氏の三男として呱々の聲を擧げ、夙に俊敏英才を以つて聞え將來に多大の期待を受けつゝありしが、長ずるに及び益々その銳鋒を現して大正十年本社に入社、孜々として精勵恪勤する傍ら、愈ゆるが如き向學心を以つて東京主計商業學校に入學し、昭和元年同校を卒ふるや更に明治大學法學部に進みて螢雪の功を積み昭和四年優秀なる成績を以て同校を卒業した。斯くて多年の刻苦精勵は主腦部の認むる所となり、遂次累進して昭和七年取締役の重席に推され、次で昭和十四年六月常務取締兼總務部長に榮進し尙萩工業調理機製造株式會社取締役も兼任して今日に至つてゐる。

家庭には慶應二年生れの母堂を始め、貞淑溫和なる靜夫人との間長女千代子次女恒子の二孃を擧げて、和氣靄々たるものがある。

株式會社

浪速機械三河島製作所

東京市瀧野川區田端新町二一二
電話下谷三四〇五・四四〇五・四八〇五番

聖戰三年餘、擧國新秩序建設に邁進しつゝある時、偶々歐洲戰亂の勃發に際會して益々重要性を加へたる我が國重工業界にありて株式會社浪速機械三河島製作所の存在は輝いてゐる。

同社は常に良品廉賣の『理研精神』を以つて鋭意努力し、國是たる生産力擴充に寄與するところ頗る多大、又た之れと共に其の營業成績も順調にして將來の飛躍を期待されつゝある。

抑々當社は昭和十四年二月の創立にして資本金十五萬圓(全額拂込濟)を擁し、本社を上敍の如く瀧野川區田端新町に置き、出張所を大阪市、上海に設けて其の營業品目を擧げる、とナニワ各種高級精密工作機械、理研各種ジャツキ、理研タービルポンプ、理研定盤、理研電動工具、ナニワ硬度計、測定器其他であり、主なる販路は内地をはじめ、朝鮮、滿洲方面に迄及んでゐるが、新たに上海に出張所を設けて、大陸へ積極的發展を期してゐるのは、東亞開發の新事態に對應する營業方針と云ふべきであらう。

而して重役陣は社長に西川光次氏があり、專務取締役に榎本利雄氏が擧げられ、取締役として荒木重義、海野幸保、尾高格三、永井攜の諸氏監査役に松井琢磨、矢崎恒藏、西脇康の諸氏が列し、重役諸氏よく時局を認識して産業報國に邁進し、之れを扶くる支配人として松本好一氏があり、明識練達の士と謳はれる。

東京量器製造株式會社

社長 松野正二氏
東京市本郷區湯島切通坂町二一
電話小石川三六六四番

アサヒ印玻璃量器の製造を以つて知られてゐる東京量器製造株式會社は、昭和十三年十二月の創立であり、本社を本郷區切通坂下に置き福岡市極樂寺町に支店を設け、第一工場は本社に隣接し、第二工場は本所區竪川町、第三工場を神田區西神田に設け、又福岡工場は支店に接續して設けられてゐる。

而して當社首腦部の陣容は取締役社長として松野正二氏があり、取締役に川井金三郎、富山榮吉、關口恒造の諸氏、監査役に森川惣助、岩井幸一郎氏等が列してをり、其の營業方針は品質本位を標榜し、材料の堅宇容量の正確、刻度の鮮明、製作の親切を原則として鋭意社業の伸展を期して精進しつゝあるが、その製作品は化學用量器にあつてはメスフラスコ、ビユレット、メスピペット、ホールピペット、檢乳計等で普通量器は調劑用メートルグラス、玻璃桝各種等である。

當社は創立以來日子を閲みせずと雖も既に二十五ヶ年に亘りて合名會社として營業をなし、業運の進展と共に改組して株式會社としたもの、故に製作技術は既に定評があり、アサヒ玻璃器の名に嘖々喧傳されて不動の地歩を占めてゐる。

尚、當社長松野正二氏は埼玉縣草加の人であり、先代芳次郎氏が明治十九年、板ガラスの販賣を創業し、次で玻璃量器製造を始めたるもの遺志を承けて現社長もよく精進を累ね、優秀なる國産品を生産してゐる。

大洋無線電機株式會社

常務取締役 吉村充二氏
東京市王子區東十條町六ノ三
電話王子二二八九・二二一二番
販賣部 東京市神田區仲町一ノ三
電話下谷八六二四番

現代の文化をリードするものは無線電信であると云ふても、決して過言ではない程に無線の科學的威力は絶大であり、軍事上に於ては勿論、平時たりとも必要缺くべからざる時代の寵兒たることは明白である。

我が大洋無線電機株式會社はこの無線電信機具の製作に當り、精巧なる技術を遺憾なく發揮して斯業界に令名嘖々たるものがあり、其の製品は陸海軍をはじめ鐵道省、警視廳、日本放送協會、關東軍等より日本無線電信、北辰電氣、富士航空計器、東京電氣、沖電氣其他民間諸會社工場に納入してゐる。

而して當社の設立は昭和十年四月にして、取締役社長に廣瀨太吉氏、常務取締役に吉村充二氏があり、取締役には大原利三郎、廣瀨壽美氏、監査役に角田照永氏が列してをり、現在の工場敷地五百八十餘坪、設備完整されたる工場を有してエルマン强力指置型增幅機、同金屬製携帶用增幅機、同トーキー用增幅機、同普及受信機、高周波同受信機、無線用送受信機並にラヂオ受信機、高壓電線變壓器等を製作しつゝある。

尙ほ專ら社務を綜覽するは吉村常務にして、氏は明治三十九年三月廣島の人、千松氏の二男として出生、夙に築地工手學校に電氣科を學びて卒業するや廣瀨商會に入りて恪勵、其後現社が昭和十年創立されると共に擧げられて常務の任に就く。明識にして練達の手腕の持主で將來を待望されてゐる。

藤倉電線株式會社
販賣課長
自宅 東京市世田ヶ谷區下代田町三八五
電話世田ヶ谷二九二五番

斯界の權威たる藤倉電線株式會社には素より人材豐富にして多士濟々の感ありと雖も、眞に本社の國家的使命を自覺し、その機能の一分野を守りて至誠努力に一貫し、堅實且つ敏捷に實務を裁斷處理する能力ありて手腕ある人物に至つては必ずしも多しとはしない。藤倉電線販賣課長荒井銀次郎氏こそ、此の多からざる人材の一人として推稱するに些も躊躇を感ぜざる偉材である。

氏は明治廿九年十一月三日板橋區に於て豐吉氏の五男として呱々の聲を擧げた。夙に好學の心に燃えて目白中學に學び、大正四年同校を卒業するや更に東京外國語學校に進み、英語科を專攻して大正七年同校を卒ふるに至つた。而して同年現社たる藤倉電線株式會社に招かれて深川區平久町なる本社に入社し、精勵恪勤する事幾春秋、其鋭峰愈々冴えて漸次重用せられ、福岡販賣店を經て名古屋事務所主任、再び福岡販賣店に至りて支配人の要椅に推され、次で本社商務課長等を歷任して昭和十三年現職に就くに至つた。斯くて其の非凡なる才腕は斷然業界に輝き、同社發展興隆に貢献をなし信望益々加り令名燦然と光輝を放つてゐる。

家庭には淑德の聞へ高きワキノ夫人あり、その間に一男三女を擧げ、長男を順一郎君(昭八)長女を美保子孃(昭六)二女を萬里子孃(昭十)三女を由美子孃(昭十四)と呼び、美保子萬里子の二孃は藤間流の踊の名手として知られてゐる。

横山工業株式會社
第一工場副工場長

吉村宣威氏

東京市葛飾區本田中原町九一

横山工業株式會社にありて第一工場副工場長の要位に就きて縱横の手腕を揮ひつゝある我が吉村宣威氏は、熊本縣下益城郡に明治三十七年を以つて呱々の聲を擧げた。夙に工業界に志を抱き、學序を經て熊本工業學校に學びて螢雪の功を積み、同校を卒ふるや更に德島高等工業に入りて孜々研鑽を累ね、大正十五年功成りて同校を卒業し、大阪の野村製作所に技師として招かれ、精勵恪勤して寄與する處多かりしが、昭和八年秋田鑛山專門學校より聘せられて同校の助教授となり、若き學徒の指導に傾注して功勞多く名聲赫々たるものがあつた。而して昭和十四年七月再び工業界に投じて現社に入社し、奮鬪精進して業運の發展に貢献する處認められて累進を重ね、昭和十五年一月副工場長の重椅に推されて今日に至る。斯の如く、氏がよく今日ある大成を招いたのは、洵に自己を認識して天賦の才能を縱横に發揮し、しかも不退轉の努力に終始一貫したる賜と云ふべきである。

資性溫厚にして篤實、裡に烈々たる熱情と不撓不屈の意志を抱藏し、所期の目的達成のために一路勇往邁進する奮鬪努力、誠實一貫の士である。寔に氏の如きは躍進工業日本にとつて不可缺の人物と云ふべく、非常時局下甚だ心强き極みである。

氏而立を過ぐる事數年、愈々識見手腕圓熟を加へ、その前途洋々として大海の如く、期して俟つべきものが多い。自重を祈るや切なり。

城北工業株式會社

代表取締役　村岡類作氏

營業所　東京市京橋區槇町二ノ五
電話京橋三五五六番
工場　東京市荒川區三河島九ノ一九八
電話下谷五五八四番

今次の支那事變は、凡ゆる意味に於て我が日本の生産力擴充の機會を與へたが、殊にその色彩の鮮かなものは工業界に多くを求めることが出來る。

「事業は人なり」とは西哲の名言ではあるが、これは事業そのものにありても人格の裏付けがなければ、立派な事業ではないとの意が潜在してゐる。換言すれば事業らしい事業の背後には、必ずやその遂行者の非凡なる人格美が輝やいてゐることを立證するものである。玆に其の好き例の一人として村岡類作氏を擧げるに躊躇するものでない。

氏は埼玉縣大里郡に於て明治三十年六月十三日を以つて呱々の第一聲を發し、夙に英明俊才の譽れ高く、學序を經て慶應義塾大學に入りて經濟科に研鑽、大正十三年卒業した逸材、爾來産業報國を念じて斯界に入りて精勵、現在にては城北工業株式會社を主宰し令名嘖々たるものがある。同社は營業所を京橋區槇町に工場を荒川區三河島に設けて事變下生産力擴充の一翼に列して擧社献身の實を發揮しつゝある。

而して氏は人となり、溫厚篤實にして人格高潔、その識見の高邁なるところよく時流に應じたる經營方針を立て、滅私公益に一貫して只管社業の隆興を圖つてゐる。全く私利に汲々たる一部企業家と趣きを異にして信望を謳はれてゐる。齢漸く圓熟の境にある氏に期待すること大なるものがあらう。

東洋化成工業株式會社
取締役技師長

齋藤毅氏

東京市牛込區余丁町七〇
電話四谷一四四九番

科學は我等の生活を開明し、文化を進展せしむる重大なる役割を演ずる新らしき說が次々に發表されて歩一歩科學の進化を意味し、斯くて時代は常に科學の指示下に科學を唯一の水先案内として進展しつゝある。寔に科學こそは文化のバロメーターであり、時代は正に科學の時代である。と云へやうその第一線の闘士として我が齋藤毅氏など最も完璧せる人であり時代と共に歩む人である。

氏は茨城縣筑波郡に明治二十八年を以つて生る。學序を經て北海道中學校に學び、同校を卒へて小學校教員となり、育英事業に携りて貢献しつゝありしが、途中化學界を以つて身を樹てんと志を決し、鹿兒島高等學校を經て東北帝大化學科に學び、斯道の蘊奥を極めて大正十一年同校を卒ふるや研究心に燃ゆる氏は同校に止まりて助手、講師等を勤めつゝ研究する事實に十ケ年、而して同校を辭して研究所を創立し、益々斯道の眞髓を探究しつゝありしが、昭和十二年招かれて東洋化成に入社、同社取締役社長の重職にありて同社の發展に寄與するもの多大なりしが昭和十三年社長を退きて現職に就き今日に至つてゐる。

資性溫厚篤實にして些も名利を慾せず只管科學の一學徒として文化の發達に貢献しつゝある稀れに見る眞摯なる科學者、嘗て東洋ニツケル、東洋マグネシユーム等の重役たりし事ありしが、今は只管現職に沒頭して斯界に献替してゐる。

株式會社石井鐵工所
營業部長
技術部長

田中仁氏

東京府下立川町一七六一

謹厳にして眞摯、溫厚なる風格は自づから敬仰欽慕の念を湧かしめ、而も勉勵にして實直、その業務上の企劃は周到緻密にして堅實、些事と雖も苟くせず、洵に技術家として典型的の材幹たる我が田中仁氏は、株式會社石井鐵工所に於て重要なる營業部長、技術部長の地位にあり、卓腕を縱横に發揮するところ、名望信望を謳はれてゐるのは偉とするに足る劃存在である。

氏は明治十九年六月十一日を以つて福岡縣柳川町に呱々の聲を發し、鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上、早稻田大學理工科に於て研究を累ね、孜々として勉學に勵み、大正三年斯學の學理を把握し優秀なる成績を以つて同校を卒業した。而して林工業商會に迎えられて實社會に第一歩を踏み出し、努力精進して他日の大成に備へんと繁忙閑暇なき業餘よく修養を怠らず、斯くて昭和二年石井鐵工所に入所、爾來多年練磨せる人格手腕を縱横に發揮して昇進を累ね、營業部長の樞椅に推されて同社營業陣に千金の重味を加へ、次で技術部長をも兼任して名聲嘖々として業界に轟くに至つた。今や愈々圓熟の境に入りたる識見手腕を以つて重責を果し、愈々社運の隆盛に貢献して信望を得てゐる。

家庭には淑德にして溫和、よく夫君を扶けて賢夫人の名あるキヨ子夫人ありて、その間に四男一女を擧げて子女の敎育に沒頭し、和氣靄々たるものがある。

泉製作所
工場長 佐野武氏

東京市本所區向島押上町二六一
電話蒲田七九一・五三二三番

昭和日本の國運を賭したる滿洲事變を契機として勃興したる軍需工業は日支事變に依て愈々躍進し、之に伴ひ一般諸工業も亦古今未曾有の活況を呈し、宛然工業時代を現出せしめてゐるが、夙に工業界のかくあるを達觀洞察し國運の隆興に資せんと熾烈たる愛國心を抱藏して業界に身を投じたる我が佐野武氏の如きこそ、先見慧眼の士と云ふべきである。

氏は明治二十八年十月四日を以つて山梨縣南巨摩郡身延町波木井に於て呱々の聲を擧ぐ、夙に聰明にして才識秀拔、其の將來の大成は鄉黨の齊しく待望するところであつた。學序を經て藏前高等工業學校に入り斯界の蘊奥を極めるべく切瑳琢磨の功を積み、卒業後、本所區向島押上町二六一の泉製作所に入りて精勤す。而して泉製作所は鐵道車輛用品、自動車用品の製作に從ひて斯界に雄飛しつゝあるが、氏の同所に入るや精勵努力よく天賦の才能と卓越せる手腕とを發揮して令名を擧げ、着々其の地位を高めて工場長の重椅に擧げられてゐる。資性溫厚篤實にして、心事高潔、些かも衒氣なく飽くまで名利を斥けて努力主義に一貫するを以つて處世の方針として居る。しかも部下を愛すること吾子の如く、又從業員の氏を敬すること慈父に等しきものあり、工場内には和氣常に漲つてゐるを見る。

家庭には貞德高き喜久枝夫人との間に長女節子嬢を擧げて春風融々たるものがある。

鳩ケ谷自動車株式會社

東京市王子區稲付町四ノ四六二
電話王子二九八二番

埼玉縣の縣區の所在地、浦和を中心とする鳩ケ谷自動車株式會社は二十三年の古き歴史を有し、車輛數、走行粁數、旅客運搬人員多く、營業成績の優秀を以つて知られて居る。資本金は十六萬圓全額拂込にして、取締役社長として井上篤太郎氏を戴き、取締役筧正太郎氏、丹羽武朝氏取締役支配人植野高司氏、監査役木村篤太郎氏、小林清雄氏、相談役渡邊孝氏等の錚々たる卓腕の士有りて着實なる營業方針は毎期營業成績の累進を累ねつゝある。

日支事變勃發してより數度のガソリン制限により各自動車會社の營業成績の低下を見つゝある時、我が鳩ケ谷自動車會社は時流を洞察して此の難關をよく突破して從前より以上の成績を擧げつゝありしが本年に入り又々瓦斯倫消費規正は更に一割六分强化されたるに依り、之れに對應して新車十輛の入替購入を行ひ、且つ全車輛の五割餘を木炭車に轉換して極力輸送能力の恢復を計りたるも尙走行粁數は前期より一割二分減少したるも、乘合收入二十七萬七千七百六十二圓餘を擧げて前年同期より一割三分の增收率を示し、大型貸切は一萬百五十一圓餘を擧げ前年同期より實に六割六分の未曾有の激增を見せてゐる。

之れ重役諸氏の卓越せる手腕と適切なる營業方針、加へるに從業員の誠心に依り協力によるものにして產業報國の龜鑑として推稱すべき處である。

澤井治定氏

東京市目黒區向ヶ原一九三
町電話茋原三二一六番

斯界に雄飛しつゝある月島機械株式會社に於て資材課長の要職にありて縱横に卓腕を發揮して名聲を謳はれてゐる人に澤井治定氏がある。

氏は明治廿一年十一月十五日を以つて長崎縣大村町に呱々の聲を擧げ夙に聰明俊敏の譽れ高く、鄉校を卒ふるや進んで縣立中學校に學び孜々として勉學に努むる處、優秀なる成績を以つて同校を卒業し、直ちに迎えられて長崎三菱造船所に入り、孜々として五ケ年を精勵恪勤しつゝありしが、思ふ處ありて大正二年同所を引退し、直ちに元東京機械製作所と呼ばれたる現月島機械株式所に轉じ、着々卓腕を發揮して威名を博し遂次累進して大正六年同製作所が株式組織に改組されると共に資材課長の重椅に列するに至つた。爾來慧眼を以つてよく時代の進展を洞察し、其れに適應せる經營方針を樹立して寸毫も誤らざる社業の隆昌に靈猷するところ多大なるものがあり、社内外の信望頗る篤く、更に昭和十三年姉妹會社月島鑄工株式會社の同社監査役に推されてゐる。

資性敦厚にして篤實、而かも識見の高邁、人格の高潔を以つて知られてをり、其卓越せる手腕と相俟つて正に當代稀觀の實業家として名聲嘖々たるものがある。

家庭には貞淑にして溫和、氏を扶けて内助の功厚き壽名穗夫人ありその間に令孃信子孃があり、信子孃は日本女子大學附屬高等女學校卒業の才色兼備せる一粒種である。

近藤天氏

日東鐵工社
東京市京橋區銀座三丁目銀三ビル内
電話京橋一二二二・五六七八・八三二六番

今や我が日本は對支聖戰も最後的段階に到達し、他方新東亞建設の曙光ありと雖も、之れが全面的效果を擧げるべく國民の時局認識と積極的協力とを何よりも喫緊の問題としてゐる。

故に、國民たるものはその職の如何を問はず國家の隆興のために能ふ限り奉公心を振起し、國家をして百年の大計をよく建設せしめるに努力せねばならない。この意味からして、新進にして氣鋭なる我が近藤天氏の如き有能有爲の人材に期待するところ甚だ大なるものがある。

氏は明治四十四年十月二十九日の出生にして、父君を淺吉氏と呼ぶ、學序を經て早稲田大學に入り、法科に學びて卒業するやデービー商會に入社して恪勵すること三ケ年、大いに卓腕を揮つたが、獨立不羈の念熾烈なる氏は昭和十三年七月同商會を辭し、新たに日東鐵工社を興して今日に及んでゐる。

同社は主として理研コンツエルンの優良製品の代理販賣を營業とし、斯界に特異の存在を爾して業勢隆々たるものがあり、更らに獨自の創案になるベンチグラインダーの試作をなし、成績良好にして新に製作に着手し、市販をなすべく計畫中であると聞く。氏は明朗にして闊達、典型的の少壯實業人として名あり、其の將來を期待されてゐる。しかもスポーツを好み、母校早稲田に在りし時は第十四オリンピック大會に機械體操代表選手たる榮譽を擔つてゐる。

株式會社大塚製作所
取締役工場長
榎本秀之進氏

工場　東京市瀧野川區西ケ原一二八
電話王子三〇六・三三二一・三八九一番
三三五四・三八八四番

氏は明治三十五年五月五日即ち尚武の節句の佳日を以つて呱々の聲を擧げ、父君を萬吉氏と呼んで其の五男であつた。夙に鄕校を卒業するや自己の將來を工業界に求めて進んで東京工科學校に入學し、孜々として勉學、深奥なる斯學の研鑽に努め業成りて同校を卒業、實社會の第一歩を東京計器製作所に印し、次で松尾螺子製作所に轉じたが何れも研究的態度を持して勵精恪勤、大いにその眞價を發揮したのである。

然し、氏の宿志は更らに遠大であり、より專門的な處があつたが爲め愛惜の裡に同社を去り、大正十二年より大塚製作所に入社した。かくして氏の技術家としての眞骨頂は遺憾なく發揮され、同製作所生產品に光彩を添へしむるに至つたのは偉とするに足る。而して同所の組織變更して時代に順應すべく株式會社となるや推されて取締役工場長の樞席に擧げられ、王子工場、瀧野川工場、赤羽工場、梶原工場を主宰し今日に至つてゐる。蓋に氏の如きは年齡より云つても技術的精進より云つても、裕かな未來性を多分に所有してゐる多幸多望の逸材、現在の氏は資本金百萬圓の大塚製作所の中樞的人物として社長を扶けて蘊蓄せる才能を益々發揚しつゝあり、更らに自動車技術協會々員に擧げられて、自動車製作技術の向上發達に寄與するところあると聞く。

資性溫健にして潤達、しかも氣韻高雅、其の人格の高潔なるところは稀れに觀るべく、日常努めて教養を怠らずと云ふ。

村上商會
關根喜之助氏

東京市芝區濱松町四ノ一
電話芝二七一七番

身邊の小事と云ふ勿れ身邊を整ふることは即ち國家社會を整ふる所以である。國民が各々其業に精勵し、家運の繁榮を來すことは之れ國家を隆興せしむるの道である。孜々營々として其の業務に忠實なる國民こそ國家の至寶と云ふべきであらう。

我が關根氏がリーマー專門店として業を創めて以來、努力精進を續けて鋭意專心其の業の發展を圖りつゝあり、年を累ねるごとに大を加へて今日あるの地歩を占むるに至つたのは蓋に偉とするに足る。

殊に氏が業に臨むや多年の經驗に依り卓越せる技術を以つて最も低價に優秀品を市販し、各方面より好評嘖々たるものがある。即ち營業方針とするところは飽くまで顧客本位とし、信用誠實主義に一路邁進しつゝある。かくてタマ印リーマーの名は斯界の最高峰を往くものとして賞讃を博してゐる。

資性溫健にして篤實、而して名利を求めず高貴を欲せず、啻に至誠努力を以て處世の要諦となし、神を敬し人を愛するを以て精神としてゐる高潔なる心境は、自づから敬仰の念を湧かしむるものがある。

又た人に接して些かも城府を設けず、圓滿なる常識を備へたる實業人しかも明識ありてよく時流の動きを洞察して業務の伸縮を圖りて堅實なる發展をなしつゝある。今や國家總力を擧げて東亞新秩序建設に邁進するに際し、氏の如く堅實業に當るは斯界の典型と稱すべきである。

東京變速機株式會社
專務取締役
立松源一氏

自宅　東京市大森區田園調布三ノ五七六

確固不拔の自信を抱きて動せず驕がず、徐々に天賦の運命を開拓して成功を收むるは、之れ眞の大成と云ふべく、名利を博するに汲々たる徒輩の多き現今の世相に鑑み、斯る士こそ世の龜鑑として尊敬推服するに足るものである。我が立松源一氏の過去三十有餘年の堂々たる奮鬪活躍の經歷を想起し、其所信に向つて斷乎忠實なる行動を眺むる時正に眞固の成功者たる好典型と云はざるを得ない。

氏は明治二十年七月廿五日を以つて愛知縣西加茂郡擧母町に吉次郎氏長男として呱々の聲を擧げた。學序を經て岡崎中學に學び、同校を卒業後電氣工業に志して研究を累ね、同業を創始して之れが經營に當り、業務の進展を圖る傍ら、天德溫泉支配人として縱横の才腕を揮ひつゝありしが、昭和十三年、東京變速機株式會社專務取締役に擧げられて今日に至つてゐる。氏は蓋きに中米及諸外國に洋行して彼地の見聞を廣め、大いに學ぶ處ありて歸京した。而して現職に就くや縱横無碍なる機略と快力亂麻を斷つが如き手腕の冴えは、遂次赫々たる業績を擧げ、今や同株式會社の至寶的存在として絶大なる信望を博してゐる。

家庭には溫和にして貞淑の聞え高き咲子夫人ありて、その間に三女を設け、長女品子孃は名古屋椙山高女の出身にして、二女文子孃三女京子孃共に成女高女に在學中の才媛であるが、何れも水泳選手として知られてゐる。

會社重役
濱野佐一郎氏

東京市下谷區御徒町一一三

汎く業界に人物の種々相を點檢すれば、機略を以て鳴るものあり、膽力を以て秀づるものあり、或は又精力絶倫を以て謳はれるものありと雖も、溫厚の資に周密の質、而も一片稜々の氣骨を藏して正義を往くには敢へて水火も恐れず、而も高邁卓拔なる識見手腕を有する渾然玉の如き人格に至つては世に之れを多く求む可からざるところ、我が濱野佐一郎氏はこの容易に在らざる稀覯の人格者として推稱するに足る。

氏は三重縣志摩郡片田村に於て明治十一年三月五日の出生、父君を三兵衛氏と呼び氏はその長男である。鄕校を出て、鄕里の役場に勤務しづゝありしが後父業たる沃度商を繼承して孜々業務の擴張に努め益々隆盛を招致するに至つた。而して氏は曩には三重沃度製造株式會社常務取締日本電工常務、日本加里工業、姫川電力各取締等の重職にありて活躍し現に磐城電氣、樺太炭業、東洋電氣工業等の取締役を初めとし、昭和鑛業、大江山ニツケル鑛業、昭和產業、昭和火藥各株式會社監査役等として業界に斷然重きをなしてゐる。

氏は亦家庭的にも惠まれて、淑德の譽れ高きクス夫人との間に四男を擧げ、長男佐太雄氏は名古屋商業出身にして沃度商を營み、次男虎雄氏は三重工業出身日本電氣工業勤務、三男三雄氏は靑山學院高等科出身にて京屋煙火株式會社を經營し四男一雄氏は正則英語の卒業にして共に秀才の譽れがある。

株式會社日本繊裝工作所
取締役社長
加藤宗平氏

營業所　東京市品川區上大崎三ノ三〇
電話大崎二三七五番
自宅　東京市芝區白金三光町二六
電話高輪一八六六番

才幹、手腕凡庸を服すと雖も實業人として業界に志して所謂自助の精神に缺くる處あらば成功の彼岸に到達することは至難である。鞏固なる信念の上に立ち、自立自營の精神旺盛なる我が加藤宗平氏が絢爛多彩の業績を擧げて斷然斯界に君臨しつゝあるは、寧ろ當然の歸結と云ふべきではあるまいか。

氏は明治二十五年十一月廿日を以つて山梨縣北都留郡富澤村加藤甚太郎氏の長男として呱々の聲を擧げた。幼にして才智衆に優れ、鄕黨よりその將來を矚目されること厚く、學序を經て日大法科に學び、孜々として螢雪の功を積み、大正六年同校を卒ふるや日本繊裝會社に招かれ、斯くて益々その鋭鋒を現したる氏は精勵恪勤衆に抽で、着々信望を築きつゝありしが、昭和六年獨立の機運に惠まれて敢然斯業を創業し、今日に至つてゐる。而して爾來營々たる氏の努力は日進月歩の勢を以つて業態の隆盛を招致し、現に東京市品川區上大崎町三ノ三七〇に堂々たる工作所を設け、昭和十四年株式組織に變更して更に一大躍進を遂げ、株式會社日本繊裝工作所と命名して今や斷然斯界に覇を唱えてゐる。

資性温厚にして篤實、常に至誠一貫をモットーとして業務に當り、その優れたる經營手腕は、夙に業界に知られる處である。

家庭には内助の功篤き輝子夫人あり、その間に昭和二年生れの嗣子一郎君がある。

大倉土木株式會社建築部設計課
相馬謙七氏

東京市澁谷區原宿三ノ三〇七
電話青山二九九四番

氏は東京府中村覺氏の七男として明治三十九年五月十三日を以つて生る。父君覺氏は人も知る陸軍大將の榮位にありて能く國家の柱石としての任務を完ふし、深く尊敬されたる傑物、その資性を受けたる氏も年少にして既に明敏頴悟、學序を經て東京帝大建築科に學び、孜々として斯道の研究に努め、よくその蘊蓄を極めて昭和五年同校を卒業した秀才である。望まれて先代相馬永胤氏の養子となり、相馬姓を名乘るに至つたもので、帝大卒業後直ちに招かれて現職たる大倉土木株式會社建築部設計課に勤務し、爾來精勵恪勤して同社發展興隆に資する處頗る大なるものがあり、多年の蘊蓄を傾けて建築界に貢献する所あり、その優れたる手腕識見は斯界の既に認むる處である。

資性温厚篤實にして玲瓏玉の如き人格の所有者、趣味として美術を好み斯道にも造詣深しと聞く。家庭には才色兼備の恒子夫人あり、夫人は養父永胤氏の五女にして日本女子大學附屬高女出身である。その間に長男純一君（昭和十一年生）長女惠子孃（昭和八年生）外に惠子孃の令妹の一男二女があり、夫人の愛育間然するところなく、子女何れも聰明聰智の資性として知られ、一家常に和平に滿ちてゐる。

尙氏の令兄には貴族院議員男爵である中村謙一氏及森村謙三氏多羅尾鎌四郎氏等の知名の人がある。

藥品寫眞機材料商
石山靜雄氏

東京市日本橋區本町四ノ一二
電話茅場町四三〇・四三・六四四〇番

古來轉業は一業を達成する上に於て最も慎むべきものとされてゐるが時代の變遷、自己の性能に從ひ、其の人の適應せる職業に轉ずるは、よく自己の天分を發揮し大成への轉換となす事が出來る。我が石山靜雄氏が藥品寫眞機材料商を主宰經營して獨自の業勢を張り、隆々たる業運を獲得しつゝあるは卽ちこの好例である。

氏は明治三十年四月一日を以つて東京府石山新作氏の長男として生を享け、學序を經て米澤商業學校に學びて螢雪の功を積み、明治四十四年同校を卒業した秀才である。而して大正三年國産織物販賣業を起して之れに從事しつゝありしが、時流を洞察するに敏なる氏は、現業の將來性に着目して大正五年敢然として現業を創業し、日本橋區本町の現住所に店舗を構へ、城東區南砂町一ノ九三七、蒲田區羽田町三ノ三一七に工場を設立し、爾來同業に從ひて孜々努力奮鬪し、今日の大成を招くに至つた逸材である。

而して氏は他方自治公共にも甚大なる關心を有し、日本橋區區會議員に擧げられて只管區民の共同福利に盡瘁し、正義に邁して多大の貢獻をなし衆望を聚めつゝあるは寧ろ當然の歸趨と云ふべきであらう。資性敦厚篤實にして而も潤達、寡言默行の實踐家であり、所謂近代的紳商としてその人格高潔なるを謳はれてゐる。未だ不惑を過ぎる事數年、前途洋々として俟つ處多大なるものがある。

株式會社藤島合金製作所
社長藤島信策氏

東京市本所區駒形四ノ一五
電話浅田七四五番

常に勉めて怠らず、身を修め、家を斉へて着々として地歩を業界に占めつゝある我が藤島信策氏は明治廿三年二月廿九日を以つて長野縣に呱々の聲を擧げた。幼にして俊敏の聞え高く、長ずるや益々鋭鋒を現し、鑄造界に志を樹てゝ上京し、刻苦精勵克く其眞諦を極め、獨立の自信を握るや、大正七年現地に業を興して第一歩を印し、爾來熱誠を披瀝して努力精進主義に一貫して着々業績を擧げ、今や城東區大島町三ノ三二一及び本所區東駒形四ノ一五の二ケ所に近代的設備の完備せる二大工場を有し、從業員も多數を擁して株式會社藤島合金製作所の名は斯界に鋒々たるものがある。而して信望の據る處推されて日本合金鑄造工業組合聯合會理事、東京合金鑄造工業組合常務理事、江東合金鑄交會々長等の重職にありて同業者の共存共榮に、斯業の發展に盡瘁して多大の功勞を表はしてゐる。

資性敦厚篤實にして潤達、常に堅忍不拔の精神を抱懷して勇往邁進、以つて事業の發展を計り、しかも頗る活眠達識、周到細心なる方針を立てゝ寸毫も違算なく、益々大を加へつゝあるは寔に偉とするに足る。

家庭には淑德温和にして内助の功厚きふく子夫人ありて、その間に長男信太郎君（大正九年生）二男幸男君（大正十五年生）三男貞夫君（昭和六年生）二女きみ子孃（大正十一年生）三女久子孃（昭和四年生）の三男二女があり、信太郎君は早稲田工手卒、幸男君は日大中在學である。

安藤製作所

安藤武雄氏

東京市荏原區小山町五一
電話荏原七五三八番

よく時流を觀るの明あり、不斷の努力と鐵石の意志を以つて終始一貫せば志業を貫徹すること必ずしも至難ではない。安藤製作所を經營孜々たる業運にある安藤武雄氏は神奈川縣湯元町の產、明治三十五年一月九日を以つて呱々の第一聲を發し、父君を淺吉氏と呼び氏は其長男である

夙に俊敏にして進取の氣象に富み十九才にして奮然志を樹て上京し、風浪荒き實社會に身を投じて刻苦辛酸、其間にありてベークライト業の將來性に着目して研鑽を累ね、斯道の蘊奥を極むるや敢然として斯業を興し、爾來汲々として倦む處なき精進は年と共に業運の進展を齎して遂に今日の不動の基礎を築くに至つた。現在使用人員卅名を越え、主として寫眞現象タンクの製造に當り、製品は日英商會に納入してゐる。外に電氣絶緣體の製造にも當り、土井電機に納入し、尙成型は全國的に販賣網を獲得してゐる。いづれも其優秀なる製品は至る處に好評嘖々たるものがあり、當地ベークライト業者中の白眉として信望愈々高きを加へつゝある。

責性溫厚篤實にして常に誠心誠意を披瀝して事業に邁進するを何よりの樂しみとしつゝある活動家、家庭には內助の功篤く、貞淑の譽れ高きハナ子夫人ありて、その間に長男猛君（十六才）次男傳七君、三男武三郎君、長女みつ子孃、次女きみ子孃の三男二女の子福に惠まれ、常に和氣に滿ちてゐる。

株式會社東京本松商店

常務取締役　稻垣和三郎氏

東京市日本橋區橋町三ノ一
電話浪花三四六〇・三八二番

商業の秘訣は前途を達觀して臨機の努力を拂ふにある。勿論如何なる營業にも競爭のある事は免かれざるも、大勢を察して悠々迫らず、不斷の努力を傾注して職に當る。之れ功成り名を爲すは當然の歸結と云ふべきであろう。當市斯業界の錚々たるものとして業勢恰も旭日昇天の概にある株式會社東京本松商店の常務取締役としての重責を擔ひ、奮勵健闘克く同店の前途益々洋々たるものあらしめたる我が稻垣和三郎氏こそ正に慧眼能く些も商機を逸せず、しかも常に渾身の熱意を傾けて職責を完ふする偉材の士である。

而て事業界に飛躍せんと慾せば、常に時代の趨勢を知り、未來を洞察する明がなければならぬ。ただ漫然と事に當る。かうした態度でもよかつたのは昔のことにして、今日ではこれではならぬ。而も尙そこに人一倍の努力が要る。この點いづれも氏の克く備へる處にして、寔に事業家として適材といふべきであらう。事に處しては深慮熟考、果斷に富み、快すれば敢然として當る。而も一面溫情に富む專厚く、從業員に對しては常に慈愛の心を以つて接し、彼等も又氏を德として業にいそしんでゐる。

因に本松商店は總本店を京都に有し、本絹、人絹、白生地並に染良及加工等の營業課目を以つて業務を營み、その確實なる營業方針と時代の先端を行く染色加工等は既に全國に聞ゆる處である。

山本光學研究所

山本甚五郎氏

東京市荒川區尾久町九ノ三〇八五
電話下谷七一〇二番

國產品奬勵の提唱さるゝこと久しく、輓近漸く製品の上に實證せられつゝあるが、然かしその規格を誇る優秀品は未だ極めて稀れであるが我が山本光學研究所の製品、平行平面プリズム、寫眞レンズ、一式はその稀れなる國產品中の白眉と推稱するに足るものがあり、規格の正確と性能の絶對性を誇るところ、外來品に比較して何等の遜色なく、價格の點等を綜合すれば優にこれ等外來品を凌駕するものがある。其製造に至りては、多年の研究の結果得たる獨自の製造工程に、優秀熟練工を以つて臨み、光學工業中最も至難とされるレンズ製造に成功を贏ち得たるもので、外來品に優る特性と眞價は到るところに實證され、純國產の榮譽を獲得し名聲を昂めてゐる。從つて業績も向上の一路を辿り今や業礎磐石の鞏固を誇つてゐる。

同所の主宰經營に當つてゐる我が山本甚五郎氏は、明治三十三年九月廿九日を以つて秋田縣花輪町山本松太郎氏の長男として呱々の聲を擧げ夙に進取の氣象に富みて僅十七歲の若冠にして奮然志を樹てゝ上京し、光學工業に依つて身を立てんと勝間光學工場に入り、刻苦辛酸を經て斯道の眞諦を極め、獨立の機運を得て中野區に創業したるも昭和十年九月現地に移轉して一大飛躍を遂げるに至つた。

家庭には氏のよき半身たる初枝夫人ありて、その間長男一郎君、次男勝利君、長女和子孃の二男一女に惠まれてゐる。

三信工業所代表者

小川信一氏

東京市品川區西大崎三ノ四九六
電話大崎二八〇九番

山間峽壁自ら鄕風を作す。由來東北氣質と呼ばれるものあり、不屈不撓、積々たる覇氣の下にその所信を勇往する逸材を各方面に見出すことが出來る。時運に乘じて天下の政治家、實業家と呼ばれるに至つたものもあるが、其の軌を一にする人又た其の所を得て大小の差こそあれ、同じく個性を發揮して奮鬪しつゝある逸材の一人に我が小川信一氏の存在を見る。

氏は明治四十四年七月二十四日を以つて、山形縣下に於て呱々の第一聲を發し、夙に聰明にして才氣秀拔、その將來の大成は鄕黨の等しく待望するところがあつた。學序を經て鄕里中學校に學び、螢雪の功成りて同校を卒ふるや直に笈を負ひて上京し、ベークライト製造所たる光行合資會社に入社して、斯界の蘊奥を極るべく刻苦精勵し、漸く自信を得て昭和九年七月、五反田一ノ四〇三二に三信工業所を創立するに至つた。而して爾來營々として業運の發展に盡瘁し、着々斯界に鞏固なる地盤を築いて遂次隆盛を招致し、昭和十四年四月現地に移轉して工場の擴張を圖り、今や創業日尙淺しと雖も、その優良にして堅牢なる製品は各方面より絶讃を博し、現に製品は日本電線、東洋電線、川副無線等の嘖々たる大會社に納入し、信望愈々厚きを加へてゐる。

責性溫厚篤實にして而かも明朗、趣味として登山、スキー等を好むと云ふ。

田中事務所主

從六位 田中惠氏

東京市杉並區天沼二ノ三七九
電話荻窪三六二六番

自己の職業に忠實熱心であることは、即ち成功の階梯を踏むことである。この言たるや洵に平凡ではあるが、薄志弱行の徒のよく爲し得ざるところである。我が田中惠氏が今日あるの大を築くに至つたのも終始一貫、その業に忠實にして不斷の努力を持續した賜と云ふべきであらう。

氏は明治十六年十二月十一日を以て福島縣人田中亮氏の二男として呱々の聲を擧げ、學序を經て北大土木科專門部に學び、孜々として斯道の眞諦を極むるべく切磋琢磨の功を積み、明治三十八年同科を卒業するや直ちに鐵道省に奉職し、只管精勵恪勤して怠らず、その忠實にして眞摯なる勤務振りは疾くも上司の認むる處となり遂次累進して北海道、盛岡各建設事務所長等を歷任し、多大の貢獻をなしつゝありしが停年に達して官吏生活を終り昭和二年現社たる鐵道工業株式會社に迎へられ、實業人としての第一歩を踏出すに至つた。而して同社常務取締役の重職に擧げられ、益々圓熟を加へたる識見手腕を發揮して同社發展の爲めに盡瘁したるも、昭和十三年常務取締役を引退して取締役となり今日に至つてゐる。

家庭には淑德の聞え高く、氏を扶けて内助の功多きたけ子夫人あり、その間に長男昌君(大正十年生)長女はる子嬢(大正三年生)二女やす子嬢(大正七年生)三女昭子嬢(昭和二年生)の一男三女を有し、家庭内は常に和氣靄々としてゐる。

本城眞玄商店東京支店長

小林璋三

東京市神田區須田町二ノ八
電話浪花一四八九番

ライオン印高級作業服、旭印作業服、青年學校服、工場制定服、男女工手服、輸出綿布製品等作業服一切を製造販賣なしつゝある本城商店は明治四十年頃の創立にして當時は專屬工場を經營し、專ら斯業に全力を傾けつゝありしが、今より約廿年以前、當店主本城眞玄氏に依りて從來とは全然面目を異にした堅牢無比なる作業服が創案され、その染色、縫絲、型等に細心の苦心を拂つた獨特の製品は作業服と云へばライオンと云はれる程の絶大な所信を博するに至つた。而して大阪市東區川西町に本店及び一大工場を有し、工場は東洋に於ける被服工場として最も完備せる最新最大のものにして、敷地五百坪、延建坪八百坪の工場に男女二百五十餘名を擁し、優秀なる諸設備を以つて一ヶ年五十萬着の製産能力を有し、加ふるに工場全體の見事なる統制ぶりは、大阪陸軍被服廠より模範工場として推賞され、又陸軍指定工場の榮譽を擔ひつゝあるを見ても知る事が出來る。斯の如く最新獨特の製法、經驗の蓄積、練達の技術大量の製産、原料の自給自足等を有してゐる外幹部始め工員一同が渾然一體となつて製品の向上改善に努力する處聲名燦然たるものがある。

而して昭和三年東京支店が設置されるや、その支店長として活躍しつゝある小林璋三氏は明治三十九年兵庫縣に於て出生し、若くして當商店に入り精勵恪勤既に十七年、遂に認められて今日の地位を獲得せる偉材である。

東京府指定請負業

三田三吉氏

東京市葛飾區上小松町六二〇
電話本田三三四番

敬神崇祖の念は我國民の萬代不易の精神であり、何物の比疇も許さゞる絶對の境である。我國民が精神力旺盛を以つて聞へ、又社會道德を遵守する强き志操もこの敬神の念が基調となつてゐる。小我を絶して大死生觀の如きも之れに依つて生れて來るもので、我三田三吉氏の如きは常にこの精神を以つて終始する人、即ち淺間神社權少敎正、神社總代、寺總代等として日頃より燃ゆるが如き敬神崇祖の念を抱きて奉仕する處、益々その圓滿なる人格を敬慕されてゐる。

氏は明治十六年六月十五日、東京府葛飾郡奥戸村に於て呱々の聲を擧げた。氏は夙に才氣煥發を以つて知られ、既に二十歳の若冠にして土木業界に入り、孜々として斯道の修得に努めつゝありしが、適齡に達して軍務に服し、偶々日露の大戰に遭遇するや勇躍出征して各地を轉戰し赫々たる武勳を樹てゝ凱旋した。而して再び業界の人となり、遂次基礎を確立して現在多くのトラックを所有し、從業員も四十名を越へる盛運を招致するに至つた。

而して一方自治公共に關心篤く、嘗ては奥戸町消防組頭、上小松消防組頭たりし事三十五年の永きに渡り、尙奥戸町學務委員としても寄與する處甚大なるものがあつた。現在上小松町會副會長、町會議員、上小松報國貯金副組合長等として盡瘁し、殊に報國貯金組合はその設立に際して氏の力に依る處多大なるものあり、目下相當なる成績を擧げてゐる。

白林商行東京出張所

井手雄氏

東京市深川區冬木町一ノ七
電話深川二〇一二・二三四八番

各種ベニヤ板問屋としてその製造販賣に當る白林商行の堂々たる偉容業勢は、今更喋々の言を要せざる處にして其製品の優秀確實なること斯界の最高峰を往き、民間の需要の旺盛と併行して業運の發展興隆正に止まる處を知らぬ盛況にある。而かも更に上海、香港、廣東等に進出し、我國産業の爲めに萬丈の氣を吐きつゝあるは寔に欣快の至りである。

抑々同商行は昭和七年の創業になり、本社を名古屋市中區伊勢山町九六に置き、第一工場を同市南區熱田西町根山に、第二工場、第三工場を同じく中區清船町に有し、支店として靜岡市梅屋町五〇、上海北京路一九〇上海信託公司二棟一一號、香港雪厳太號行樓二〇八號、廣東太平南路七六號の四ヶ所を設置、尙昭和十一年六月、東京木挽町四丁目に出張所を設け、同十四年現所に移轉し現在に至つてゐる。當行社長宮崎賢一郎氏は當商行の外、白林ブライウード、興亞木材工業、旭パルプ工業、南進工業、白林化學工業等の各株式會社の社長として既に世に知られたる偉材。而して專務に新妻隆氏を迎え、東京出張所々長として新進氣鋭の井手雄氏を起用して豪華絢爛の大威容を備へ、今や益々一大飛躍を遂行しつゝある。

井手雄氏は明治四十一年五月四日の出生、溫厚篤實にして、而かも優れたる識見手腕を有する前途洋々たる青年紳士、常に社運の興隆を念じて他念なく、よく精勵恪勤して業績を擧げつゝある逸材である。

古川製作所

古川末吉氏

東京市芝區白金三光町九九
電話高輪二九一二番

輓近交通文化の發達は目覺しく、空海陸に自然を征服して科學の凱歌は奏せられてゐるが、殊に陸上交通機關の寵兒自動車の進歩に至つては正に隔世の感ありと雖も過言ではなく、從つて自動車部分品の需要も益々加り、我が古川自動車部分品製作所の如きも遂次發展の一途を辿り、斯界に侮り難き實力を扶殖してゐる。

當所經營主たる古川末吉氏は、明治四十一年十一月十八日を以つて千葉縣勝浦町に呱々の聲を擧げ、夙に業界に志して精勵し、その技倆に經營に孜々として練磨を續け、斯道の眞髓を修得するに努めつゝありしが遂に大なる自信を得て當製作所を創立したるものにして、爾來業務に從事して勇往邁進し、着々業績を現して今日の隆盛を見るに至つた。

資性溫厚篤實にして些かも名利を欲せざる謙讓の美德を備へ、その經營方針の如きも堅實主義に一貫して着々として基礎を築き、只管優良なる國產品の製作を念じて時局の趨勢に從ひ、工業日本の實力を示しつゝある。氏は而立を過ぎる事僅かに三歲、前途洋々たる新進氣鋭の士にして今後の飛躍は期して俟つ可きものが多い。

趣味として寫眞を好み、相當なる技術を有して繁忙なる業餘寫眞機を弄ぶを何よりの樂しみとなしつゝあると聞く。又當家は代々天臺宗を以つて家宗となし、氏も又之れに歸依して信心敬祖の念に富んでゐると聞く。

木野製作所

木野勝彌

東京市品川區西大崎一ノ三四八
電話大崎三四二番

世に立志傳中の奮鬪兒必ずしも尠なしとしないが、我が木野勝彌氏の如く、千辛萬苦凡ゆる世路風霜の艱難に遭遇すると雖も屈することなく益々志操高揚し、赤手空拳以つて努力奮鬪に一貫し、遂に赫々たる成功を贏ち得たる士に至つては、他に類を求めるに難い處である。

氏は明治三十七年六月廿五日、福島縣若松市木野彦次郎氏の長男として出生し、義務教育を卒ふるや直ちに同市喜多方町の某呉服店に入り、約三ケ年を營々として業務の修得に努めしが、青雲の志勃々たる氏は小都會に甘んずるを潔しとせず、遂に意を決して十六歲の年少の身に僅か四圓八十錢を持參して上京、順天堂病院雜役夫となり、次で名古屋に至りてバウリスターのボーイに就職、その後事務見習として同所にある事三年、十八歲にして再び上京し、三田四國町弓田工場に職を得、爾來十數年に渡り孜々として技術の練磨に精進し、昭和十年八月、多年の刻苦精勵は實を結んで白金三光町二百六十番地に工場を創立するに至つた。

而して着々基礎を確立し、業績逐次擧がりて昭和十一年現地に移轉三百五十坪の工場を新築して設備にも萬全を期して一大飛躍を遂げ、今や第二工場をも增設し、日本鐵棄、池貝、荏原製作、千代田加工等の錚々たる諸會社を納入先となし、旭日昇天の盛運を招致してゐる。尙氏は極東公司の取締をも兼ね、又大崎警防團員、隣組々長等として公共にも盡瘁してゐる。

久保工務店

久保虎市氏

東京市葛飾區下小松町四七九
電話東小松川三一三番

「心たに誠の道にかなひなは祈らすとても神や守らむ」と古歌にある如く、實に誠こそは立志處世の道の至寶にして、誠の前には凡ゆる人の世の艱難も忽然として影をひそめるのである。即ち誠實一貫を處世の信條として自家の業に精進しつゝある我が久保虎市氏にして今日あるの大を招致したのは當然の事であらう。

氏は、明治二十三年一月十一日を以つて新潟縣士族久保熊市氏の五男として、長岡市に呱々の聲を擧げ、青雲の志に燃えて上京、東京築地工手學校に學び、孜々として螢雪の功を積み、同校を卒業した俊才である而して業界に志し、久保工務店を創設して爾來營々たる努力を拂ひ、遂次基礎を確立して、遂に今日の大成を見るに至つた。その間大正四年東亜玩具株式會社を創立したるも二年間にして解散の悲運に遭遇し、その後は現業たる土木請負業に專念し、現在多くのトラックを所有し、從業員も四十人を越える盛業にて、土木建築の外、自動車埋立、運搬等の請負業も兼ねてゐる

而して業餘自治公共に厚く、下小松町々會議員、葛飾區下小松町少年義勇團々長等の要職に擧げられて盡瘁し、尙業界に於ても東京土木建築業組合第六支部幹事として重きをなしてゐる。

家庭には貞淑にして內助の功あつき光子夫人あり、その間に長男正豐君十五歲がありて順天中學に在學中である。

丸善石油株式會社
常務取締役

片山一男氏

東京市中野區櫻山三二
電話中野六七四〇番

謹嚴にして眞摯、しかも溫厚篤實にして自ら君子の風格を備へ、勤勉實直、その事業上の企劃は緻密堅實にして一些事と雖も苟くせず、寔に實業家の好典型として推稱すべき人物に我が片山一男氏の輝ける存在がある。

氏は、明治廿五年三月七日を以つて岡山市東中山下片山恒四郎氏の長男として呱々の聲を擧げ、夙に實業界に勃々たる覇氣を抱くところ神港商業學校に入りて切磋琢磨の功を積み、優秀なる成績を以つて同校を卒業し、直ちに久米銀行に奉職するに至つた。爾來精勵恪勤、克く行務に當りて敏腕を發揮し、次で山陽銀行、津山土地株式會社支配人等を歷任し、昭和六年現地に至りて小松川土地建物株式會社を創立し、同九年には宇部燃料工業株式會社をも創立して令名噴々たるものがあつた。

現に丸善石油株式會社常務取締役東京事務所長、丸善商事株式會社取締役、石油共販株式會社監査役、岡山日產販賣株式會社取締役、岡山交通株式會社取締役、鶴見油脂株式會社取締役等の重職に就き、專ら事業會社の樞機に參與して今日に及んでゐる。而して達識明敏なる素質は事毎に遺憾なく發揮されて、社運隆昌に絕大なる寄與をなし、又一方公共に關與して貢獻する處多く、嘗ては代議士縣會議員等に選ばれて堂々正義に邁進して衆與の福祉の爲めに盡瘁を怠らず、その玲瓏玉の如き人格と相俟つて當代稀れに見る紳士として德望を稱えられてゐる。

合名會社大割ネジ製作所

代表社員

大割豐太郎

東京市足立區千住末廣町一八
電話足立二一三六番

資性溫厚にして着實、堅實に業を營み產を爲すと俱に、和心協力して公共に適往しつゝある人、我が大割豐太郎氏の存在は輝いてゐる。氏は明治三十一年五月五日を以つて富山縣下に呱々の聲を擧げ、夙に氣才喚發進取の氣象に富み、活躍の地を帝都に求めて奮然上京し、精密小螺子の製作に從つてその技術の修得に努め、孜々として精勵する處、大正十五年獨立の機運に到達して、本所區吾妻橋に大割ネジ製作所を創立、爾來孜々として業務の發展擴張に努め、製品の優秀を期して販路の擴大を圖り、除々に基礎を確立して業運の進展を見るや、昭和六年現地に移轉して更に一大飛躍をなし現在下請工場として三ケ所の工場を設け、立川飛行機製作所を初めとし主なる工場に納入して着々擴大を累ねてゐる。

而して一方自治公共にも關心篤く、常に社會公共の爲めに盡瘁し、現に町會常任理事、警防團會計等として繁忙なる業餘よく隣保協調に貢獻し、又隣組指導員の重席にありて非常時局下銃後の國民の行くべき道を指導して着々業績を擧げてゐる。寔に氏の如きは非常時局下間然する處なき事業家として推稱するに足る人物と云ふべきであらう。未だ年齡漸く不惑を越へたるのみ、その前途洋々として期して俟つべきものが多い

家庭には氏を扶けて內助の功多く、加へて貞淑の譽れ高き婦美子夫人あり、その間に長男一雄君その他の子福に惠まれ和平に滿ち〳〵てゐるのは羨望に値ひする。

合資會社三陽社代表社員

須藤芳治郎

東京市下谷區南稻荷町四七
電話下谷三八二一番

現下商業界に成果を收むる戰術は宣傳廣告の効果如何に基づく場合が多く、故にその方法も多岐多樣に研究され、多種の廣告用製品が發賣されるに至つたが、我が三陽社々長須藤芳治郎氏考案になる處の廣告用鉛筆の出現は、正に斯界に一新紀元を劃するものとして定評がある。

抑々本品は七大特色を以て誇りとなしそれを要約すれば精巧なる意匠の美術的印刷、廣告文、氏名等極めて鮮明に印刷使用の最後に至るも絕對に消失せず、各界人氣花形寫眞及び明媚なる風光の精緻なる印刷、鉛筆一本の廣告面を希望に依り二區分、四區分に分割區分し、最後まで廣告主の名稱が削り去られぬ事、芯及び軸木に優良品を使用、價格極めて低廉、印刷技術の最高峰を示し、配色の自在等を擧げ得べく、絕えざる研究と、撓まざる改善に努むる獨自の工作過程は、實用新案及び意匠登錄を獲得し、需要先も多種多樣に亘り、宣傳の革命兒として、廣告界の玉座を占めてゐる。

氏は明治廿四年長野縣に生を享け、學序を經て高等工業應用化學を專攻し、昭和九年三陽社を創立し、美術廣告鉛筆、漫畫動物頭付鉛筆、變形圖案意匠鉛筆、各種形印刻入塗鉛筆、金銀仕上、眞珠色仕上、琥珀色仕上等の名入上質塗印刷鉛筆の製造に當つて今日に至つてゐる。繁忙なる業餘、町內會理事、警防團等にも盡瘁して貢獻する處多く、敬仰を聚めてゐる。

田村電機商會

田村千代松氏

東京市芝區田村町五
電話芝一二六四・〇三八五番

人生行路難を憂ふる勿れ、至誠事に當らば行路自ら拓かる。世を嘆ずるものは寧ろ自ら就さゞるものである。自らその分をなし事を盡さば既にその事丈けで內に淸爽なるものがある。而も斯くの如き人にして成果疑ふ餘地もない。然し擧世滔々至誠に缺け、努力を忘る。若し世人が一樣に斯くの如くならんか、今日の時難を如何に解消すべきや。今日國家的立場に立ちて至誠事に當れと言はれるのも故なしとしない。かゝる時至誠の人、努力の人として田村千代松氏の如きを見るは我等の大なる喜びとするところである。

氏は山形縣米澤市に於て明治二十二年十月七日の出生、夙に志を樹てゝ上京し、電機業界の眞諦を極めて田村電機商會を起し、電話局用移動梯子の特許を得てその製造に當り、外に通信機部分品、測定器部分品、配絲盤及び架類一式、精密電氣機械並びに各種設計製作等に從事して、その經營に製作に卓腕を揮ふこと多年、斯くして着々業界に確固たる地盤を築き、業運年月と共に隆昌を加へて、今や業界錚々たる偉才として令名を謳れるに至つた。

資性溫厚篤實にして圓滿なる人格を有し、亦熾烈なる研究心を藏して常に研究を怠らない。嗣子田村邦夫君は、父君のよき助手として父君を扶けつゝありしが、此度の事變に應召し勇躍出征して某方面に活躍中の勇士である。

絹織物・洋傘生地

株式會社

吉元勝商店

東京市神田區東松下町二七
電話浪花四六六三番

商業の秘訣は前途を達觀して臨機の努力を拂ふにある。勿論如何なる營業にも競爭のあることは免れざるも、大勢を察して悠々迫らず、良品廉價を標榜に顧客の利便を圖り、而かも時代に則したる商業道德を遵守し、不斷の努力を傾注して業に當る之れ功なり名を爲すは當然にして引ては國家への忠なる道でもある。國家に誠なる道は必しも戰線に立ちて武勳を樹てるのみではなく、日常身邊に之れを見出す事が出來る。卽ち商業家が堅實にその業に從ひ、工業家が優秀なる生產に努力することも等しく國家に誠なるものである事に變りはない。各々業務に精勵して國運の隆盛を期するもの、之れ忠良なる臣民であり、國民である。我が吉元勝商店の如きは寔にその好き例として推すに躊躇しない。

當商店は絹織物及び洋傘生地の販賣に從事し、努力奮鬪、孜々として精進を累ね、よくその業績を擧げ、斯界に錚々たる名聲を謳はれてゐるのは偉とするに足る。

抑々當店は元、神田區岩本町に個人經營として創業され、爾來營々たる努力を傾注し、業務の擴張を計り店主及從業員共に心を一つにして精勵する處、逐次業績擧がりて繁榮の一途を辿りつゝありしが、趨勢に乘じて飛躍すべく昭和十四年株式會社に組織を變更し、更に十四年十二月現在の地に店舗を新築して移轉し今日に至つてゐるが、その前途の飛躍的發展は斯界注目の的となりつゝある。

谷田貝電線製造所主

谷田貝桂一氏

東京市淀ノ川區田端町一〇六〇
電話下谷六六九一番

「製品良好優秀なれば顧客は速かに來る」と西諺にあるが、實に實業人の學ぶべきところであらう。谷田貝電線製造所を經營する谷田貝桂一氏の如きは能く此の言を服膺して良品の生産に不撓の努力を續け、着々として其の基礎を確乎たらしめるに成功しつゝある。

氏は明治二十三年一月十五日、栃木縣下都賀郡豐田村に呱々の聲を擧げ、夙に英邁俊才の譽れ高く其の將來の活躍を待望されてゐる。而して青雲の志勃々たるものがあり、永くこの僻陬の寒村にあり小成に安んずるは男子の本懷に非ずと、敢然上京をなし刻苦精進の裡によく時流を洞察し、將來を電氣業界に求めて粒々辛苦を累ね、遂に大正十一年に谷田貝電球製造所を興すに至つた。氏の卓越せる手腕と不撓不屈の努力は愈々業績の隆昌を見、昭和八年現地に移轉し今日に至るまで逐次業運の伸長を圖り、遂に斯界に確固不動の地歩を占めるに至つた。亦製品たるエナメル銅線の製造は精巧優秀にして斯界に既に定評があり、伸銅細線、金屬性細線の製造にも優秀なる技術を謳はれて居る。

しかも多忙なる業務の傍ら自治公共に意を用ひ、町會役員として繁雜なる町政を所理して町民の感謝を受け、亦警防團役員として活躍し、田端進和町會副會長として衆望を擔つて居る。

家庭にはとく子夫人あり貞淑の譽れ高く、長男一雄君長女文子孃、次女みよ子孃があり春光融々たり。

共和製作所
ボールトナット精密螺子
鑛山機械及附屬品

村田彌三郎氏

東京市麻布區田島町二八
電話三田三一七番

昭和日本の國運を賭したる今次事變を契機として工業界の躍進は寔に目覺しきものがあり、宛然工業日本を現出せしめてゐるが、夙に工業界の將來は斯くありと洞察し、疾くも斯界の人となり刻苦精勵、克く努力奮闘に一貫して共和製作所を興し、業態益々向上の一路を辿りつゝある我が村田彌三郎氏の存在は輝やいてゐる。

氏の經營する共和製作所はボールト、ナット、リベット、特殊螺子、及び鑛山機械附屬品の製造を專らとしてゐるが、其の製品の優秀にして精巧なることは斷然他を壓倒し、嘖々の名を謳はれてゐる。之れ氏が永く本所江端工場にて修業したる豐富なる經驗を基礎として更らに天賦の才能を發揮して第一線に立ちて指導督勵するに因をなしてゐる。

而して氏は、大正二年九月七日を以つて東京府西多摩郡の人八十吉氏の三男として出生、未だ二十有八歳の若冠にして今日あるの業礎を既に築く。今や工業界高潮時代に處して氏の向後の奮闘こそ期して俟つべきものがあらう。

資性溫厚にして篤實、而して名利を求めず、只管謙讓の美德を抱藏すると共に日常敎養を積むことを忘れざると云ふ逸材。しかも努力奮闘を以つて終始一貫するところ寔に典型的の少壯産業人であり、又た能く從業員を指導しつゝあるは世路風霜を經たる苦勞人であることを雄辯に物語つてゐる。

宮田刺繍店

宮田勝善氏

東京市赤坂區田町一ノ一五
電話赤坂二三四〇番

日本美術工藝の粹たる刺繍精染業を營んで斯界に卓然たる業容を示してゐる宮田刺繍店は天保三年の創業にして、店主四代相繼ぎ今日依然たる令名を謳はれ不動の業礎を誇つてゐる。而して變遷目まぐるしい開化文化明治、大正時代を經て昭和に及んでの努力はなみ〳〵ならぬものであつたらう、大體に於て固定せる得意を有する營業は蹉氣を生じて不熱心に陷り易き弊があり、爲めに老舗と稱せらるゝ舊家にして往々沒落の悲運を見るが、當宮田店は然らず、常に其の時代趣味に適する營業方針を樹立して、些かも父祖歴代の名を辱づかしめず、反つて一段の光彩を添へしめてゐる。

當主宮田勝善氏は夙に私學の雄慶應義塾に學び、卒業後前後二回歐米に渡り佛、埃及の織物、米伊の染料を研究歸朝後は緞れ織、刺繍等吾國特有の工藝品の世界に冠たるを知つて殊更力を注ぎ、よく多數の技術員を督勵して一層業務の擴張に努力し、益々隆々たる業運を招來し、斷然斯界に輝やいてゐる。之れ氏が、巧みに新智識を業に應用して傳來の日本刺繍に新時代味を加へ、昭和文化の誇るべき美術工藝品として世に問ふ所以である。

資性敦厚にして明朗、スポーツマンシップを多分に有する近代的實業人、又、學生時代はボート選手として活躍し、卒業後は時事新報に麗筆を揮ひ、現在讀賣新聞運動部囑託なり。

成田高等女學校長
成田清楽學院長
從六位
勳六等

佐藤國二氏

千葉縣成田町

敎育報國の主旨を以つて健全なる婦德を涵養し、良妻賢母の養成邁に進しつゝある我が成田高等女學校は、明治四十一年四月の創立になり、名刹成田山の事業の一つにして、校主兼校長たりし故成田山貫主石川大僧正に依つて開校されたるものである。

本校敎育の方針は敎育勅語の聖旨を奉戴し、智德體育の前進に依つて生徒心身の圓滿なる發達を遂げさしめ、以つて眞に堅實有爲なる日本女性を養成せんことを期しつゝあり、正科の外に手藝、生花、茶湯、按摩等の課目を設けて之れに從がはしめ、情操の涵養に努めてゐる。

現校長佐藤國二氏は、成田山現貫主にして當校名譽校長たる荒木僧正と共に、至誠一貫努力を傾倒して益々校名を光輝燦然たらしめつゝある偉材の士である。氏は明治四年三月十八日を以つて新潟縣北魚沼郡城川村に呱々の聲を擧げ、夙に育英界に志を樹てゝ鄕關を出で、明治廿九年東京高等師範學校を卒ふるや愛媛師範、横濱一中等の敎諭、學監等を歴任し、大正十四年本校に招かれて現在に至つたものである。

爾來本校訓たる誠實、質素、勤勉に基き、專心子女の薫陶育成に盡瘁し、智育德育體育三者並進の理想的敎育方針に依つて昭々たる實績を擧げ、幾多有爲なる子女を世に送りたること數知れず、稀れに見る模範的敎育家として名聲嘖々たるものがあり、從六位勳六等に叙せられる光榮を擔つてゐる。

森永煉乳株式會社

東京市芝區田町一ノ一二
電話三田 自一一二〇番 至一一二九番

森永煉乳株式會社は乳製品全般の製造及び販賣を以つて知られ、昭和二年森永製菓本社より獨立し、資本金三百萬圓の煉乳株式會社として營業開始以來、逐年社業興隆を加へ、今や我國乳製品製造會社の首位を占め、その製品たるミルク、有糖ドライミルク、無糖ドライミルク、バウダーミルク、クリーム、コスモスクリーム、チーズ、コーラス滋養糖等の需要は年々躍進の一途を辿り、殊に育兒榮養品として無糖ドライミルクは世界的名聲を博しつゝある。

抑々乳菓製造業は正に國策の線に沿へる一大國家的事業にして、乳菓品の原料たる牛乳は農家を潤し、季節を問はぬ富の源泉とも云ふべく、常に一定の現金收入を齎すのみならず、又國民の榮養品としても不可缺のものである。斯くて國產乳菓品は、品質價格爲に外國品を凌駕し、外貨吸收のために一大貢献をなしつゝある。

同社は本店を芝區田町一丁目十二番地に置き、大阪、名古屋、北海道九州、廣島等殆ど全國に出張所を設け、工場は北海道に空知、野附牛、膽振、九州に伊萬理、種ヶ島、大分、天草外に德島、三島、下田、八丈岩手等がある。

尙同社主腦部には、取締役社長松崎半三郎氏を始めとし、專務取締役河井浩氏、常務に定近俊一氏、鈴井正基氏、松崎伊之助氏、取務役、湯地定武氏、益田克信氏、大野勇氏、監査役、保井萬次郎氏等がある。

合資會社 岩瀨製作所

岩瀨八郎

東京市板橋區志村前野町一二〇一
電話 板橋四五二番

父子繼承の範を示し、斯業者間に多大の信望を堅持してゐる岩瀨製作所は、大正十二年嚴父鐵五郎氏により西巢鴨四丁目に個人經營を以つて創業されしものにして爾來刻苦精勵すること數年、漸くその基礎を確立して昭和五年合資組織に變更し、着々業運の躍進を招致して昭和十二年現地に移轉、工場敷地四百坪、從業員五十餘名を擁して一大飛躍をなし今日に至つてゐる。その間氏は父君より業務の一切を繼承し、常に不屈の努力を以つて從業員に伍し、自ら第一線に立ちて拮据經營する處、愈々業態隆運に赴き、現在事變下にありて軍需品の製作に多忙を極め、その營業品目たる兵器部分品、自轉車部分品等の製作品はその優秀なる技術に於て需用先たる軍部及民間各自動車商等に好評錚々たるものがあり多大なる信望を集めてゐる。

氏は鐵五郎氏の長男として明治三十八年三月二十五日を以つて東京府に生を享け、電機學校に學びて斯道の蘊蓄を極めたる秀才である。

資性篤實にして然も闊達、よく父君の業を承けて守成を完うしたる偉材、非常時局下、重要產業の雄たる機械工業にありて氏の如き春秋に富む新進事業家の存在は洵に力强きものがある。

家庭には父君鐵五郎氏、母堂トリ氏共に健在にして、氏は夫人と共に仕へて孝養をつくし、テル子夫人は、內助の功篤く貞淑の譽れ高き賢夫人である。

製紙原料問屋
千足合名會社代表

千足勝之助氏

東京市淺草區神吉町
電話根岸三七五七番 三七五八番

資性溫厚にして篤實、堅實に業を營み產を爲すと共に、和心協力して公共に當り、共存共榮の實を擧ぐ、然もいさゝかも名利を慾せずして今日に至る我が千足勝之助氏の如きは實に間然する處なき自治の功勞者である。

氏は先代千足正高氏の長男として明治十七年、東京下谷區金杉に於て呱々の聲を擧げ、夙に才氣喚發、實業界に勃々たる心を抱きて實社會に投じ、孜々として斯道の眞諦を極むべく修業しつゝありしが、明治卅九年、遂に機運到來し、現業を以つて獨立するに至つた。その營業とする所は、和洋反古紙、古帳簿、書籍載落並に殘本賣買の問屋にして爾來不撓不屈の奮鬪空しからず、着々として大を成し、大正十二年には合資組織に變更して更に一大飛躍を累ね現在工場を王子、千住、其他に設け、從業員も旣に數十名を擁して愈々繁榮を招致し、同業組合顧問に推されて業界に斷然重きをなしてゐる。

而して他方自治公共に關心篤く、居町會にありてはその長に擧げられ町內の振興に意を注ぎ、町民の融和共榮に傾心し、東奔西走よく斡旋の勞を惜しまず、又防護團の編成なるや評議員會長に推され、尙今般新たに防衞司令部より防火團長を委囑されてゐる。家庭には淑德の譽れ高きます夫人あり、其間に二男三女を設け、長男正勝君は府立第一商業卒業の秀才、次男高保君は外語學校を經てベルリン大學に留學中。

伊東屋取締役兼支配人

立川貞吉氏

東京市芝區城山町九
電話芝二四〇六番

文房具業界の雄、株式會社伊東屋にありて取締役兼支配人として重きをなす我立川貞吉氏の存在は輝てゐる。

氏は神奈川縣に於て明治二十年二月一日を以つて呱々の聲を發し、父君を元右衞門氏と呼び、氏はその四男、夙に俊敏にして才氣潑溂、學序を經て立川第三中學に學び、螢雪の功成りて同校を卒業し、明治四十四年現社に入社、爾來內外表裏の別なく努力精勵に一貫し、着々として其地位を進め、昭和二年、現職たる取締役兼支配人の重任を帶びてゐる。而して熱誠努力をモットーとして職責を完うしつゝあるところ寔に業界稀觀の士と云へやう。

資性溫健にして篤實、しかも高潔なる人格の持主にして些かも名利を求めず、富貴を欲せず、常に謙讓の德を發揮して實は自ら負ひ、功は讓つて風格氣韻極めて高く、人に對して圭角なく、眞實にして至誠なる人格は愈々敬仰信賴を一身に聚めてゐるは、蓋し斯の如き氏にして寔に當然の結果と云ふべきであらう。

家庭には、良妻賢母の譽れ高きマキ夫人ありてその間に、大正六年生れの嗣子鉅君の外長女光子孃、三女晴子孃、四女壽子孃、五女洋子孃の一男五女に惠まれてゐる。鉅君は日大工學部の俊身にして第二國產電機に勤務中の俊才にして、光子孃は府立第六高女卒業の才媛にして他家へ嫁してゐる。

オウ電工業所

横田元氏

東京市豐島區池袋三ノ一五六一
電話大塚二六一三番

終始一貫、努力奮鬪して業を興し、隆々たる聲望を謳はれるも敢えて心昂らず、沈默を守りて靜かに躍進の道を講ずるの人あらば、必ずや更に將來の發展を實現し得る人と云べきであらう。我が横田元氏の如きはその好例の人として擧げるに足る。

氏は明治二十九年八月十日を以つて、東京小石川區に生を受け、父君を新太郎氏と呼びて、氏はその三男、夙に俊敏を以つて將來を囑望され學序を經て早稲田工手學校に學び、孜々として切磋琢磨の功を積み、大正二年優秀なる成績を以つて同校を卒業した。而して爾來、實地に就きて斯業の蘊奥を極め、着々としてその眞髓を修得し、大正十一年敢然現地に科學電機製作、オウ電工業所を起し今日に至つてゐる。爾來專心業に精勵して逐次大を累ね、今や業勢浸淵たるものがあり、テレビション水分側定器、サーモスタット研究品試作、發明品試作、實驗用、高速送信機寫眞電送機等の製作に從事し、斯界の權威として名聲を博してゐる

氏は常に奮鬪主義を信條となし、堅忍不拔の精神を以つて邁進し、只管業務の擴張を圖つてゐる。而して身を持する事頗る謹嚴、しかも謙讓の美德を有する人格者である。

家庭には内助の功篤く、淑德溫和なる美津子夫人あり、その間に長男昭美君、長女美登里孃、二女榮子孃、三女速子孃の一男三女に惠まれてゐる。

德海屋電氣株式會社

飯沼善一郎氏

東京市麴町區九段一ノ一二
電話九段〇四六・一一六四番・一一六五番

斯界の權威と謳はれる德海屋電機株式會社及株式會社ウエルズ製作所にありて取締役社長の重椅に就き、縱横に卓腕を揮いつゝある我が飯沼善一郎氏の存在は輝いてゐる。

氏は茨城縣、彌五右衞門氏の三男として明治十二年十月五日に呱々の聲を擧げ、夙に聰明にして英邁の資を藏し、好學の念頗る篤きものがあり、學序を趁ふて東京早稲田大學に進み、途中米國に涉りて市俄古大學に學び、次でイリノイ洲ホイトンカレッヂに移りて切磋琢磨の功を積み同校を卒業して歸國するや、大正十年當時令兄長太郎氏に依つて經營されつゝありし德海屋洋服店に入り、電機部を主宰して活躍しつゝありしが同十三年、氏が一切を引受けて經營の任に當り今日に至つてゐる。

爾來、豐富なる學德と、高邁なる識見を以つて自ら第一線に奮鬪し、着々として業運の發展を圖り、タングステンワイヤー、モリブテンワイヤー、スパイラルワイヤー、ニッケルワイヤー、赤白代用線、電球用バルブ硝石管等其他あらゆる電機器具の販賣に從事して益々確固不動の地位を斯界に築てゐる。尙氏は約六年の古い歷史を持つ德海屋洋服店をも經營してゐる外日本電球協會幹事として業界にも貢獻する處が多い。

家庭には淑德の譽れ高きしの子夫人あり、その間長女元子孃を擧げ、同孃は千代田高女出身の才媛である。

都金網製作所

伊藤友健氏

東京市城東區龜戸町五ノ二〇五
電話曳田一九八二番

能く時流を觀るの明あり、不斷の努力と鐵石の意志を以て終始一貫せば志業を貫徹すること必ずしも至難ではない。都金網製作所を拮据經營して隆々たる業運にある伊藤友健氏は明治三十年八月二十八日を以て千葉縣銚子市に第一聲を擧げたが、幼時一家と共に上京し學を卒えるや工業界に雄志を抱き東京金網製作所、日東金網製作所等にありて斯業の眞諦を究めるべく精勤し、業全く熟達するや大正十二年九月を以つて都金網製作所を創業するに至つた。斯くて自營自立の第一階梯を踏んだ氏は不撓不屈の精進努力を以つて一難加はる毎に勇氣百倍よく今日の大を築き業界に雄飛して名聲を馳せてゐる。

現在工場敷地百餘坪、從業員二十名を擁して折網、鑛山用其他機械附屬金網、雜貨金網等を製作して各方面に販路を擴張しづゝあるが生產品の優秀なるは他に比を見ずと稱され頗る好評を博してゐる。

而して業餘東京金物同業組合第三部長、東京金網商工組合理事として同業の福利增進に獻替するところ大、又龜戸有志親睦會役員に推されて靈猷し、共存共榮の實を擧げるべく奔走して貢獻しつゝある。業務に業界に斯く多忙なる傍ら龜戸町會長に推されて善隣共保に靈しつゝあるの功は枚擧に遑がない。

資性敦厚篤實にして而かも勃々たる進取の氣象に富む處將來の一段たる飛躍を期待されてゐる。

印刷業

久保直吉氏

東京市日本橋區濱町二ノ三九

公事たると家事たるとを問はず、唯誠實勤勉を以つて一貫す、之れ即ち我が久保直吉氏の生活信條である。常にこの眞摯なる實踐的態度を失はさればこそ、倚家治產、而して公人としてはよく社會の福祉增進に靈猷して功勞を謳はれてゐる。洵に偉材の士として稱揚するに足るものがある。

氏は福井縣大野郡勝山に於て明治二十一年一月十日を以つて長藏氏の三男として呱々の聲を擧げ、夙に青雲の志烈々たるものがあり、義務教育を終りて雄志を抱きて上京し、印刷業に依つて身を樹てんと意を決し斯業界に職を得て着々希望の一歩を踏出した。日夜激しき勞務も厭はず寸暇を見出しては智識の向上に勉み、業を修ひ、斯くして刻苦精勵する事實に二十年遂に報ひられて獨立の機運を得、大正八年奮然創業して今日に至つてゐる。その間小判山金山鑛業會社社長、グルゾ商店專務等を歷任する等今日の大成を招來したるは氏の不撓不屈の勇猛心と至誠一貫せる奮鬪努力の賜にして遑に後進の範とするに足る生きた教訓である。

しかも業餘、自治公共に關心を抱くところ大、又學務委員、區會議員（二期）納稅組合長、日本橋信用組合理事等の要職に就きて、東奔西走よく隣保協調の實を擧げ令名鄰々として信望敬仰の的となつてゐる。家庭には貞淑にして溫和なるつね子夫人あり、夫人は府立第一高女出身の才媛である。

衛生材料製造千壽會代表者

田中與吉氏

東京市江戸川區東小松川三ノ二六八
電話江戸川一四九番

町民福祉のためには獻身的努力を以つてし、私利私慾を忘るゝと云ふ氏は、將に共存共榮隣保融和の精神を正しく理解する高德の士である。江戸川區東小松川三丁目東部町會長として靈拜し貢獻するところ甚大なるものあり、氏の令名は只に江戸川區のみならず、東京市に於ける模範的町會長として錚々たるものがある。

氏は明治二十四年八月九日を以つて新潟縣刈羽郡に生を享け、夙に東都雄飛を志して上京し、築地工手學校に學びて應用化學科を專攻し、大正六年同校を卒業するや南滿大興合名會社技手として招かれ、同社に於て孜々精勵恪勤し、益々技術の練磨に努め、次に天寶山鑛山部分析科主任に聘せられて、よく責務を遂行した。而して大正十一年、多年の宿望たる東都飛躍を實現すべく現住所に衛生材料製造工場を設立し、天章印醫療亞麻仁油紙（十五種）濕布用油紙、分娩用油紙、天童胞衣等の製造に從事して着々と業界に地歩を獲得し、今や益々繁榮の一途を辿り信望洽きものがある。

資性温厚篤實にして稀れに見る高潔なる人格の所有者、小松川三丁目東部町會長として敬仰信頼を一身に集めつゝあるは當然の歸趨と云ふべきであらう。

家庭にはキヨ子夫人あり、夫人は夫君を扶けて内助の功多く、賢夫人の譽れを以つて聞えてゐる。

金澤製作所

金澤勇氏

東京市品川區西大崎一ノ三七三
電話大崎三七四七・四六八六番

非常時局を反映して、鐵工機械工業の發展駸々乎として止まる所を知らずといふ今日、特許金澤式サキュウラテーブル、精密機械、タービンポンプ。設計製作、各種印刷機械、一般製鑵加工に從事し、製品の優秀と價格の低廉を誇るものに金澤製作所の存在がある。生産設備を擴充し熟達せる技術員を擁して既に業界に定評ある處で、金澤勇氏こそ實にこの模範的工場の經營者であり、技術上の信頼すべき指導者でもある。

氏は明治三十九年九月二十七日を以つて福島縣祐次郎氏の長男として呱々の聲を擧げ、學序を經て湯本商業學校を卒業するや盤城炭礦株式會社鑛業部工作課製作係に入社したるも、東都に於て活躍せんとの雄志勃々として止み難く、二十三歳の七月敢然上京して帝國電氣株式會社に入り、其後後澤工業株式會社に技手として招かれ、孜々として精勵恪勤しその間、工學院（元築地工手學校）に學び、工業界に飛躍せんと斯道の研究に精勵し、昭和五年同校を卒業し、昭和九年一月東大崎五丁目に獨立創業し、孜々として業礎の確立に努めたる結果、昭和十二年十二月、工場擴張の爲めに現箇所に移轉、次で十二月合資會社に組織變更して更に躍進を遂げてゐる。

而して業餘大崎警防團第四分團警護部第四班長、勞動調査員、福島縣人會大崎支部理事等に推されて盡瘁してゐる。家庭には貞淑にして温和なるはる子夫人ありその間二男二女に恵まれてゐる。

株式會社

玉川計器製作所

東京市品川區北品川一ノ一二三
電話高輪二五六・一四三・一六五五番

玉川製作所の一部に計器部として設立したるに端を發し、明治四十一年二月、玉川製作所計器部として各種製品を市場に提供してその眞價を認められ、更に明治四十二年には本所二葉町に計器部の獨立を畫して工場を建設し、優秀なる技術家を聘して各種高級品の製作に當り、大正十二年には更に本所區亦倉町に工場を新設し、同年四月度量衡法に基き農商務大臣の製作免許を受けて愈々工場一切の設備に完成を期し、從業員も增加して斯業の爲めに努力中、彼の關東大震災に遭遇し、工場並びに財産全部を烏有に歸したるも、全力を集中して復興に努めたる結果、再び業務常態に復し、其後進展を來たしたるを以つて昭和九年資本金十五萬圓の株式組織に改め、翌年二月現在の箇所に敷地を購入して新築移轉し、昭和十一年七月には海軍省指定工場として登錄せられ、横須賀、舞鶴、吳、佐世保等各海軍工廠の用命を受け、又一般にも内地は勿論臺灣、朝鮮、南洋、滿洲、支那等に販路を擴張し、その製造能力は莫大なる數字を計上するに至り、今や業界錚々の計器製作所として信望を聚めてゐる。

而して同社の經營に當りつゝある主腦部は取締役社長に玉川三郎氏を戴き、代表取締役に森谷秀之助氏、取締役に升藤恒次郎氏、同小野容三氏、監査役に風間龍陽氏等の錚々たる士を網羅して、益々確固たる業礎を築きつゝある。

館野商工合資會社

館野嘉肯

東京市荏川區日暮里三ノ八七〇
電話根岸三六二二番

敢へて他人の力に倚らずして奮鬪努力、自己の體得せる途に邁進し、東都實業界に侮るべからざる潜勢力を有し、業運宛ら旭日昇天の勢にある我が館野嘉肯氏の如きは、初一念を貫徹したる不退轉の士として後進の範とするに足る存在である。

氏は明治二十三年を以つて靜岡縣下に呱々の聲を擧げ、夙に實業界に雄志を抱藏し、斯道に携りて努力精進、愈々斯道の眞髓を確保して自信を把握するに至るや、大正九年敢然として業を興し、古麻布加工、荷造用麻袋、ドンゴロス、線卷等の製造販賣に從事し、大いに精勵して着々業礎を固め、越えて昭和七年組織を合資會社に變更し、自ら代表社員の要椅に就きて内外一切を統率して遺憾なく、逐次發展を齎し工場を表記に設け、自宅は日暮里五丁目に置き、現在從業員も二十數名を擁し多忙を極めてゐる。

而して他方自治公共に奉仕するの念篤く、嘗ては日暮里五丁目町會副會長として重きをなし、隣保共調の實踐に努めて甚大なる功勞があつた氏は亦敬神信仰の念に富み、天理教に深く歸依して麴町大教會上野町支教會の理事及び、青年會長の重責を擔ひ、同教傳統の爲めに獻身的な努力を拂つてゐる。

家庭には貞淑にして内助の功篤ききん子夫人ありて其間に次男蒙成君長女ヤス子嬢の外子女共に八名の子福者である。

玄光塗料製造元

村上源七氏

營業所　東京市城東區龜戸町一ノ一〇〇
電話　墨田三二六〇番
自宅　東京市四谷區本村町三三
電話　四谷五五一四番

東都塗料界に侮り難き實勢力を扶殖し、内容の充實せると業界の澄澈たるを以つて斷然斯界に雄飛しつゝある村岡商會は、村上源七氏の主宰する處のものである。

氏は明治十九年四月五日を以つて熊本縣に村上彌彦氏の次男として呱々の聲を擧げ、夙に俊敏英邁の聞え高く、鄕校を卒へて熊本高等商業學校に學び、同校を卒ふるや青雲の志に燃えて大正元年上京し、更に進んで日本大學專門部に入りて螢雪の功を積み、同校を卒へて、當時の村岡商會に招かれ、塗料製造販賣に從事し、同三年商會が合資會社に變更されるや出資社員として樞機に列し、功績浚すべからざるものがあつた。

而して同十一年更に組織を改めて氏の個人經營となし爾來奮鬪を累ねる事幾星霜、その間常に時流を洞察して時宜に適する經營方針を以つて縱横に活躍し、遂に今日の大成を招致するに至つた。之れ實に氏の不撓不屈の努力奮鬪の賜であらう。現在龜戸町に事務所並に廣大なる敷地を有する工場を設置し從業員も二十數名を擁して其製造に逐はれてゐる。

而して、玄光塗料にはコンクリート用、鐵材用、鐵管用等の各種に分れ、コンクリートの防水と保護鐵材の防錆、耐水、耐酸等の特長があり鐵道省初じめ各地の電燈、電力、電鐵會社、各人絹製造會社、炭鑛會社等に納入シ、又都市上下水道に使用して好評嘖々たるものがある。

津田製作所主

津田作太郎氏

工場　東京市蒲田區南六鄕二ノ四
電話　蒲田二二八七番
自宅　東京市澁谷區代々木上原町二三五
電話　澁谷二八六番

古來より轉業は最も愼むべきものと言はれてゐるが、時流の趨向に從ひ、或は自己の適不適に依つて却つて成功を招致され得る場合も尠なくない。我が津田作太郎氏の如きは自己の最も適する業務に轉向してよく今日の大成を遂行するに至つた明敏の士である。

氏は最初海外雄飛を志して慶應大學を卒ふるや直ちに日本郵船會社に入り、能く將來を企圖する處ありしが、氏は之れが自己に適さざる職業なるを早くも喝破し、現業に轉業して遂に今日の成果を擧げるに至つた勿論何れの方面にありて誠心能く不撓の精勤あらば、事は論ずる迄もなく目的に達し得るので氏が今日迄の努力も斯る要素が然らしめたるものであらう。その製作する一般精密機械器具の如きも何れも熱と誠意の結晶の如きもので能く同所製品の好評を聞くものである。

尙當製作所顧問として小澤製作所長小澤竹之助氏の存在は前途に一層の輝かしき業況を見せてゐるが、小澤氏は三機工業、東京メリヤス等の工作部長の深遠な經驗を有し、それに津田氏の熱烈なる營業振りと商政策等を加味する時は期せずしてより以上の將來を豫約するに難くはない。

氏は亦家庭的にも惠まれ禮子夫人は明治の文豪、田山花袋氏の愛孃にして文操に富み、夫君を扶けて内助の努力を致し良妻としての令名も高い。その間に一男一女を有し、夙に俊英を以つて知られてゐる。

貨物運輸高久自動車部

高橋良助氏

東京市京橋區入舟町三ノ四
電話京橋二二一七番

汎く事業に活躍する人物の種々相を檢討すれば、機略縱横なるを以つて鳴るものあり、或は膽略を以つて秀づるものあり、又は倫を絶する精力を以つて驅はるゝものもある。然りと雖も是等を一丸として渾然玉の如き玲瓏たる人格の所有者に至つては世に多く求めることが出來ない。

我が高橋良助氏の如きこの容易に求むべからざる稀觀の人格者として推稱するに躊躇を感ぜざる偉才の人、蓋し運輸事業界錚々の人物として令名燦然たるも當然の歸趨と云ふべきであらう。氏は明治三十四年新潟縣柏崎町に於て呱々の第一聲を擧げ、幼少より穎悟俊敏を謳はれ將來を囑目さるゝものがあつた。長ずるに及で徵せられて横須賀海兵團に入團し、海の生命線の守りに恪勤精勵典範の實を示しつゝ服務し、除隊と共に上京す。氏は文化の進展と交通運輸機關の發展とは不卽不離にあることを洞察して、斯界に志さして京橋NK自動車商會に入社して業務の修得に努め、其の眞諦を究むるや大正十五年現地に敢然獨立高久自動車部を興し、輸送敏速、價格の低廉誠實奉仕を信條として業務の向上を計りて拮据經營するところ信用漸次厚きを加へ逐年見るべき成果を齎しつゝあり、現在トラック數臺、熟練せる從業員十數名を常備し向後の飛躍を期待されてゐる。

家庭には貞淑なる、るい夫人との間に長男秀輔君、長女千惠子孃、次女ひろ子孃がある。

朝日軍手本舗

山野鶴視氏

東京市深川區扇橋二ノ一一
電話本所九七六五番

國家産業發展の大局に思念して徒らに利己主義に陷らず、其の製品たるや優良廉價、信用本位にして、絶えず新製品の研究と業界一般の向上に不斷の努力を拂ひ、士魂商才の人として知らるゝ人に朝日軍手製造業山野鶴視氏がある。氏の今日の成功こそ粗製濫造を避けて只管完全優良の國産品を海外市場にも輸出すべく、徹頭徹尾努力の賜に外ならない。

氏は山梨縣東山梨縣永川村に明治四年二月二十日を以つて茂十郎氏の長男として呱々の聲を擧げ、幼にして英邁の資を謳はれてゐたが、長ずるに及んで益々その鋭鋒を現し、東京工業專修學校に學びて、後、日本信號に入り、精勵恪勤してその任務を果しつゝありしが、獨立の機運に惠まれ昭和六年現地に軍手製造業を創業し爾來、營々として業運の進展に努力し優良なる製造に邁進して遂に今日の大を招致するに至つた。現在朝日印新案特許軍手、ヒドリ印新案特許軍手、新案特許毛手袋、輸出向手袋等の製造に當りてその堅牢にして優秀なる製品は、旣に斯界に定評のあるところ。推されて東京軍手工業組合專務理事、全國軍手軍足工業組合理事等として業界に多大の貢獻をなし、其の功勞沒すべからざるものがあり、信望隆々として鳴つてゐる。

家庭には内助の功篤ききくの夫人あり、その間嗣子敏明君、長女房子孃の一男一女に惠まれてゐる。